

一般国道432号道路改良工事予定地内  
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ

前 田 遺 跡  
(第Ⅱ調査区)

平成13(2001)年3月

島根県八雲村教育委員会

一般国道432号道路改良工事予定地内  
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ

まえ だ い せき  
前 田 遺 跡  
(第Ⅱ調査区)



平成13(2001)年3月

島根県八雲村教育委員会



98-526

第二調査区出土赤色顔料により文様が描かれた木製品（写真提供島根県古代文化センター）

巻頭図版 2



34-172

第II調査区出土琴（写真提供島根県古代文化センター）

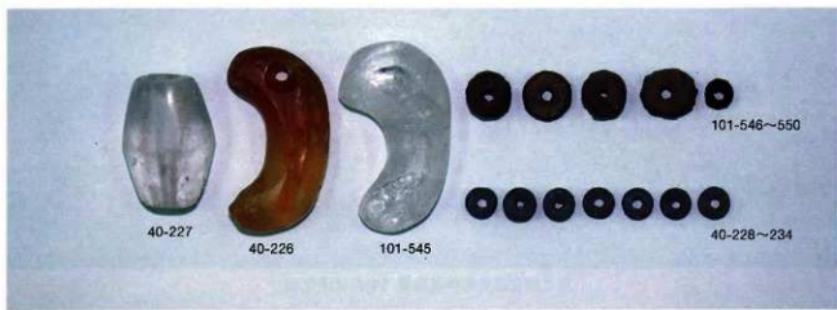


89-428

第II調査区出土木製刀把装具（写真提供島根県古代文化センター）



第II調査区出土木製刀形（写真提供鳥根県古代文化センター）



第II調査区出土玉類



遺跡周辺空中写真

巻頭図版 4



第II調査区発掘作業風景（中央は雨乞山）



第II調査区発操作業風景

## 序

八雲村教育委員会では、島根県松江土木建築事務所の委託を受けて、平成6年度より一般国道432号道路改良工事予定地内（八雲村東岩坂地区）に所在する埋蔵文化財の発掘調査を実施しておりますが、このほど調査報告書第Ⅳ集を刊行する運びとなりました。

本報告書は平成7年度に行った、前田遺跡（第Ⅱ調査区）の調査成果をとりまとめたものです。

平成7年8月より開始しました現地調査では、意宇川水系の埋没河川やドングリの貯蔵穴、落とし穴などが発見されました。特に旧河道からは川岸に自然石を貼り付けた古墳時代の祭祀遺構が見つかり、ここからは全国で初めて完全な形で琴が発見されるなど貴重な研究資料を得ることが出来ました。

当報告書が地域の歴史や古代の祭祀、さらには当時の精神文化を解明するうえでの糸口になることを期待すると共に、郷土の歴史と文化に対する理解と関心を高める一助としてお役に立てば幸いに思います。

最後になりましたが発掘調査及び本書の刊行にあたりまして、ご協力いただきました島根県松江土木建築事務所、島根県教育庁文化財課、その他関係者の皆様、また、直接発掘調査にご協力いただきました多数の作業員の皆様に衷心より敬意と感謝の意を表します。

平成13年3月

八雲村教育委員会

教育長 泉 和夫



## 例　　言

1. 本書は、島根県松江土木建築事務所の委託を受けて、八雲村教育委員会が平成7（1995）年度に実施した、一般国道432号道路改良工事予定地内埋蔵文化財発掘調査の調査報告書である。
2. 本書で扱う遺跡の所在地及び調査面積は次の通りである。

前田遺跡（第II調査区）

島根県八束郡八雲村大字東岩坂194-1番地外 1.796m<sup>2</sup>

3. 調査組織は以下の通りである。

[平成7年度] 現地調査

調査主体 八雲村教育委員会 教育長 佐原通司

調査指導者 笠原 潔（放送大学助教授）

中村唯史（島根大学汽水域研究センター客員研究员）

東森市良（島根県立安米高等学校教諭）

広江耕史（島根県教育庁文化財課文化財保護主事）

事務局 教育次長 伊野憲次（前任）— 外谷康郎（後任）、藤田節子（嘱託）

調査担当者 川上昭一（社会教育係主事）

作業員 青木明美、青戸和也、安部直義、安部当子、安部益子、石倉和義、石倉君子  
石倉恒雄、石倉幸恵、石倉陽子、石倉睦子、石原多鶴、石原政子、稻田慎平  
岩山節子、奥田彬恵、小倉正朋、門脇康弘、金森高文、小林勇雄、近藤仁一  
椎木絹枝、庄司音松、高尾万里子、高屋裕美、立花隆司、田中和美  
西越イワヨ、春名民子、深津泰久、藤原秀子、樋本静江、松本律子

三島富寿江、矢尾井和子、山崎シマ子、山根隆、山根利子、米川雅子

遺物整理 梅木加也、武山裕子、深津光子

[平成11年度] 遺物実測業務

調査主体 八雲村教育委員会 教育長 泉和夫

事務局 教育次長 長島幸夫（前任）— 二好淳（後任）、藤山節子（嘱託）

調査担当者 川上昭一（社会教育係主任主事）

調査補助員 田中和美（臨時職員）、深津光子（臨時職員）

遺物整理 子川育子、善家幸子、高尾万里子、武山裕子

[平成12年度] 報告書作成

調査主体 八雲村教育委員会 教育長 泉和夫

調査指導者 大谷晃一（島根県立松江北高等学校教諭）

事務局 教育次長 二好淳、藤田節子（嘱託）

調査担当者 川上昭一（社会教育係主任主事）

調査補助員 田中和美（臨時職員）、深津光子（臨時職員）

遺物整理 善家幸子、高尾万里子、深津信子、山下はずみ

4. 発掘調査及び報告書の作成にあたっては以下の方々から有益なご助言、ご協力、資料の提供を頂いた。記して感謝の意を表する。

青柳泰介(櫛原考古学研究所)、浅岡俊夫(六甲山麓遺跡調査会)、足立克己(島根県教育委員会)

池淵俊一(島根県教育委員会)、岩橋孝典(島根県教育委員会)、宇垣正雅(岡山市教育委員会)

内田律雄(島根県教育委員会)、江川幸子(松江市教育文化振興事業団)、会下和宏(島根大学)

遠藤浩巳(大山市教育委員会)、金子裕之(奈良国立文化財研究所)、竹広文明(島根大学)

柴田 聰(静岡県埋蔵文化財調査研究所)、萩村喜剛(島根大学)、楳山林継(國學院大學)

鈴木敏則(浜松市教育委員会)、曾田辰雄(平田市教育委員会)、椿 真治(島根県教育委員会)

鳥谷芳雄(島根県教育委員会)、西尾克己(島根県教育委員会)、丹羽野裕(島根県教育委員会)

花谷 浩(奈良国立文化財研究所)、埴生典子(島根大学)、平野邦雄(島根県教育委員会)

穂積裕昌(一重県埋蔵文化財センター)、松本岩雄(島根県教育委員会)

松山智弘(島根県教育委員会)、三宅博士(安来市立銅博物館)、宮沢明久(島根県教育委員会)

村上 勇(広島県立美術館)、村上 隆(奈良国立文化財研究所)、守岡正司(島根県教育委員会)

柳浦俊一(島根県教育委員会)、山内紀嗣(天理大学付属天理参考館)

5. 本書で使用した方位は磁北を示す。

6. 本書に掲載した「遺跡位置図」は建設省国土地理院発行のものを使用し、「調査区配置図」は松江土木建築事務所の工事図面を基に使用した。

7. 本報告書の編集と執筆は、上記の調査指導者や協力者の指導と助言を得ながら調査員が協議して行った。

8. 土壌および遺物の色調には農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』1996年版を参考にした。

9. 「位置と周辺の遺跡」の遺跡番号は島根県教育委員会発行の『増補改訂島根県遺跡地図 I (出雲・隠岐編)』1993年3月と対応している。

10. 石器の石材については文化財調査コンサルタント株式会社に鑑定を委託した。

11. 出土木製品の保存処理・樹種鑑定は(財)元興寺文化財研究所及び株式会社吉田生物研究所に委託し、これを行った。

12. 本遺跡出土遺物及び調査記録は八雲村教育委員会で保管している。

13. 遺物実測図で使用したスクリーントーンは、次の意味を示す。

赤色の … 赤色顔料を示す。 … 欠損部分を示す。 … 焼け焦げを示す。

この他の意味で使用したものについては、図中に記載した。

14. 古墳時代の須恵器の分類は、大谷見二氏の「出雲地域の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌第11集』を参考にし、本文中の型式の記載にあたってもこれに従った。

15. 木製品の分類は、奈良国立文化財研究所発行の「木器集成図録 近畿原始篇」を参考にし、本文中の型式の記載にあたってもこれに従った。

# 目 次

I 位置と環境 .....	1
II 調査に至る経緯 .....	6
III 調査の経過 .....	7
IV 遺跡の概要 .....	12
1. 河道 A .....	25
土坑 SK-01~04 .....	26
土坑 SK-39 .....	28
2. 河道 B .....	31
1) 河道 B-1 .....	31
河道 B-1出土遺物 .....	31
2) 河道 B-2 .....	32
溝 SD-01~03 .....	32
河道 B-2出土遺物 .....	34
1. 繩文土器 .....	34
2. 弥生土器 .....	34
3. 土師器 .....	34
4. 石器 .....	37
3. 河道 C .....	39
貼石遺構 .....	39
貼石遺構付近出土遺物 .....	43
1. 土師器 .....	43
2. 土製品 .....	49
3. 爐窓器 .....	50
4. 木製品 .....	55
5. 植物遺体 .....	63
6. 石器 .....	66
河道 C遺構外出土遺物 .....	76
1. 繩文土器 .....	76

2. 弥生土器	77
3. 土師器	78
4. 土製品	111
5. 須恵器	112
6. 不明土器	117
7. 木製品	121
8. 植物遺体	137
9. 石器	139
10. 鉄器	142
4. 黒褐色土層	163
土坑 SK-31~38	163
黒褐色土層出土遺物	164
1. 繩文土器	164
2. 弥生土器	165
3. 土師器	165
4. 須恵器	165
5. 土師質土器	167
6. 中國製磁器	167
7. 木製品	167
8. 石器	169
5. 黄灰色粘土層	172
土坑 SK-30	172
黄灰色粘土層出土遺物	172
1. 繩文土器	172
2. 弥生土器	172
3. 土師器	173
4. 須恵器	173
5. 土師質土器	174
6. 中國製磁器	174
7. 石器	179
6. その他の遺構	184
溝 SD-04	184
土坑 SK-25~29、40~43	184
Vまとめ	188

## I 位置と環境

八雲村は鳥取県の東部、県都松江市の南にあたり、北は松江市（旧大庭村）、西は松江市（旧忌部村）、南西部は大原郡大東町（旧海潮村）、南東部は能義郡広瀬町（旧山佐村・旧広瀬町）、北東部は八束郡東出雲町（旧意東村・旧出雲郷村）に囲まれている。松江駅よりバスを利用して約26分で八雲村役場に、34分で熊野大社前に到着する。松江市街地への利便性に恵まれ、そのベッドタウンとして近年急速に宅地化が進み、県下市町村の中でも高い人口増加率を示す村である。

村の規模は東西8km・南北10km・面積約55.41km<sup>2</sup>を測り、総面積の80%以上が山林で占められる。この山間にヤツデの葉を広げたように谷が形成されているが（巻頭図版3参照）、これらはすべて意宇川本支流の浸食堆積作用によるものである。大きな谷には意宇川、桑並川、東岩坂川、平原川の谷があるが、その谷筋の沖積地には余すところなく水田が開かれ、本村の最も重要な生活の舞台となっている。平野はあまり発達をみせず、川が合流する村の北側（意宇川の中流域）部分に盆地状に展開している。遺跡はこの谷と平野を取り囲む部分に集中し、前田遺跡も東岩坂川が作り出した谷の水田中に位置している。

前田遺跡周辺に人々が生活を始めたのは前期旧石器時代からといわれている。これは、1971年に熊野空山山頂で実施された空山遺跡（F62）<sup>53</sup>の調査により、前期旧石器と考えられる握櫛、握斧、盤状石器、削器が出土したためである。しかし、これら石器の剥離痕が岩脈からの崩壊流転過程におけるランダムな打撃や圧力が加わって自然に生じた破碎痕とする意見もあり、果たしてこの石器が人為的に加工されたものなのか自然石であるのか結論は出ていない。この他、真ノ谷遺跡（106）や折原上堤東遺跡（88）からは旧石器時代にさかのほる可能性のある石器が出土している。ただし、後世の層位からの出土であり、当時の遺構は見つかっていない。

縄文時代になると遺物の報告例は増加するが、各遺跡から出土する量は僅かであり、遺構に伴うものは少ない。その中にあって、西ノ谷遺跡（F73）からはサヌカイト製のポイント形石器、黒曜石の二次加工のある剝片石器とともに82個のピット状の落ち込みが検出されている。これらのうちP-1～P-15は長軸5m、短軸3.5mを測る楕円を描き、その中央にP-16～P-20が方形に配置され、上層構造を推定すること也可能である。また、古城遺跡（51）の調査ではピット内から晩期の深鉢が出土している。この調査区は1.5×6mと非常に狭く、遺跡の全容を解明するには至っていないが、周辺に縄文時代の住居跡が存在する可能性がある。この他、折原上堤東遺跡、折原岬遺跡（101）、青木遺跡（98）、前田遺跡第I調査区、真ノ谷遺跡、谷の奥古墳群（36）からは、大きな土坑の底部中央に小さなピットをもつ遺構が発掘された。遺物は出土していないが、形態などから縄文時代の落とし穴と思われる。

弥生時代の遺跡の調査例は少なく、特に前期から後期前半までの遺物、遺構となると殆ど知られていない。後期の遺跡としては折原岬遺跡が存在する。後世の掘削により大部分が失われてい

るが、竪穴住居跡の床面から後期中葉の九重3号墓式と考えられる甕が出土している。また、北東に100mほど行った同丘陵上には折原上堤東遺跡（第II調査区）が位置し、弥生時代後期後葉から古墳時代前期初頭と考えられる竪穴住居跡5棟が見つかっている。この他、村内からは銅鐸が1個出土している。熊野大社々地出土と伝えられるが、正確な出土地は特定できていない。高さ20cm、下端の幅13cmを測る小ぶりの外縁付鉈II式四区製姿櫛文銅鐸である。

古墳時代になると遺物、遺跡数が増加し、周知されている遺跡の7割以上がこの時期のもので占められている。前期の遺跡としては、3基の方墳からなる小尻谷古墳群（22）が存在する。内部主体は箱式石棺、壺棺及び組合式木棺であり、副葬品としては3号墳の組合式木棺内から刀子1本と四神鏡1面が出土している。今のところ、この古墳群以外に4世紀代の古墳は見られない。

中期以降になると小規模な古墳群が丘陵上に造られるようになる。前山遺跡の東側500mの位置には、増福寺古墳群（42）・土井古墳群（19）・増福寺裏山古墳群（41）が分布している。増福寺古墳群は一辺6.0～14.5mの方墳26基によって構成されている。調査された20号墳の西裾平坦面からは、古い須恵器の子持飴が出土し、古墳の時期を知る上で注目される。土井古墳群は、増福寺古墳群の北側に位置する古墳群で、一辺7.0～11.0mの方墳13基によって構成されている。増福寺裏山古墳群は土井古墳群と同じ丘陵に立地し、一辺10m前後の方墳8基からなり、まとまりをみせる。これらは尾根により便宜上3つに分けられているものの、本来は同一の群と考えられる。総数47基を数えるこれらの古墳群は、密集度において、松江市大草町にある西百塚山古墳群と同一の群をなしていたと考えられる八雲西百塚山古墳群（21）に次ぐものである。この2つの古墳群が村内では密集度の高いものである。この時期の住居跡には、折原上堤東遺跡（第I調査区）があげられる。方形の竪穴住居跡4棟が見つかり、このうちSI-03黒褐色土層からは多数の上師器に混じり泥岩製有孔円板4点が出土し、住居内祭祀の遺構として知られている。

後期に入ると、出雲地方東部に多い石棺式石室をもつ池ノ尻古墳（5）、雨乞山古墳（1）が築かれる。池ノ尻古墳は前山遺跡から北へ50mほど行った水田中に位置する。墳丘は水田耕作の際に削平され、現在では石室がむき出しになっている。現位置から動いている石材もあるが、現状での石室の規模は幅1.9m、奥行き1.3m、高さ1.6mを測る。雨乞山古墳は平野北東にそびえる雨乞山南麓に築かれたものである。墳丘は現状で7.5×8.0m、高さ2.5mを測り、方墳と考えられる。意宇川下流域の古墳の影響を受けたこの古墳は、八雲村最大規模の石室を有し、この地域の有力な豪族の存在が窺われる。一方、横穴墓は丘陵斜面に数基から十数基の単位で営まれている。密集度の高いものに四歩市横穴墓群（3）がある。増福寺古墳群の南側の丘陵山腹に分布するものであり、確認できる横穴だけで28穴を数える。玄室の平面プランは、大部分が方形で丸天井形をなしているが、非常に丁寧な四柱式正整家形のものも数穴見られる。

奈良時代の遺跡の調査例は僅かであるが、青木遺跡で発掘された掘立柱建物の床面からは須恵器の壺蓋内面に「社辺」と刻まれたハラ書土器が出土している。付近からは須恵器の灯明皿、「林」と書かれた墨書き土器が見つかり、注目される。八雲村は、733年に編纂された『出雲国風土

記』によると出雲国庁や意宇郡家が置かれていた「意宇郡大草郷」の一部であり、八雲村域だけで一つの郷を形成し得ないほど、人口が希薄だったようである。それでも当地域には中央の神祇官の神名帳に登録されている官社7社（熊野大社・久米社・宇流布社・前社・田中社・詔門社・桶井社・速玉社・石坂社）、国庁にだけ登録されている国社7社（毛弥社<sup>モミ</sup>・那富乃夜社・国原社・田村社・河原社・笠柄社・志多備社）が存在していた。このことは、村域の各地に人々が集落を形成し、祭祀を行っていたことを裏付けている。



第1図 八雲村位置図

[註]

- 註1 「増補改訂島根県遺跡地図」I（出雲・隠岐編） 島根県教育委員会発行 1993年3月  
 註2 前田遺跡の南西200mの場所に位置する現在の「毛社神社」に比定されている。

[参考文献]

『空山遺跡発掘調査概報』	八雲村教育委員会	1972年3月
『八雲村の遺跡』	八雲村教育委員会	1978年3月
『土井13号墳発掘調査報告書』	八雲村教育委員会	1979年3月
『御崎谷遺跡・小屋谷古墳群発掘調査報告書』	八雲村教育委員会	1981年3月
『増福寺古墳群発掘調査報告書』	八雲村教育委員会	1981年3月
『増福寺古墳群発掘調査報告書』	八雲村教育委員会	1982年3月
『折原上堤東遺跡発掘調査報告書』	八雲村教育委員会	1994年3月
『折原峰遺跡終了報告』	八雲村教育委員会	1995年8月
『古城遺跡発掘調査終了報告』	八雲村教育委員会	1995年2月
『山崎遺跡・前田遺跡(第I調査区)発掘調査報告書』	八雲村教育委員会	1999年12月
『青木遺跡第I調査(終了報告)』	八雲村教育委員会	1996年8月
『谷の奥古墳群発掘調査終了報告』	八雲村教育委員会	1997年11月
『真ノ谷遺跡発掘調査報告書』	八雲村教育委員会	2000年3月
『八雲村史』	八 雲 村	1998年12月
『石棺式石室の研究』	出雲考古学研究会	1987年10月



第2図 位置と周辺の遺跡 (1 : 25000)

第1表 周辺の遺跡一覧表

番号	名 称	種 別	概 要	番号	名 称	種 別	概 要
1	雨乞山古墳	古墳	方墳、石棺式石室	50	岩坂神社横穴墓群	横穴墓群	須恵器
2	岩坂陵墓参考地	古墳	円墳	51	古城遺跡	散布地	須恵器、土師器、繩文土器
3	四歩市横穴墓群	横穴墓群	28穴確認、須恵器	53	糸形山城	城跡	
4	高丸横穴墓群	横穴墓群	4穴確認	54	雲場古墳	古墳	
5	池ノ尻古墳	古墳	石棺式石室、須恵器	55	青合遺跡	散布地	須恵器
6	安田横穴墓群	横穴墓群	2穴	56	田中社跡	神社跡	
7	岩屋山横穴墓群	横穴墓群	8穴	60	松廻遺跡	上塙墓	須恵器
8	青木横穴墓群	横穴墓群	2穴確認	61	大石窓跡	窓跡	須恵器
11	東岩坂要塞山城跡	城跡	山城、石垣、消滅	63	恩部遺跡	散布地	須恵器、土師器、黒曜石
13	大石城跡	城跡	山城	67	恩部山横穴墓群	横穴墓群	
16	松廻古墳群	古墳群	方墳4基以上	68	紙屋遺跡	散布地	崩石斧
17	松廻横穴墓群	横穴墓群	8穴以上	70	鈴谷遺跡	散布地	消滅、大面積地
18	高野横穴墓群	横穴墓群	直刀、鉄鎌、斧他	71	穴田遺跡	散布地	円筒埴輪、上師器
19	土井古墳群	古墳群	方墳13基	74	南乞山古墳群	古墳群	方墳2基
20	大円寺上古墳群	古墳群	円墳2基	75	雨乞山道路	祭祀遺跡	土師器
21	八雲西百塚山古墳群	古墳群	方墳47基	76	網田古墳群	古墳群	方墳2基
22	小屋谷古墳群	古墳群	方墳3基、消滅	77	松ノ前古墳	古墳	方墳
23	大円寺遺跡	散布地	土師器	78	浜井場遺跡	散布地	須恵器、土師器
24	大谷古墳群	古墳群	方墳2基、子持壇	79	中山五輪塔群	古墳	石塔、現位標移動
25	御崎谷遺跡	散布地	須恵器、土師器、剝落	80	戸波遺跡	住居跡	須恵器、陶器器、漆器
26	神納遺跡	散布地	須恵器、土師器	81	墨谷五輪塔群	古墳	五輪塔
27	楨廻遺跡	散布地	須恵器、土師器他	82	善三郎谷横穴墓群	横穴墓群	8穴
28	神納横穴墓	横穴墓		83	芦井古墳群	古墳群	方墳10基
29	神納古墳群	古墳群	5基	84	芦井東横穴墓群	横穴墓	1穴開口
30	和田平横穴墓群	横穴墓群	3穴、埋没	85	芦井西横穴墓群	横穴墓群	11穴以上
31	岩海古墳群	古墳群	方墳1基、円墳1基	86	押定寺遺跡	住居跡	陶器器、須恵器、石帶
32	勝負谷古墳群	古墳群	方墳2基、円墳2基	87	青木谷遺跡	散布地	須恵器、土師器、黒曜石
33	高丸古墳群	古墳群	円墳2基	88	折原上堤東遺跡	住居跡	堅穴住居・掘立柱建物跡
34	山崎遺跡	散布地	須恵器	89	折原中堤北遺跡	散布地	須恵器
35	中山古墳群	古墳群	方墳5基	90	上元田遺跡	散布地	須恵器、土師器、黒曜石
36	谷ノ奥古墳群	古墳群	方墳2基、円墳1基	91	椎木谷遺跡	散布地	須恵器、土師器
37	北折原遺跡	古墳他	方墳1基、横穴2穴	96	増福寺横穴墓群	横穴墓群	2穴確認
38	安田古墳群	古墳群	円墳2基	97	前田遺跡		祭祀遺跡
39	外輪谷横穴墓群	横穴墓群	12穴、刀	98	青木遺跡	住居跡	堅穴住居・掘立柱建物跡
40	四歩市古墳群	古墳群	方墳6基	99	寧山城跡	城跡	
41	増福寺養山古墳群	古墳群	方墳5基	100	折原上堤遺跡	住居跡	堅穴住居、土師器
42	増福寺古墳群	古墳群	方墳26基	101	折原岬遺跡	住居跡	堅穴住居跡、弥生土器
43	原ノ前横穴墓群	横穴墓群	須恵器、鉄器	103	赤坂遺跡	散布地	須恵器、土師器
44	網田横穴墓群	横穴墓群	平入家形	104	中山遺跡	散布地	須恵器、土馬
45	押定寺横穴墓群	横穴墓群	6穴	105	宮谷遺跡	生産遺跡	製炭跡
46	押定寺古墳群	古墳群	方墳10基	106	真ノ谷遺跡	住居跡	加工場、落とし穴
47	折原横穴墓群	横穴墓群	3穴	107	反田遺跡	散布地	須恵器
48	折原下堤遺跡	散布地	須恵器、土師器	108	藏谷奥遺跡	散布地	土師器
49	大日堂横穴墓群	横穴墓群	4穴確認、須恵器				

## II 調査に至る経緯

一般国道432号線は、広島県竹原市の国道2号道路を起点とし、島根県邑南郡広瀬町を経由して島根県松江市で国道9号線に接続する総延長208km（県内延長70km）の道路であり、中国縦貫自動車道に連結する肋骨道路として沿線各地域の開発、産業、文化の交流を促進するために非常に重要な役割を果たしている。

特に、八雲村においては近年新興住宅地として人口が増加する中、地域の活性化を支える基幹道路として、この路線の重要性が増してきている。しかし、現状での国道432号は、自動車のすれ違いに支障をきたすような狭小な道路であり、かつ梅雨と秋の長雨時に土砂災害も多い。このため島根県松江土木建築事務所では、地形的な制約のある松江市、広瀬町に優先して八雲村東岩坂地内から口吉地内の約8.1km区間をバイパスで整備することになった。

この事業に先立ち、平成4年12月17日に松江土木建築事務所より島根県教育文化課（現在の文化財課）あてに、八雲村別所地区から口吉地区にかけての3.0km区間ににおける埋蔵文化財の有無について照会があった。文化課より連絡を受けた八雲村教育委員会では、平成5年1月22日に合同で対象地の分布調査を実施した。

調査の結果、工事予定地内に周知の遺跡3カ所（安田古墳群1号墳・谷ノ奥古墳群・山崎遺跡）と、より詳細な試掘調査を必要とする地域4カ所（安田地区的水田・細田古墳群東の山頂・外輪谷横穴墓群北の斜面・別所真夏堂跡）を確認した。

この後、遺跡保護のための協議がなされたが、計画変更は困難との結論に達し、平成6年度から八雲村教育委員会が主体となり調査を行うこととなった。なお、平成12年度までの作業行程は次の通りである。

第2表 一般国道432号道路改良工事に伴う発掘調査作業年次工程表

遺跡名	発見の経緯	調査行程						
		平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
安田古墳群1号墳	周知	本発掘調査				報告書作成		
外輪谷横穴墓群12号	外輪谷横穴墓群北の斜面試掘	試掘・本調査				報告書作成		
山崎遺跡	周知	本発掘調査				報告書作成		
宍道跡第1真剣X	安田地区的水田試掘	試掘調査	本発掘調査			報告書作成		
宍道跡第2真剣X	安田地区的水田試掘	試掘調査	本発掘調査			遺物実測作業	報告書作成	
谷ノ奥古墳群	周知		地形測量		本発掘調査			
宮谷遺跡	細田古墳群東の山頂試掘					試掘・本調査	報告書作成	
別所真夏堂跡	未調査							

### III 調査の経過

#### 平成6年度有無確認試掘調査

前田遺跡の調査は、平成4年度に実施した分布調査により土師器片が数点採取されたことに始まる。遺物の出土地点が圃場整備が行われた水田の表面採取であったことから、遺跡の有無を確認するための試掘調査を用地買収が終了する平成6年度末に実施することとなった。

有無確認試掘調査は長辺5m、短辺2mを測る試掘トレンチを、水田或いは丘陵斜面に任意に設定し、平成7年2月10日から掘削作業を開始した。必要が認められた場合は隨時試掘トレンチを増設し、最終的には国道工事予定地内330mの区間に13個のトレンチを設け、3月6日に土層図の作成、3月7日に写真撮影を行った。この後、調査地が通学路に近いことから、危険防止のため掘削した試掘トレンチの周囲にフェンスを設置し、ひとまず調査を終了した。

調査により丘陵斜面に設定した第2トレンチから落とし穴を検出したほか、水田中に設定した第9トレンチからは古墳時代の遺物を多量に含んだ埋没河川が検出された。また、遺構は検出されなかったものの、水田中の第10~12トレンチからは古墳時代から奈良時代にかけての須恵器が多数出土した。これにより遺跡の存在が明らかになったため、当地の小字名を取り「前田遺跡」として3月14日に文化財保護法上の手続きを取った。

この調査結果を基に、舌状に突き出した丘陵部分を前田遺跡第I調査区、丘陵下に広がる水田中を第II調査区として発掘調査を実施する事となり、その取り扱いも別個に協議している。

#### 平成7年度範囲確認調査

平成7年度は事業主体の松江十木建築事務所との事前協議により、周知の遺跡である山崎遺跡と谷ノ奥古墳群本発掘調査を実施することとなり、委託契約を締結した。5月22日に山崎遺跡の調査が終了した後は、谷ノ奥古墳群の本発掘調査に備えて樹木の伐採作業、地形測量等の諸準備に取りかかっていた。しかし、事業者より「工事の工程上、谷ノ奥古墳群よりも新たに発見された前田遺跡の方が緊急を要するので、こちらを優先的に実施して欲しい。」との要望があり協議を行った。この結果、「平成7年度は谷ノ奥古墳群の調査を取り止め、新たに発見された前田遺跡の発掘調査を実施すること」「調査地、予算について、後日変更契約を締結すること」となった。

調査は、より緊急を要する北側の第I調査区から実施した。6月22日より作業を開始し、7月24日に写真撮影と地形測量を行い本調査を終了した。

第II調査区は、遺跡の範囲と深さを確認するための範囲確認トレンチを設定する作業から始めた。まず、道路センター杭を利用し、10×10mの方眼を組み、北側の交点をグリッド名とした。次に、設定した各グリッドの一角に2×2mトレンチを1本設置し、8月7日から8月11日の間に掘削作業を行った。範囲確認調査により、工事予定地内に126mの長さで埋没河川が位置するのを確認した。埋没河川以外にこれといった遺構は認められず、周辺の約1600m<sup>2</sup>について本調

査を実施することとした。また、埋没河川が地表面から36~120cmの深さにあることが確認されたことから、耕作土及び圃場整備以前の耕作土をバックフォーにより除去し、河川を覆う遺物包含層（第4図：第3層黄灰色粘土層）上面を露出させた。

#### 平成7年度本発掘調査

前田遺跡第II調査区は、遺跡のはば中央を東西に生活道路が走り、本調査区が2つに分かれる格好になったため、現地調査では便宜的に下流に当たる北側を第II調査区北側、上流の南側を第II調査区南側とに分けて実施したが、本報告書では一括して取り扱っている。

調査は8月25日から重機による耕作土の剥ぎ取り作業と併行して北側の掘削作業から取り掛かった。夏場ということもあり、旧河川を覆う第3層はコンクリートのように硬く、散水しながらの作業であった。10月18日によくやく河川上面までの掘削が終了し、翌19日から河川内の掘削に取りかかった。河川内からは毎日足の踏み場がないほどの遺物が出土し、作業は遅々として進まず、予定を20日余り遅れて平成8年1月11日に北側の作業を終了した。遅延分は作業員を増員することで対応したため予算が底をつくこととなり、予算増額の委託変更契約を締結している。

調査区南側は平成8年1月12日より掘削に着手した。川上にあたることから、河川を覆う粘土層は非常に浅く、1月19日から河川内の調査に取りかかることができた。河川内の掘削も順調に進んでいたが、1月24日に予定していた調査範囲の外に向かって伸びる時期不明の溝（SD-04）が発見され、急速2.5×31mの範囲を拡張することになった。また、河川内は脆弱な粘土であったことから崩落することを想定して幾分余裕を持って掘削を行っていたが、掘削を進めていくうちに法面から琴が顔を覗かせているのが見つかった。このため、隣接する土地所有者に承諾いただき、崩落することも覚悟で民地との境界ぎりぎりまで調査することとなった。この頃は季節も変わり、連日のように降り続く雲と河川内の水分を多量に含んだ土砂によりベルトコンベアーガ空回りをはじめ、手作業で土砂を廃棄する日も少なくなかった。調査予定期日も終わりにさしかかった3月20日に地形測量、3月26日に調査指導会、3月27日に全体写真の撮影、同日午後に撤収作業を行い調査を終了した。

今回の調査では、全国で初めて完全な形で発見された古代琴を始め、頭椎式の木製刀把装具、木製刀形、臼玉が入れられた須恵器の壺、勾玉、切子玉など貴重な発見が相次いだ。3月13日に第1報が新聞報道された後は、連日のように紙上を賑わし、県内外をはじめとする多くの方々に遺跡を見学していただくことができた。また、慌ただしい調査ではあったが、発掘体験と現地説明会を開催することができたことは成果であった。平成7年8月22日に開催した八雲村公民館主催の親子発掘体験では炎天下にもかかわらず30名を越す親子の参加があった。10月30日、11月1日に開催した八雲小学校の5年生を対象とした発掘体験学習では子供達の関心は非常に高く、放課後にボランティアで発掘作業に参加する生徒もいるほどであった。また、年度終わりの3月31日に開催した現地説明会では村内の防災無線でお知らせしただけにもかかわらず、100名を越す参加があり、改めて村民の前田遺跡に対する関心の高さを知ることができた。



平成 7 年10月30日に開催した  
八雲小学校 5 年生による発掘体  
験学習



平成 8 年 3 月 31 日に開催した  
前田遺跡現地説明会  
(発掘現場)



前田遺跡現地説明会  
(遺物見学会)

親子発掘体験の感想より（原文そのまま）

はっくつに行った。わたしは、金のおうかんや、ダイヤモンドが出てくるかと思ったら、大まちがいだった。わたしが、みつけたのは、石みたいなはへんだった。それも、もらえるかと思ったのに、ぜんぜん、ちょっともらえなかつた。だけど、そのきたないはへんは、昔の人のくらしをしらべるための、たいせつな物だった。それは、昔の人気がつかった、ちゃわんや、つぼだった。昔の人は、どうやってつくったり、つかったりしていただろうか。大昔の人の物が、家の近くから出てくるなんて、おどろいた。

3年 梅木在根

### 平成11年度遺物実測作業

前田遺跡からは第Ⅱ調査区だけでも総数21,139点に及ぶ遺物が出土し、その殆どが未整理の状態で仮収納されていた。丸々1年を前田遺跡報告書作成業務に充てることは、他の事業との兼ね合いから不可能な状況であった。このため教育委員会内で調整を計り、平成11年度は前田遺跡第Ⅰ調査区の報告書作成業務と同第Ⅱ調査区の遺物実測作業を実施し、平成12年度に第Ⅱ調査区の報告書を作成するという計画を立てた。これを基に事業者と実施協議を行い、平成11年度末に成果品として第Ⅱ調査区の遺物実測作業終了報告書を提出することで了解を得た。

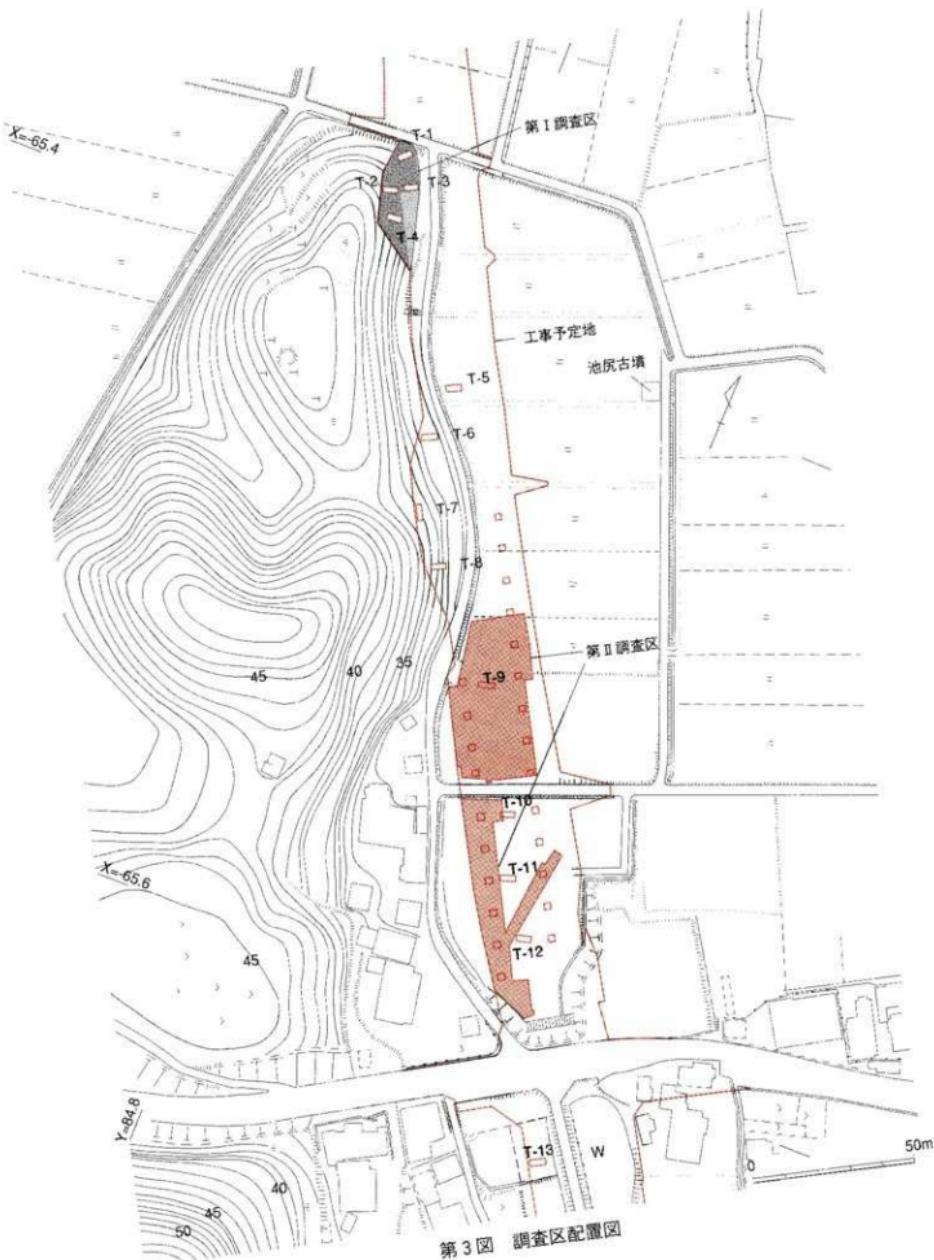
平成11年度の前田遺跡第Ⅱ調査区の業務としては、遺物の注記作業、接合作業、分類作業、残りの良い600点の遺物実測作業を実施した。整理の過程で雑多に積み込まれた木製品の中から2本目となる琴が見つかった。また、増福寺20号墳から出土した子持ち甌と前田遺跡から見つかった子持ち甌の子壺との接合を試みたところ、同一個体と判ったことは新たな発見であった。この他、増福寺古墳群から出土した土師器高杯、須恵器蓋杯についても接合を試みたが、一致する物は見られなかった。

第3表 平成7年度一般国道432号道路改良に伴う調査工程表

名 称	調査内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
山崎遺跡	試掘調査		4/25～5/22										
谷ノ曳占墳群	地形図作成			5/31～6/12									
前田遺跡第Ⅰ調査区	本調査			6/22～7/24									
前田遺跡第Ⅱ調査区	本調査				8/7～3/31								



平成11年度  
遺物実測作業風景



第3図 調査区配置図

## IV 遺跡の概要

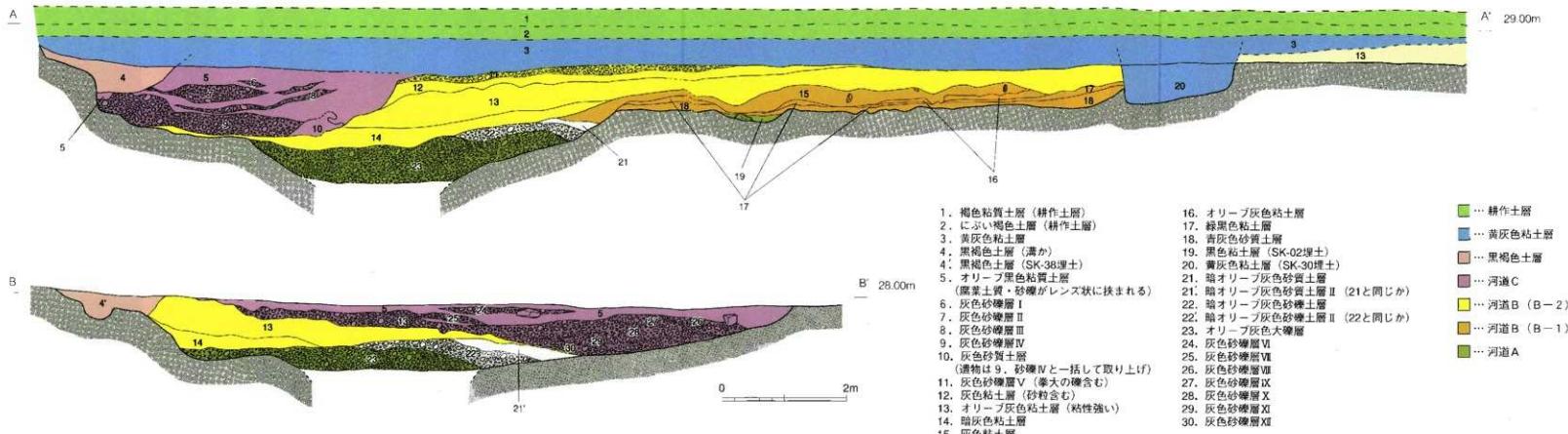
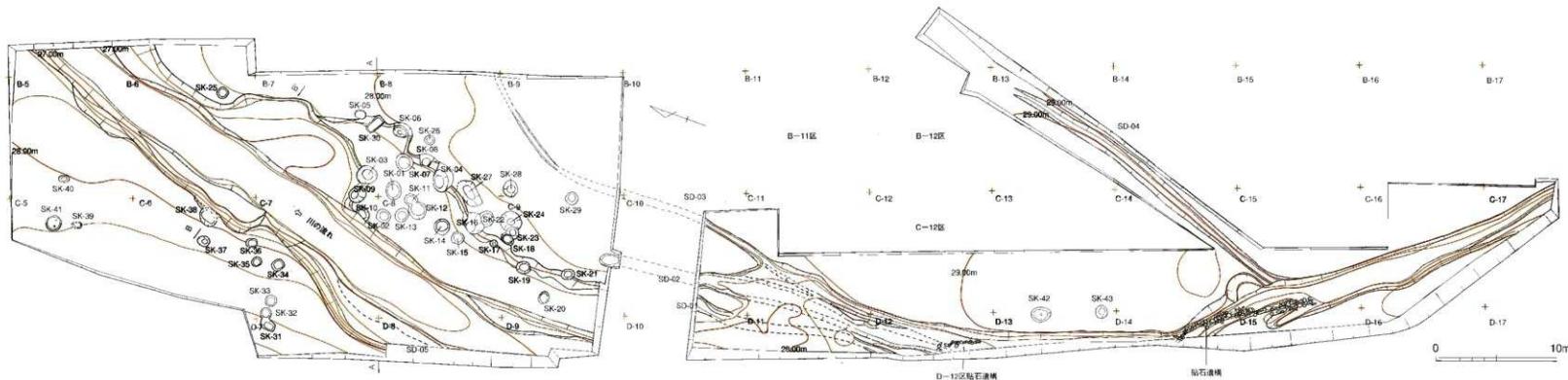
### 遺構と層位

前田遺跡第II調査区は、東岩坂川が作り出した谷の沖積地に位置している。今回の調査により埋没河川が検出され、その周辺から、ドングリの貯蔵穴4個、落とし穴1個、溝状遺構5本、川岸に自然石を貼り付けた貼石遺構1カ所と多数の土坑が見つかり、川を通して営まれた人々の生活の一端が明らかになった。

今回検出された河道の形成から埋没までのイメージを土層の堆積状況により第4表の11通りに分類した。但し、⑨と⑩については新旧関係がわからなかったため、このような表現になっている。本報告書では、これらを5つのグループに分け、それぞれについて概略を述べる。内訳は河道Aが①②、河道Bが③④、河道Cが⑤～⑧、黒褐色土層が⑨、黄灰色粘土層が⑩である。ただし、⑩の耕作土層出土遺物については説明を割愛した。

第4表 前田遺跡第II調査区土層堆積状況一覧表

河川	河道 A	①. ある時期に起きた洪水等によって河道位置が変化し、調査区内に河道が形成された。第23層はこの時の堆積か。
		②. 河川下流の右岸にドングリの貯蔵穴が造られる。第19層は貯蔵穴内の堆積物。
河川	河道 B	③. 第18層が河川右岸を削るように堆積する。このとき同時にドングリの貯蔵穴の上部が削られる。
		④. 河道は泥質の堆積物（第12～17層）で埋められ、洪水時に裸（第11層）が運ばれ堆積する。
河川	河道 C	⑤. 第9層灰色砂礫層と第10層灰色砂質土層が下の地層を削り込んで堆積する。
		⑥. 河川上流の右岸に自然石を貼り付け、祭祀が行われる。
溝	黒褐色土層	⑦. 第5層オリーブ褐色粘質土層（平常時）と灰色砂礫層（洪水時）が交互に堆積し河道を埋めてゆく。
		⑧. 調査区内から川の流れがなくなる？
湿地	黄灰色粘土層	⑨. 河川左岸に小規模な溝？が掘られ、この西側に土坑が掘られる。第4層はそれらを埋めた堆積物。
		⑩. 川を覆うように第3層黄灰色粘土層が水平に堆積する。
水田	耕作土層	⑪. いつの頃からか水田が営まれる。第1～2層は耕作土層。



第4図 前田遺跡遺構位置図・土層堆積図

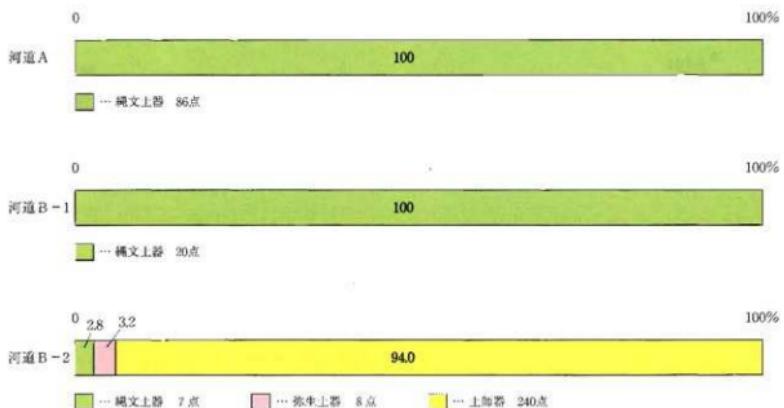
## 遺物

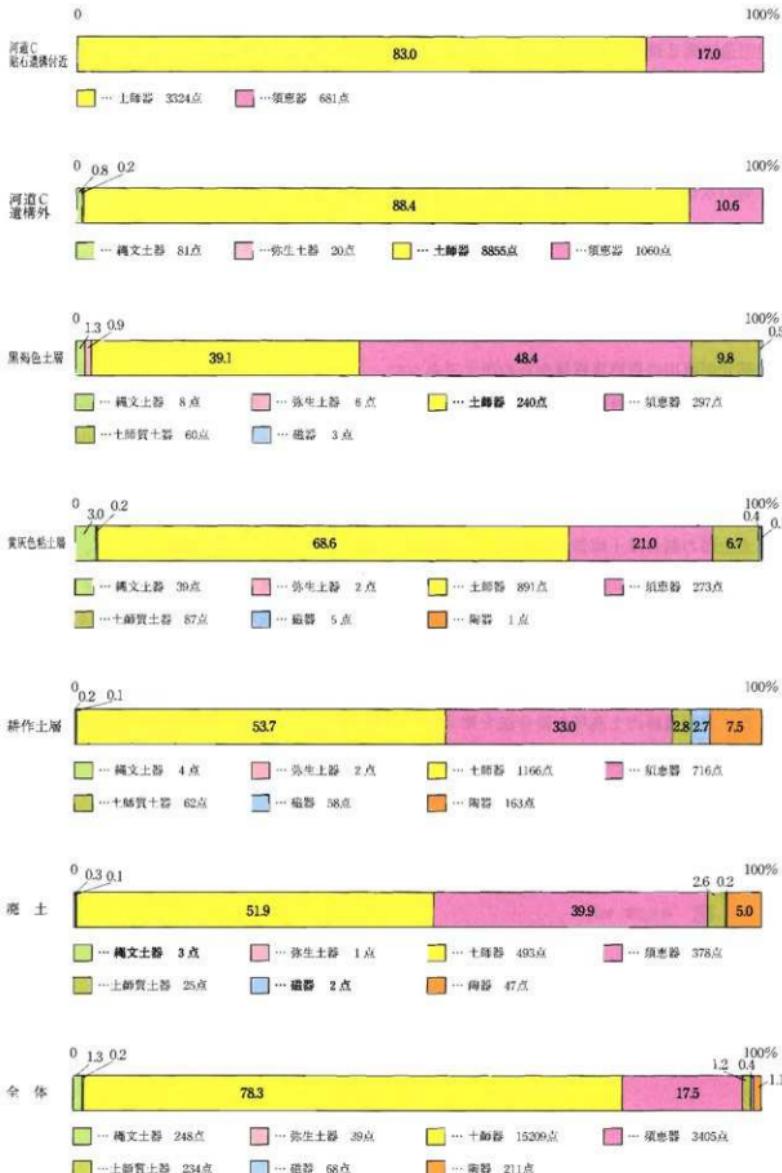
前田遺跡第II調査区からは、縄文時代から近世に至る非常に時期幅のある遺物が出土し、その総数は21,139点に及ぶ。出土した遺物には土器、土製品、木製品、鉄器、石器、植物遺体がある。土器には縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、陶器、磁器があり、土器以外の土製品には土錐や土鈴のようなものがある。木製品は河道Cを中心に出土しており、大部分が性格不明の木切れ（板材及び棒材）であったが、ある程度の製品も見られた。これら木製品の分類にあたっては奈良国立文化財研究所発行の木器集成図録近畿原始篇を参考にし、本文中の型式の記載にあたってもこれに従った。鉄器には須恵器の壺内から出土した鉗があり、石器には石錐、石錐、スクレイパー、楔形石器、石斧、勾玉、切子玉、白玉、砥石などがある。この他、植物遺体として柄の立木3本、桃核、柄の実、クルミ、ドングリ、ヒヨウタンなどがある。これら遺物の大部分が河川の自然堆積層からの出土であった。

次に、出土遺物を時代別に見ると、縄文時代のものが少量で、弥生時代のものは微量になる。古墳時代前期から量が増え、中期から後期のものが主体となる。さらに奈良時代から中世に下ると少量になり、近世では幕末から明治のものが中心となるが多くはない。こうした遺物の量的な変化は前田遺跡の消長を表しているようである。

出土土器の割合は土師器が最も多く全体の78.3%を占める。ついで須恵器の17.5%、以下、縄文土器、土師質土器、陶器、磁器、弥生土器の順に続く。出土量の多い土師器には壺、甕、鉢、壺、低脚壺、高壺、直口壺、器台、楕形土器、瓶、竈、支脚、製塙土器、不明品がある。このうち甕、壺、高壺、直口壺については数量も多く、整理・報告の利便性から第6表の通り分類した。また、高壺については、形態や器面調整の他に壺部と脚部の接合法によっても編年が語られているため、前田遺跡出土高壺の接合法を第7表に掲載しておく。なお、本文中の説明にあたっては分類表の記号を記載する。

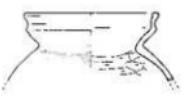
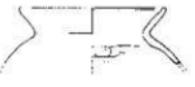
第5表 河道別出土土器割合表





第6表 出土土師器型式一覧表

説 複合口縁を呈するもの（I～II類）と単純口縁のもの（III～V類）がある。単純口縁のうちIII～V類は肩部が良く張り出すものである。

I類	複合口縁を呈し、口縁の立ち上がりが高いもの。						16-13
II類	複合口縁の立ち上がりが短く、退化が進んだもの。						48-63
III類	いわゆる布留系の臺である。口縁は内湾気味に立ち上がり端部内面が肥厚する。						49-68
IV類	口縁が内湾気味に立ち上がり、球形の体部をもつ。口縁が内湾する位置により更に2つに細分した。	IVa類					49-69
IV類	口縁全体が緩やかに内湾するもの。	IVb類					49-74
V類	短めの口縁が斜上方に立ち上がる。体部は上半（肩部から腰部）に最大径をもち球形とならない。						50-77

VI類 口縁の中程が膨らみ稜をもつものであり、端部が平坦なものと丸くおさめるものがある。タテチョウ遺跡単純口縁をもつ壺・甕類の中に類例を見ることが出来る。



21-5

斜上方に立ち上がる口縁の端部が更に強く折れ曲がる。口縁外面の形状から更に2つに細分した。

VIIa類

口縁の中程が膨らみ外面に稜をもつもの。



52-87

VII類

VIIb類

口縁外面に稜をもたないもの。タテチョウ遺跡単純口縁をもつ壺・甕類の中に類例を見ることが出来る。



54-99

球形の体部と「く」の字に屈曲する口縁をもつものである。端部の形状により更に2つに細分した。

VIIIa類

端部が丸くおさめられるもの。



56-112

VIII類

VIIIb類

端部に平坦な面をもつもの。



57-120

IX類

体部は胸部が強く張り出し、横長の橢円形となる。



58-126

X類 体部は胸部の張り出しが弱く、Ⅸ類とⅩ類の中間的な様相を呈する。口縁には外反するものと外傾して伸びるものがある。



59-128

XI類 肩部はなだらかに下がり、体部下半に最大径をもち下ぶくれとなる。外反する口縁をもち、調整は外面が縱方向のハケメ、内面には幅広のヘラケズリが施され器壁は薄く仕上げられている。



60-134

**坏** 椭形の高坏と違うものもあったが、破片については底部にヘラケズリをもつものを坏とした。

I類 口径に比して器高が低く、坏部の深いものである。内面に放射状の暗紋をもつものともないものがあり、胸部が屈曲するものや口縁端部が括れるものも見られる。



61-139

坏部が深いものであり、更に3つに細分した。

#### IIa類

底部が丸く半円形のプロポーションをもつ。外面にヘラケズリをもつものともないものがあり、ケズリはやや浅めである。安定性は悪い。



23-32

#### IIb類

やや平坦な底部から内湾して立ち上がるるものである。口縁端部が外反するものや括れるものも見られる。底部にはしっかりとした手持ちヘラケズリが施される。



61-152

#### IIc類

体部が斜上方に伸び、口縁部は真っ直ぐに立ち上がる。外面は口縁近くまでヘラケズリが施される。



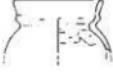
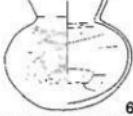
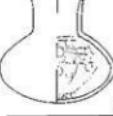
61-157

III類 口径が小さな手捏ね土器。所々に指頭圧痕を残し、厚みも不均一である。

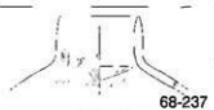


61-162

直口壺 口縁が開くものもあるが、ここでは直口壺として取り扱った。

I類	複合口縁をもつものである。		67-220
	単純口縁をもつものであり、形状の違いにより8つに分類した。		
	IIa類 肩部が張りだした球形の体部を有し、「く」の字に屈曲する短めの口縁をもつ。		67-222
	IIb類 肩部の張り出しが弱く、胴長のものである。「く」の字に屈曲する短めの口縁をもつ。		67-224
	IIc類 肩部の張り出しが弱く、撫で肩のもの。口縁の形態もややだれ気味である。		23-27
	IId類 なだらかに下がる肩部に直立する口縁をもつもの。		67-229
	IIe類 肩部の張り出しが弱く、真っ直ぐに立ち上がる口縁の先端が外方に折り曲げられたものである。		68-231
	IIIf類 扁平な球形の体部から、逆「ハ」の字状に立ち上がる口縁をもつ。腹部最大径が中央部分にくるものである。		68-234
II類	IIg類 扁平な球形の体部から、直立する長い口縁をもち、腹部最大径は中央よりやや下がった位置にくるもの。		68-236

II b類  
肩部から直立気味に立ち上がる口縁をもち、口縁の平面は梢円形となる。体部は須恵器提瓶C型のようなプロポーションをもつと思われる。



68-237

III類  
口径の小さな手捏ね土器のうち、口縁に何らかのアクセントがつくものを抜き出した。



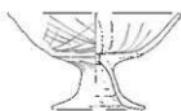
68-239

### 高坏

口縁部と坏底部との境に段をもつものである。大きさと口縁や脚部の形状により更に2つに細分した。

#### I a類

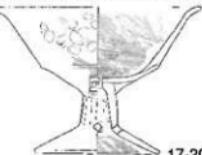
平坦な坏底部から斜上方に立ち上がる口縁をもち、端部は外反する。脚部は筒部より端部に向かって「八」の字状に大きくなるのである。坏部内外面に放射状の暗紋やハケメを施すものが多い。夫敷遺跡第IV調査区中層出土遺物の高坏B型に類例を見ることが出来る。



63-178

#### I b類

I a類と同様の形態をもつが、口径22.0cm以上、底径12.0cm以上を測る大型のものである。坏底部と口縁が円盤状に剥離し、擬口縁をもつ。口縁内外面にハケメをもつものともないものがある。夫敷遺跡第IV調査区中層出土遺物の高坏B型に類例を見ることが出来る。



17-20

口縁部と坏底部との境に段がなく、内溝する橢形の坏部をもつ。接合方法により2つに細分した。

#### II a類

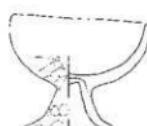
脚部と坏部が第7表のE-2 i 技法により接合されたものである。調整は外面の接合部（粘土頸を巻き付けた部分）にハケメや強いナデが施され、脚部内面には絞り痕をもつものが多い。夫敷遺跡第IV調査区中層出土遺物の高坏A型に類例を見ることが出来る。



17-25

#### II b類

脚部と坏部がD-1の技法により接合されたものである。器壁は厚く、脚部内面を除く部分に赤色顔料が塗布される。



64-185

平坦な坏底部から斜上方に立ち上がり口縁端部付近で外反する。坏底部と口縁の境に明瞭な段をもない。接合方法や脚部の特徴から6つに細分したが、すべてに赤色顔料が塗布されるなど同様の形態を目指して作成されたように思われる。

#### IIIa類

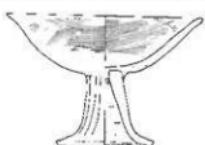
口縁と脚端部に平坦面をもつ。調整は外向が縱方向のハケメ、坏内面の口縁は横方向のハケメ、脚内面は丁寧な横方向のケズリ、脚端部には沈線が施される。接合方法は脚部上端が切っているように見えるが、坏部と脚部をBにより接合したのち、飛び出した粘土を丁寧になでている。



64-187

#### IIIb類

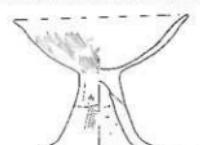
IIIa類と同様の形態をもつが口縁端部が丸くおさめられ脚端部に内傾する面をもつ。接合方法は不明なものもあるが、坏底部と口縁の接合部分にハケメが観察でき、脚部と坏底部のみを先に接合整形した後、坏口縁部を作り足したのかもしれない。



65-190

#### IIIc類

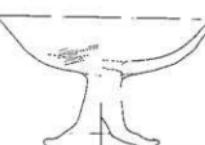
脚部はラッパ状に大きく開く。坏部と脚部の接合は不明であるが、脚部の中央付近に接合痕がある。



65-192

#### IIId類

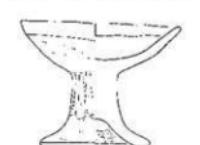
坏部は皿状に大きく開き、端部はやや外反する。充実した脚部と厚手の器壁を持ち、手に取ったときに重量感がある。坏部と脚部の接合はD-1である。



65-193

#### IIIE類

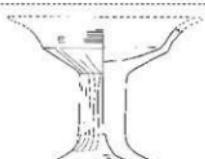
緩やかに広がる充実した脚部をもち、端部を丸くおさめる。調整としては坏部外面下半に横方向のケズリ、脚部外面に縱方向のケズリが施される。器壁は均一ではなく総じて厚い。手に持つとずっしりとした重量感がある。胎土は粗く砂粒を含む。



24-48

#### IIIf類

坏部の中央付近から大きく外反気味に開く。柱状の脚部をもち、裾部分で大きく開く。充実した脚筒部のため、手に取るとずっしりとした重量感がある。調整は脚部外面にミガキが施される。坏部と脚部の接合はD-3による。



65-194

## 前田遺跡第Ⅱ調査区出土高坏の接合方法

前田遺跡第Ⅱ調査区からは河道Cを中心に多数の高坏が出土している。高坏はその接合方法についても編年が語られていることもあり、第7表の通り分類を行った。まず、脚部の外見上の特徴としては、脚部上端が開いているように見えるもの（A.B.C）と、閉じているように見えるもの（D.E）に分けることが出来る。また、坏部では中央に小円を開け脚部を挿入する方法(1)、坏底部に脚上端部を押し当て接合する方法(2)、脚部に坏部を作り足していく方法(3)に分類した。

Aは円盤を充填するものであり、脚内面からは円盤の中央に小孔を観察することが出来る。本遺跡から出土した高坏のうち円盤が充填されたものは第66図209の1点だけである。小孔を観察すると、坏部内側から脚部に向かって径3mmの孔を貫通させた後、坏部内側より粘土を挿入して孔が塞いである。このため脚部内面にはバリ（棒状工具を差し込むことで押し出された粘土）が残る。接合方法としてはA-1：坏底部に小円を開け脚部を差し込み、円盤により脚上端部を塞ぐ方法（松山編年<sup>16</sup>の接続法αに近い）、A-2 i：筒状になった脚上端部を円盤により蓋をしたのち、後述のE-2 iの技法により接合する方法、A-3：脚部に坏部を作り足していく方法が考えられる。

Bは脚部内面に球面状の突起をもつものである。B-1は坏部中央に小円を開け、そこに脚部を挿入する方法であり、松山編年<sup>16</sup>の接合法βに近い。挿入した脚の外面上に粘土を付加し、内面の中空になった脚部には粘土を充填し、坏底部内面に薄く粘土を付加し調整を行う。B-2 iは坏底部外側中央に突起を作り出し（張り付けるか摘み出したと考えられる）、そこに端部上端が開いた脚部を接合する方法、B-2 iiは脚上端部に粘土を充填した後、坏底部に脚上端部を押し当て、接合部に粘土を付加する方法、B-3は脚部に坏部を作り足していく方法である。B-2 iiiは後述のE-2 iの軸孔が大きなものである。B-2 ii、B-3により接合されたと断言できる個体は見られなかったが、こうした接合の可能性もあるものとして記載した。

Cは脚部内面が平らなものである。C-1はB-1とC-2 iiはB-2 iiとC-3はB-3と同様であるが、充填した粘土の突起が目立たないものである。C-2 iは開いた脚部上端を坏部に押し当て接合する方法であり、坏底部外側の突起が無いだけで接合の方法としてはB-2 iと同様のものである。C-2 ii、C-3はこうした接合方法の可能性もあるものとして記載した。

Dは脚上端部が閉じているものである。D-1はB-1と、D-2 iはB-2 iiと同じ技法である。D-3は脚上端の側面に坏部を作り足して成形する方法であり、なかには脚部と同じ粘土塊から引き出されたと思われる口縁もある。

Eは脚内上部に径0.3~0.8cm、深さ0.3~1.2cmの孔が開いているものである。E-2 iは坏部内面中央より棒状の工具を差し込み貫通させ、それに上端が閉じた脚部を差し込み坏底部に押し当て、周囲に粘土を付加し（粘土紐を巻き付けたと思われる）接合する方法である。付加した粘土はハケメや強いナデにより調整が施されている。また、接合時に坏底部内面中央がやや盛り上がったものもみられる。貫通した孔は坏部内面から粘土を充填して塞ぎ、薄く粘土を付加し調整

を行う。脚部の接合に際し、中央からずれたため差し直した痕跡が残るものもある。脚部内面にはバリの残るものが多い。

以上、高坏の接合法をみてきたが、外観はDであっても接合法はB-2 iによる方法がとられているものもある。また、残りの良いものでは接合法が特定できないものが殆どであった。本文中に記載するにあたって、細かい接合法がわからないものについては接合部分の外観の記号を記載してあるので、その中のいずれかであると理解していただきたい。

第7表 前田遺跡第II調査区出土高坏接合概念図一覧表

脚部 内面	接合部分の外観	脚部と脚部を別々に作ったもの		脚部上端側面に脚部を作り足したもの 3
		挿入 1	接合 2	
A				
B				
C				
D				
E				

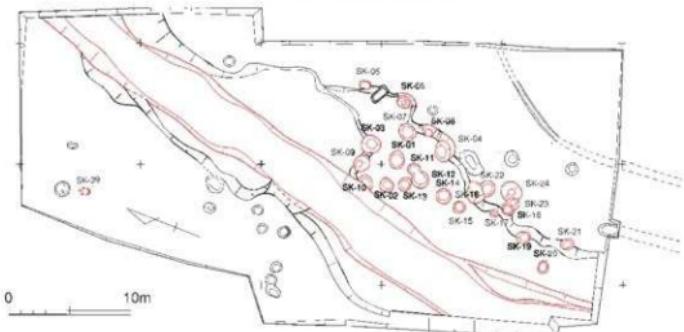
## 1. 河道 A

ここでは、調査区内に河道の削り込み(チャネル)が形成された時点から、第18層が堆積する以前の第4表の①と②を取り扱う。土層の堆積状況であるが、チャネル形成時に堆積したと考えられる第23層は、挙人から人頭人の礫を多量に含んだ大礫層であり、規模の大きな洪水による土石流と考えられる。無遺物層であるため、いつ頃からここに川が流れ始めたのかは判らない。規模は、河川内の土砂をすべて取り除いたわけではないので第23層上面で測定すると、河川底幅3.6~5.3m、深さ1.0~1.28mを測る。現在、遺跡の東340mの位置に東岩坂川が北流しているが、この川の支流ではなく、河道 A の頃には調査区内に東岩坂川の本流が流れていたと考えられる。

遺構は、第18層の流れにより一部が削られた土坑が21個(SK-01~21)、切り合いによりこれよりも古ないと判断されるもの3個(SK-22~24)が検出された。この中で性格のわかるものにSK-01~04があり、出土遺物からドングリの貯蔵穴と考えられる。その他の土坑についても規模、立地や埋土から同様の貯蔵穴と思われる。また、SK-25~29については河道との切り合いが無く、遺物も出土していないことから後述の「6. その他の遺構」で一覧表を掲載したが、立地などから貯蔵穴かもしれない。この他、河道との切り合いはないが、出土遺物から同時期の土坑と考えられるSK-39についてはここで掲載した。河道 A は出土遺物から縄文時代晩期を下限とする。



遺跡の東を流れる現在の東岩坂川。  
今では護岸が整備されているが、かつては洪水の度に被害をもたらした。



第5図 河道 A 遺構位置図(赤が河道 A 及び土坑)

### 土坑 SK-01 (第6図)

調査区下流の河川右岸、標高27.50～27.75mを測る場所に位置する楕円形の土坑である。上縁部は第18層の流れに削られ消滅しているが、現状で上縁長軸142.0cm、短軸129.0cm、底部長軸110.0cm、短軸96.0cm、深さ最大26.3cmを測る。貯蔵穴の中からは人頭大の石3個とその下からドングリが少量出土した。ドングリは遺存状態が悪く取り上げは行っていない。

### 土坑 SK-02 (第6図)

調査区下流の河川右岸、標高27.50～27.75mを測る場所に位置する円形の土坑である。上縁部は第18層の流れに削られ消滅しているが、現状で上縁径111.0cm、底径80.0cm、深さ最大17.0cmを測る。貯蔵穴の中からは人頭大の石1個とドングリが少量出土した。ドングリは遺存状態が悪く取り上げは行っていない。

### 土坑 SK-03 (第6図)

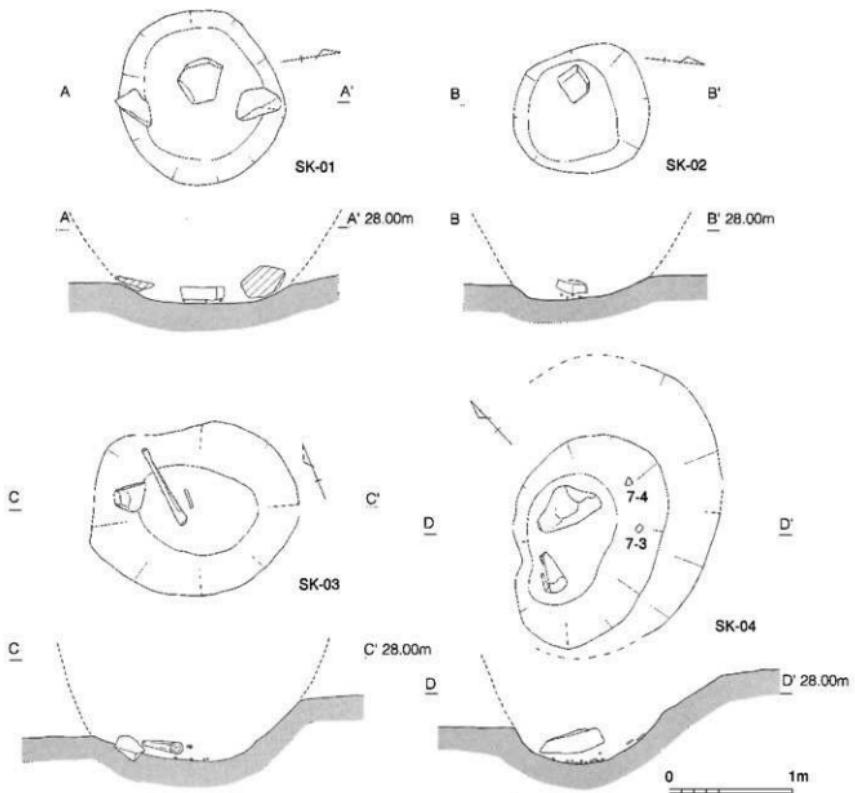
調査区下流の河川右岸、標高27.25～27.75mを測る場所に位置する楕円形の土坑である。上縁部は第18層の流れに、側壁の一部は河道Cの流れにより消滅している。現状で上縁長軸174.0cm、短軸138.0cm、深さ最大46.2cmを測る。貯蔵穴の中からは人頭大の石、流木、クルミ、ドングリが出土した。ドングリは遺存状態も良かったことからすべてについて取り上げを行った。

**SK-03出土遺物** (第10表) SK-03からは人頭大の石1個、流木4本、クルミ1個とドングリが多数出土した。ドングリは土坑底部に薄く層状に堆積しており、他の貯蔵穴に比べ出土量も多く、先端部分で計算すると187個体以上になる。内訳はアカガシ171個以上、シラカシ1個、シラカシ?11個、シイ1個、コナラ1個、不明2個である。<sup>度?</sup> 舫斗部分の無いものが殆どであったが、アカガシ2個とシラカシ1個については艪斗がついたままの状態で出土している。また、角の取れた川原石が1点出土した。この石の上層からはドングリが出土していないことから、貯蔵穴を塞いだ後に重石として置いたものか、目印のようなものと思われる。SK-01、02、04からも自然石が見つかっており、これらも同様のものと考える。

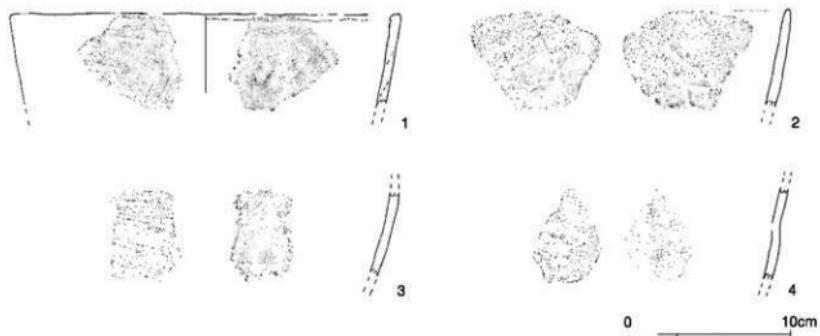
### 土坑 SK-04 (第6図)

調査区下流の河川右岸、標高27.50～28.25mを測る場所に位置する楕円形の土坑である。側壁の一部は第18層の流れに削られ消滅している。現状で上縁長軸246.0cm、短軸161.0cm、底部長軸111.0cm、短軸71.0cm、深さ最大74.5cmを測る。貯蔵穴の中からは人頭大の石と縄文土器が出土した。ドングリは遺存状態が悪く取り上げは行っていない。

**SK-04出土遺物** (第7図1～4) SK-04からは人頭大の石2個と縄文土器4点が出土している。1、2は深鉢口縁の破片である。1は口縁が直線的に立ち上がり、口縁内面には端部を処理したときの粘土の痕跡が残る。調整は外面がヘラナデ、内面には丁寧なナデが施され、外面の一部に炭化物が付着する。口径は23.8cmを測る。2は内外面ともにナデが施され、外面には炭化物が付着する。3、4は胴部の破片であり、同一個体と考えられる。調整は内外面とも丁寧なナデであり、3の外面には炭化物が付着する。時期はいずれも縄文時代晩期と考えられる。



第6図 河道A貯藏穴実測図

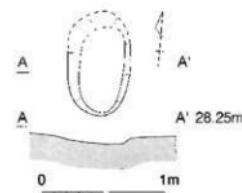


第7図 SK-04出土縄文土器実測図

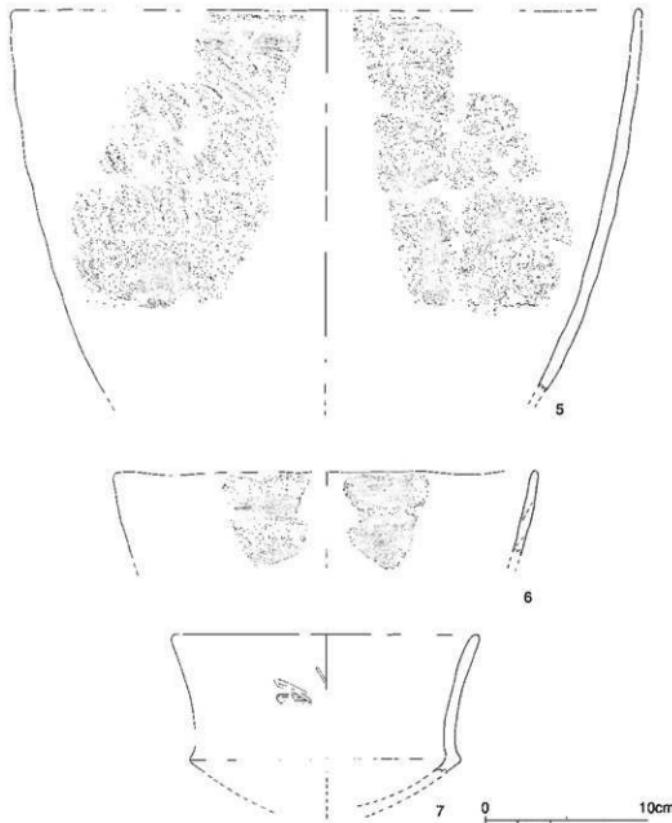
### 土坑 SK-39 (第8図)

河川左岸の標高28.00～28.50mを測る位置から検出された平面橢円形を呈する土坑である。規模は上縁長軸85.0cm、短軸55.0cm、深さ最大4.3cmを測る浅いものであるが、中からは縄文土器の破片が折り重なるように出土している。

SK-39出土遺物（第9図5～7）5、6は頸部をもたず口縁部からそのまま丸底に至る砲弾形の無文深鉢である。5は口縁部に横方向の強いナデ、外側が斜め方向のヘラ状のナデ、内面はナデが施される。法量は口径38.9cmを測る。6は内外面にナデが施される。7は胴部が「く」の字に屈曲する浅鉢である。調整は内面がナデ、外側は風化のためはっきりしないがミガキが施される。時期はいずれも縄文時代晩期と考えられる。



第8図 SK-39実測図



第9図 SK-39出土縄文土器実測図

第8表 河道A土坑一覧表

単位(cm)

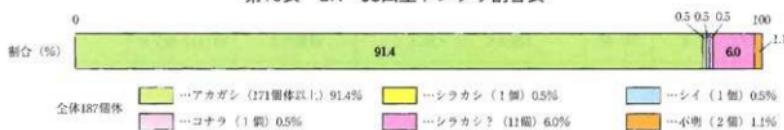
名 称	出土地点	平面形	規模(上総長軸×短軸×深さ最大)	性 格	備考(出土遺物)
SK-01	B-8・C-8	楕円形	142.0×129.0×26.3	ドングリの貯藏穴	ドングリ・自然石
SK-02	C-7・C-8	円 形	111.0× - ×17.0	ドングリの貯藏穴	ドングリ・自然石
SK-03	B-7	楕円形	174.0×138.0×46.2	ドングリの貯藏穴	ドングリ・クルミ・自然石・流水
SK-04	B-8	楕円形	246.0×161.0×74.5	ドングリの貯藏穴	ドングリ・縄文土器・自然石
SK-05	B-7	開丸長方形	86.0×62.0×25.3	貯藏穴?	
SK-06	B-8	楕円形	138.0×113.0×41.1	貯藏穴?	
SK-07	B-8	円 形	196.5× - ×62.0	貯藏穴?	
SK-08	B-8	円 形	105.0× - ×30.2	貯藏穴?	
SK-09	B-7・C-7	円 形	148.0× - ×42.8	貯藏穴?	
SK-10	C-7	楕円形	137.0×69.0×22.3	貯藏穴?	
SK-11	B-8・C-8	円 形	106.0× - ×13.5	貯藏穴?	SK-12と切り合う
SK-12	C-8	円 形	139.0× - ×23.1	貯藏穴?	SK-11と切り合う
SK-13	C-8	円 形	112.0× - ×11.7	貯藏穴?	
SK-14	C-8	円 形	138.0× - ×15.7	貯藏穴?	
SK-15	C-8	円 形	103.0× - ×15.8	貯藏穴?	
SK-16	C-8	楕円形?	184.0×146.0×56.4	貯藏穴?	SK-16(新)・SK-22(古)
SK-17	C-8	円 形	62.0× - ×16.5	貯藏穴?	
SK-18	C-9	楕円形	121.0×78.0×81.4	貯藏穴?	SK-18(新)・SK-23(古)
SK-19	C-9	円 形	116.0× - ×36.3	貯藏穴?	
SK-20	C-9	楕円形	97.0×82.0×15.3	貯藏穴?	
SK-21	C-9	楕円形	105.0×91.0×60.2	貯藏穴?	
SK-22	C-8	円 形	118.5× - ×20.1	貯藏穴?	SK-16(新)・SK-22(古)
SK-23	C-9	円 形	101.0× - ×86.3	貯藏穴?	SK-18(新)・SK-23(古)
SK-24	C-8・C-9	円 形	170.0× - ×55.8	貯藏穴?	SK-23(新)・SK-24(古)
SK-29	C-5	楕円形	85.0×35.0×4.3	不明	縄文土器

第9表 河道A出土土器観察表

単位(cm)

擇別番号	品目	器種	出土地点	胎土層	焼成色調	法量	調整・手法の特徴	時期	備考
7-1	縄文土器	深鉢	B-8区	0.5mm 以下の砂粒を多く含む	(外)黒褐色 (内)灰黄褐色	円底:5.5 外面:ヘラナダ 内面:丁寧なナダ	縄文時代 晩期	外面に炭化物付着	
7-2	縄文土器	深鉢	D-8区	1mm 前後の砂粒を多く含む	(外)灰青褐色 (内)灰褐色	外面ナダ 内面ナダ	縄文時代 晩期	外面に炭化物付着	
7-3	縄文土器	深鉢?	B-8区	2mm 以下の砂粒を多く含む	(外)黒褐色 (内)灰黄褐色	外面丁寧なナダ 内面:丁寧なナダ	縄文時代 7-4と同一個体か 塑型の破片	外面に炭化物付着	
7-4	縄文土器	深鉢?	D-8区	2mm 以下の砂粒を多く含む	(外)黒褐色 (内)褐灰色	外面丁寧なナダ 内面:丁寧なナダ	縄文時代 7-3と同一個体か 塑型の破片	7-3と同一個体か 塑型の破片	
9-5	縄文土器	深鉢	C-5区	1mm 以上の砂粒を多く含む	(外)灰褐色 (内)灰褐色	円底部強いナダ 底部外縁へラグのナダ、内面ナダ	縄文時代 晩期	外面に煤付着	
9-6	縄文土器	深鉢	C-5区	2mm 大の砂粒を多く含む	(外)橙色 (内)灰褐色	口縁部内外ナダ	縄文時代 晩期	外面に煤付着	
9-7	縄文土器	浅鉢	C-5区	5mm 入の砂粒を含む	(外)棕色 (内)橙色	内面ナダ、外縁 ミガキナダ	縄文時代 晩期		

第10表 SK-03出土ドングリ割合表



SK-03出土 アカガシの殻斗

SK-03出土 コナラ

SK-03出土 シ

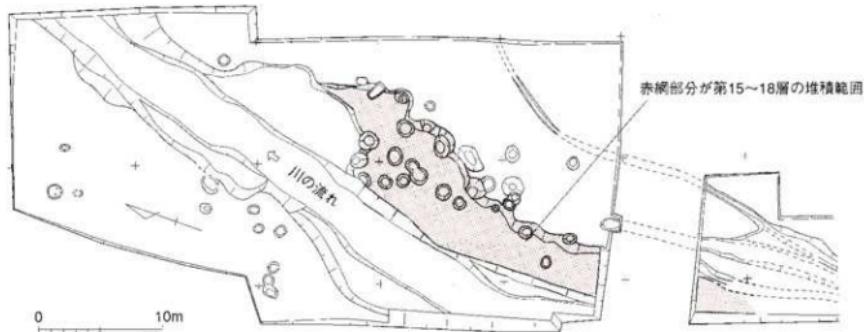
## 2. 河道 B

ここでは、第18層の流れにより河川右岸が削られた時点から、第11層が堆積するまでの第4表の③と④を取り扱う。河道 A に比べると川は広く浅くなり、上端で幅6.35~14.30m、深さ0.47~0.92mを測る。遺物包含層は第17層、第11~14層である。河道 B の時代は更に、B-1 : 第15~18層の堆積、B-2 : 第11~14層の堆積の2つに細分し、堆積の古い B-1 から概要を述べる。

### 1) 河道 B-1

第18層は砂粒を多く含んだ層であるが、第11層や第7~10層にあるような礫は含んでいない。ある程度の流れがあったようだが、礫を押し流すほどの流れではなかったようである。第15~17層は非常に粘性が強く肌理も細かいものである。これら15~18層は広範囲に堆積するものではなく、河川右岸のごく限られた部分に認められた。

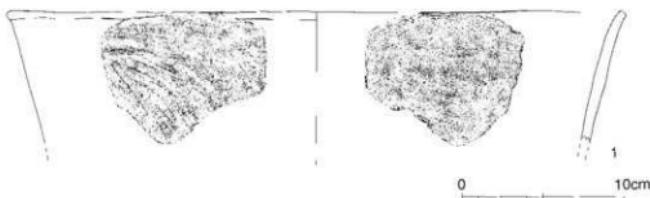
遺物は第17層の緑黒色粘土層から縄文土器の破片が1点出土しただけである。



第10図 河道B-1土層堆積状況平面図

### 河道 B-1 出土遺物 (第11図 1)

1はB-7区第17層から出土した縄文時代晩期の深鉢口縁の破片である。口縁が直線的に立ち上がり端部は平坦に仕上げられ、口縁外面には端部を処理したときの粘土の痕跡が残る。調整は内面がナデ、外面はミガキ風のヘラナデが施される。法量は口径38.0cmを測る。

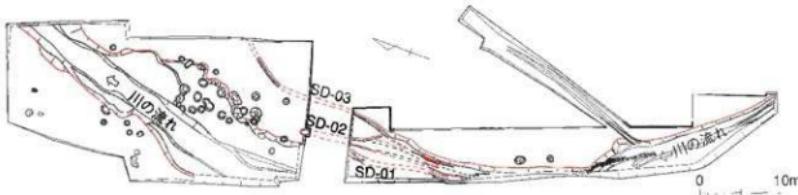


第11図 河道B-1出土縄文土器実測図

## 2) 河道B-2

ここでは第11～14層が堆積した時期を取り扱う。遺構としてはD-12区から北へ向かって伸びる3本の溝（SD-01～03）を検出している。それぞれがほぼ平行に伸びているため切り合はないが、遺物も出土していないことから新旧関係をとらえることができなかった。河道Cの流れにより分断されていることから便宜的にここに掲載した。

河道B-2から出土した遺物は縄文時代後期を上限とし、古墳時代前期を下限とする非常に時期幅のあるものである。各層位ごとの遺物であるが、第14層からは第15図5の弥生前期の壺が1点出土した。第13層は河川両岸の広い範囲に堆積したものであり、粘性が強く肌理も細かい。遺物は古墳時代前期の小谷式のものが主体となる。第12層は砂粒が多く含むが礫は見られない。第17図17の上師器杯が出土している。第11層は河川右岸に堆積したものであり、蛇行州を形成する。後述の河道C内第7～9層に見られる礫に比べると全体に大きく、やや規模の大きな洪水があったことを物語る。第14図1の縄文土器深鉢と第17図18の上師器低脚壺が出土している。



第12図 河道B-2遺構位置図（赤が河道B-1及び溝）

### 溝 SD-01(第13図)

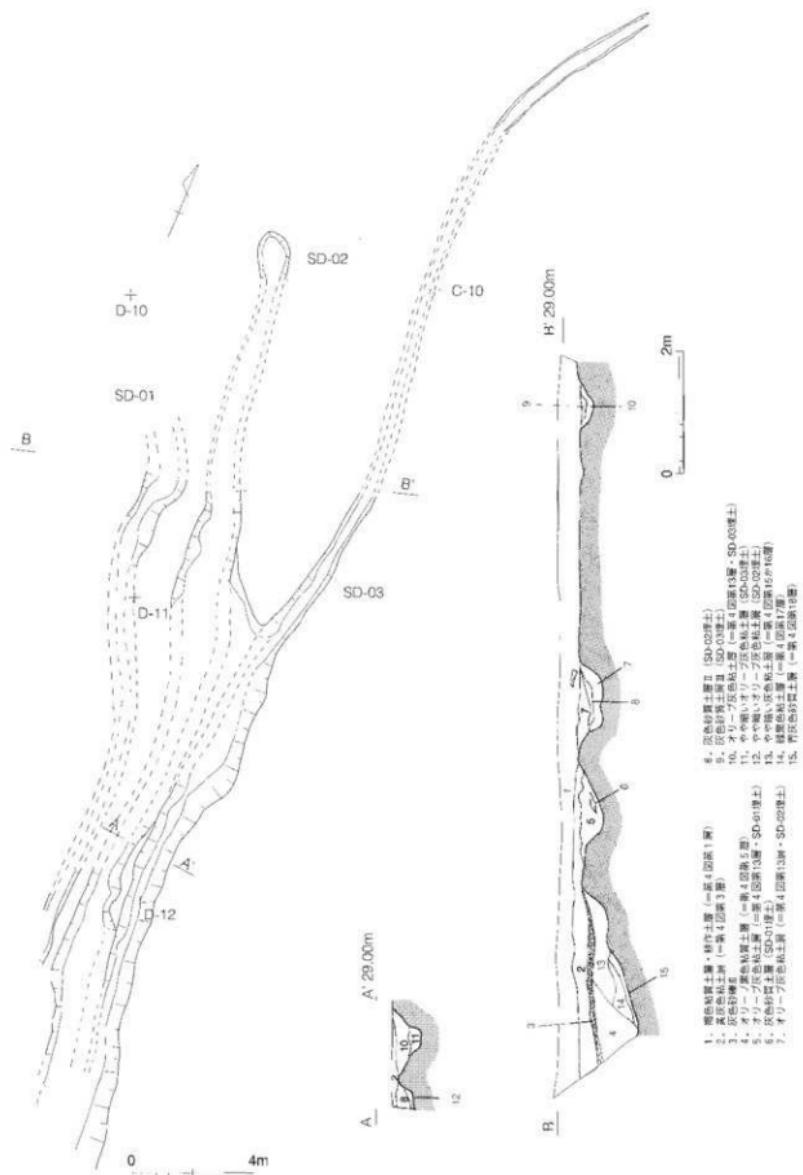
河川右岸の標高28.00～28.50mを測る位置で検出されたものであり、調査区外の南側に向かってさらに伸びている。検出された部分での規模は復元長17.4m、幅50～129cm、深さ最大37.5cmを測り、断面は「U」字状を呈する。3本のうち最も川寄りに位置し、大部分が河道Cの流れにより消失している。また、下流にあたる調査区の北側では検出されなかった。

### 溝 SD-02(第13図)

河川右岸の標高28.25～28.75mを測る位置で検出されたものであり、調査区外の南側に向かってさらに伸びている。検出された部分での規模は長さ28.9m、幅79～163cm、深さ最大29.0cmを測る。SD-01とSD-03に挟まれるように位置し、一部は河道Cの流れにより消失している。

### 溝 SD-03(第13図)

河川右岸の標高28.00～29.00mを測る位置で検出されたものであり、調査区外の北側に向かってさらに伸びている。検出された部分での規模は復元長37.95m、幅40～156cm、深さ最大56.8cmを測り、断面は「V」字状を呈する。底部分での標高は北側より南側の方が高くなっている。導水のための溝と思われる。溝の一部は河道Cの流れや耕作により消失している。



第13図 SD-01~03実測図

## 河道 B-2出土遺物(第14図1~18図26)

### 1. 繩文土器 (第14図1~4)

1は内側に向けて屈曲する口縁をもつ深鉢である。外面は沈線で区画され、磨消縄文をもつ。時期は縄文時代後期と考えられる。C-8区第11層より出土した。2は内面に山形沈線文をもつ浅鉢であり、外面の調整は薄く剥離し不明である。縄文時代晩期のうち古いものと考えられる。D-9区第13層より出土した。3、4は縄文時代晩期の突帯文土器である。3は口縁端部に接して刻み凹を施さない突帯が巡る。調整は風化が著しく不明である。C-8区第13層より出土した。4は刻み凹を施さない突帯をもつものであり、突帯は口縁端部からやや下がった位置に巡る。調整は内外面ともにナデである。A-6区第13層より出土した。

### 2. 弥生土器 (第15図5~11)

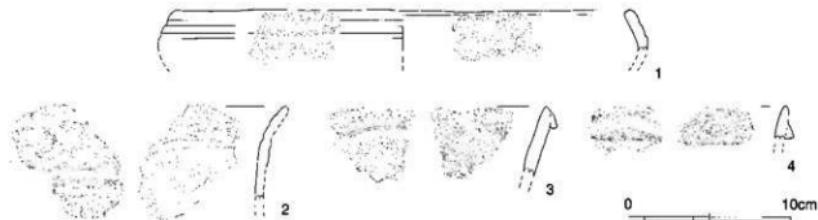
5は弥生時代前期の広口壺である。口頭部境に段をもち、口縁部は外反する。器面調整は口縁部内面がヘラミガキ、頭部以下がハケメ、外面がミガキであり、口縁外面にはヘラミガキの下にハケメが残る部分もみられる。C-6区第14層より出土した。6~8は複合口縁の外面に擬凹線文が施された壺である。6は口縁部が若干内傾気味に短く立ち上がり、外面に二枚貝による7条の擬凹線文をもつ。調整は肩部外面に二枚貝による連続刺突文をもち、内面は口縁近くまでヘラケズリが施される。弥生時代後期中葉の九重3号墓式よりやや古い時期である。D-9区第13層より出土した。7は短めの複合口縁が緩やかに外反して立ち上がり、稜は斜め下方向に突出している。外面には8条の擬凹線文が施される。九重3号墓式よりやや古い時期である。C-8区第13層より出土した。8は口縁が直立気味に緩いカーブを描いて立ち上がり、稜は下方に小さく突出する。外面には4条の擬凹線文が巡り、内面は横ナデ、頭部以下にヘラケズリが施される。九重3号墓式に含まれるものである。B-8区第13層より出土した。9、10、11は壺甌類底部の破片である。平底を有し、調整は風化が著しく不明である。いずれも第13層からの出土である。

### 3. 土師器 (第16図12~第17図25)

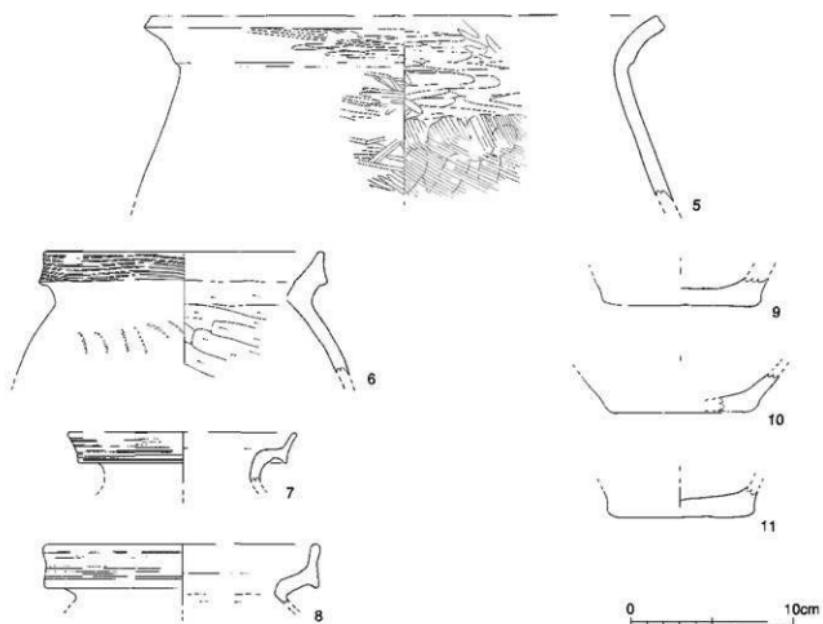
(1) 壺 (第16図12~16) 12、13は複合口縁をもつI類であり、古墳時代前期のものと考えられる。12は口縁がやや開き気味に立ち上がり、端部に平坦な面をもつ。調整は肩部外面に横方向のハケメに挟まれた緩やかな波状文をもち、内面は頭部以下に横方向のヘラケズリが施される。13は卵倒形の体部をもち、底部は僅かに平底の痕跡をとどめる。口縁はやや開き気味に立ち上がり、端部は平坦である。外面の調整は肩部に横方向のハケメ後、列点文が羽状に配置され、底部が縦方向のハケメ、中程辺りは横方向と縦方向のハケメが交錯する。内面は頭部下から中程辺りまでが横方向のヘラケズリ、底部は縦方向のヘラケズリが施される。器壁は非常に薄い。14は口縁の中程が膨らむVI類である。15は体部上半に最大径をもつV類であり、調整は体部外面が斜め方向のハケメ、内面は頭部下から中程辺りまでが斜め方向のヘラケズリ、底部は縦方向のヘラケズリが施される。16は口縁内面が僅かに内湾するIVa類である。調整は体部外面にハケメ、内面は頭部よりやや下がった位置からヘラケズリが施される。壺はすべて第13層からの出土である。

(2) 坯 (第17図17) 17は器高が低い1類であり、口縁端部がやや肥厚する。調整は内面が放射状の暗紋、外面には手持ちハラケズリが施される。第12層より出土した。

(3) 低脚坯 (第17図18、19) 18、19は低い脚部をもつことから低脚坯とした。18は坯部が浅く楕円形の口縁をもち、口縁端部が僅かに括れる。脚部と坯部の接合は高環E-2 i 技法による。調整は内面に放射状の暗紋、外面の接合部に継方向のハケメが施される。第11層より出土した。19は坯部が深く、口縁は斜上方に伸びる。調整は坯部内外面はナデ、脚底部にケズリが施される。脚部外面には指頭圧痕を残し、口縁は歪む。18に比べると粗製である。第13層より出土した。

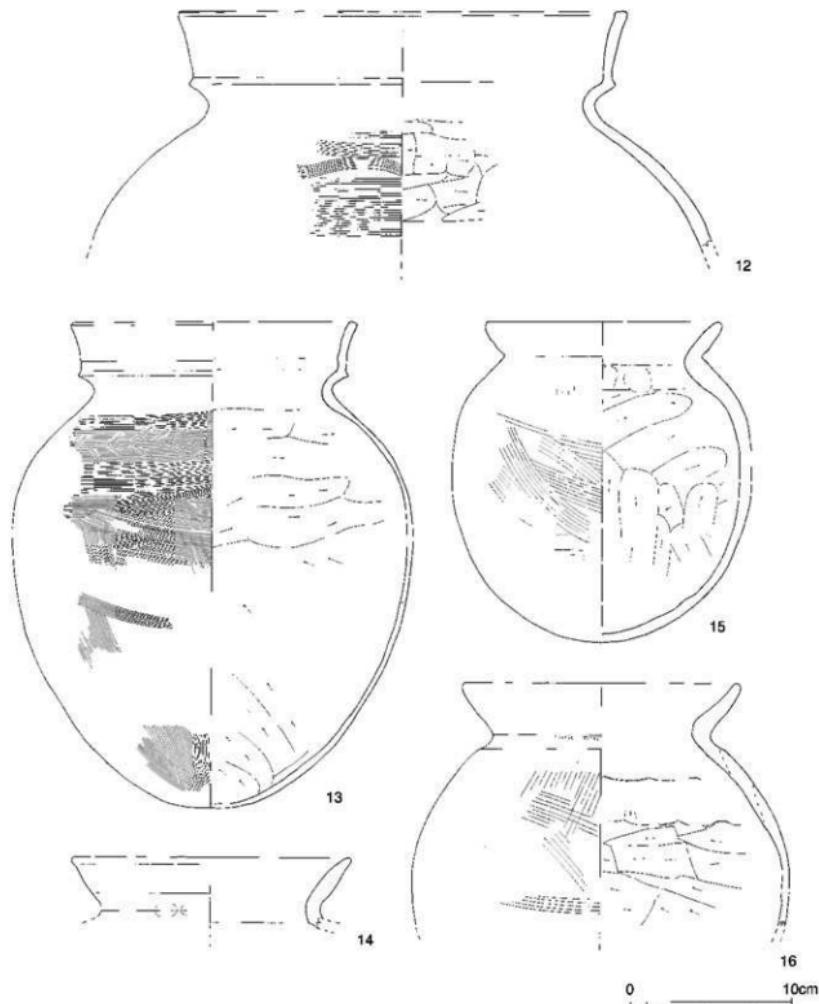


第14図 河道B-2 出土縄文土器実測図

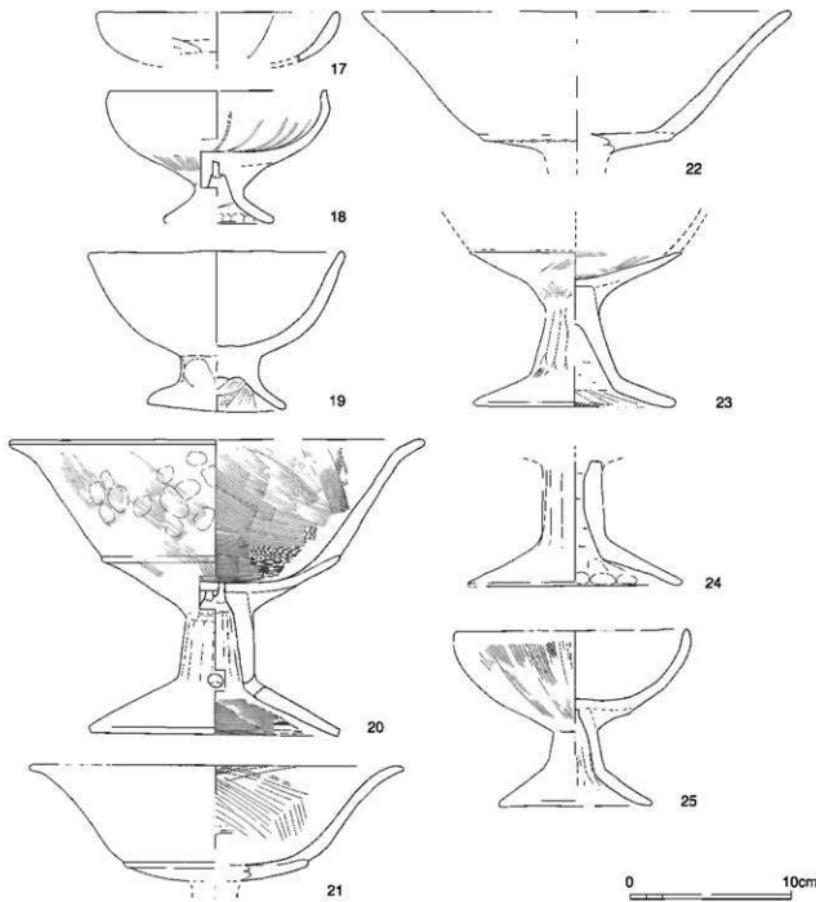


第15図 河道B-2 出土弥生土器実測図

(4) 高坏 (第17図20~25) 20~22は大型の I b類であり、23、24も同様の脚部と思われる。坏底部と口縁が凸盤状に剥離し、20、23はその剥離面にハケメが観察できる。脚部の形態は直線的な脚筒部より端部に向かって「八」の字状に大きく聞く。脚部と坏部の接合は、20がE-2 i、23がD-2 i、24はBであり、20には接合をやり直した軸孔が残る。25は楕円形の坏部をもつII a類である。調整は坏部外面に縦方向のハケメが施される。いずれも第13層より出土した。



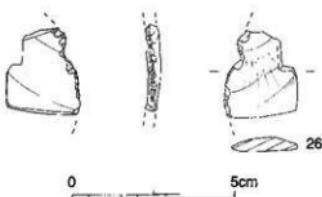
第16図 河道B-2出土土師器実測図(壺)



第17図 河道B-2出土土器実測図（低・低脚杯・高杯）

#### 4. 石器（第18図26）

26は二次加工のある剥片であり、縦軸の片側縁のみに細かい二次加工が加えられる。法量は長さ2.7cm、幅2.2cm、厚さ0.4cm、重量3.3gを測る。石材は赤瑪瑙であり、A-6区第13層オリーブ灰色粘土層より出土した。



第18図 河道B-2出土石器実測図

第11表 河道B出土遺物観察表

単位(cm)

種類 番号	品目	器種	出土地点 土層	新 度	土 色	質	法 量	調査・手法の特徴	時 期	備 考
11-1	縄文土器	深鉢	B-7区 17. 深褐色粘土層	1mm 前後の砂粒を 多く含む	(外) 黒色 (内) 灰褐色	良好	口径: 38.0 ナメ	外側ミガキ風のヘラ ナメ	縄文時代 前期	外壇化物付着
14-1	縄文土器	深鉢	C-8区 11. 灰色粘土層 V	2mm 前後の砂粒を 多く含む	(外) 黑褐色 (内) 黑褐色	良好	口径: 28.0	潜溝検	縄文時代 後期	
14-2	縄文土器	浅鉢	D-9区 13. オリーブ灰褐色	1mm 前後の砂粒を 多く含む 良好	(外) 黑褐色 (内) 黑褐色	良好		内部山形沈線が上下 に横走する。	縄文時代 前期	
14-3	縄文土器	深鉢	C-8区 13. オリーブ灰褐色	1~2mm の砂粒を 多く含む	(外) にい黄褐色 (内) 灰白色	良好		口縁溝に接して開 み立ちをもたない突唇	縄文時代 前期	外壇に保存看 査等付着
14-4	縄文土器	深鉢	A-6区 13. オリーブ灰褐色	0.5mm 以下の砂粒 を含む 不良	(外) にい黄褐色 (内) にい黄褐色	良好		口縁溝に接して開 み立ちをもたない突唇	縄文時代 後期	文部省土器
15-5	弥生土器	広口壺	C-6区 14. 灰色土	2mm 以下の砂粒多 く含む	(外) にい黄褐色 (内) にい黄褐色	良好	口径: 32.0 ナメ	外側ミガキ風 内面に墨タマシマ ト、刷毛跡トナメ	弥生時代 前期	
15-6	弥生土器	壺	D-9区 13. オリーブ灰褐色	1mm 前後の砂粒含む 良好	(外) 灰黃褐色 (内) 灰黃褐色	良好	口径: 17.2 ナメ	口縁外側に 7 条の縦 筋突起	九重より 複合口縁	複合口縁 外壇に保存看 査等付着
15-7	弥生土器	壺	C-8区 13. オリーブ灰褐色	0.5mm 以下の砂粒 を含む	(外) にい黄褐色 (内) にい黄褐色	良好	口径: 14.0 ナメ	口縁外側に 8 条の縦 筋突起	九重より やや古い	複合口縁
15-8	弥生土器	壺	B-8区 13. オリーブ灰褐色	1~2mm の砂粒含 む	(外) にい黄褐色 (内) にい黄褐色	良好	口径: 17.0 ナメ	口縁外側に 4 条の縦 筋突起	九重式 行	複合口縁 外壇に保存看 査等付着
15-9	弥生土器	(壺)	A-6区 13. オリーブ灰褐色	1mm 以下の砂粒多 く含む	(外) 灰黃褐色 (内) 灰黃褐色	良好	底径: 9.7 ナメ	風化		半底
15-10	弥生土器	(壺)	C-8区 13. オリーブ灰褐色	1mm 以下の砂粒多 く含む 不良	(外) 明顯灰褐色 (内) 灰褐色	良好	底径: 9.2 ナメ	風化		半底
15-11	弥生土器	(壺)	C-8区 13. オリーブ灰褐色	3mm 大の砂粒多 く含む や小良	(外) にい黄褐色 (内) 灰黃褐色	良好	底径: 9.0 ナメ	風化		半底
16-12	土器器	壺	C-7区 13. オリーブ灰褐色	1mm 以下の砂粒含 む。密 封	(外) にい黄褐色 (内) にい黄褐色	良好	口径: 27.4 ナメ	青銅外側に横方向の 筋突起	複合口縁 壺ノ頭	
16-13	土器器	壺	C-15区 13. オリーブ灰褐色 (地山巻き)	5mm 以下の砂粒含 む。密 封	(外) にい黄褐色 (内) にい黄褐色	良好	口径: 17.6 ナメ	青銅外側に横方向の 筋突起	外壇に保存看 査等付着	複合口縁
16-14	土器器	壺	B-7区 13. オリーブ灰褐色	1mm 以下の砂粒含 む。密 封	(外) にい黄褐色 (内) にい黄褐色	良好	口径: 17.2 ナメ	口縁ハ中程が膨らむ	單純口縁 壺ノ頭	
16-15	土器器	壺	C-7区 13. オリーブ灰褐色	1~4mm の砂粒含 む。密 封	(外) にい黄褐色 (内) にい黄褐色	良好	口径: 14.5 ナメ	外側ミケメ。内面ハ ラケツリ、頭部に指 印有	外壇に保存看 査等付着	單純口縁 壺ノ頭
16-16	土器器	壺	C-7区 13. オリーブ灰褐色	1mm 以下の砂粒含 む。密 封	(外) にい黄褐色 (内) にい黄褐色	良好	口径: 17.0 ナメ	外側ミケメ、内面ハ ラケツリ	外壇に保存看 査等付着	單純口縁 壺ノ頭
17-17	土器器	壺	C-7区 12. 灰色粘土層	微砂粒含む。密 封	(外) にい黄褐色 (内) にい黄褐色	良好	口径: 14.8 ナメ	外側ミケメ持ちヘラ ナメ		壺ハ 1 頭
17-18	土器器	壺	C-7区 11. 灰色粘土層 V	微砂粒含む。密 封	(外) にい黄褐色 (内) にい黄褐色	良好	口径: 13.3 ナメ	内面斜削状の筋紋。 底径: 6.7 ナメ	高杯 II b 壺 接合: E-2	
17-19	土器器	辯輪坏	C-7区 13. オリーブ灰褐色	2~3mm の砂粒含 む。密 封	(外) にい黄褐色 (内) にい黄褐色	良好	口径: 13.4 ナメ	底板はケズリ。そ れのナメナメ。指印 有	高杯 II b 壺 接合: E-2	
17-20	土器器	高杯	C-7区 13. オリーブ灰褐色	4mm 大の砂粒含 む。密 封	(外) にい黄褐色 (内) にい黄褐色	良好	口径: 25.3 ナメ	底径: 15.6 ナメ	外側ハケメ	高杯 II b 壺 接合: E-2
17-21	土器器	高杯	C-7区 13. オリーブ灰褐色	1mm 以下の砂粒含 む。密 封	(外) にい黄褐色 (内) にい黄褐色	良好	口径: 22.0 ナメ	内面ハケメ	高杯 II b 壺	
17-22	土器器	高杯	CD-14区 13. オリーブ灰褐色	3mm 大の砂粒含 む。密 封	(外) にい黄褐色 (内) にい黄褐色	良好	口径: 26.5 ナメ	内外面コロナデ	高杯 II b 壺	
17-23	土器器	高杯	B-7区 13. オリーブ灰褐色	1mm 以下の砂粒含 む。密 封	(外) にい黄褐色 (内) にい黄褐色	良好	口径: 13.4 ナメ	脚部外側底方のミ ガキ、内面ケズリ。 5 段階外側ハケメ	高杯 II b 壺? 接合: D-2	
17-24	土器器	高杯	C-7区 13. オリーブ灰褐色	1mm 以下の砂粒含 む。密 封	(外) にい黄褐色 (内) にい黄褐色	良好	口径: 13.0 ナメ	脚部外側底方のミ ガキ、内面ケズリ	高杯 II b 壺? 接合: B	
17-25	土器器	高杯	C-7区 13. オリーブ灰褐色	2mm 以下の砂粒含 む。密 封	(外) にい黄褐色 (内) にい黄褐色	良好	口径: 14.1 ナメ	高杯 II b 壺。脚 底径: 9.3 ナメ	高杯 II a 壺 接合: E-2	
18-26	二次加工のある 割片石器	高杯	A-6区	13. オリーブ灰褐色	長さ: 2.7 幅: 2.2 厚さ: 0.4	重量: 3.3g	赤褐色			

第12表 河道B出土石器観察表

単位(cm)

種類番号	品目	出土地点	出土土層	新度	土質	材質	色調	備考
18-26	二次加工のある 割片石器	A-6区	13. オリーブ灰褐色	長さ: 2.7 幅: 2.2 厚さ: 0.4	重量: 3.3g	赤褐色	赤色	

### 3. 河道 C

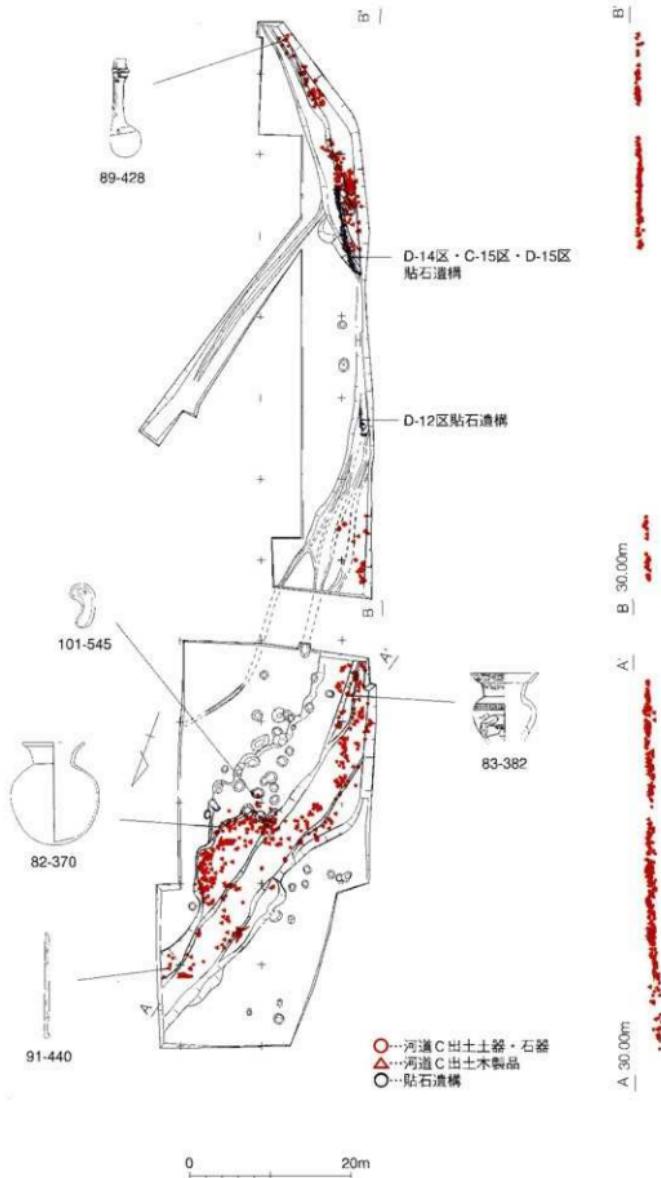
ここでは、第9層・第10層が下の地層を削り込んで堆積した時点から、第5層が堆積して河道を埋めるまでの⑤～⑧を扱う。河道Cからは木製遺物が多量に出土している。特に、第5層は植物繊維の遺存状態が非常に良く、平面からでも他の粘土層と容易に区別することが出来た。河道がやがて埋まる時期であり、本流が別の場所を流れていた可能性も考えられる。

遺構としては河川右岸の川辺に自然石が並べられた貼石遺構を検出した。本報告書に掲載するあたっては、河川内の同一土層から出土したものではあるが、貼石遺構付近から出土した遺物についてはその性格を考える上で独自の項目を立てた。また、貼石遺構以外から出土したものは河道C遺構外出土遺物として掲載し、両方含めたものを河道C出土遺物と呼ぶこととする。

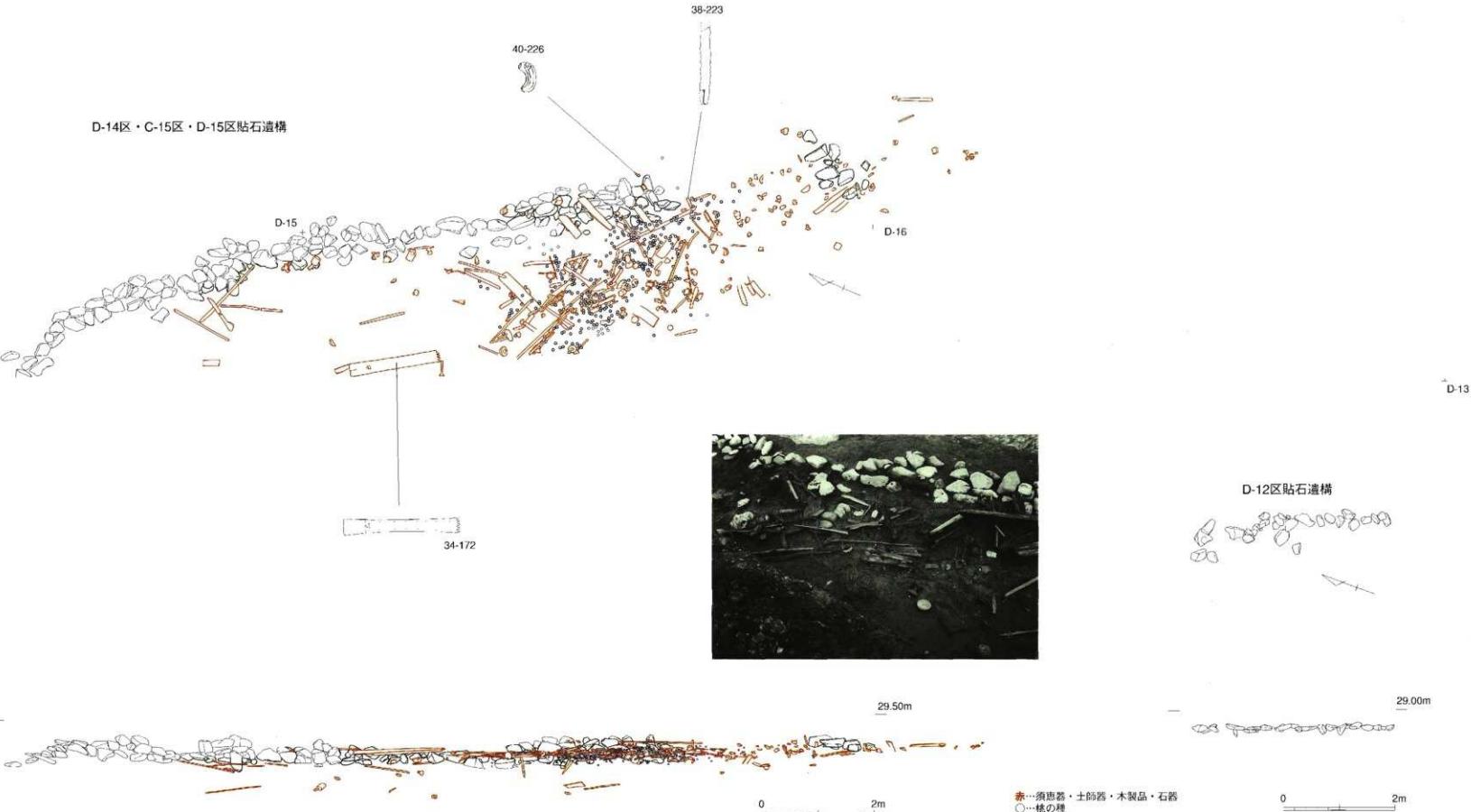
河道C出土遺物には土器、土製品、木製品、植物遺体、石器、鉄器がある。土器には縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器があり、時期的には縄文時代中期から古墳時代後期までと幅広い。しかし、縄文土器、弥生土器は少量であり、古墳時代に属する遺物の割合が高い。これら遺物の取り上げにあたっては、セクション及びサブレンチを基に、土層分層に従って絶えず断面で確認しながら行った。しかし、レンズ状に堆積した灰色砂礫層を挟む第5層の上下間の取り扱いは曖昧であり、灰色砂礫層が重なり合って堆積している部分についても平面からは区別がつかず、取り上げの精度はやや落ちるものとなってしまった。こうした状況や、各層の上下間ではもちろんのこと、上流のC-16区第5層と下流のB-7区第24層から出土した須恵器の破片が接合できた。このため、各層の形成過程が遺物の新旧関係に結びつくものではないと判断し、層序別ではなく、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、土製品、木製品、植物遺体、石器、鉄器に分けて記載した。

#### 貼石遺構（第20図）

D-14区、C-15区、D-15区の標高28.50～29.25mを測る位置で検出された遺構である。河川右岸に堆積した第13層オリーブ灰色粘土層上面に川の流れに沿って自然石が並べられ、調査区外の北西側へ向かって続いている。石は拳大から人頭大のものまで様々な大きさのものが使われており、検出された部分での規模は長さ11.9m、幅0.3～1.06m、高さ0.14～0.66mを測る。貼石付近の川辺からは勾玉、鋸歯状木製品(用途不明品)、土鈴、手捏ね土器、桃核などが出土し、祭祀的要素の強い遺構といえる。また、貼石に接する河川内第5層オリーブ黒色粘質土層からは、調査範囲が狭いながら大量の遺物が出土している。河川であることから当然流れ込みによるものもあるが、桃核が狭い範囲にまとまって出土している状況から、当時の様子を良くとどめていると思われる。また、D-12区の標高28.50～29.00mを測る位置にも自然石が28個並べられており、南側へ向かって続いている（第20図右側）。大部分が調査区外となることや、出土遺物も無いことから詳細は不明であるが、同様の遺構と考えられるものであり、貼石遺構は緩やかにカーブして流れる川の岸に沿って長さ31.2mに亘り並べられていた可能性がある。



第19図 河道C遺構位置図・遺物出土状況

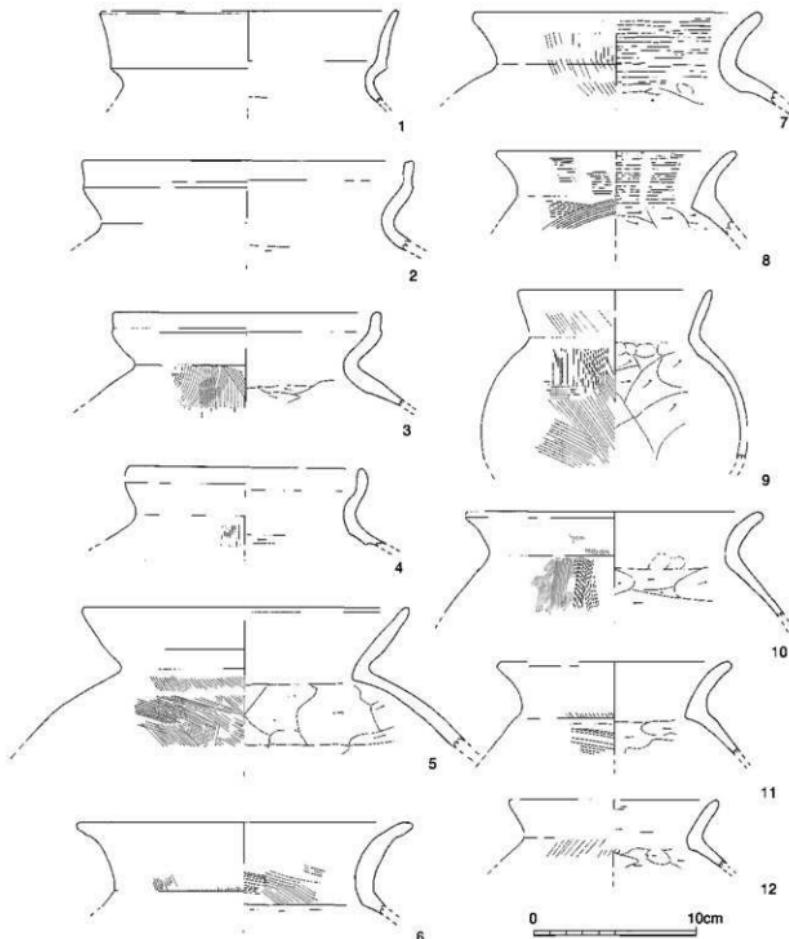


第20図 貼石造橋付近遺物出土状況・貼石造橋実測図

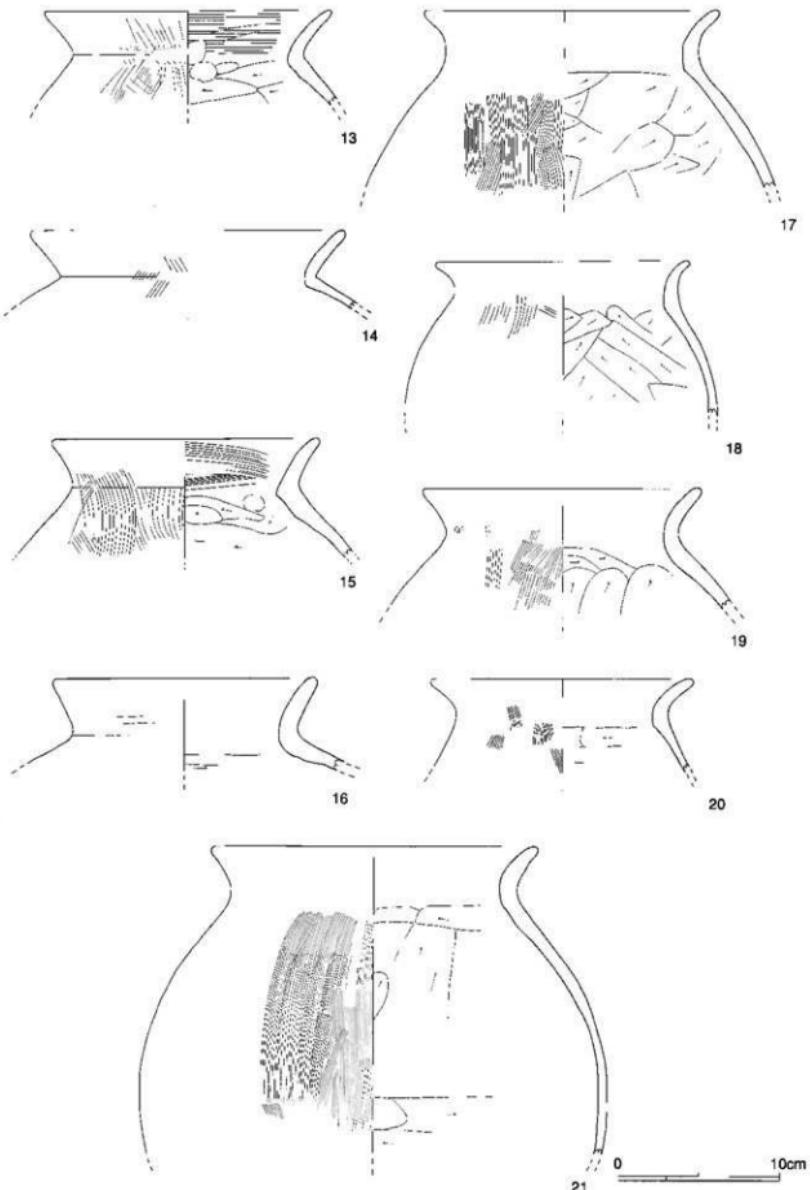
貼石造構付近出土遺物（第21図1～第40図234）

1. 土師器（第21図1～第26図71）

(1) 壺（第21図1～第22図21） 立ち上がりの高い複合口縁をもつI類は4点のうち1点、退化が進んだII類は12点のうち3点、単純口縁を呈するものは193点のうち17点を掲載した。5は口縁の中程が膨らむVI類、6は口縁端部が更に強く外反するVIIb類、7～16は壺a類である。17～21は、肩部の張り出しが弱いX・XI類であり、外面に縦方向のハケメをもつ。17～19、21の内面は、縦から斜め方向のやや幅広のヘラケズリ、20は横方向のヘラケズリが施される。



第21図 貼石造構付近出土土師器実測図（壺）



第22図 贴石造構付近出土土器実測図(斐)

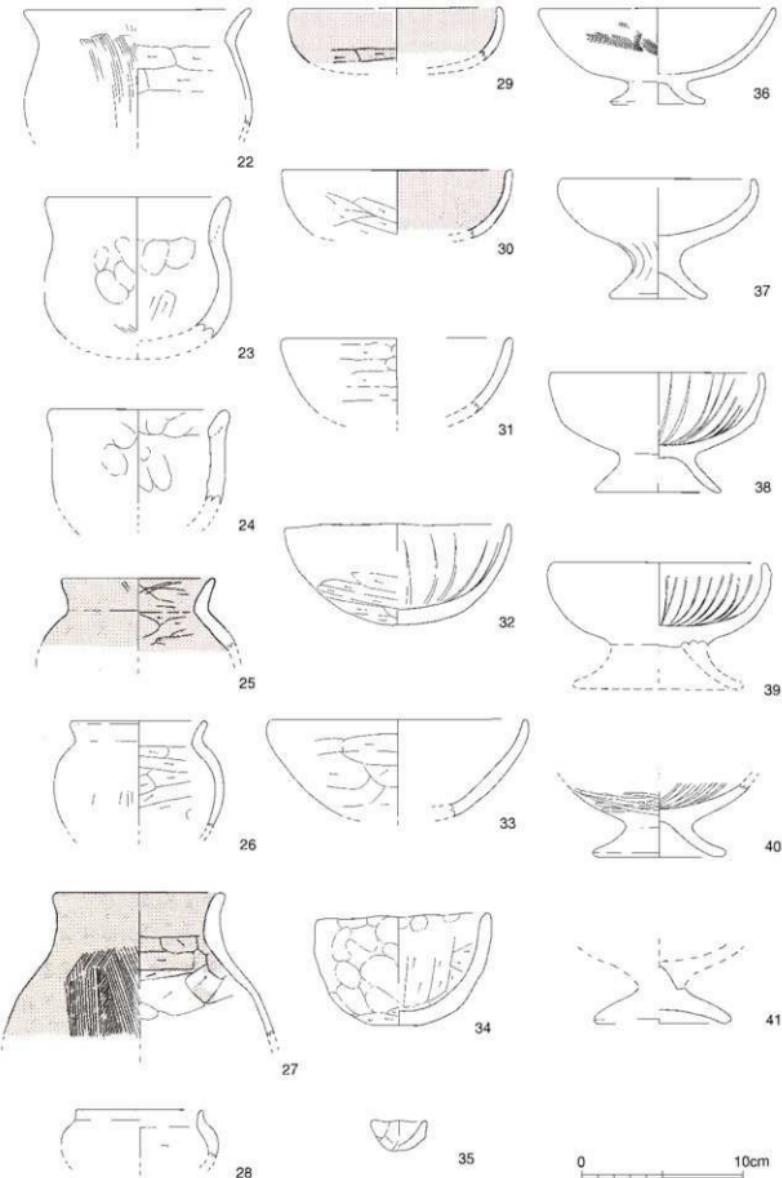
(2) 鉢 (第23図22~24) 22~24は鉢とした。22は器高に比べて口径が大きいものであり、肩部の張り出しが弱く、やや短めの口縁が外傾してつく。外面は縱方向のハケメ、体部内面には横方向のヘラケズリが施される。23、24は所々に指頭圧痕を残し、器壁も厚く均一でない。口径も小さく、鉢の手捏ね品と考えられる。23は下膨れした体部からゆるやかに外反して立ち上がる口縁をもつものであり、24は丸みをもつ底部から体部は真っ直ぐに立ち上がり、やや外傾する非常に短い口縁をもつものである。

(3) 直口壺 (第23図25~28) 25、26は肩部が良く張り出すⅡ a類である。27はだれた口縁をもつⅡ c類であり、外面は縱方向のハケメ、内面頸部以下にヘラケズリが施され、外面には赤色顔料が塗布される。28はⅢ類に含まれる短頭の手捏ね品である。

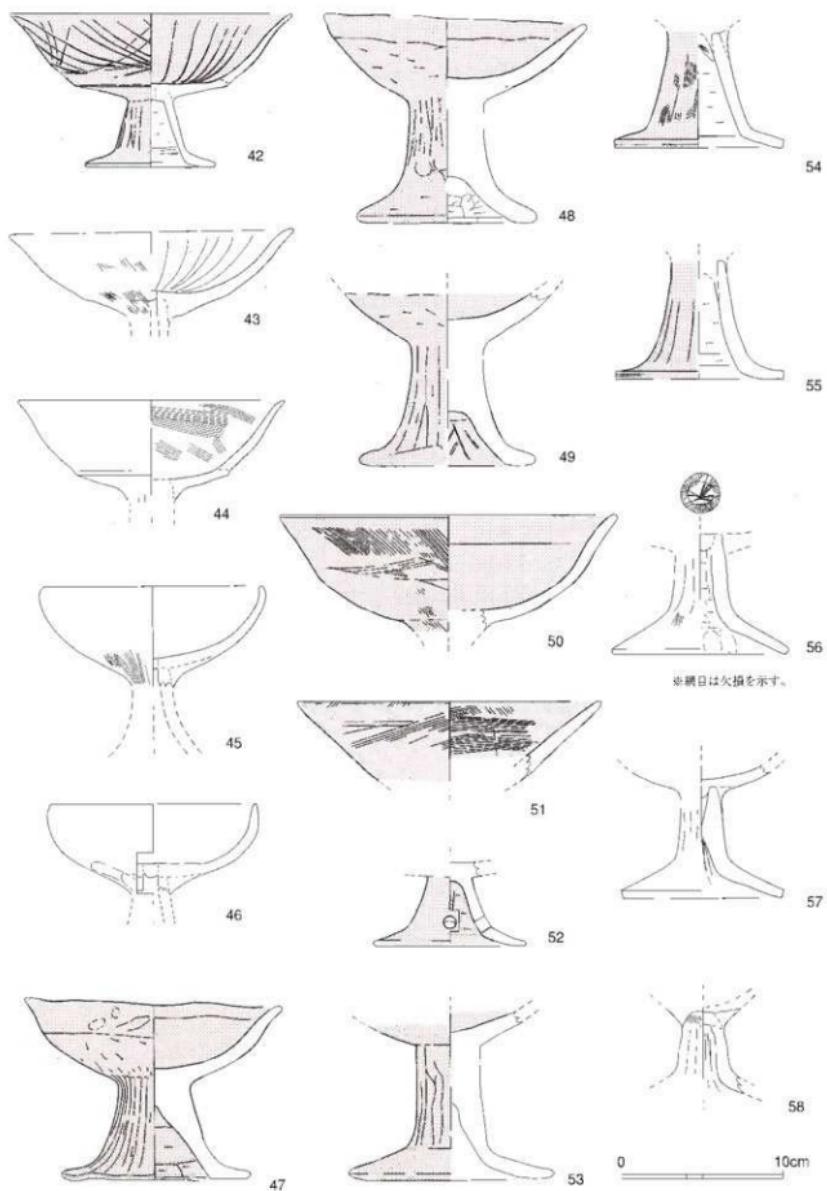
(4) 坯 (第23図29~35) 坯は11点が出土し、このうち7点を掲載した。29、30は器高が低いⅠ類である。31、32は半円形のプロポーションをもつⅡ a類であり、32の内面には放射状の暗紋が施される。33は斜上方に立ち上がる体部をもつⅡ c類である。34、35は手捏ねのⅢ類である。34は器壁が厚く、手に持ったときにずっしりとした重量感がある。

(5) 低脚坯 (第23図36~41) 36は丸みをもって緩やかに立ち上がる口縁をもち、端部を丸くおさめる。坯部が浅く、他に比べるとやや古いものと思われる。37は楕形の口縁と上端が閉じた高坯状の脚部をもつ。調整は風化のため判然としないが、坯部と脚部の接合部分に縱方向のミガキが観察できる。38、39は楕形の口縁をもつものであり、40も同様のものと思われる。38、40は大きく開く高台状の脚部をもち、39も剥離痕から同様の脚部をもつものと考えられる。いずれも内面に放射状の暗紋をもち、器壁が薄く端正な仕上がりとなっている。40の外面にはミガキが施される。41は脚部の破片であり、坯部に差し込んで接合するための円錐状の突起をもつ。

(6) 高坯 (第24図42~58) 高坯の接合部の破片は37点、26個体以上が出土し、このうち17点を掲載した。42~44は坯底部と口縁の境に段をもつⅠ a類であり、4個体分が出土した。脚部と坯部の接合方法は42、43がE-2 iである。45、46は楕形の坯部をもつⅡ a類であり、4個体分が出土した。47、48はⅢ e類であり、49も同様の脚部片である。50はⅢ a類であり、口縁内面のハケメが省略されたものである。51は口縁部の破片と考えられる。破片のため分類表に掲載しなかったものであり、斜上方に真っ直ぐに伸びる口縁をもつ。内外面にハケメが施されることや、赤色顔料が塗布されていることからⅢ類に含まれるものかもしれない。52~58は脚部の破片である。52、53は脚部上端が閉じているものである。52は一方に円形の透かしが穿たれるものであり、53はⅢ f類の脚部と考えられる。54~56は脚部上端が開いているものである。54はⅢ a類の脚部であり、55は脚部外面のハケメが省略されているものの同様にⅢ a類と考えられる。56はC-1により接合されたものだが、坯部上面に薄く粘土を張り付ける調整が省略されているため、脚部上端にも暗紋が施されている。この他、57は外觀では脚部が閉じているように見えるが、脚部上端に棒状工具を差し込み、それを回転する事で円錐状の穴を穿ち、B-2 i技法による接合が行われている。これとは逆に58は開いた脚部の上端に粘土を被せて塞いだものである。



第23図 貼石遺構付近出土土師器実測図（鉢・直口壺・壺・低脚壺）



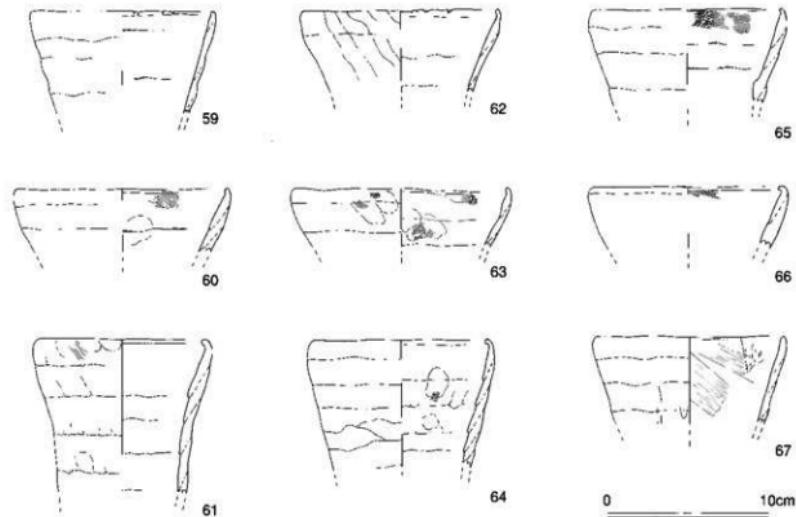
第24図 貼石遺構付近出土土師器実測図（高坏）

(7) 製塩土器 (第25図59~67) 59~67は製塩土器である。貼石付近からは、口縁部の破片だけで41点が出土し、このうち9点を掲載した。前田遺跡において製塩が行われていたのではなく、製塩地から運搬されてきたものであり、運搬用か焼き塩用の土器と推定される。59~66は緩やかに立ち上がる体部から口縁付近で大きく開き、端部を内側に括りさせるものである。調整は内外面ともにナデである。67は斜上方に真っ直ぐに立ち上がるものであり、口縁内面に端部を処理したときの粘土の痕跡が残る。内面はヘラ状工具により丁寧なナデが施されるが、外面は薄く剝離しているため不明である。いずれの個体も器壁は薄く粘土紐の痕跡がよく残り、二次焼成を受け変色している。口径は口縁部が歪な形をしているため、同じ個体においてもばらつきがみられるが、10.4~13.2cmを測るものと考えられる。

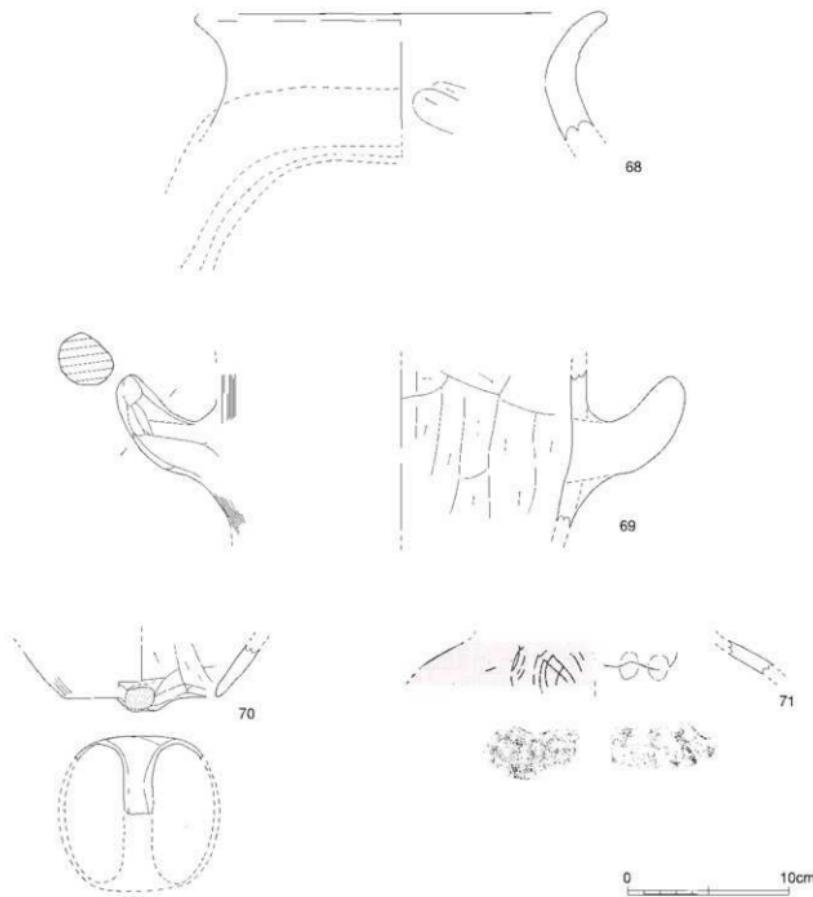
(8) 瓢 (第26図68) 68は底の剝離痕が残ることから甕とした。貼石付近からは2点が出土し、この内1点を掲載した。調整は外面の一部に縦方向のハケメを観察することができ、内面には縦から斜め方向に向けてのヘラケズリが施される。口径25.5cm、頭部内面径17.8cmを測る。

(9) 甕 (第26図69、70) 69は甕の把手部分の破片であり、小円を穿った体部に牛角状の把手が差し込んで取り付けられている。調整は外面の把手周辺がハケメ、内面には縦方向のヘラケズリが施される。70は甕底部の破片であり、棒状粘土による甕の子支えがつく。調整は外面が縦方向のハケメ、内面にはヘラケズリが施される。

(10) 不明品 (第26図71) 71は壺甕類肩部の破片と思われる。調整は外面がハケメ後、赤色顔料が塗布され、内面には粘土紐の痕跡と指頭圧痕が残る。また、外面に線刻が施されているようだが、細片のため詳細は不明である。



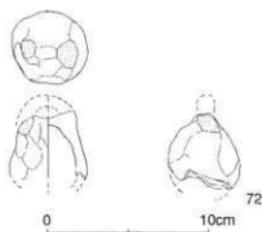
第25図 貼石遺構付近出土土師器実測図（製塩土器）



第26図 貼石遺構付近出土土器実測図（竈・瓶・不明品）

## 2. 土製品（第27図72）

72は下彫れる円形の体部を有する土製品である。上部2カ所に径1.7cmと1.4cmを測る剥離痕があり、取っ手状に粘土が取り付けられていたと思われる。調整は丁寧なナデが施される。袋状になっており、土錘と考えられる。法量は胴部最大幅4.8cmを測る。



第27図 貼石遺構付近出土土製品実測図

### 3. 須恵器 (第28~31図)

(1) 壱壺 (第28図73~第29図132) 須恵器は大谷編年<sup>註</sup>の分類に従い概要を述べる。貼石遺構付近からは出雲2期から6期までの壺蓋が出土しているが、4期に属するものが大多数を占める。内訳は2期の蓋 (壺A2型) 7点、3期の蓋 (A3型) 3点、4期の蓋 (A4~A6型) 46点、6期の蓋壺 (C型の蓋かA8型の壺身) 3点である。

73~76はA2型の壺蓋である。厚手の口縁部の端部付近に沈線を入れ段状に仕上げるか、段を意識した調整が加えられている。前田遺跡からはA2型の蓋が多数出土したが、バラエティーに富んでいるため、第13表の通り3つに細分した。73、74はI類、75、76はIII類である。

77~79は天井部に丁寧なヘラケズリが施されており、器壁は薄く大型のA3型に含まれるものである。77、78は口縁端部内面に調整が加えられるA3a型であり、口径は77が13.3cm、78が14.3cmを測る。79は口縁端部に段をもたないA3b型に含まれるものであり、口径14.1cmを測る。

80~100は天井部に粗雑なヘラケズリが施され、やや小ぶりのA4型に含まれるものである。80~94は端部からやや上方に一条の沈線が巡り、端部は段状を呈していない。口径11.9~13.8cmを測る。95~99は端部が丸くおさめられ厚みが均一なものであり、口径12.1~13.0cmを測る。99の内面には漆と考えられる黒色の付着物がある。100は口縁端部を肥厚させ、やや高い位置に沈線を入れ段状に仕上げたものであり、A3型の特徴であるa3類の口縁をもつが、口径が小さくA4型に含めた。101、102は天井部を欠いているため詳細な形式はわからないがA4~A6型に含まれるものであり、口縁端部内面のやや上がった位置に一条の沈線を施す。

一方、壺身の内訳はA2型に伴う身2点、A2a型の底部がないもの5点、A3型に伴う身3点、A4~A7型に伴う身18点、A4~A7型に伴う身のうち天井部がないもの24点である。

103~105は口縁の立ち上がりが高くA2型に伴う壺身と考えられる。103は口縁端部に段をもつA2a型であり、104は段をもたないA2b型である。105は便宜的にここに記載したが、A2a型の底部がないものであり、A1型の壺身、有蓋高壺E1型の口縁の可能性もある。

106はA3型に伴う壺身と考えられるが、形態などから在地産ではない可能性もある。A3型の選別は後述のA4~A7型に伴う身の中からやや大型のものを抜き出した。

107~132は壺身のうち、立ち上がりの高いA2型と小型化したA8型を抜き出し、さらに大型のA3型を抜き出した残りのものであり、A4~A7型に伴うものである。125~132は底部を欠いているものであり、有蓋高壺の可能性も考えられる。

第13表 前田遺跡第II調査区出土出雲2期A2型壺蓋細分表

I類	棱が鋭く突出し、天井部と体部が明確に変換するものである。A2型のうち古い様相を呈する。口径は13.7~14.0cmを測る。	河原Cからは 第28図73他6点が出土。
II類	IとIIIのどちらにも属さないもの。口径は13.1~14.1cmを測る。	河原Cからは 第78図281他6点が出土。
III類	天井部のヘラケズリが粗雑なものや棱が形骸化したもの、あるいは口縁端部内面の高い位置に沈線が入るなど、新しい様相を呈するもの。口径13.3~14.9cmを測る。	河原Cからは 第28図75他18点が出土。

\*この他、河原Cからは破片のため分類できないものが38点出土している。

### 3. 須恵器 (第28~31図)

(1) 蓋坏 (第28図73~第29図132) 須恵器は大谷編年<sup>注1</sup>の分類に従い概要を述べる。貼石造構付近からは出雲2期から6期までの坏蓋が出土しているが、4期に属するものが大多数を占める。内訳は2期の蓋 (蓋坏 A2型) 7点、3期の蓋 (A3型) 3点、4期の蓋 (A4~A6型) 46点、6期の蓋坏 (C型の蓋かA8型の坏身) 3点である。

73~76はA2型の坏蓋である。厚手の口縁部の端部付近に沈線を入れ段状に仕上げるか、段を意識した調整が加えられている。前出遺跡からはA2型の蓋が多数出土したが、バラエティーに富んでいるため、第13表の通り3つに細分した。73、74はI類、75、76はIII類である。

77~79は天井部に丁寧なヘラケズリが施されており、器壁は薄く大型のA3型に含まれるものである。77、78は口縁端部内面に調整が加えられるA3a型であり、口径は77が13.3cm、78が14.3cmを測る。79は口縁端部に段をもたないA3b型に含まれるものであり、口径14.1cmを測る。

80~100は天井部に粗雑なヘラケズリが施され、やや小ぶりのA4型に含まれるものである。80~94は端部からやや上方に一条の沈線が巡り、端部は段状を呈していない。口径11.9~13.8cmを測る。95~99は端部が丸くおさめられ厚みが均一なものであり、口径12.1~13.0cmを測る。99の内面には漆と考えられる黒色の付着物がある。100は口縁端部を肥厚させ、やや高い位置に沈線を入れ段状に仕上げたものであり、A3型の特徴であるa3類の口縁をもつが、口径が小さくA4型に含めた。101、102は天井部を欠いているため詳細な形式はわからないがA4~A6型に含まれるものであり、口縁端部内面のやや上がった位置に一条の沈線を施す。

一方、坏身の内訳はA2型に伴う身2点、A2a型の底部がないもの5点、A3型に伴う身3点、A4~A7型に伴う身18点、A4~A7型に伴う身のうち天井部がないもの24点である。

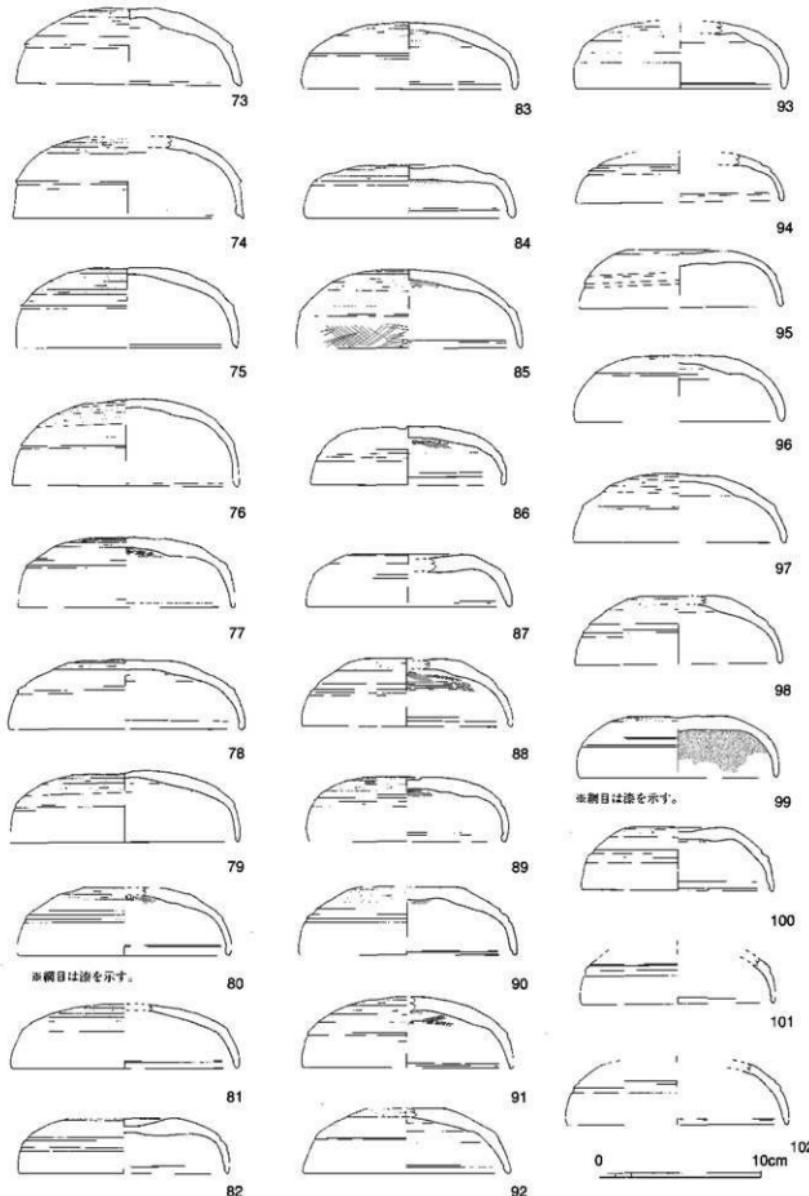
103~105は口縁の立ち上がりが高くA2型に伴う坏身と考えられる。103は口縁端部に段をもつA2a型であり、104は段をもたないA2b型である。105は便宜的にここに記載したが、A2a型の底部がないものであり、A1型の坏身、有蓋高坏E1型の口縁の可能性もある。

106はA3型に伴う坏身と考えられるが、形態などから在地産ではない可能性もある。A3型の選別は後述のA4~A7型に伴う身の中からやや大型のものを抜き出した。

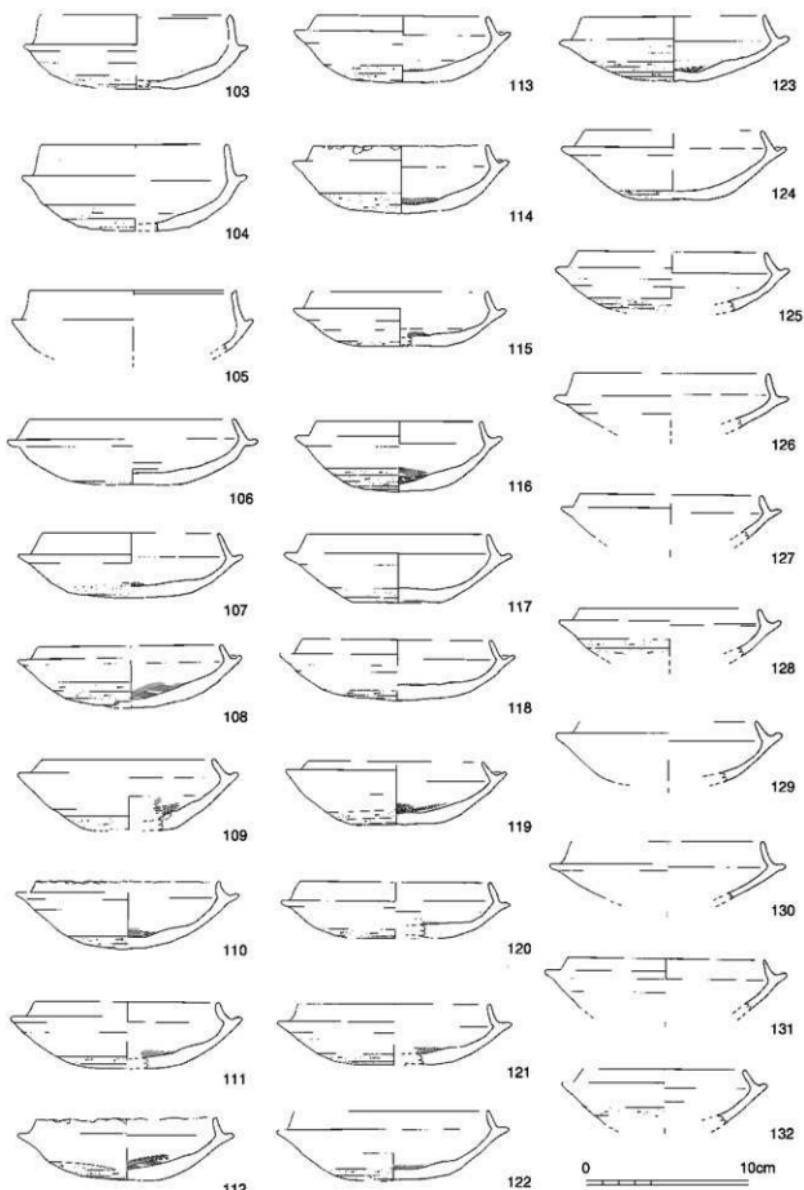
107~132は坏身のうち、立ち上がりの高いA2型と小型化したA8型を抜き出し、さらに大型のA3型を抜き出した残りのものであり、A4~A7型に伴うものである。125~132は底部を欠いているものであり、有蓋高坏の可能性も考えられる。

第13表 前田遺跡第II調査区出土出雲2期A2型坏蓋細分表

I類	縫が鋭く突出し、天井部と体部が明確に変換するものである。A2型のうち古い様相を呈する。口径は13.7~14.0cmを測る。	河道Cからは 第28図73他6点が出土。
II類	IとIIIのどちらにも属さないもの。口径は13.1~14.1cmを測る。	河道Cからは 第78図281他6点が出土。
III類	天井部のヘラケズリが粗雑なものや縫が形態化したもの、あるいは口縁端部内面の高い位置に沈線が入るなど、新しい様相を呈するもの。口径13.3~14.9cmを測る。	河道Cからは 第28図75他18点が出土。 ※この他、河道Cからは破片のため分類できないものが38点出土している。



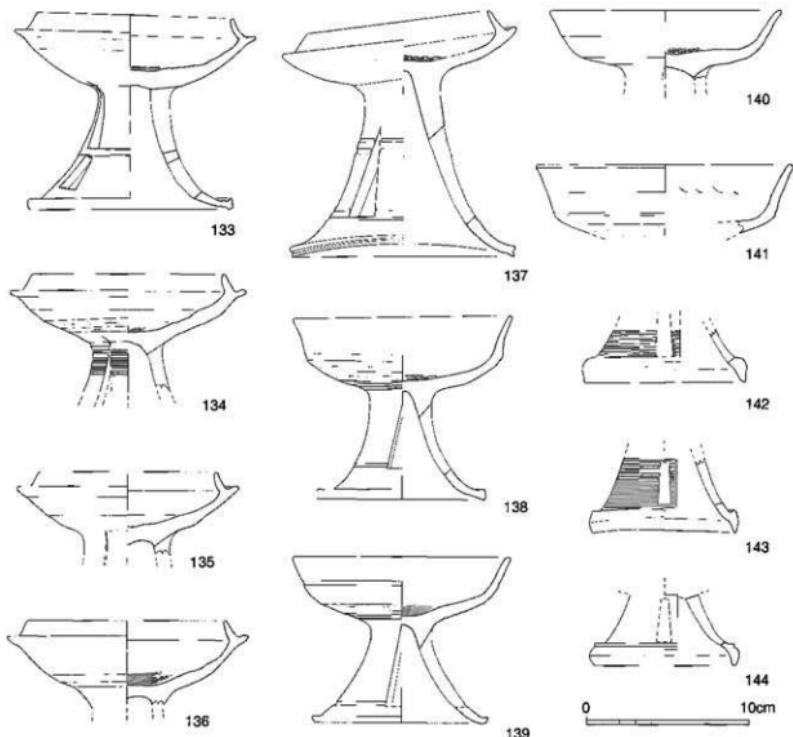
第28図 貼石造構付近出土須恵器実測図（蓋坏）



第29図 貼石遺構付近出土須恵器実測図（蓋環）

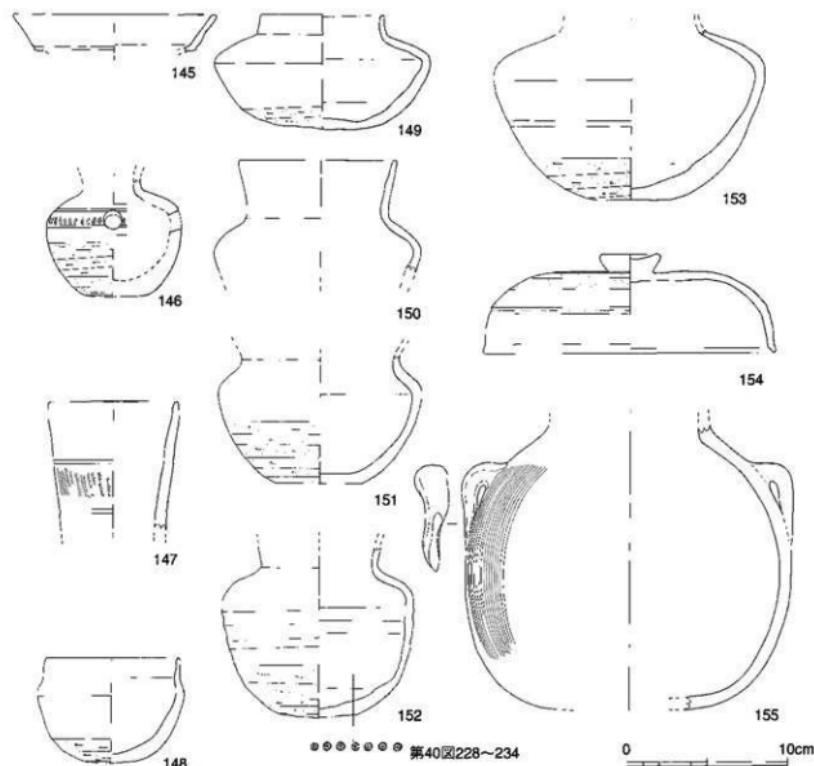
(2) 高坏 (第30図133~144) 133~137は有蓋高坏である。133は2段3方に透かしをもつ。下段の透かしが長方形になっているが、脚が低く大谷縦年の有蓋高坏C型に含めた。134は三角形の透かしが上段の3方に入り、カキ目により調整されていることからB型と思われる。135は上段の3方に三角形透かしの痕跡をもつことからB型かC型と考えられる。136は透かしの痕跡が無いものであり、137は3方に三角形透かしをもち、脚端部には沈線が入る。

138~141は低脚無蓋高坏A4型の範疇に含まれるものであろう。138は坏底部と口縁の境に沈線が施され、口縁部はやや外反する。脚部は2方向に三角形透かしを入れ、透かしの下方にも一条の沈線が巡る。139は口縁が斜上方に立ち上がり、中程に一条の沈線が施される。脚部は2方向に三角形透かしを入れ、透かしの下方にも一条の沈線が巡る。140は口縁の破片である。斜上方に緩やかに立ち上がる口縁をもち、脚部には2方透かしが施される。141は138と同様の形態をもつ口縁部の破片である。142~144は脚部の破片である。いずれも脚端部が下方に突出し、方形の透かしが3方に入る。有蓋高坏E1型か低脚無蓋高坏A1型と考えられる。



第30図 貼石造構付近出土須恵器実測図（高坏）

(3) その他の器種（第31図145～155） 145は腹口縁の破片であり、端部は丸くおさめられる。146は平底を有する腹底部の破片である。胴部を沈線と刺突文で飾り、下半にはヘラケズリが施される。大谷編年の竈A 4～A 6型に含まれるものである。147は長頸壺口縁の破片である。口縁部の中程と下方に沈線が巡り、間にハケメ原体による斜行刺突文が施される。148は丸底を呈する広口の壺である。小ぶりなものであり、胴部径と口径があまり変わらない。底部には丁寧な回転ヘラケズリが施される。149はやや内傾する短い口縁をもつ短頸壺である。肩部が強く張り出し、器高は低い。調整は回転ナデであり、底部には回転ヘラケズリが施される。150はよく張る肩部から、逆「ハ」の字状に立ち上がる口縁をもつ直口壺である。151～153は壺底部の破片であり、いずれも底部外面に回転ヘラケズリが施される。152の中からは第40図の泥岩製白玉が出土した。154はボタン状の摘みをもつ蓋である。平坦な天井部から湾曲して下方に伸び口縁に至る。端部は外方に折り曲げられ内面に段をもつ。155は提瓶である。肩部に環状の把手をもつが、つぶれて環の孔は小さい。調整は体部外面にカキ目が施されている。



第31図 貼石造構付近出土須恵器実測図（竈・長頸壺・広口壺・短頸壺・直口壺・蓋・提瓶）

#### 4. 木製品（第32～38図）

##### (1) 農具（第32図156～第33図166）

156は曲柄又鍔である。刃部の両側はほぼ並行して長く伸び端部に至るものであり、奈良国立文化財研究所発行の木器集成図録近畿原始篇の分類の曲柄又鍔DⅢ式に相当する。

157～159は鎌柄頭部の破片である。157は長さ4.1cm、幅0.9cmを測る軸と直交する装着孔をもつ。材質はヒノキ科ヒノキ属製である。158、159は柄頭部の突起部分の破片であり装着溝の痕跡が僅かに観察できる。材質は158がツバキ科ツバキ属、159がイヌガヤ製である。

160は径10.2cm、長さ13.0cmを測る円柱状を呈する敲打部の下部中央に径3.6cm、長さ12.0cmを測る柄をもつ横槌である。全面に細かい加工痕が残り、柄の下部には滑り止めが作り出されるなど端正な仕上がりとなっている。材質はツバキ科ツバキ属の芯持材が用いられている。

161はツバキ科サキ属の芯持材が用いられた木鎌である。両端近くから中央に向けて急角度に削り込まれた木鎌4類に含まれるものであり、両端の切断面は丸く面取りが施されている。

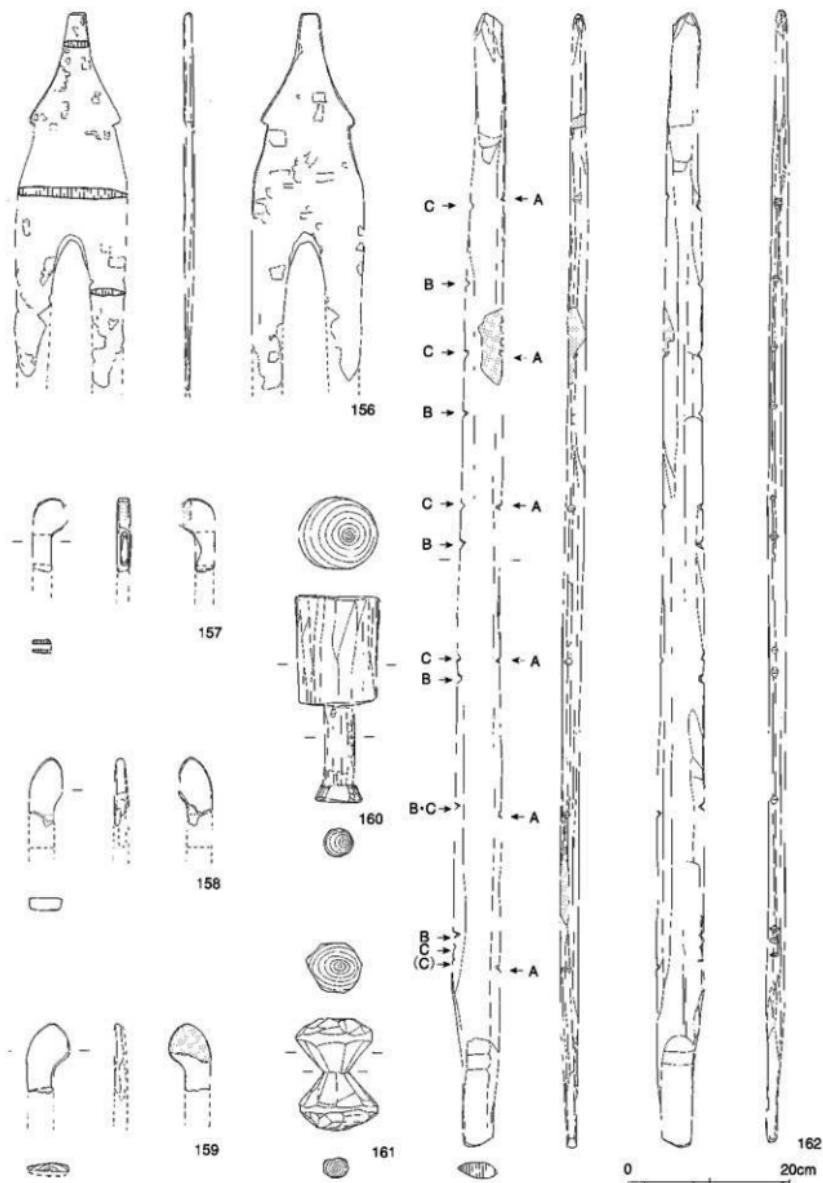
162はスギ科スギの柾目材を用いた編台目盛板である。板の両端は厚みを減じ身幅も薄くなっていることから脚へ差し込むタイプと考えられる。横断面は丸みを帯びた菱形を呈し、一方に6個、もう一方に12個の「V」字状の切り込みを持つ。切り込みの間隔は、Aが18.75cm、Bが15.7～16.4cm、Cが17.3～18.6（19.0）cmを測る。このいずれかを選択することで経糸の間隔が違う製品を製作することができる。法量は全長140.0cm、幅5.8cm、厚さ最大2.4cmを測る。

163、164は芯持材以外で丸い棒状に加工されたものであり、柄として分類した。163の握り基部は断面円形を呈し、先端に行くにしたがい厚みを減じ扁平となる。扁平となった先端部断面の形状などから後述する杓子形木製品第33図170の基部となる可能性がある。残存長47.9cmを測る。164は断面円形を呈する棒状の握り部をもち、先端に行くにしたがい幅を増し装着部に至る。装着部には断面「U」字形の装着溝が彫り込まれており、周囲には紐で縛った痕跡が残る。法量は身の残存長99.5cm、装着溝の残存長9.2cm、幅3.1cm、深さ最大1.7cmを測る。材質はヒノキ科ヒノキ属製である。

165、166は鋤鍔類の未製品と思われるものであり、全面に明瞭な加工痕が残る。法量は165が現状で長さ24.3cm・幅9.9cm・厚さ1.9cm、166は長さ14.5cm・幅10.9cm・厚さ3.8cmを測る。

##### (2) 服飾具（第33図167、168）

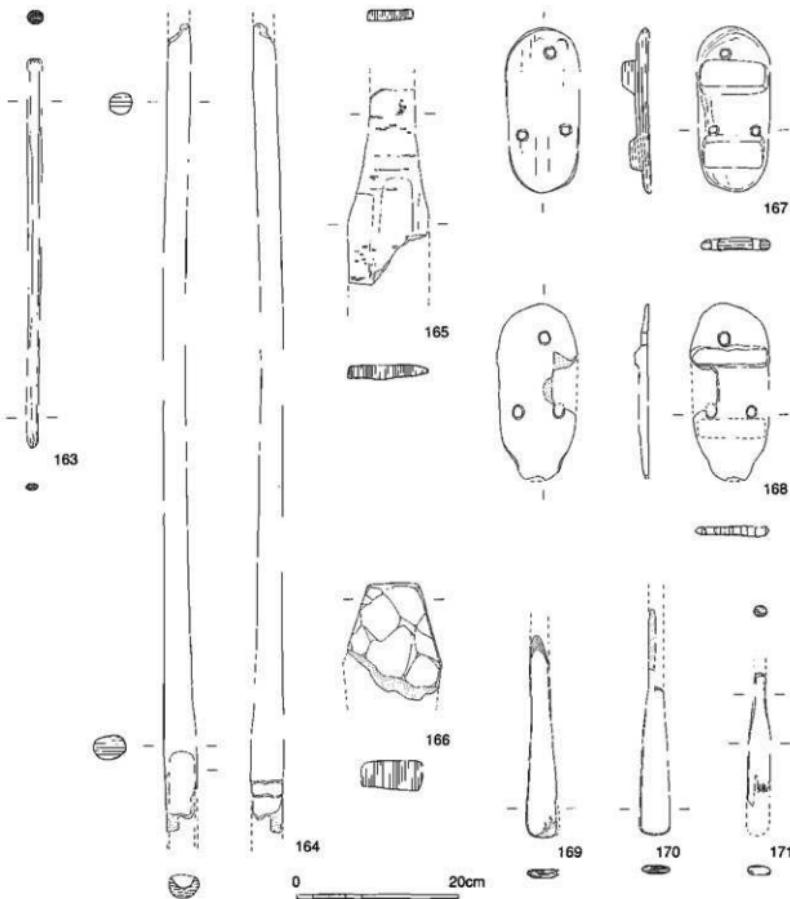
167は前壺を前歯よりも前の中央右寄りに開け、後壺を歯の内側に開けた連歯下駄である。歯は台の両端よりもやや内側から削り込み、側面からみると歯の内面は「ハ」の字状に削り出される。全長20.3cm、幅9.0cm、高さ3.2cm、後壺間3.9cm、前壺後壺間8.2cmを測る。台の平面は小判形を呈し、イチイ科カヤの板目材が用いられている。168も同様の形態をもつものである。歯は台の両端よりもやや内側から削り込んでいるようだが、磨滅しているためはつきりせず、特に後歯は殆ど消失している。全長21.8cm、幅9.7cm、高さ1.5cm、後壺間3.6cm、前壺後壺間7.3cmを測る。台の平面は後顎部分の両端が括れ、一風変わった形を呈する。



第32図 貼石遺構付近出土木製品実測図（農具）

(3) 食事具 (第33図169~171)

169~171はやや幅広となる扁平な身をもつことから杓子形木器とした。柄と身は側面から見ると一直線となっている。169、170は柄と身の境界がはっきりせず、身の最大幅が先端部分にくるものであり、柄の断面はレンズ状を呈する。169は身幅最大3.7cm、柄幅2.3cm、残存長24.8cm、厚さ1.0cm、170は身幅最大3.7cm、柄幅1.9cm、残存長27.7cm、厚さ0.9cmを測る。171は柄の断面形が円形を呈し、柄と身の境界がはっきりとわかるものであり、身の両辺が平行して伸びる。身幅最大2.7cm、柄径1.4cm、残存長16.3cm、身の厚さ1.1cmを測る。



第33図 貼石遺構付近出土木製品実測図 (農具・服飾具・食事具)

#### (4) 楽器（第34図172、173）

楽器としては琴が2点出土している。この他、第38図223についても棒を刻み目に摺り合わせることで音を出す樂器（瑟）とも考えられるが、今回は決め手に欠けるため「(7) その他」の項目で取り扱った。172は平坦な板状の上板の下面に・木から作り出した断面「凹」形の共鳴槽の上面があたり、頭部の形状は端が真っ直ぐで中央に向かい次第に幅を減するE-II a類に含まれるものである。全長160.2cm、琴尾幅20.5cm、琴中央幅16.5cm、琴頭幅22.5cmを測り「中細り」の形態をとる。高さは上板も含め5.5cmであり、このうち上板が1.4cmを占めるため槽の外側面高は4.1cmしかなく、これまで出土が報告されたものに比べかなり低い。

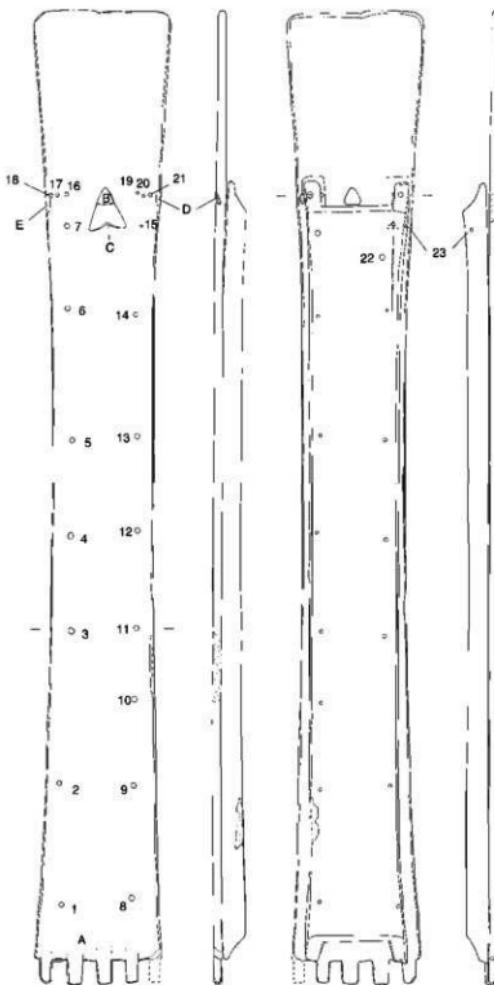
琴尾の突起は、4本が現存しているほか、右端の突起は破損したと認められることから5突起の琴として復元した。突起の基底部両端には弦を掛けた痕跡が認められる（第34図A）。

琴頭近くには頂点を琴尾に向けた隅丸三角形を呈する集弦孔が開けられている（B）。槽の底面はほぼこの部分で終わり、共鳴槽の上面先端部のみが先まで伸びる。琴尾側の共鳴槽上面先端部も同じような形狀であり、槽を底面から見た場合、「H」字状となる。集弦孔の琴尾側は「ω」字状に浅く彫り込まれている（C）。装飾的な意味合いのものか龍角をはじめ込む装置のものは判らない。

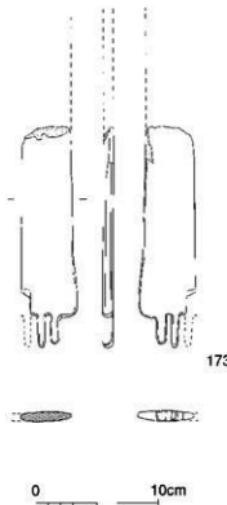
上板と槽の固定方法は、上板の裏面を上板よりも幅の狭い共鳴槽の形にごく浅く彫り込み、木釘で止めている。木釘の打ち込み箇所は琴頭を上として右で8カ所、左で7カ所である。このうち7対は左右対称に打ち込まれている。対にならない第34図（10）の釘は上板と共鳴槽の間に空間が生じたために打ち足されたものと思われる。この他、集弦孔の両脇に3カ所ずつ共鳴槽上面先端部を固定するための一回り小さな木釘（16～18、19～21）が打ち込まれている。中央の釘は先端部に貫通し、双方のものは先端部を挟み込む形になっている。この釘のさらに縁側には木の皮が楔により固定されている（D）。樹皮状のもので先端部を緊縛する工夫であったと思われる。（1）～（14）の木釘は上面径0.7～1.2cm、先端部径0.5～0.8cmを測り、上板から槽の外側面に向かって打ち込まれ、槽底部に貫通し裏面に顔をのぞかせている。例外的に（15）の木釘だけが底部から上板に向かって打ち込まれている。これは一般的に釘孔よりも一回り大きな木釘を打ち込むため、（7）の木釘を打ち込んだ際に槽底部に割れが入ったことと関係するのかもしれない。この割れは槽側面より木釘（23）を打ち込むことで補修している。この他に、共鳴槽底面に打ち込まれた固定には関係のない木釘（22）がある。槽の内面までは貫通しておらず、おそらく開け損じた釘孔を塞いだものと考えられる。

共鳴槽内部に木口板やそれをはめ込む装置は確認されていない。また、上板と槽の間の空間は1.3～1.9cmと非常に狭い。このため「音響効果は少なかった」＝「祭祀における見るための琴」とする意見が大半を占めた。琴の復元を行い1998年9月5日に演奏会を開催したところ、十分に鑑賞に堪えうるものであったが、意見の分かれるところである。

上板裏面の突起近くには赤褐色の付着物が認められた。EPMAの分析によると、主としてFeを検出し、赤褐色の発色は酸化鉄によるものと推定される<sup>6,10</sup>。これが人為的に塗布されているとす



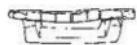
172



173



D



0 20cm

第34図 貼石遺構付近出土木製品実測図（楽器「琴」）

ればベンガラの可能性が考えられる。しかし、土壤中に自然に含まれる鉄分である可能性もあり、どちらとも決めがたい。ただ、調査地は金氣の多い水田であった。

上板は非常に木取りの良いスギ科スギの柾目材、共鳴槽はスギ科スギの追い柾目材が用いられている。その他の木釘、楔、樹皮については分析を行っていないため材質は不明である。

173は上板琴尾部の断片であり、突起が2つ残存する。法量は現状で長さ18.4cm、幅4.7cm、厚さ0.95cmを測り、I類の「板作りの琴」とするならばこれがフルサイズであり、II類の「柾作りの琴」ならばミニチュア品になるが、どちらと判断するかは決め手に欠ける。材料にはスギ科スギの追い柾目材が用いられている。

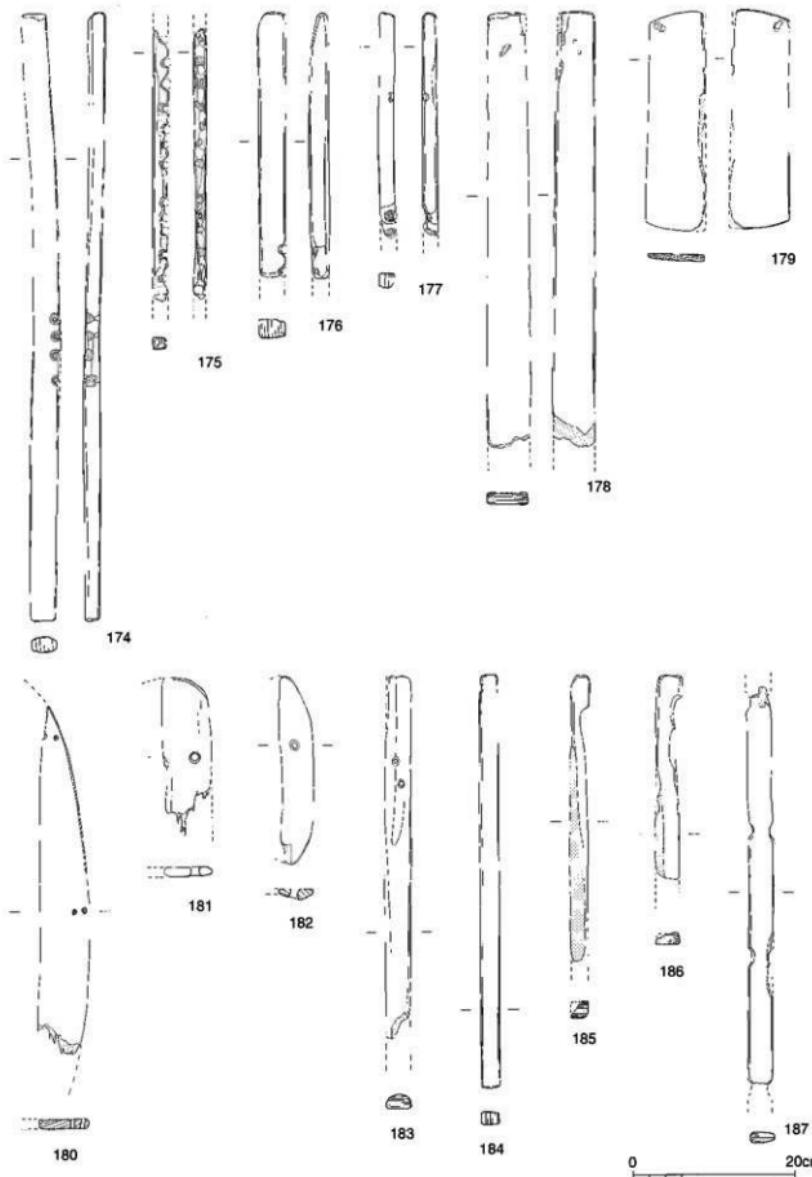
#### (5) 雜具（第35図174～第36図197）

174～177は火鑽臼である。174は全長74.7cmを測る大型のもので4個の火鑽穴をもつ。側面には火鑽穴に接して平面台形、断面「コ」字状の溝が彫り込まれている。175は現状で12個、176は2個の火鑽穴をもつが、断片のため残りが悪い。177には2個の火鑽穴が残り、この他にもう1個焼けこげをもたない窪みをもつ。火鑽杵が安定するように前もって掘り窪めたものと考えられる。いずれのものも火鑽穴の径は似通っているが、深さは様々である。中には火鑽臼の底部まで貫通したものも見られるが、1つの火鑽穴を数回にわたり使用したためであろう。

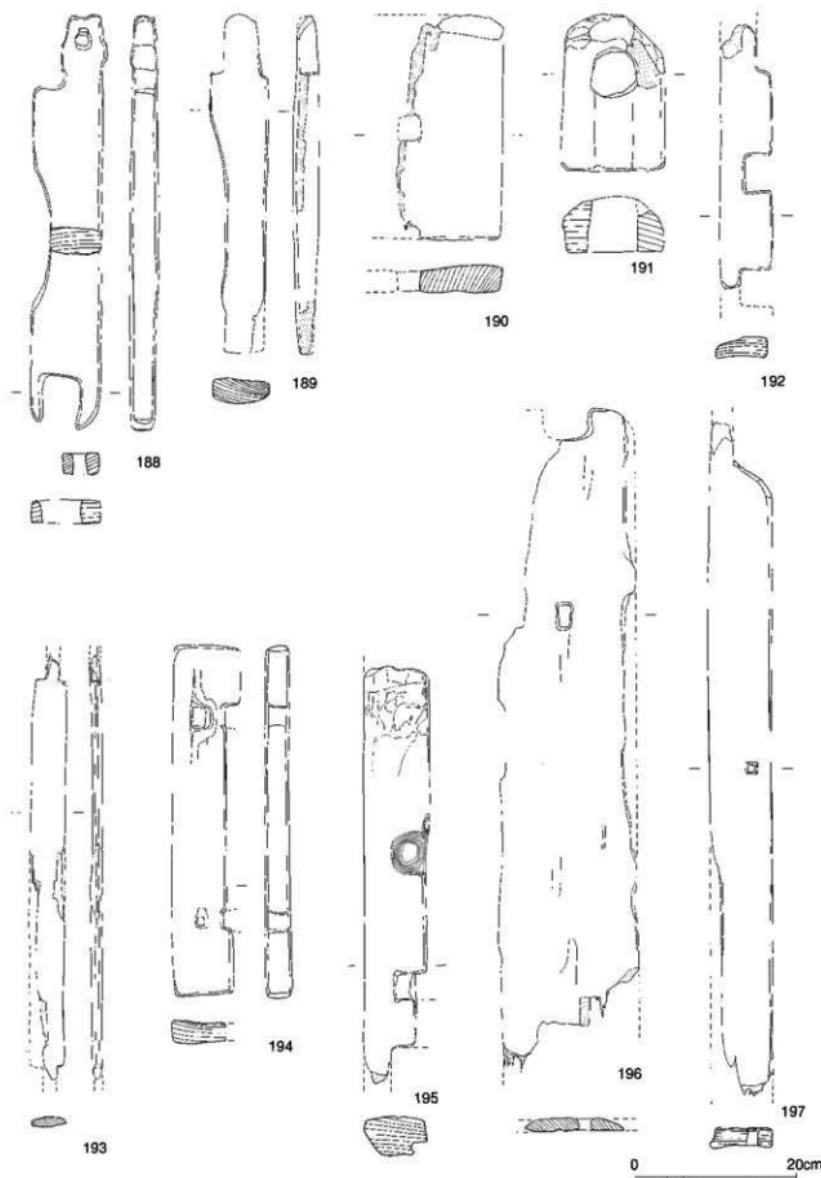
178～183は紐孔や釘孔をもつ部材であるが、断片のため全体がわかるものはない。178、179には板に穿たれた小さな円孔に樹皮が残存する。

184～187は紐かけをもつ部材である。184は角棒の先端部は削り残し、やや下がった位置に両側から「コ」の字状に削り込みを入れる。185、186は先端部よりやや下がった位置の片側を切り欠いたものである。187は長軸の両側に連続する浅い削り込みをもち、削り込みの位置は左右対称となる。後述の第92図468と同様の形状をもつことから紐かけをもつ部材とした。

188～197は継手や仕口をもつ部材である。188は短軸の一端に「コ」の字状の削り込みをもち、もう一方に柄をもつ。柄の中央は削り残され上下に肥厚し、その先には栓止めのためと考えられる孔が開けられている。長軸の片側には半月状の削り込みをもつ。189は短軸の一端に柄をもつものである。長軸の片側は浅く削られ緩やかに弧を描く。190は方形板の中央に角孔が開けられたものである。191は断面が半円形を呈する柱材の端寄りに丸い柄孔が開けられるものである。192は板の長軸片側に連続する「コ」の字状の削り込みをもつものであり、第93図470～473と同様の形状である。本来は板の中央に連続する方形の枘孔が開けられたものが半分に割れたものかもしれない。193は細長い板の両端に柄をもつものであり、第93図475と同様の形態である。194は板の両端付近に貫通しないごく浅い方形孔があり、これと接するように長軸側面に「コ」の字状の削り込みをもつ。195は長軸寄りに貫通しない角孔と丸孔をもつ板である。196、197は大型になると思われるものであり、建築部材とすべきかもしれない。196は短軸の一端に「コ」の字状の削り込みをもち、そこからやや中央寄りに枘孔が開くものである。197は板材の中付近に角孔をもち、短軸の一方には柄をもつが、他方は欠損のため不明である。



第35図 貼石遺構付近出土木製品実測図（雑具）



第36図 貼石造構付近出土木製品実測図（椎具）

#### (6) 建築部材（第37図198～200）

198、199は大型の板材であり、建築部材とした。198は残存長322.0cm・幅19.8cm・厚さ10.5cm、199は残存長304.5cm・幅17.6cm・厚さ3.5cmを測る。200は木梯子の断片であり、表面に足かけが残存する。足かけは上下とも斜めに切り込まれ、はっきりとした天地はわからない。残存長28.1cm、幅10.8cm、厚さ1.3～4.5cmを測る。

#### (7) その他（第37図201～第38図224）

201～203はミカン割り材とした。201は断面が三角形を呈し、側面には樹皮が残る。長さ49.0cm、幅17.9cm、厚さ4.7cmを測る。マツ科モミ属である。202、203も横断面は三角形を呈する。202は長さ42.0cm・幅19.6cm・厚さ4.5cm、203は長さ30.7cm・幅6.3cm・厚さ2.6cmを測る。

204～206は棒状品の一端が尖っていることから杭とした。204は二股に分かれる枝の双方が加工されたものであり、表面には樹皮が残る。205は杭の先端部を残し、基部が断ち切られたものである。206は先端部分の破片であり端部を欠く。

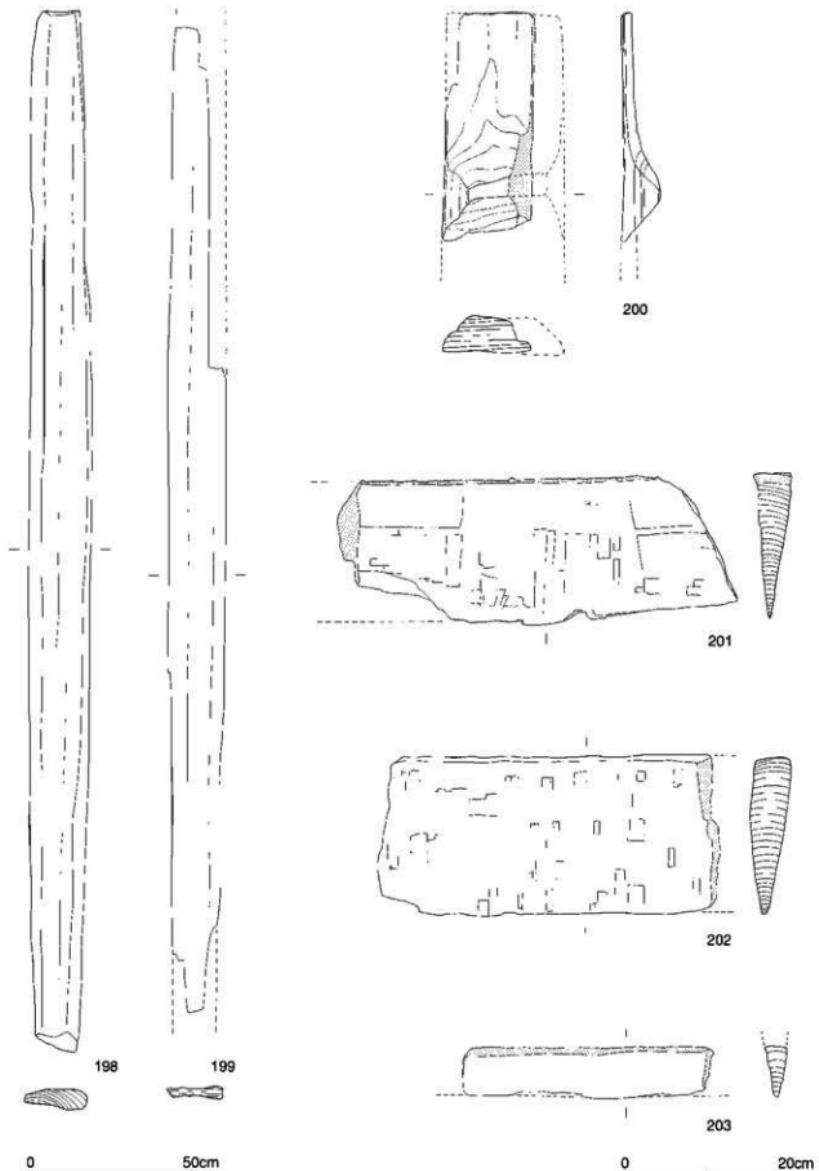
207～211はヒノキの芯に近い部分（枝か）であり、一端が焼けこげる。意図的に割られたと考えられるものがあることから薪か付け木と考えられる。貼石付近からは21本が出土し、このうち5本を掲載した。調査地内から焚き火を行った痕跡は見つかっていない。

212～218は樹皮が外向きに巻き込まれた状態となったものである。幅が均一で長さもあることから自然に剥落したものではなく、人為的に剥ぎ取られたものと考えられる。引き延ばしての計測は行わなかったが、幅×長さ（約）は、212が $2.5 \times 18$ cm、213が $4.3 \times 23$ cm、214が $1.6 \times 52$ cm、215が $2.9 \times 27$ cm、216が $2.3 \times 15$ cm、217が $3.8 \times 28$ cm、218が $2.5 \times 10$ cmを測る。第34図172、第35図178・179などに樹皮が使用されている。

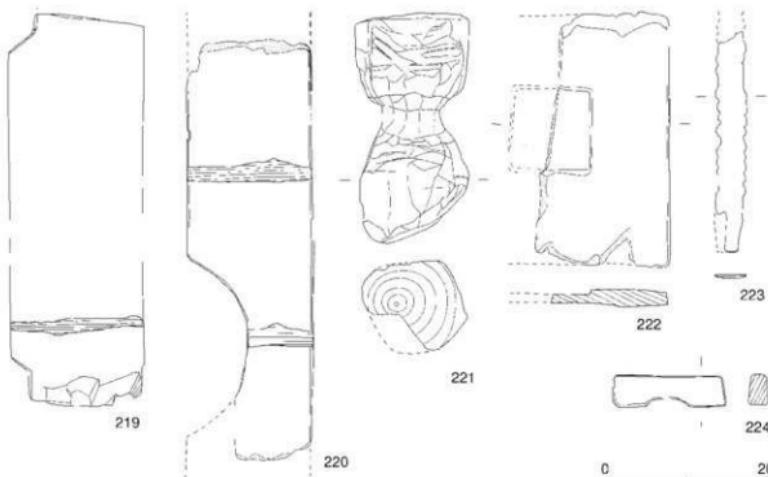
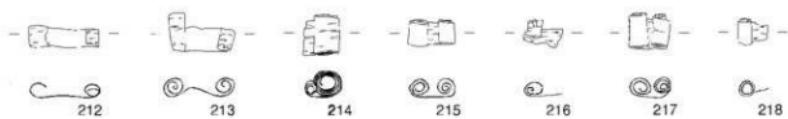
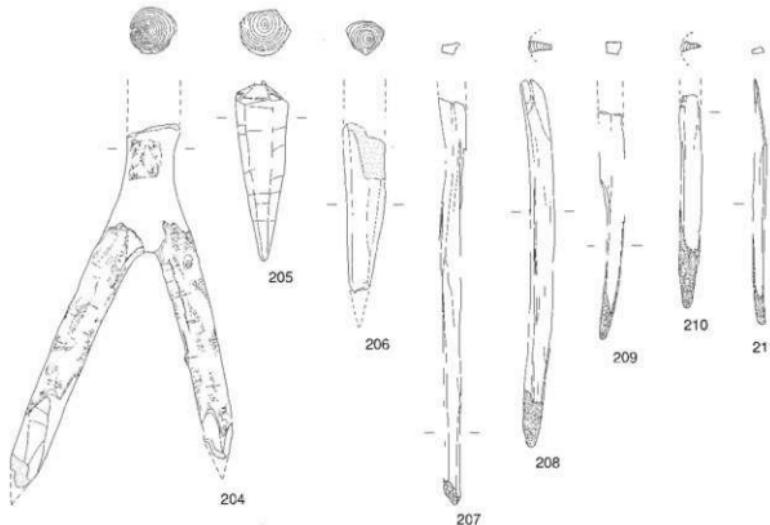
219～221は不明品とした。219は片側の長軸両隅に切り欠きをもつ板材である。長さ48.4cm、幅16.6cm、厚さ1.7cmを測る。220は長軸の縁に大きな半月状の削り込みをもつ板である。長さ51.7cm、幅15.5cm、厚さ2.9cmを測る。221は短く切断した芯持ち材の中央部分が瘤るものである。刃物痕が顯著に残り、作業台のようなものかもしれない。材質はツバキ科サカキ属である。長さ28.4cm、最大径14.0cmを測る。222は方形板の中央に貫通しない四角い削り込みをもつ。長さ31.5cm、幅16.6cm、厚さ2.2cmを測る。223は薄い板材の長辺両側に刻みをもつもので鋸歯状木製品、肅中、鰐状木製品などと呼ばれるものである。刻み目の無い方が地面に突き刺さった状態で出土した。スギの板目材が用いられている。長さ27.2cm、幅3.9cm、厚さ0.4cmを測る。224は長軸片面の中央が削り込まれたものである。長さ13.9cm、幅4.0cm、厚さ2.4cmを測る。

### 5. 植物遺体

植物遺体としてはヒヨウタン1個、桟の実13個と桃核408個以上が出土している。桃核の出土状況は貼石の上流部（南側）に集中し、他の遺物と重なり合うように検出された。流れ込みによるものではなく、意図的に投棄されたものと考えられる。果肉がついたままの状態で出土したものが19個あり、投棄された季節を知る上で注目される。



第37図 貼石遺構付近出土木製品実測図（建築部材・その他）



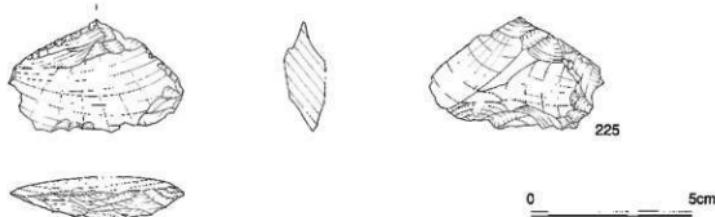
第38図 貼石遺構付近出土木製品実測図（その他「杭・樹皮・不明品」）

## 6. 石器（第39図225～第40図234）

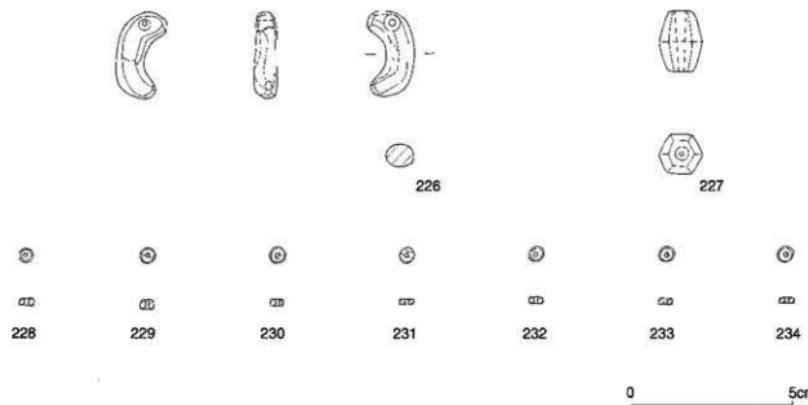
貼石付近からは石製品が80点出土し、このうち10点を掲載した。内訳は黒曜石製の楔形石器2点・石鏃2点・石核3点・二次加工のある剥片8点・剥片56点、玉類9点である。

(1) 楔形石器（第39図225） 225は黒曜石製の楔形石器である。やや幅の広いものであり、上下端部に細かな剥離痕をもつ。縦3.4cm、横5.0cm、厚さ1.2cmを測る。

(2) 玉類（第40図226～234） 226は瑪瑙製の勾玉であり、色調は透き通った淡橙褐色を呈する。断面は円形に近く、孔は片面穿孔により開けられる。長さ2.6cm、幅0.88cm、厚さ0.69cm、孔径0.2～0.5cmを測る。227は水晶製の切子玉である。孔は片面穿孔により開けられ、法量は長さ1.84cm、最大幅1.27cm、孔径0.16～0.38cmを測る。228～234は須恵器の直口壺（第31図152）内から出土した泥岩製の白玉である。法量は直径4.43～4.75mm、厚さ1.36～2.98mm、孔径1.05～1.41mmを測るものである。



第39図 貼石遺構付近出土石器実測図（楔形石器）



第40図 貼石遺構付近出土石器実測図（玉類）

第14表 貼石造構付近出土器観察表

単位(cm)

括弧 書き	品目	器種	出土地点 上層	胎 焼成	色 調	法 蓋	測定・手法の特徴	時 期	考
21-1	土師器	壺	C-15区 5.オリーブ黒色粘土	1mm以下の砂粒含む 外に赤い黄褐色 内に赤い黄褐色	口徑: 18.3	内外面ヨコナデ	古墳時代 中期後葉? 1型I類	複合口縁	
21-2	土師器	壺	C-15区 5.オリーブ黒色粘土	1mm以下の砂粒含む 外に赤い黄褐色 内に赤い黄褐色	口徑: 20.3	内外面ヨコナデ	古墳時代 中期	演化した複合口縁 第二類	
21-3	土師器	壺	D-15区 5.オリーブ黒色粘土	1~2mmの砂粒含む 外に赤い黄褐色 内に赤い黄褐色	口徑: 16.4	山形内外面ヨコナデ、 体部外側ハケメ、内面 ハラケズリ	古墳時代 中期	演化した複合口縁 第三類 外側に厚付層	
21-4	土師器	壺	C-15区・D-15区 5.オリーブ黒色粘土	2mm以下の砂粒含む 外に赤い黄褐色 内に赤い黄褐色	口徑: 14.4	口縫内外面ヨコナデ、 体部外側ハケメ、内面 ハラケズリ	古墳時代 中期	演化した複合口縁 第四類	
21-5	土師器	壺	D-14区 5.オリーブ黒色粘土	1mm以下の砂粒含む 外に赤い黄褐色 内に赤い黄褐色	口徑: 20.0	口縫内外面ヨコナデ、 体部外側ハケメ、内面 ハラケズリ	単純口縁 壺型I類 外側に厚付層		
21-6	土師器	壺	C-15区・D-15区 5.オリーブ黒色粘土	陶粒含む、赤 灰質	口徑: 20.6	山形部内外面ハケメ、 内面底部以下ハラケズ リ	単純口縁 壺型II類 外側に厚付層		
21-7	土師器	壺	C-15区・D-15区 5.オリーブ黒色粘土	1mm以下の砂粒含む 外に赤い黄褐色 内に赤い黄褐色	口徑: 17.8	山形部内外面ハケメ、 内面底部以下ハラケズ リ	単純口縁 壺型III類 外側に厚付層		
21-8	土師器	壺	D-14区 5.オリーブ黒色粘土	1mm前後の砂粒含む 外に赤い黄褐色 内に赤い黄褐色	口徑: 14.7	山形部内外面ハケメ、 体部外側ハケメ、内面 ハラケズリ	単純口縁 壺型IV類 外側に厚付層		
21-9	土師器	壺	C-15区 5.オリーブ黒色粘土	2mm以下の砂粒含む 外に赤い黄褐色 内に赤い黄褐色	口徑: 11.9	口縫外側ハケメ、内面 ヨコナデ、体部外側ハ ケメ、内面ハラケズリ	単純口縁 壺型V類 外側に厚付層		
21-10	土師器	壺	D-15区 5.オリーブ黒色粘土	1mm以下の砂粒含む 外に赤い黄褐色 内に赤い黄褐色	口徑: 18.2	山形部内外面ヨコナデ、 体部外側ハケメ、内面 ハラケズリ	単純口縁 壺型VI類 外側に厚付層		
21-11	土師器	壺	D-14区 5.オリーブ黒色粘土	2mmの大砂粒含む 外に赤い黄褐色 内に赤い黄褐色	口徑: 14.4	山形部内外面ヨコナデ、 体部外側ハケメ、内面 ハラケズリ	単純口縁 壺型VII類 外側に厚付層		
21-12	土師器	壺	C-15区 5.オリーブ黒色粘土	1~2mmの砂粒含む 外に赤い黄褐色 内に赤い黄褐色	口徑: 12.8	山形部内外面ヨコナデ、 体部外側ハケメ、内面 ハラケズリ	単純口縁 壺型VIII類		
22-13	土師器	壺	C-15区 5.オリーブ黒色粘土	1mm以下の砂粒含む 外に赤い黄褐色 内に赤い黄褐色	口徑: 17.6	山形部内外面ハケメ、 体部外側ハケメ、内面 ハラケズリ	単純口縁 壺型IX類		
22-14	土師器	壺	C-15区・D-15区 5.オリーブ黒色粘土	1mm前後の砂粒含む 外に赤い黄褐色 内に赤い黄褐色	口徑: 19.4	外側の一辺にハケメ	単純口縁 壺型X類		
22-15	土師器	壺	C-15区 5.オリーブ黒色粘土	2mmの大砂粒が多く 見られる 外に赤い黄褐色 内に赤い黄褐色	口徑: 16.4	山形部内外面ハケメ、 体部外側ハケメ、内面 ハラケズリ	単純口縁 壺型XI類		
22-16	土師器	壺	D-14区 5.オリーブ黒色粘土	1mm以下の砂粒含む 外に赤い黄褐色 内に赤い黄褐色	口徑: 16.2	山形部内外面ヨコナデ	単純口縁 壺型XII類		
22-17	土師器	壺	D-14区 5.オリーブ黒色粘土	2mm以下の砂粒含む 外に赤い黄褐色 内に赤い黄褐色	口徑: 18.1	山形部内外面ヨコナデ、 体部外側ハケメ、内面 ハラケズリ	単純口縁 壺型XIII類 外側に厚付層		
22-18	土師器	壺	D-14区 5.オリーブ黒色粘土	1mm前後の砂粒含む 外に赤い黄褐色 内に赤い黄褐色	口徑: 15.6	山形部内外面ヨコナデ、 体部外側ハケメ、内面 ハラケズリ	単純口縁 壺型XIV類 外側に厚付層		
22-19	土師器	壺	D-15区 5.オリーブ黒色粘土	1mm前後の砂粒含む 外に赤い黄褐色 内に赤い黄褐色	口徑: 17.1	山形部内外面ヨコナデ、 体部外側ハケメ、内面 ハラケズリ	単純口縁 壺型XV類 外側に厚付層		
22-20	土師器	壺	D-15区 5.オリーブ黒色粘土	0.5mm前後の砂粒含む 外に赤い黄褐色 内に赤い黄褐色	口徑: 16.1	山形部内外面ヨコナデ、 体部外側ハケメ、内面 ハラケズリ	単純口縁 壺型XVI類 外側に厚付層		
22-21	土師器	壺	C-15区・D-15区 5.オリーブ黒色粘土	1mm以下の砂粒含む 外に赤い黄褐色 内に赤い黄褐色	口徑: 20.0	山形部内外面ヨコナデ、 体部外側ハケメ、内面 ハラケズリ	単純口縁 壺型XVII類		
23-22	土師器	鉢	D-15区 5.オリーブ黒色粘土	1mm前後の砂粒含む 外に黒色 内に赤い黄褐色	口徑: 14.0	体部外側ハケメ、内面 ハラケズリ	単純口縁 外腹付層		
23-23	土師器	鉢	C-15区・D-15区 5.オリーブ黒色粘土	1mm以下の砂粒含む 外に赤い黄褐色 内に赤い黄褐色	口徑: 11.5	山形部内外面ヨコナデ、 体部外側ハケメ、内面 ハラケズリ	単純口縁		
23-24	土師器	鉢	C-15区・D-15区 5.オリーブ黒色粘土	1mm以下の砂粒含む 外に赤い黄褐色 内に赤い黄褐色	口徑: 11.2	内外面に指輪状痕、模 範の手跡	直口縁II類 内外面に赤褐色 糊付層		
23-25	土師器	直口壺	C-15区 5.オリーブ黒色粘土	1mm以下の砂粒含む 外に赤い黄褐色 内に赤い黄褐色	口徑: 9.4	山形部内外面ヨコナデ、 体部外側ハケメ、内面 ハラケズリ			

貼石造構付近出土土器観察表

単位(cm)

種類 番号	品目	器種	出土地點 上 級	形状 寸 度	色 調	法 量	調査・手法の特徴他	時 期	備 考
23-26	土師器	直口壺	D-15区 5.オリーブ黒色粘 土	1mm以下の砂粒含 む、空	(外)に赤褐色 (内)に赤褐色	口径: 8.4	口部外側ヨコナデ、 体部内面ハラケスリ	直口壺Ⅱa類	
23-27	土師器	直口壺	D-15区 5.オリーブ黒色粘 土下端	1mm以下の砂粒含 む、密	(外)に赤褐色 (内)に赤褐色	口径: 10.6	口部外側ヨコナデ 体部外側ハケメ、内面 ハラケスリ	直口壺Ⅱ類 内外面に赤褐色 糊付帯	
23-28	土師器	直口壺	D-15区 5.オリーブ黒色粘 土下端	2mm前後の砂粒含 む	(外)に赤褐色 (内)に赤褐色	口径: 7.8	内外面ナデ	直口壺Ⅲ類 手捏ね	
23-29	土師器	灰	C-15区 5.オリーブ黒色粘 土	0.5mm以下の砂粒 含む	(外)に赤褐色 (内)に赤褐色	口径: 13.0	外側外面手持ちハラケ スリ	丸口壺 内外面に赤褐色 糊付帯	
23-30	土師器	环	C-15区・D-15区 5.オリーブ黒色粘 土	1mm前後の砂粒含 む、密	(外)に赤褐色 (内)に赤褐色	口径: 14.2	底部外側手持ちハラケ スリ	环I類 内面に赤褐色 糊付帯	
23-31	土師器	环	D-15区 5.オリーブ黒色粘 土	1mm大の砂粒含む 好	(外)に赤褐色 (内)に赤褐色	口径: 14.3	外側手持ちハラケスリ	环IIa類	
23-32	土師器	环	C-15区・D-15区 5.セリーブ黒色粘 土	0.5mm以上の砂粒 含む	(外)灰黃褐色 (内)灰黃褐色	口径: 13.8 器高: 6.2	内面放射状の研続、死 骸外側手持ちハラケスリ	环IIa類	
23-33	土師器	灰	C-15区・D-15区 5.オリーブ黒色粘 土	2mm前後の砂粒含 む、密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 13.8	外側手持ちハラケスリ	环IIc類	
23-34	土師器	灰	D-15区 5.オリーブ黒色粘 土	1mm以下の砂粒多 く含む	(外)に赤褐色 (内)に赤褐色	口径: 10.8 器高: 6.7	底部外側に手持ちハ ラケスリ、その他の指 面糊、粗製の手捏ね	环III類 手捏ね	
23-35	土師器	环	C-15区 5.オリーブ黒色粘 土	1mm以下の砂粒を 含む	(外)に赤褐色 (内)に赤褐色	口径: 13.5 器高: 1.9	内面に複数灰斑	环IV類 手捏ね	
23-36	土師器	灰	C-15区 5.オリーブ黒色粘 土	0.5mm以下の砂粒 含む	(外)に赤褐色 (内)に赤褐色	口径: 14.6 器高: 5.9	环部外ハケメ、その 他のヨコナデ		
23-37	土師器	低脚环	C-15区・D-15区 5.オリーブ黒色粘 土	1mm以下の成形砂 含む	(外)に赤褐色 (内)に赤褐色	口径: 11.9 底径: 5.8 高さ: 6.0 7.4	内面に縱方向の擦 痕、底部外ハケメ		
23-38	土師器	低脚环	D-15区 5.オリーブ黒色粘 土	0.5mm以上の砂粒 含む、密	(外)に赤褐色 (内)に赤褐色	口径: 13.2 底径: 7.7 高さ: 7.4	底部内面に放射状の縦 縫合		
23-39	土師器	低脚环	D-15区 5.オリーブ黒色粘 土	0.5mm以下の砂粒 含む、密	(外)に赤褐色 (内)に赤褐色	口径: 13.0	底部内面に放射状の縫 合		
23-40	土師器	低脚环	D-15区 5.セリーブ黒色粘 土	1mm以下の砂粒を 含む、密	(外)に赤褐色 (内)に赤褐色	口径: 8.2	底部内面横紋、 内面外側ミガキ		
23-41	土師器	低脚环	D-15区 5.セリーブ黒色粘 土	1mm前の砂粒含 む、密 やや不良	(外)に赤褐色 (内)に赤褐色	口径: 8.4	内側ヨコナデ	高环Ia類 縫合: D 内面小赤褐色の糊付 帯	
24-12	土師器	实环	C-15区・D-15区 5.オリーブ黒色粘 土	微砂粒含む、密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 17.4 底径: 8.0 器高: 9.5	底部内面に斜刮けの 縫合、底部外側縦方向 のミガキ、内面ケズリ	高环Ia類 縫合: D 内面小赤褐色の糊付 帯	
24-43	土師器	高环	C-15区・D-15区 5.オリーブ黒色粘 土	1mm以下の砂粒含 む、密	(外)に赤褐色 (内)に赤褐色	口径: 17.6	底部外ハケメ、内面 放射状の研続	高环Ia類 縫合: D	
24-44	土師器	高环	C-15区 5.オリーブ黒色粘 土	1mm以下の砂粒を 含む、密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 16.4	底部内面にハケメ	高环Ia類 縫合: D	
24-45	土師器	高环	C-15区・D-15区 5.セリーブ黒色粘 土	2mm前後の砂粒を 含む	(外)褐色 (内)褐色	口径: 14.0	外側の接合部分にハケ メ	高环IIa類 縫合: D	
24-46	土師器	高环	C-15区・D-15区 5.セリーブ黒色粘 土	1mm以下の砂粒含 む、密	(外)褐色 (内)褐色	口径: 13.0	外側の接合部分に強い ナダ	高环IIa類 縫合: D	
24-47	土師器	高环	D-15区 5.オリーブ黒色粘 土	2mm大の砂粒含む やや不良	(外)に赤褐色 (内)に赤褐色	口径: 15.9 器高: 10.9	底部外ヨコナデ、その他の ハラケスリ、粗製の手捏 ね	高环IIa類 縫合: D	
24-48	土師器	高环	D-15区 5.セリーブ黒色粘 土	1mm以下の砂粒含 む、密	(外)に赤褐色 (内)に赤褐色	口径: 16.5 底径: 11.1 器高: 12.6	底部内面ナデ、その他の ハラケスリ、粗製の手捏 ね	高环IIa類 縫合: D	
24-49	土師器	高环	C-15区 5.オリーブ黒色粘 土	1mm以下の砂粒含 む、密 やや不良	(外)に赤褐色 (内)に赤褐色	口径: 10.9	底部外ナデ、その他の ハラケスリ、粗製の手捏 ね	高环IIa類 縫合: D	
24-50	土師器	高环	C-15区 5.オリーブ黒色粘 土	微砂粒含む、密	(外)に赤褐色 (内)に赤褐色	口径: 20.8	外側ハケメ	高环IIa類 縫合: D 赤褐色の糊付帯	
24-51	土師器	高环	C-15区・D-15区 5.セリーブ黒色粘 土	微砂粒含む、密	(外)に赤褐色 (内)に赤褐色	口径: 18.8	底部内外面にハケメ	赤褐色の糊付 帯Ⅲ類?	

貼石遺構付近出土土器觀察表

単位(cm)

種類 番号	品目	器種	出土地點 土層	形状 寸法	胎土 色	内調 色	法量	調査・手法の特徴等	時期	備考
24-52	土器器	高杯	D-15区 5.オリーブ黒色 1層	1mm前後の砂粒合 む。良好	(外)褐色 (内)褐色	底径: 9.4	脚部内面ケズリ、1方 に円形の落かし			明示褐色の胎土 色
24-53	土器器	高杯	C-15区 5.オリーブ黒色 1層	陶砂粒含む、良 好	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	底径: 12.6	脚部外側に反対方向のミ ガキ			高杯は類似 接合:D 赤褐色の胎土色
24-54	土器器	高杯	D-15区 5.オリーブ黒色 1層	陶砂粒含む、良 好	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 10.2	底部外側反対方向のハ ケヌ、内面ケズリ			高杯は類似 接合:B 赤褐色の胎土色
24-55	土器器	高杯	D-15区 5.オリーブ黒色 1層	陶砂粒含む、良 好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	底径: 10.4	脚部外側反対方向のミ ガキ、内面ケズリ			高杯は類似 接合:D 赤褐色の胎土色
24-56	土器器	高杯	C-15区 5.オリーブ黒色 1層	2~10mmの砂粒含 む	(外)褐色 (内)褐色	底径: 10.9	脚部外側反対方向のミ ガキ、内面ケズリ			接合:C-1
24-57	土器器	高杯	D-15区 5.オリーブ黑色 1層	1mm以下の砂粒合 む。良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	底径: 9.8	脚部外側反対方向のミ ガキ、内面ケズリ			接合:B-2
24-58	土器器	高杯	D-15区 5.オリーブ黒色 1層	1mm以下の砂粒合 む。良好	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色		外表面反対方向のミガキ、 内面絞り痕			
25-59	土器器	製造 工具	C-15区 5.モリーブ黒色 1層	密	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 約11.2	内外面ナゲ、粘土の 痕跡が良く残る			二次焼成
25-60	土器器	製造 工具	C-15区 5.モリーブ黒色 1層	0.5mm以下の砂粒 含む。良好	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 約13.0	内外面ナゲ、粘土の 痕跡が良く残る			二次焼成
25-61	土器器	製造 工具	C-15区 5.モリーブ黒色 1層	密 やや不良	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 約10.4	内外面ナゲ、粘土の 痕跡が良く残る			二次焼成
25-62	土器器	製造 工具	C-15区 5.モリーブ黒色 1層	密 やや不良	(外)褐色 (内)褐色	口径: 約12.0	内外面ナゲ、粘土の 痕跡が良く残る			二次焼成
25-63	土器器	製造 工具	C-16区 5.モリーブ黒色 1層	密 やや不良	(外)褐色 (内)褐色	口径: 約18.2	内外面ナゲ、粘土の 痕跡が良く残る			二次焼成
25-64	土器器	製造 工具	C-16区 5.モリーブ黒色 1層	密 やや不良	(外)褐色 (内)褐色	口径: 約10.7	内外面ナゲ、粘土の 痕跡が良く残る			二次焼成
25-65	土器器	製造 工具	C-16区 5.モリーブ黒色 1層	密 やや不良	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 約11.6	内外面ナゲ、粘土の 痕跡が良く残る			二次焼成
25-66	土器器	製造 工具	C-15区 5.モリーブ黒色 1層	密 やや不良	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 約11.8	内外面ナゲ、粘土の 痕跡が良く残る			二次焼成
25-67	土器器	製造 工具	C-16区 5.モリーブ黒色 1層	密 やや不良	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 約11.6	内外面ナゲによる 痕跡、外側不規			二次焼成
26-68	土器器	蜜	C-15区 5.モリーブ黒色 1層	1mm前後の砂粒合 む。良好	(外)明褐水色 (内)明褐水色	口径: 25.5 底径: 17.8	口部ヨコナギ、体部 底部内面: 腹内ハケヌリ、外面 ハケヌ			
26-69	土器器	瓶	D-15区 5.モリーブ黒色 1層	3mm以下の砂粒合 む。良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色		外底ハケヌ、内面ハ ケヌ			
26-70	土器器	瓶	C-15区 5.モリーブ黒色 1層	1mm以下の砂粒合 む。良好	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	底径: 9.5	外底ハケヌ、内面ハ ケヌ			
26-71	土器器	小瓶	D-15区 5.モリーブ黒色 1層	1mm前後の砂粒合 む。良好	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色		外底ハケヌ、内面指痕 上部			
27-72	土器器	土鉢?	C-16区 5.モリーブ黒色 1層	良好	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 18.7 内径: 12.8 基高: 4.7	大井部外表面細ハラケ ヌリ、大井部内面ナギ ヌリ、その他の痕跡ナ ゲ	出雲2期 A2型I類		
28-73	填土器	坏蓋	D-15区 5.モリーブ黒色 1層	密 良好	(外)灰色 (内)灰色	口径: 13.3 内径: 13.2 基高: 3.4	その他の痕跡ナ ゲ			
28-74	填土器	坏蓋	D-15区 5.モリーブ黒色 1層	青 良好	(外)灰色 (内)灰色	口径: 14.0 内径: 13.2 基高: 3.4	大井部外表面細ハラケ ヌリ、その他の痕跡ナ ゲ	出雲2期 A2型II類		
28-75	填土器	坏蓋	C-15区 5.モリーブ黒色 1層	青 良好	(外)灰色 (内)灰色	口径: 13.5 内径: 12.8 基高: 3.5	大井部外表面細ハラケ ヌリ、その他の痕跡ナ ゲ	出雲2期 A2型III類		
28-76	填土器	坏蓋	D-15区 5.モリーブ黒色 1層	1mmの大砂粒含 む。青 良好	(外)褐色 (内)褐色	口径: 13.8 内径: 13.0 基高: 3.4	大井部外表面細ハラケ ヌリ、その他の痕跡ナ ゲ	出雲2期 A2型IV類		
28-77	填土器	坏蓋	D-15区 5.モリーブ黒色 1層	青 良好	(外)褐色 (内)褐色	口径: 13.3 内径: 12.6 基高: 4.3	大井部外表面細ハラケ ヌリ、大井部内面ナ ゲ、出雲3期 A3a型 その他の痕跡ナ ゲ	出雲3期 A3a型		

## 貼石遺構付近出土土器観察表

単位(cm)

拂田 番号	品目	器種	出土地点 土 壤	動 使	土 成	色 調	法 量	調整、手法の特徴他	出 現 期	備 考
28-78	須恵器	环盃	C-15区 3.オリーブ黒色粘	密 やや不良	(外)灰白色 (内)灰白色	口径: 14.3 内径: 13.5 壁高: 4.3	大井部外周面削へタケ スリ、その他直輪ナデ	出雲3期	A3a型	
28-79	須恵器	环盃	C-15区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)灰白色 (内)灰白色	口径: 14.1 内径: 13.5 壁高: 4.4	大井部外周面削へタケ スリ、その他直輪ナデ	出雲3期	A3b型	
28-80	須恵器	环盃	C-15区 5.オリーブ黒色粘	密 やや不良	(外)灰黄色 (内)灰黄色	口径: 12.9 内径: 12.2 壁高: 4.2	大井部外周面削へタケ スリ、大井部内面ナデ	出雲4期	A4型 内面に黒色の付 着物、塗か	
28-81	須恵器	环盃	C-15区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)暗黄色 (内)灰黄色	口径: 13.8 内径: 13.2 壁高: 4.0	大井部外周面削へタケ スリ、その他直輪ナデ	出雲4期	A4型	
28-82	須恵器	环盃	C-15区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)灰白色 (内)灰白色	口径: 12.8 内径: 12.2 壁高: 3.4	大井部外周面削へタケ スリ、その他直輪ナデ	出雲4期	A4型	
28-83	須恵器	环盃	C-15区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)灰白色 (内)灰白色	口径: 13.0 内径: 12.4 壁高: 4.1	大井部外周面削へタケ スリ、その他直輪ナデ	出雲4期	A4型	
28-84	須恵器	环盃	C-14区・D-14区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)灰白色 (内)灰白色	口径: 12.8 内径: 12.1 壁高: 3.3	大井部外周面削へタケ スリ、大井部内面ナデ その他の削輪	出雲4期	A4型	
28-85	須恵器	环盃	C-15区・D-15区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)黄褐色 (内)灰白色	口径: 13.8 内径: 13.2 壁高: 4.8	大井部外周面削へタケ スリ、大井部内面ナデ その他の削輪	出雲4期	A4型	
28-86	須恵器	环盃	C-15区 5.オリーブ黒色粘	1mm 着後の砂粒を 僅かに含む。密 良好	(外)黄褐色 (内)灰白色	口径: 11.9 内径: 11.4 壁高: 3.6	大井部外周面削へタケ スリ、大井部内面ナデ その他の削輪	出雲4期	A4型	
28-87	須恵器	环盃	D-14区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)灰白色 (内)灰白色	口径: 12.5 内径: 12.0 壁高: 3.2	大井部外周面削へタケ スリ、その他直輪ナデ	出雲4期	A4型	
28-88	須恵器	平底	C-15区・D-15区 5.オリーブ黒色粘	1mm 大の砂粒を僅 かに含む。密 良好	(外)灰白色 (内)オリーブ灰白色	口径: 13.0 内径: 12.8 壁高: 4.2	大井部外周面削へタケ スリ、大井部内面ナデ その他の削輪	出雲4期	A4型	
28-89	須恵器	环盃	D-15区 5.オリーブ黒色粘	1~2mm の砂粒を 僅かに含む。密 良好	(外)灰白色 (内)灰白色	口径: 12.1 内径: 11.5 壁高: 4.0	大井部外周面削へタケ スリ、大井部内面ナデ その他の削輪	出雲4期	A4型	
28-90	須恵器	环盃	C-15区 5.オリーブ黒色粘	1mm 人の砂粒を僅 かに含む。密 良好	(外)灰白色 (内)灰白色	口径: 13.4 内径: 12.8 壁高: 4.2	大井部外周面削へタケ スリ、大井部内面ナデ その他の削輪	出雲4期	A4型	
28-91	須恵器	环盃	D-15区 5.オリーブ黒色粘	1mm 以下の砂粒を 僅かに含む。密 良好	(外)灰白色 (内)灰白色	口径: 12.4 内径: 12.4 壁高: 4.4	大井部外周面削へタケ スリ、大井部内面ナデ その他の削輪	出雲4期	A4型	
28-92	須恵器	环盃	D-15区 5.オリーブ黒色粘	密 不良	(外)灰白色 (内)灰白色	口径: 12.6 内径: 11.8 壁高: 4.1	大井部外周面削へタケ スリ、その他直輪ナデ	出雲4期	A4型	
28-93	須恵器	环盃	C-15区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)灰白色 (内)灰白色	口径: 13.2 内径: 12.3	大井部外周面削へタケ スリ、その他直輪ナデ	出雲4期	A4型	
28-94	須恵器	环盃	C-15区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)灰白色 (内)灰白色	口径: 12.8 内径: 12.2	削輪ナデ	出雲4期	A4型	
28-95	須恵器	环盃	D-15区 5.オリーブ黒色粘	3mm 人の砂粒を含 む。密 良好	(外)灰白色 (内)灰白色	口径: 12.4 内径: 11.8 壁高: 3.5	大井部外周面削へタケ スリ、その他直輪ナデ	出雲4期	A4型	
28-96	須恵器	环盃	D-15区 5.オリーブ黒色粘	1mm 大の砂粒を僅 かに含む。密 良好	(外)灰白色 (内)灰白色	口径: 13.0 内径: 12.5 壁高: 4.2	大井部外周面削へタケ スリ、大井部内面ナデ その他の削輪	出雲4期	A4型	
28-97	須恵器	环盃	C-15区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)灰白色 (内)灰白色	口径: 12.8 内径: 12.1 壁高: 4.1	大井部外周面削へタケ スリ、その他直輪ナデ	出雲4期	A4型	
28-98	須恵器	环盃	C-15区 5.オリーブ黒色粘	1mm 以下の砂粒を 僅かに含む。密 良好	(外)灰白色 (内)灰白色	口径: 12.8 内径: 12.1 壁高: 4.2	大井部外周面削へタケ スリ、その他直輪ナデ	出雲4期	A4型	
28-99	須恵器	环盃	D-15区 5.オリーブ黒色粘	1mm 以下の砂粒を 僅かに含む。密 良好	(外)灰白色 (内)灰白色	口径: 12.1 内径: 11.6 壁高: 3.8	大井部外周面削へタケ スリ、その他直輪ナデ	出雲4期	A4型 片面に黒色の付 着物、塗か	
28-100	須恵器	环盃	D-15区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)灰白色 (内)灰白色	口径: 11.9 内径: 10.8 壁高: 3.9	大井部外周面削へタケ スリ、その他直輪ナデ	出雲4期	A4型	
28-101	須恵器	环盃	C-15区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)灰白色 (内)灰白色	口径: 11.8 内径: 11.4	削輪ナデ	出雲4期	A4-A6型	
28-102	須恵器	环盃	C-15区 5.オリーブ黒色粘	1~2mm の砂粒を 僅かに含む。密 良好	(外)灰白色 (内)灰白色	口径: 13.8 内径: 13.1	削輪ナデ	出雲4期	A4-A6型	
28-103	須恵器	环盃	C-15区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)灰白色 (内)灰白色	口径: 11.7 内径: 11.6 壁高: 4.5	大井部外周面削へタケ スリ、その他直輪ナデ	出雲2期	A2a型	

## 貼石遺構付近出土土器観察表

単位(cm)

件番	品目	基準	出土地点	基底成	色調	法 番	測量・手法の特徴性	時 期	備 考
29-04	頸部器	环身	C-15区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口 律: 11.5 最大径: 14.8 合口径: 14.0	腹部外周輪へラケズ リ。その他の輪ナメ 合合ナメ: 2.3	出雲2期	A2型に伴う环 身
29-05	頸部器	环身	D-15区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口 律: 12.7 最大径: 14.8 合口径: 14.0	輪ナメ	出雲2期	A2型に伴う环 身
29-06	頸部器	环身	D-15区 5.オリーブ黒色粘	3 mm 以下の砂粒を 僅かに含む。密 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口 律: 12.7 最大径: 15.4 合口径: 14.0	腹部外周輪へラケズ リ。その他の輪ナメ 合合ナメ: 4.0	TK43	A3系に伴う环 身か 環地帯から搬 入品か
29-07	頸部器	环身	D-15区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口 律: 10.8 最大径: 13.8 合口径: 12.8	腹部外周輪へラケズ リ。内面ナメ。その他の 輪ナメ	出雲4期	A4-A7型に伴 う环身か
29-08	頸部器	环身	D-15区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口 律: 11.4 最大径: 13.8 合口径: 12.8	腹部外周輪へラケズ リ。内面ナメ。その他の 輪ナメ	出雲4期	A4-A7型に伴 う环身か
29-09	頸部器	环身	C-15区・D-15区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口 律: 10.7 最大径: 14.2 合口径: 12.4	腹部外周輪へラケズ リ。内面ナメ。その他の 輪ナメ	出雲4期	A4-A7型に伴 う环身か
29-10	頸部器	环身	D-15区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口 律: 11.4 最大径: 15.7 合口径: 12.5	腹部外周輪へラケズ リ。内面ナメ。その他の 輪ナメ	出雲4期	A4-A7型に伴 う环身か
29-11	頸部器	环身	C-15区・D-15区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口 律: 11.3 最大径: 14.2 合口径: 13.0	腹部外周輪へラケズ リ。内面ナメ。その他の 輪ナメ	出雲4期	A4-A7型に伴 う环身か
29-12	頸部器	环身	D-15区 5.オリーブ黒色粘	0.5mm 大の砂粒を 僅かに含む。密 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口 律: 11.4 最大径: 15.2 合口径: 12.2	腹部外周輪へラケズ リ。内面ナメ。その他の 輪ナメ	出雲4期	A4-A7型に伴 う环身か
29-13	頸部器	环身	D-15区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口 律: 11.3 最大径: 15.2 合口径: 12.2	腹部外周輪へラケズ リ。内面ナメ。その他の 輪ナメ	出雲4期	A4-A7型に伴 う环身か
29-14	頸部器	环身	D-15区 5.オリーブ黒色粘	1 mm 大の砂粒を 僅かに含む。密 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口 律: 11.3 最大径: 15.3 合口径: 12.0	腹部外周輪へラケズ リ。内面ナメ。その他の 輪ナメ	出雲4期	A4-A7型に伴 う环身か
29-15	頸部器	环身	C-15区・D-15区 5.オリーブ黒色粘	1 mm 前後の砂粒を 僅かに含む。密 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口 律: 11.0 最大径: 15.0 合口径: 12.0	腹部外周輪へラケズ リ。内面ナメ。その他の 輪ナメ	出雲4期	A4-A7型に伴 う环身か
29-16	頸部器	环身	C-15区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口 律: 11.0 最大径: 15.0 合口径: 12.0	腹部外周輪へラケズ リ。内面ナメ。その他の 輪ナメ	出雲4期	A4-A7型に伴 う环身か
29-17	頸部器	环身	C-15区・D-15区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口 律: 11.2 最大径: 15.5 合口径: 12.0	腹部外周輪へラケズ リ。内面ナメ。その他の 輪ナメ	出雲4期	A4-A7型に伴 う环身か
29-18	頸部器	环身	D-15区 5.オリーブ黒色粘	1-2 mm 大の砂粒を 僅かに含む。密 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口 律: 11.5 最大径: 15.1 合口径: 12.0	腹部外周輪へラケズ リ。内面ナメ。その他の 輪ナメ	出雲4期	A4-A7型に伴 う环身か
29-19	頸部器	环身	D-15区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口 律: 10.8 最大径: 13.5 合口径: 12.0	腹部外周輪へラケズ リ。内面ナメ。その他の 輪ナメ	出雲4期	A4-A7型に伴 う环身か
29-20	頸部器	环身	C-15区 5.オリーブ黒色粘	1 mm 大の砂粒を 僅かに含む。密 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口 律: 11.6 最大径: 14.0 合口径: 12.5	腹部外周輪へラケズ リ。内面ナメ。その他の 輪ナメ	出雲4期	A4-A7型に伴 う环身か
29-21	頸部器	环身	C-15区・D-15区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)灰白色 (内)灰褐色	口 律: 11.8 最大径: 14.3 合口径: 12.0	腹部外周輪へラケズ リ。内面ナメ。その他の 輪ナメ	出雲4期	A4-A7型に伴 う环身か
29-22	頸部器	环身	D-15区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口 律: 11.9 最大径: 14.2 合口径: 12.0	腹部外周輪へラケズ リ。内面ナメ。その他の 輪ナメ	出雲4期	A4-A7型に伴 う环身か
29-23	頸部器	环身	D-15区 5.オリーブ黒色粘	1 mm 前後の砂粒を 僅かに含む。密 良好	(外)灰白色 (内)灰褐色	口 律: 11.3 最大径: 14.1 合口径: 12.0	腹部外周輪へラケズ リ。内面ナメ。その他の 輪ナメ	出雲4期	A4-A7型に伴 う环身か
29-24	頸部器	环身	D-14区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口 律: 10.9 最大径: 13.8 合口径: 12.7	腹部外周輪へラケズ リ。内面ナメ。その他の 輪ナメ	出雲4期	A4-A7型に伴 う环身か
29-25	頸部器	环身	C-15区・D-15区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口 律: 11.6 最大径: 14.0 合口径: 13.3	腹部外周輪へラケズ リ。内面ナメ。その他の 輪ナメ	出雲4期	A4-A7型に伴 う环身か
29-26	頸部器	环身	D-15区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口 律: 12.0 最大径: 14.0 合口径: 13.4	輪ナメ	出雲4期	A4-A7型に伴 う环身か
29-27	頸部器	环身	D-15区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口 律: 11.2 最大径: 13.8 合口径: 12.4	輪ナメ	出雲4期	A4-A7型に伴 う环身か
29-28	頸部器	环身	C-15区・D-15区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口 律: 11.0 最大径: 13.9 合口径: 12.5	腹部外周輪へラケズ リ。輪ナメ	出雲4期	A4-A7型に伴 う环身か
29-29	頸部器	环身	C-15区・D-15区 5.オリーブ黒色粘	密 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口 律: 10.8 最大径: 14.0 合口径: 12.6	—	出雲4期	A4-A7型に伴 う环身か

貼石造構付近出土土器観察表

単位(cm)

件名 番号	品目 種類	出土点 地層	鉢 底	上 成	色 調	法 呈	調査、手法の特徴他	時 期	備 考	
29-30	須恵器	环身	D-15区 5.オリーブ黒色粘 灰	密 底	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	口 径: 11.8 最大径: 14.5 合口径: 13.4	山24-5 5期	A4-A7型に伴 う环身か有蓋高 环		
29-31	須恵器	环身	D-15区 5.オリーブ黒色粘 良好	密 底	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	口 径: 12.1 最大径: 14.9 合口径: 13.6	山24-5 5期	A4-A7型に伴 う环身か有蓋高 环		
29-32	須恵器	环身	C-15区・D-15区 5.オリーブ黒色粘 良好	1mm 以下の砂粒を 僅 かに含む。密 底	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	口 径: 9.9 最大径: 12.6 合口径: 11.6	底: 12.1 底部外側回転ヘラケズ 底部内側ナダ、その他の 底	山24-5 5期	底部外側回転ヘラケズ 底部内側ナダ、その他の 底	
29-33	須恵器	有蓋 高环	C-15区 5.オリーブ黒色粘 良好	1mm 大の砂粒を僅 かに含む。密 底	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	口 径: 12.1 最大径: 14.8 合口径: 13.0	底: 12.6 三内方透かし・环底 底 底	山24-3 C型	三内方透かし・环底 底	
29-34	須恵器	有蓋 高环	D-15区 5.オリーブ黒色粘 良好	1mm 大の砂粒を僅 かに含む。密 底	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	口 径: 11.8 最大径: 14.5 合口径: 13.3	底: 12.1 三内方透かし・环底 底 底	山24-3 B型	三内方透かし・环底 底	
29-35	須恵器	有蓋 高环	D-15区 5.オリーブ黒色粘 良好	1mm 大の砂粒を僅 かに含む。密 底	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	口 径: 10.9 最大径: 12.6 合口径: 12.4	底: 10.9 环底内側ナダ、外側 底 底	山24-5 B型かC型	环底内側ナダ、外側 底 底	
29-36	須恵器	有蓋 高环	C-15区 5.オリーブ黒色粘 良好	1mm 大の砂粒を僅 かに含む。密 底	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	口 径: 12.2 最大径: 14.8 合口径: 13.8	底: 12.2 环底内側ナダ、その他の 底 底	山24-5 八明	环底内側ナダ、その他の 底 底	
29-37	須恵器	有蓋 高环	D-15区 5.オリーブ黒色粘 下唇	1mm 大の砂粒を僅 かに含む。密 底	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	口 径: 11.3 最大径: 13.5 合口径: 13.7	底: 11.3 三角3方透かし・环底 底 底	山24-5 八明	三角3方透かし・环底 底	
29-38	須恵器	低脚 蓋透环	C-15区 5.オリーブ黒色粘 良好	1mm 大の砂粒を僅 かに含む。密 底	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	口 径: 10.3 最大径: 11.2 合口径: 10.5	底: 10.3 内側ナダ、外側回転ヘ 底 底	山24-5 A4型?	内側ナダ、外側回転ヘ 底 底	
29-39	須恵器	低脚 蓋透环	D-15区 5.オリーブ黒色粘 良好	1mm 大の砂粒を僅 かに含む。密 底	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	口 径: 13.4 最大径: 14.5 合口径: 13.0	底: 13.4 内側3方透かし・环底 底 底	山24-5 A4型?	内側3方透かし・环底 底 底	
29-40	須恵器	無蓋 高环	C-15区 5.オリーブ黒色粘 良好	1mm 大の砂粒を僅 かに含む。密 底	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	口 径: 14.2 最大径: 15.7	底: 14.2 2方透かし・环底内面 ナダ、その他の ナダ	山24-5 A4型?	2方透かし・环底内面 ナダ、その他の ナダ	
29-41	須恵器	無蓋 高环	C-15区 5.オリーブ黒色粘 良好	1mm 大の砂粒を僅 かに含む。密 底	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	口 径: 15.8 最大径: 16.5 合口径: 15.8	底: 15.8 回転ナダ	山24-5 A4型?	回転ナダ	
29-42	須恵器	高环 仰船	C-15区・D-15区 5.オリーブ黒色粘 良好	1mm 大の砂粒を僅 かに含む。密 底	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	底 径: 9.9 底 底	后方3方透かし・环底 底 底	山24-5 A1型?	后方3方透かし・环底 底 底	
29-43	須恵器	高环 仰船	C-16区・D-16区 5.オリーブ黒色粘 良好	1mm 大の砂粒を僅 かに含む。密 底	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	底 径: 8.7 底 底	后方3方透かし・环底 底 底	山24-5 A1型?	后方3方透かし・环底 底 底	
29-44	須恵器	高环 仰船	C-15区 5.オリーブ黒色粘 良好	1mm 大の砂粒を僅 かに含む。密 底	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	底 径: 8.6 底 底	后方3方透かし・环底 底 底	山24-5 A1型?	后方3方透かし・环底 底 底	
29-45	須恵器	高环	C-15区 5.オリーブ黒色粘 良好	1mm 大の砂粒を僅 かに含む。密 底	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	口 径: 12.6 底 底	底: 12.6 回転ナダ	山24-5 A1型?	回転ナダ	
29-46	須恵器	高环	C-15区 5.オリーブ黒色粘 良好	1mm 大の砂粒を僅 かに含む。密 底	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	底 径: 2.6 底 底	底: 2.6 先端外側回転ヘラケズ リ、別端外側回転突 出	山24-5 A4-A6型	先端外側回転ヘラケズ リ、別端外側回転突 出	
29-47	須恵器	長脚 高环	C-15区・D-15区 5.オリーブ黒色粘 良好	密 底	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	口 径: 8.0 底 底	底: 8.0 斜面ハメ突起によ る斜面突起、その他の 底 底	山24-5 A1型?	斜面ハメ突起によ る斜面突起、その他の 底 底	
29-48	須恵器	広口高 高环	C-15区 5.オリーブ黒色粘 良好	密 底	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	口 径: 8.1 底 底	底: 8.1 底部外側回転ヘラケズ リ、その他の 底 底	山24-5 A1型?	底部外側回転ヘラケズ リ、その他の 底 底	
29-49	須恵器	切脚盤	C-15区 5.オリーブ黒色粘 良好	1mm 大の砂粒を僅 かに含む。密 底	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	口 径: 7.6 底 底	底: 7.6 底部外側回転ヘラケズ リ、その他の 底 底	山24-5 A1型?	底部外側回転ヘラケズ リ、その他の 底 底	
29-50	須恵器	直口高 高环	C-15区・D-15区 5.オリーブ黒色粘 良好	密 底	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	口 径: 9.7 底 底	底: 9.7 馬蹄ナダ	山24-5 A1型?	馬蹄ナダ	
29-51	須恵器	直口高 高环	C-15区 5.オリーブ黒色粘 良好	1mm 大の砂粒を僅 かに含む。密 底	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	底 径: 5.3 底 底	底: 5.3 底部外側回転ヘラケズ リ、その他の 底 底	山24-5 A1型?	底部外側回転ヘラケズ リ、その他の 底 底	
29-52	須恵器	直口高 高环	D-15区 5.オリーブ黒色粘 良好	1mm 大の砂粒を僅 かに含む。密 底	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	底 径: 4.8 底 底	底: 4.8 底部外側回転ヘラケズ リ、その他の 底 底	山24-5 A1型?	底部外側回転ヘラケズ リ、その他の 底 底	
29-53	須恵器	直口高 高环	D-15区 5.オリーブ黒色粘 良好	1mm 大の砂粒を僅 かに含む。密 底	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	底 径: 5.3 底 底	底: 5.3 底部外側回転ヘラケズ リ、その他の 底 底	山24-5 A1型?	底部外側回転ヘラケズ リ、その他の 底 底	
29-54	須恵器	直口高 高环	C-15区 5.オリーブ黒色粘 良好	1mm 大の砂粒を僅 かに含む。密 底	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	口 径: 17.9 底 底	底: 17.9 大部外側回転ヘラケズ リ、その他の 底 底	山24-5 A1型?	大部外側回転ヘラケズ リ、その他の 底 底	
29-55	須恵器	直口高 高环	C-15区 5.オリーブ黒色粘 良好	1mm 大の砂粒を僅 かに含む。密 底	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	底 径: 3.7 底 底	底: 3.7 大部外側回転ヘラケズ リ、その他の 底 底	山24-5 A1型?	大部外側回転ヘラケズ リ、その他の 底 底	
29-56	須恵器	提瓶	C-15区 5.オリーブ黒色粘 良好	1mm 大の砂粒を僅 かに含む。密 底	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	底 径: 6.1 底 底	底: 6.1 体部外側カキメ、その 他の 底 底	山24-5 A1型?	体部外側カキメ、その 他の 底 底	

第15表 貼石造構付近出土木製品観察表

単位(cm)

標図 番号	品目	種類	出土地点 土層	木取り	樹種	法量	備考
32-156	道具	曲柄又鋸	D-15区 5.オリーブ黒色粘	板目		長さ:46.3 幅:13.4 厚さ:1.4	曲柄又鋸D式
32-157	道具	錐の柄	D-15区 5.オリーブ黒色粘	板目	ヒノキ科ヒノキ属	長さ:9.0 幅:3.9・幅2.3 厚さ:1.7	
32-158	道具	錐の柄	C-15区 5.オリーブ黒色粘	不明	ツバキ科ツバキ属	長さ:8.4 幅:4.1 厚さ:1.8	
32-159	道具	錐の柄	C-15区 5.オリーブ黒色粘	芯に近い部分	イヌガヤ科イヌガヤ	長さ:8.1 幅:4.9 厚さ:1.1	
32-160	道具	椎槌	D-15区 5.オリーブ黒色粘	芯材	ツバキ科ツバキ属	全長:25.0 長さ:身13.0・櫛部12.0 幅:身10.2・櫛部8.6	
32-161	道具	木鍤	D-15区 5.オリーブ黒色粘	芯材	ツバキ科サカキ属	長さ:13.7 幅:頭部9.3・輪部53.0	木鍤4脚
32-162	道具	繩合刀歯板	D-14区 5.オリーブ黒色粘	狂目	スギ科スギ	長さ:140.0 幅:5.8 厚さ:2.4	
33-163	道具	柄?	D-15区 5.オリーブ黒色粘	板目		長さ:47.9 幅:頭部1.5・身4.4 厚さ:頭部1.7・身40.7	
33-164	道具	鉗	D-15区 5.オリーブ黒色粘	板目	ヒノキ科ヒノキ属	長さ:99.5 幅:頭部9.0・厚き1.2 厚さ:22.6	装着部のある鉗、装着部に絞りの跡あり
33-165	道具	錐鉗類?	D-15区 5.オリーブ黒色粘	板目	広葉樹	長さ:24.3 幅:9.9 厚さ:1.9	
33-166	道具	錐鉗類?	D-15区 5.オリーブ黒色粘	板口	広葉樹	長さ:14.5 幅:10.9 厚さ:3.8	
33-167	腰掛具	通肩下版	D-15区 5.オリーブ黒色粘	板口	イチイ科カガ	長さ:20.3 幅:9.0 高さ:3.2 後面幅:3.9 前面後面幅:3.2	
33-168	腰掛具	通背F版	D-15区 5.オリーブ黒色粘	狂目		長さ:21.8 幅:9.7 高さ:1.5 後面幅:3.6 前面後面幅:1.7.3	
33-169	食事具	杓子形木器	C-15区 5.オリーブ黒色粘	板目		長さ:34.8 幅:身63.7・柄部2.3 厚さ:1.0	
33-170	食事具	杓子形木器	C-15区 5.オリーブ黒色粘	板目		長さ:27.7 幅:身63.7・柄1.9 厚さ:0.9	
33-171	食事具	杓子形木器	D-15区 5.オリーブ黒色粘	板口		長さ:16.3 幅:身62.7 厚さ:0.9	他の部材の可能性もある
34-172	樂器	琴	D-15区 5.オリーブ黒色粘	板目 透狂目	スギ科スギ	長さ:160.2 幅:16.5~1 厚さ:3.5 上板の E-IIa 級 厚さ:1.1	
34-173	樂器	琴	CD-15 5.オリーブ黒色粘	透狂目	スギ科スギ	長さ:16.4 幅:4.7 厚さ:0.95	T型か口類
35-174	道具	発火具 (火薬筒)	D-15区 5.オリーブ黒色粘	板目	スギ科スギ	長さ:74.7 幅:3.2 厚さ:1.9	4倍の火薬穴
35-175	道具	発火具 (火薬筒)	D-15区 5.オリーブ黒色粘	板目	スギ科スギ	長さ:93.4 幅:1.9 厚さ:1.6	12倍の火薬穴
35-176	道具	発火具 (火薬筒)	CD-15区 5.オリーブ黒色粘	板目	針葉樹	長さ:32.7 幅:3.4 厚さ:2.3	2倍の火薬穴
35-177	道具	発火具 (火薬筒)	D-15区 5.オリーブ黒色粘	板目	スギ科スギ	長さ:53.5 幅:1.9 厚さ:1.8	2倍の火薬穴と1例の空み
35-178	道具	鉢孔や釘孔を もつ部材	D-15区 5.オリーブ黒色粘	板目		長さ:53.6 幅:3.3 厚さ:1.4	孔に樹皮が残る
35-179	道具	鉢孔や釘孔を もつ部材	D-15区 5.オリーブ黒色粘	透狂目	ヒノキ科ヒノキ属	長さ:42.8 幅:7.3 厚さ:0.8	孔に樹皮が残る
35-180	道具	鉢孔や釘孔を もつ部材	C-15区 5.オリーブ黒色粘	透板目		長さ:19.5 幅:6.2 厚さ:1.2	
35-181	道具	鉢孔や釘孔を もつ部材	CD-15区 5.オリーブ黒色粘	不明	針葉樹	長さ:19.5 幅:5.8 厚さ:1.1	
35-182	道具	鉢孔や釘孔を もつ部材	D-15区 5.オリーブ黒色粘	透狂目	針葉樹	長さ:22.1 幅:4.0 厚さ:1.3	

## 貼石遺構付近出土木製品観察表

単位(cm)

標識番号	品目	種類	出土地点 土層	入取り	樹種	法 量	備考
35-183	道具	鍬形や削形をもつ部材	D=15区 5.オリーブ黒色粘	板口		長さ:44.5 幅:3.3 厚さ:1.7	
35-184	道具	紐かけをもつ部材	D=15区 5.オリーブ黒色粘	板口		長さ:50.8 幅:2.2 厚さ:1.7	
35-185	道具	紐かけをもつ部材	D=15区 5.オリーブ黒色粘	板口		長さ:35.2 幅:2.3 厚さ:2.0	
35-186	道具	紐かけをもつ部材	D=15区 5.オリーブ黒色粘	板口		長さ:25.2 幅:3.0 厚さ:1.4	
35-187	道具	紐かけをもつ部材	D=15区 5.オリーブ黒色粘	板口		長さ:49.0 幅:3.2 厚さ:1.3	
36-188	道具	紐手や仕口をもつ部材	D=15区 5.オリーブ黒色粘	板口	ヒノキ斜ヒノキ属	長さ:56.9 幅:8.6 厚さ:3.2	格穴、穿り込みをもつ
36-189	道具	紐手や仕口をもつ部材	D=15区 5.オリーブ黒色粘	油絞口		長さ:41.8 幅:7.1 厚さ:3.0	中央が中継りする
36-190	道具	電丁や仕口をもつ部材	D=15区 5.オリーブ黒色粘	油絞口	計葉樹	長さ:27.9 幅:12.9 厚さ:3.5	
36-191	道具	鉗手や仕口をもつ部材	D=15区 5.オリーブ黒色粘	板口	ヒノキ斜ヒノキ属	長さ:19.3 幅:12.7 厚さ:6.4	先い焼穴有り・軸用品か
36-192	道具	鉗手や仕口をもつ部材	D=15区 5.オリーブ黒色粘	板口		長さ:32.7 幅:6.4 厚さ:2.3	第93區420~473と向形態
36-193	道具	鉗手や仕口をもつ部材	D=15区 5.オリーブ黒色粘	油絞口		長さ:51.6 幅:4.2 厚さ:1.2	鉢型下軸の横穴。結合部 箱か。第93區475と同形態
36-194	道具	鉗手や仕口をもつ部材	D=15区 5.オリーブ黒色粘	板口		長さ:43.4 幅:8.2 厚さ:3.0	表面に貫通しない方形孔を持つ
36-195	道具	人型の鉗手や仕口をもつ部材	D=15区 5.オリーブ黒色粘	板口		長さ:51.3 幅:8.2 厚さ:4.9	
36-196	道具	人型の鉗手や仕口をもつ部材	C=15区 5.オリーブ黒色粘	油絞口・板口		長さ:80.0 幅:17.0 厚さ:1.7	
36-197	道具	大型の鉗手や仕口をもつ部材	C=15区 5.オリーブ黒色粘	板口		長さ:85.0 幅:7.9 厚さ:2.6	貫通しない焼孔をもつ
37-198	建築部材?	人型の板材	D=15区 5.オリーブ黒色粘	邊材		長さ:322.0 幅:19.8 厚さ:10.5	
37-199	建築部材?	人型の板材	D=15区 5.オリーブ黒色粘	板口		長さ:364.5 幅:17.6 厚さ:3.5	
37-200	建築部材	一木椅子	D=14区 5.オリーブ黒色粘	板口		長さ:28.8 幅:6.8 厚さ:1.3~1.5	
37-201	その他	ミカン削り材	C=15区 5.オリーブ黒色粘	板口	マツ斜ヒノキ属	長さ:49.0 幅:19.9 厚さ:4.7	樹皮が残る
37-202	その他	ミカン削り材	D=15区 5.オリーブ黒色粘	板口		長さ:42.0 幅:19.6 厚さ:4.5	
37-203	その他	ミカン削り材	D=15区 5.オリーブ黒色粘	板口		長さ:38.7 幅:6.3 厚さ:2.6	
38-204	その他	枕	D=15区 5.オリーブ黒色粘	芯材		長さ:41.7 幅:基部5.8・枝部4.6 厚さ:4.8	二段に分かれた枝を使用。樹 皮が残る
38-205	その他	枕	D=15区 5.オリーブ黒色粘	芯材		長さ:22.0 幅:6.5	樹皮が残る
38-206	その他	枕	D=15区 5.オリーブ黒色粘	芯材		長さ:20.8 幅:5.1	
38-207	その他	薪か受け木	D=15区 5.オリーブ黒色粘	芯に近い部分 下脚	ヒノキ斜ヒノキ属	長さ:50.0 幅:3.1 厚さ:1.6	意識的に割られたものか 燃えさし
38-208	その他	薪か受け木	D=15区 5.オリーブ黒色粘	芯材か	ヒノキ斜ヒノキ属	長さ:45.1 幅:3.0 厚さ:1.1	意識的に割られたものか 燃えさし
38-209	その他	薪か受け木	D=15区 5.オリーブ黒色粘	芯に近い部分	ヒノキ斜ヒノキ属	長さ:28.0 幅:3.1 厚さ:1.6	意識的に割られたものか 燃えさし

貼石造構付近出土木製品観察表

単位(cm)

押出番号	品名	種類	出土地点 土層	本取り	樹種	法 長	備考
38-210	その他	寄せ付け木	D-15区 5.オリーブ黒色粘	芯材	ヒノキ科ヒノキ属	長さ: 26.3 幅: 2.7 厚さ: 1.1	直面板に割られたものか 燃えさき。
38-211	その他	寄せ付け木	D-15区 5.オリーブ黒色粘	芯に浅い部分 下部	ヒノキ科ヒノキ属	長さ: 30.2 幅: 1.5 厚さ: 0.7	直面板に割られたものか 燃えさき。
38-212	その他	樹皮	D-15区 5.オリーブ黒色粘		バラ科サクランボ属	長さ: 約18 幅: 2.5 厚さ: 0.05	
38-213	その他	樹皮	D-15区 5.オリーブ黒色粘		バラ科サクランボ属	長さ: 約23 幅: 4.3 厚さ: 0.05	
38-214	その他	樹皮	D-15区 5.オリーブ黒色粘		バラ科サクランボ属	長さ: 約52 幅: 4.6 厚さ: 0.06	
38-215	その他	樹皮	D-15区 5.オリーブ黒色粘		バラ科サクランボ属	長さ: 約27 幅: 2.9 厚さ: 0.05	
38-216	その他	樹皮	D-15区 5.オリーブ黒色粘		バラ科サクランボ属	長さ: 約15 幅: 2.3 厚さ: 0.05	
38-217	その他	樹皮	D-15区 5.オリーブ黒色粘		バラ科サクランボ属	長さ: 約28 幅: 3.8 厚さ: 0.05	
38-218	その他	樹皮	D-15区 5.オリーブ黒色粘		バラ科サクランボ属	長さ: 約10 幅: 2.5 厚さ: 0.05	
38-219	その他	用途不明品	C-15区 5.オリーブ黒色粘	板状		長方形の板の両端に切り欠き 有り	
38-220	その他	用途不明品	D-14区 5.オリーブ黒色粘	板状		半円形の決りをもつ	
38-221	その他	用途不明品	D-15区 5.オリーブ黒色粘	芯材	ツバキ科カキ属	本物似が残る、巨大な本板状、 作業台か	
38-222	その他	用途不明品	D-14区 5.オリーブ黒色粘	芯材		方型板の中央に方形の決り 込み	
38-223	その他	用途不明品	C-15区 5.オリーブ黒色粘	板目	スギ科スギ	長さ: 27.2 幅: 3.9 厚さ: 0.4	
38-224	その他	用途不明品	D-15区 5.オリーブ黒色粘	芯材		長さ: 13.9 幅: 4.0 厚さ: 2.4	

第16表 貼石造構付近出土石器観察表

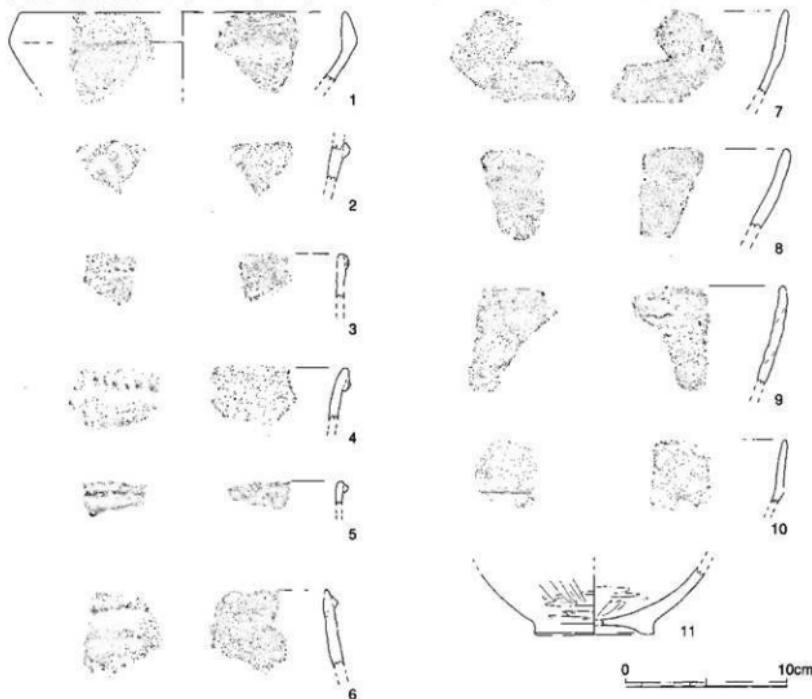
単位(cm)

押出番号	品名	出土地点 土層	法 長	材質	色 調	備考
39-225	楔形石器	D-15区 5.オリーブ黒色粘	幅: 3.4 厚さ: 1.2	樹脂: 5.0 重量: 18.1g	瑪瑙石	黒色
40-226	勾玉	C-15区 5.オリーブ黒色粘	長さ: 2.6 孔径: 0.2~0.5 重量: 3.3g	樹脂: 0.88 厚さ: 0.69	透き通った樹脂	透明
40-227	切子	D-15区 5.オリーブ黒色粘	長さ: 1.84 孔径: 0.16~0.38 重量: 3.8g	樹脂: 1.27 重量: 3.8g	水晶	透明
40-228	白玉	D-15区 5.オリーブ黒色粘	直径: 0.43 孔径: 0.14 重量: 0.14g	樹脂: 0.21 重量: 平均0.057g	瑪瑙	灰色
40-229	白玉	D-15区 5.オリーブ黒色粘	直径: 0.48 孔径: 0.12 重量: 0.12g	樹脂: 0.30 重量: 平均0.057g	瑪瑙	灰色
40-230	白玉	D-15区 5.オリーブ黒色粘	直径: 0.45 孔径: 0.11 重量: 0.11g	樹脂: 0.25 重量: 平均0.057g	瑪瑙	灰色
40-231	白玉	D-15区 5.オリーブ黒色粘	直径: 0.44 孔径: 0.11 重量: 0.11g	樹脂: 0.14 重量: 平均0.057g	瑪瑙	灰色
40-232	白玉	D-15区 5.オリーブ黒色粘	直径: 0.44 孔径: 0.14 重量: 0.14g	樹脂: 0.22 重量: 平均0.057g	瑪瑙	灰色
40-233	白玉	D-15区 5.オリーブ黒色粘	直径: 0.44 孔径: 0.11 重量: 0.11g	樹脂: 0.19 重量: 平均0.057g	瑪瑙	灰色
40-234	白玉	D-15区 5.オリーブ黒色粘	直径: 0.45 孔径: 0.12 重量: 0.12g	樹脂: 0.15 重量: 平均0.057g	瑪瑙	灰色

## 河道 C 遺構外出土遺物 (第41図1~第103図554)

### 1. 縄文土器 (第41図1~11)

1はキャリバー形の口縁をもつ深鉢であり、時期は中期のものと思われる。調整は風化が著しく不明であり、口径は19.8cmを測る。2は刻み目をもつ突帯が張り付けられた胴部部分の破片であり、時期は中期のものと思われる。3、4は口縁端部に接して刻み目を施す突帯が巡る晩期の突帯文土器である。調整は3が突帯張り付け後、二枚貝状の工具により刻み目が施される。その他は風化のため不明である。4は内面が二枚貝条痕を施した後ナデ、その他はナデであり、突帯部分の刻み目は一枚貝による。5、6は刻み目を施さない突帯をもつ晩期の突帯文土器である。5は口縁端部に接して突帯が巡るものであり、調整は風化が著しく不明である。6は口縁端部からやや下がった位置に突帯が張り付けられ、調整は内外面ともにナデが施される。7~9は頭部をもたず、口縁部からそのまま丸底に至る砲弾形の深鉢であり、時期は晩期と考えられる。調整はいずれのものも内外面ともにナデが施される。10は胴部の境に稜線をもつ晩期の鉢である。調整は内外面ともに丁寧なナデが施される。11は底部の破片である。低い高台状になったもので、調整は底部外面が丁寧なナデ、その他にはミガキが施される。底径7.3cmを測る。



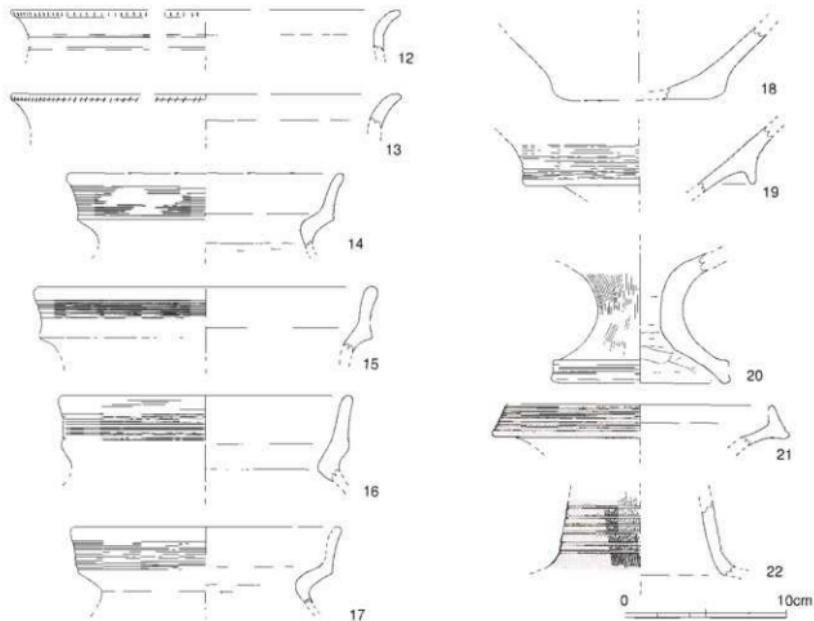
第41図 河道C遺構外出土縄文土器実測図

## 2. 弥生土器（第42図12～22）

(1) 壺・甕（第42図12～18） 12、13は前期の壺口縁部の破片である。緩やかに外反して口縁端部に至るもので端部には刻み目をもつ。12は頸部に二条の沈線が施されるが13は小片のため不明である。14～17は複合口縁の外面に擬凹線文をもち、口縁は緩く外反しながら立ち上がり端部は丸くおさめる。後期後半の的場式に対応するものである。14は擬凹線文がナデ消されている。18は平底を有する壺甕類底部の破片である。調整は風化が著しく不明である。

(2) 器台（第42図19、20） 19は器台受部の破片である。口縁に向かって大きく開き、稜は斜め下方に突出する。外面には擬凹線文が施され、後期中葉の九重3号墓式に該当する。20は厚手の筒部からロート状に開く脚部をもつ。端部は短く内傾し、外面に擬凹線文が施される。調整は筒部外面がハケメ、内面にはヘラケズリが施される。九重3号墓式よりやや古い資料と考えられる。

(3) 特殊器台・壺（第42図21、22） 21、22はいわゆる特殊器台、特殊壺と呼ばれる種類の土器である。21は口縁部が内傾して立ち上がり、外面に二枚貝と思われる擬凹線文をもち、赤色顔料が塗布される。22は壺の頸部であり継方向のハケメを施した後、ヘラによる平行沈線を描く。外面には赤色顔料が塗布される。黒褐色土層出土のものも含め胎土には角閃石が多く含み、色調は褐色を呈する。吉備系の胎土であり、時期はいわゆる立坂型（鬼川市Ⅲ式併行）である。



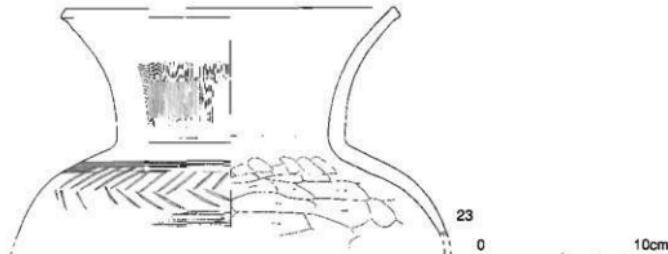
第42図 河道C遺構外出土弥生土器実測図

### 3. 土師器（第43図23～第76図25）

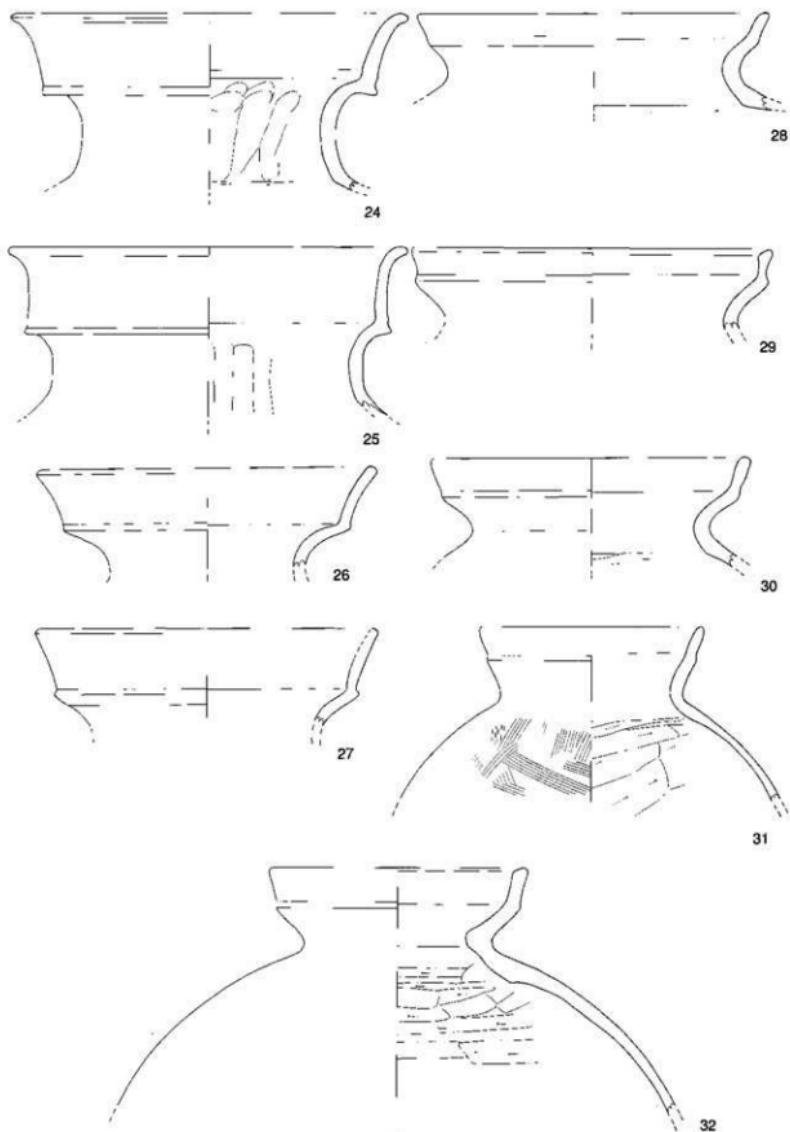
(1) 壺（第43図23～第44図32） 頸部が長いもの、あるいは長く作ろうとした意図が認められるものを壺とした。壺には単純口縁をもつものと複合口縁を呈するものがある。23は単純口縁をもつものである。丸みをもつ肩部より口縁がゆるく外反しながら立ち上がり、端部に平坦な面をもつ。内面調整は頸部に指頭圧痕をもち、以下にヘラケズリが施される。外面は肩部にハケメ原体による羽状文、口縁部に綫方向の細かなハケメが観察できる。大原郡加茂町神原神社古墳土器埋納壙に類似の資料がある。24～27は複合口縁を呈するもののうち口縁の立ち上がりが高いものである。24、25は比較的長い口縁をもち、その端部は外方に折り曲げられる。28～32は口縁部の立ち上がりが短く、退化した複合口縁をもつものである。

(2) 魁（第45図33～第60図134） 複合口縁をもつもののうちI類は41点が出土し、このうち33～48の16点を掲載した。時期は口縁部が外反するなど古い特徴を有するものもあるが、器壁が厚く小谷式の範疇に入るものと考える。また、大型品が多いのも特徴といえる。退化が進んだII類は62点が出土し、このうち49～67の19点を掲載した。いずれも突出部がだれて口縁部も窪い。時期は古墳時代中期のものと考えられる。単純口縁を呈するものは破片も含め531点が出土し、このうち67点を掲載した。68は布留系のIII類、69～71は口縁全体が緩やかに内湾するIV-a類、72～76は口縁端部内面を強くナデつけるIV-b類、77～79は体部は上半に最大径をもつV類、80～85は口縁の中程が膨らみ稜をもつVI類、86～89は口縁端部が更に強く外反し、口縁の中程が膨らむVII-a類、90～99は口縁外面が膨らまないVII-b類、100～115は「く」の字に屈曲する口縁をもち、端部が丸くおさめられるVIII-a類、116～122は端部に平坦な面をもつVIII-b類、123～126は横長の橢円形となるIX類、127、128は胴部の張り出しが弱いX類、133、134は体部下半に最大径をもつXI類、129～131はX類かXI類と考えられる。132は分類表に掲載していないタイプのものである。「く」の字に屈曲する口縁をもち、体部下半に最大径をもち下ぶくれとなる。外面がハケメ、内面にはヘラケズリが施される。器壁が厚く不均一な粗製品である。

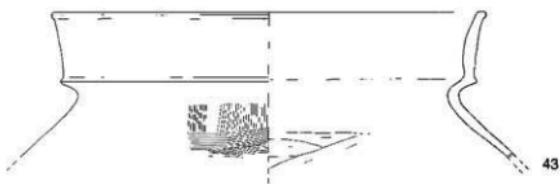
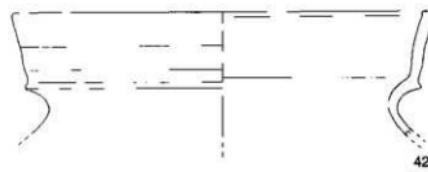
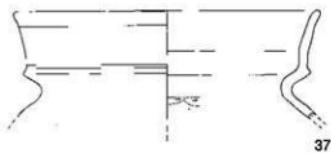
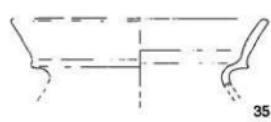
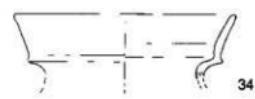
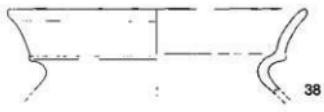
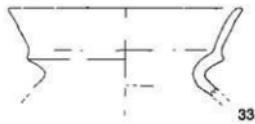
(3) 鉢（第60図135～137） 135～137は鉢とした。器高に比べて口径の大きなものであり、調整は内面の口縁以下にヘラケズリをもち、外面はハケメが施される。137は口縁内面にも横方向のハケメをもつ。



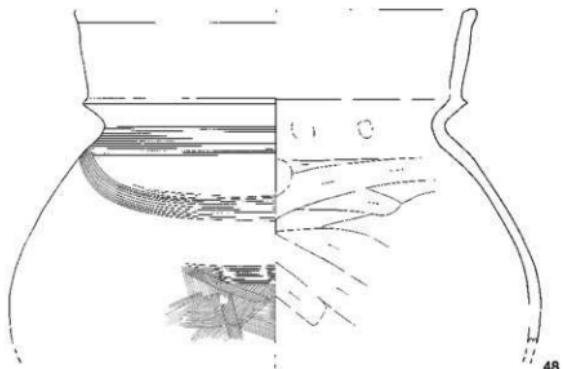
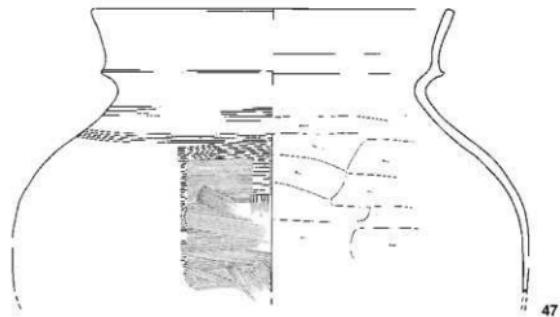
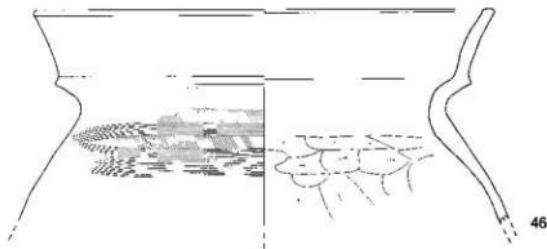
第43図 河道C遺構出土土師器実測図（壺）



第44図 河道C遺構外出土土器実測図(壹)

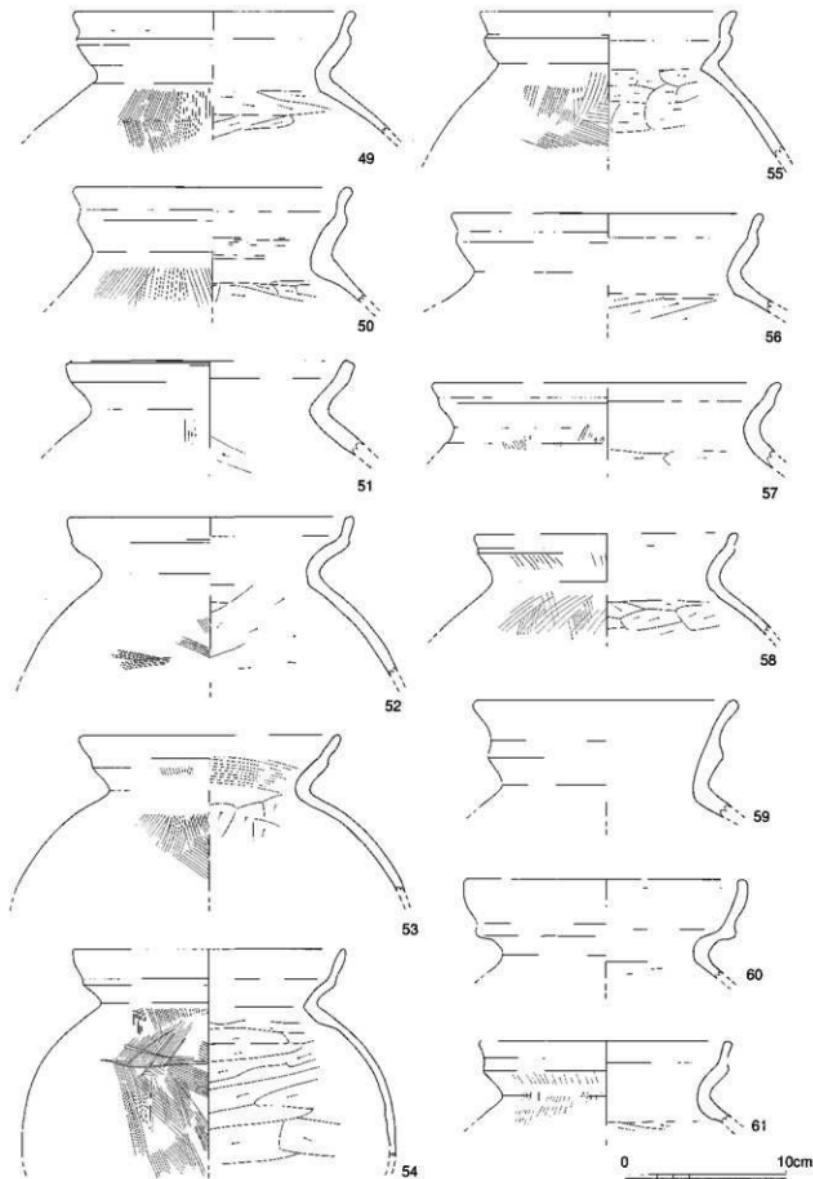


第45図 河道C遺構外出土土師器実測図(表)

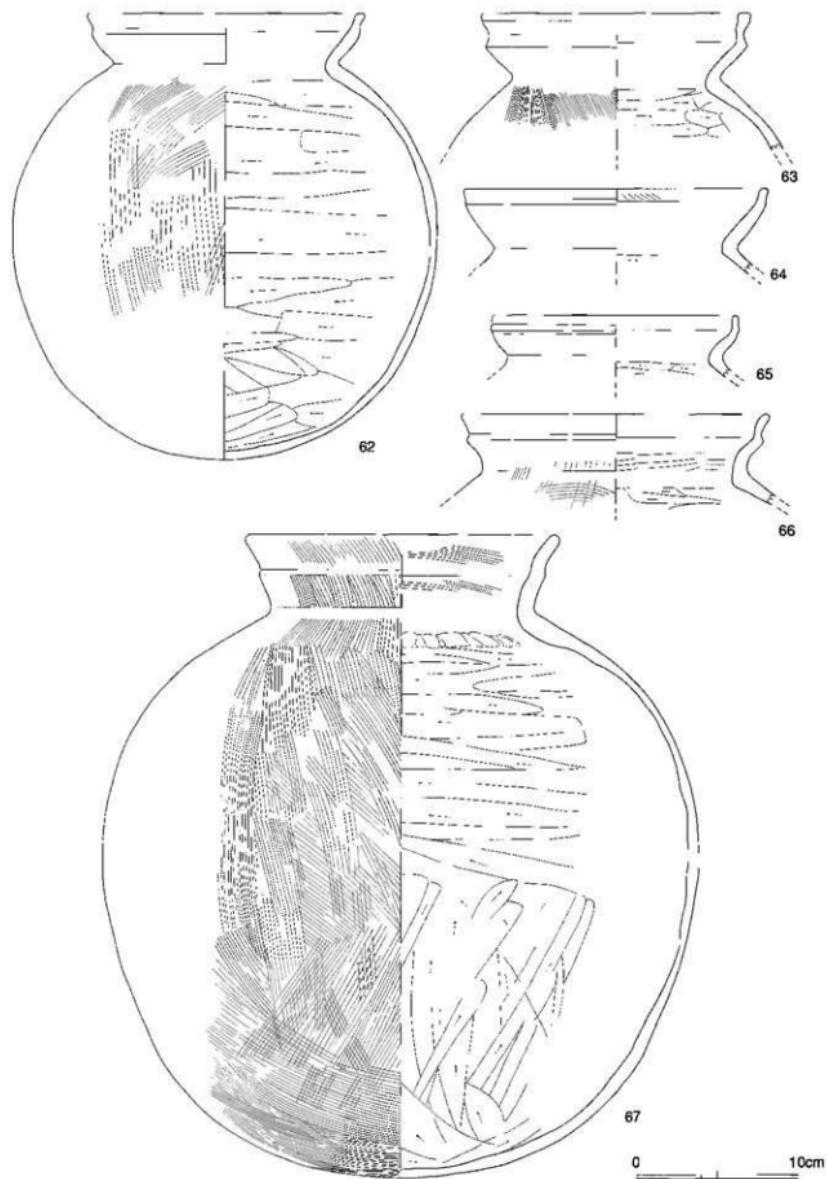


0 10cm

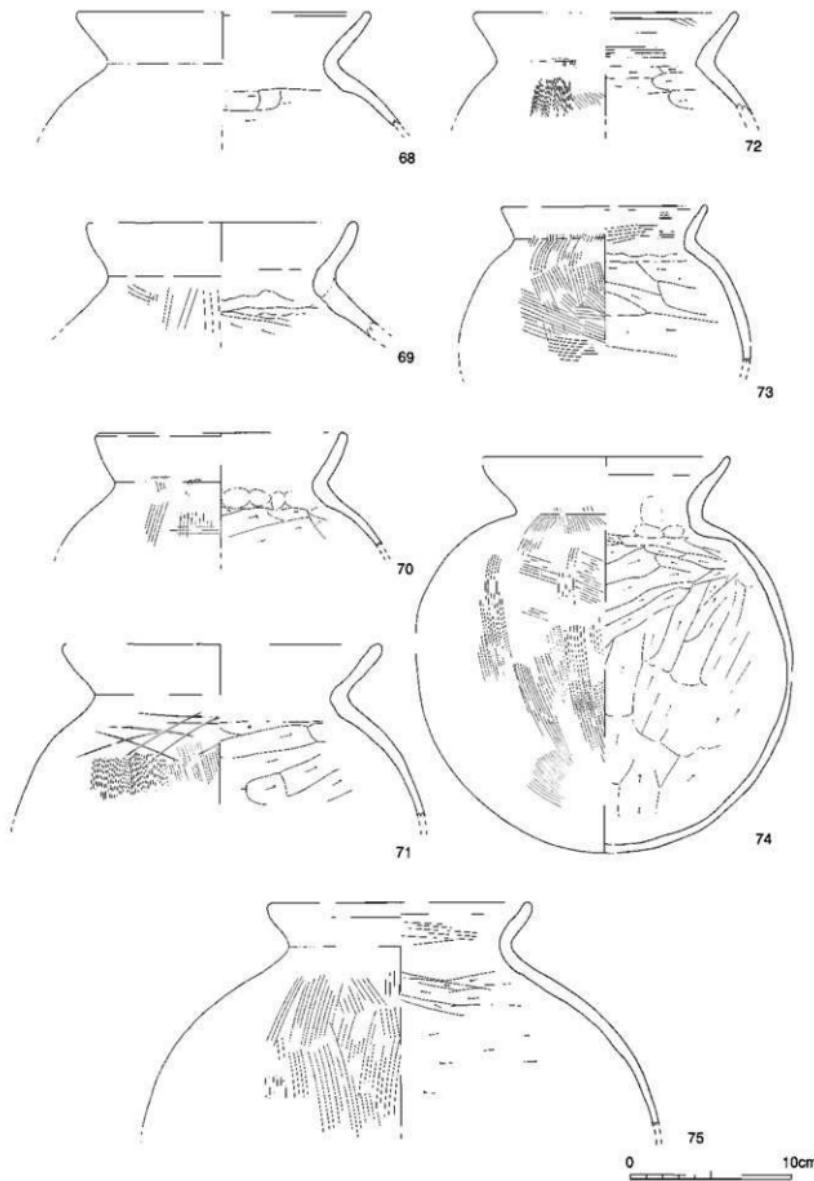
第46図 河道C遺構外出土土師器実測図（堀）



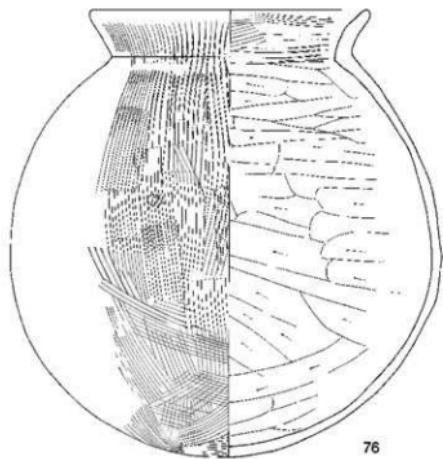
第47図 河道C遺構外出土土師器実測図(甕)



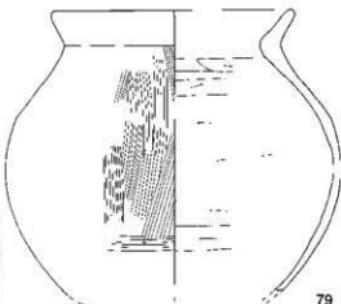
第48図 河道C遺構外出土土師器実測図(甕)



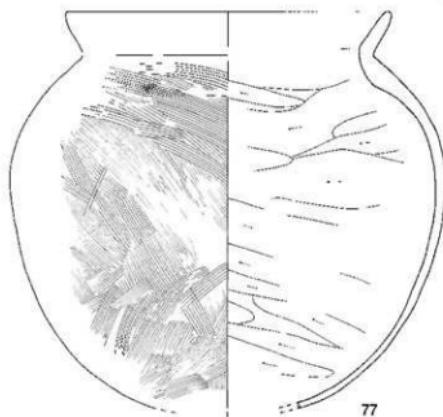
第49図 河道C 遺構外出土土器実測図（発）



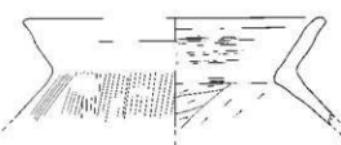
76



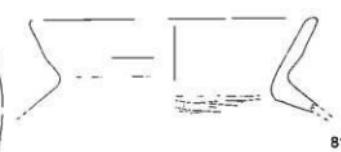
79



77



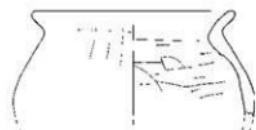
80



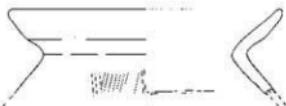
81



82



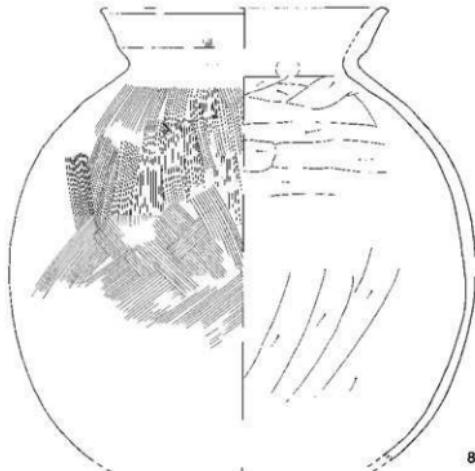
78



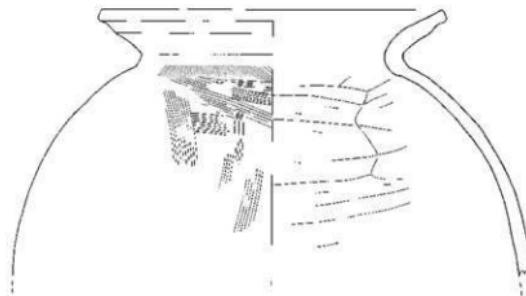
83

0 10cm

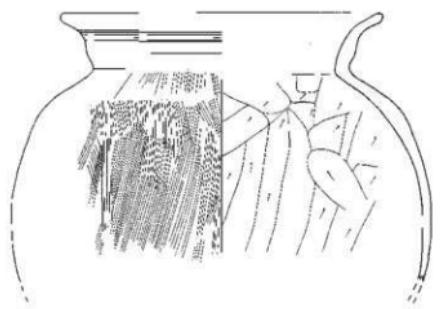
第50図 河道C遺構外出土土師器実測図（甕）



84



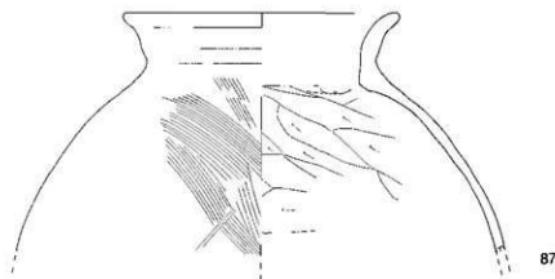
85



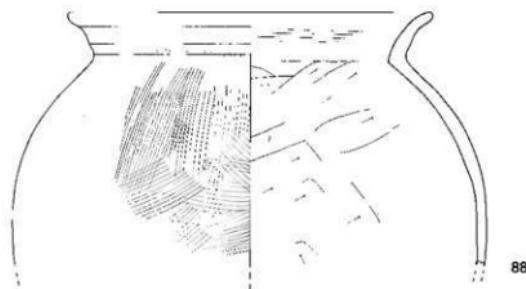
86

0 10cm

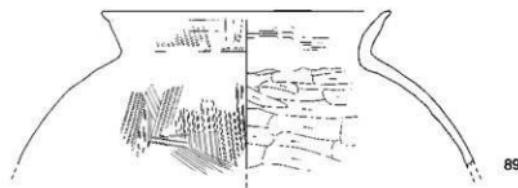
第51図 河道C遺構外出土土師器実測図（甕）



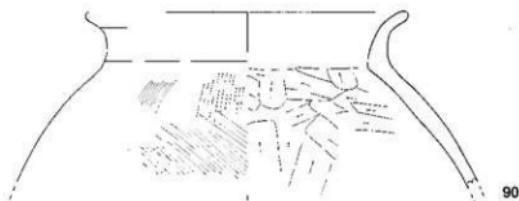
87



88



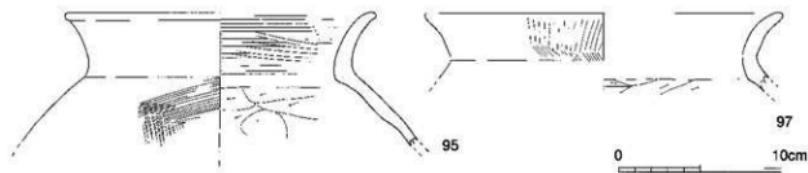
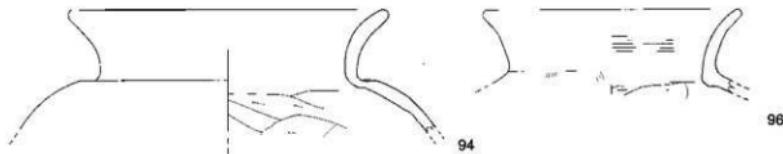
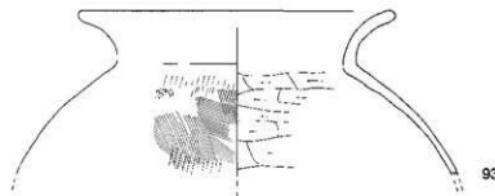
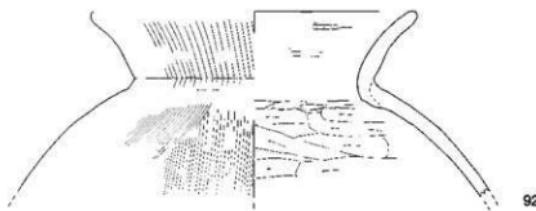
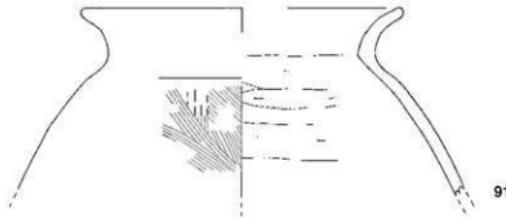
89



90

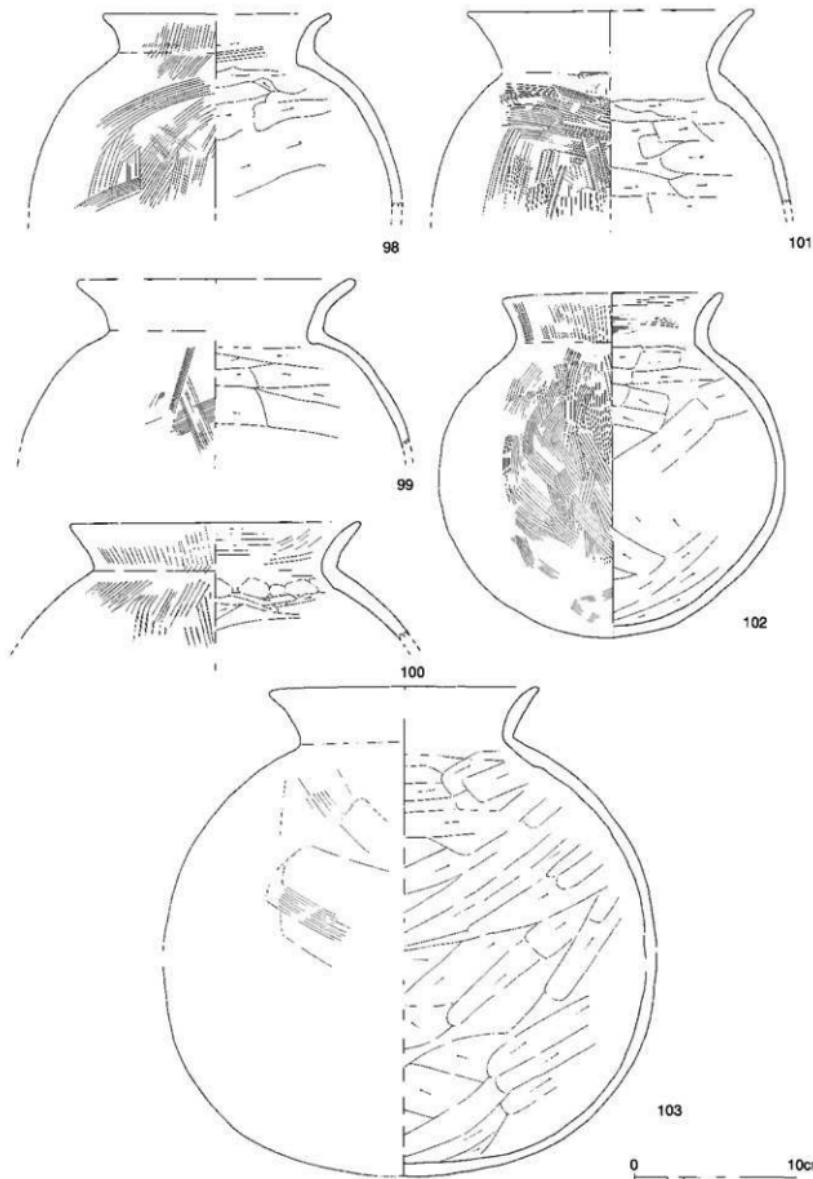
0 10cm

第52図 河道C造構外出土土器実測図（壺）

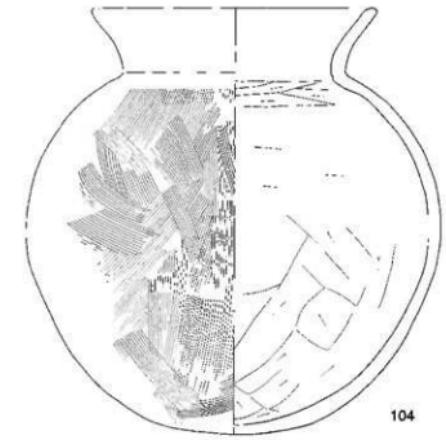


0 10cm

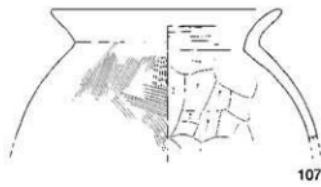
第53図 河道C遺構外出土土師器実測図(甕)



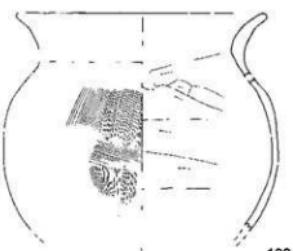
第54図 河道C遺構外出土土器実測図（甕）



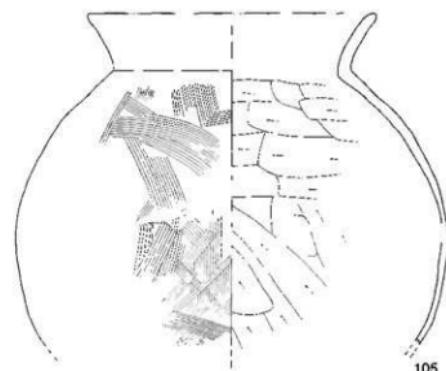
104



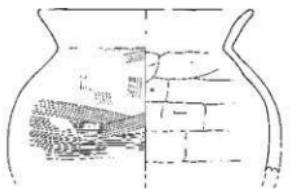
107



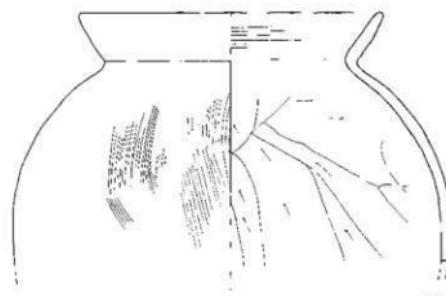
108



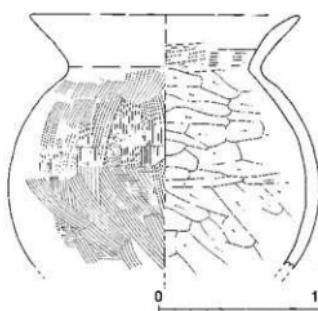
105



109

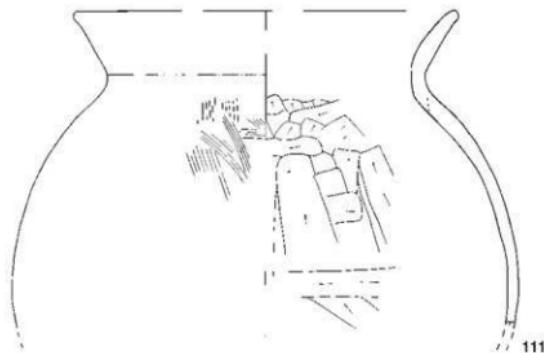


106

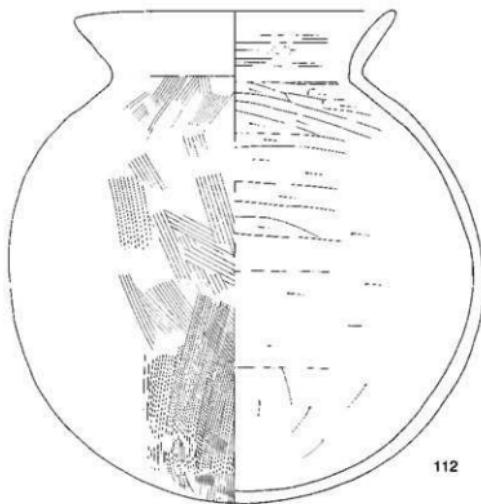


110

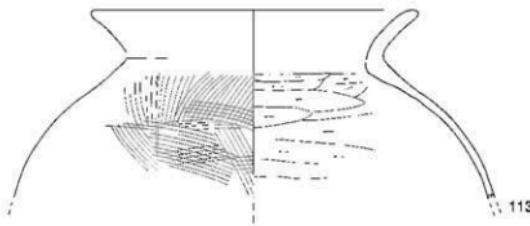
第55図 河道C遺構外出土土師器実測図（要）



111



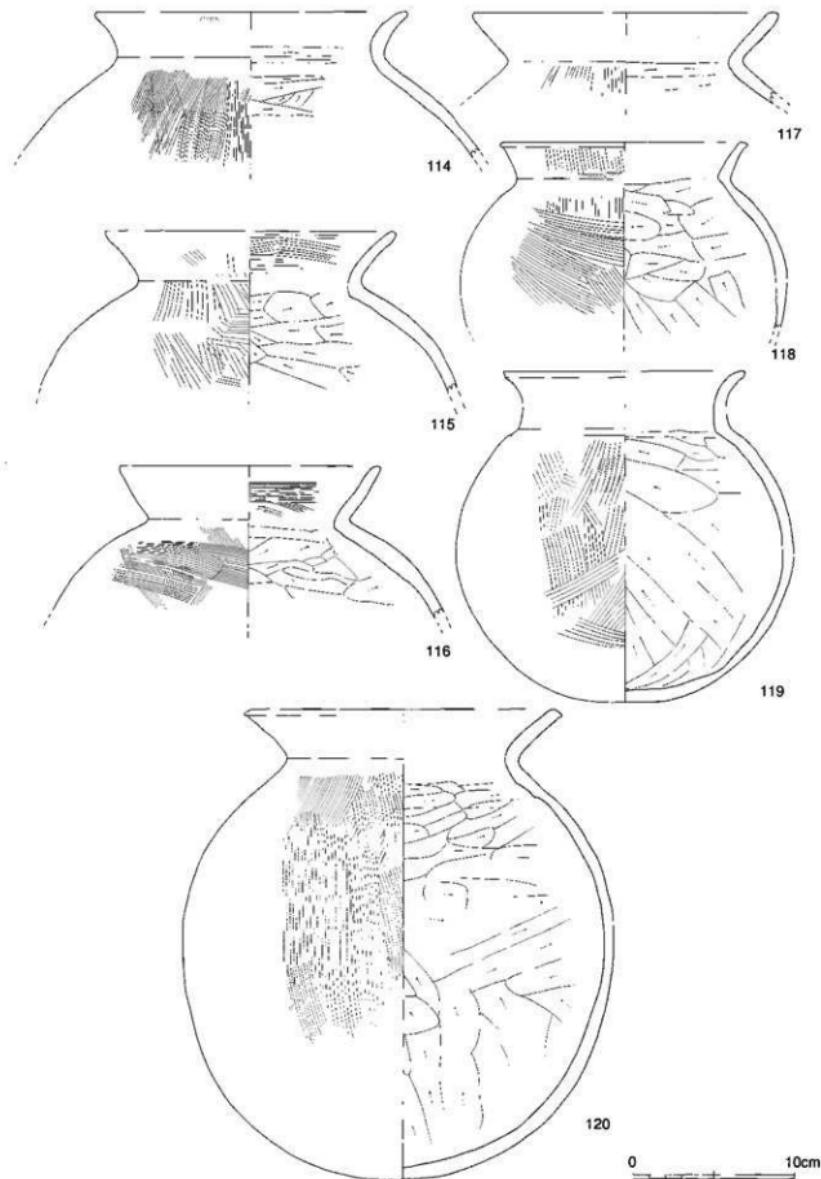
112



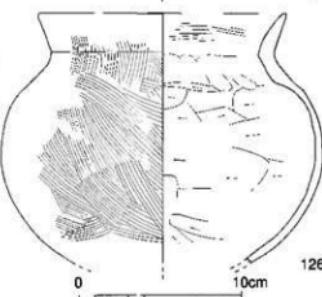
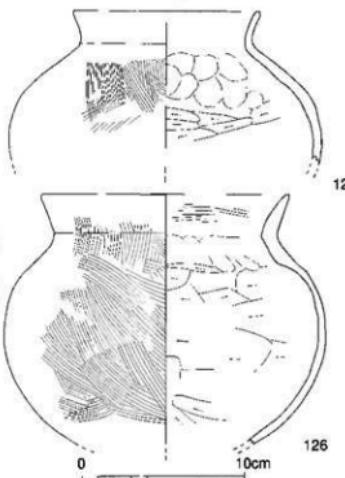
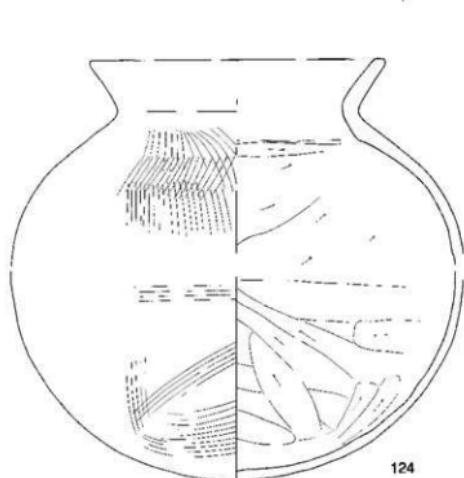
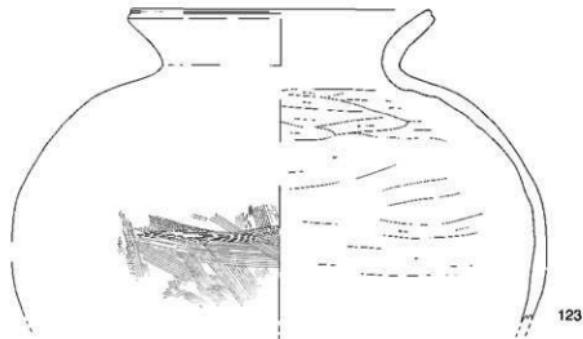
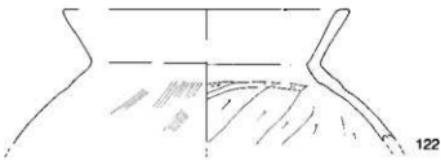
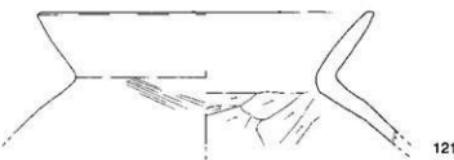
113

0 10cm

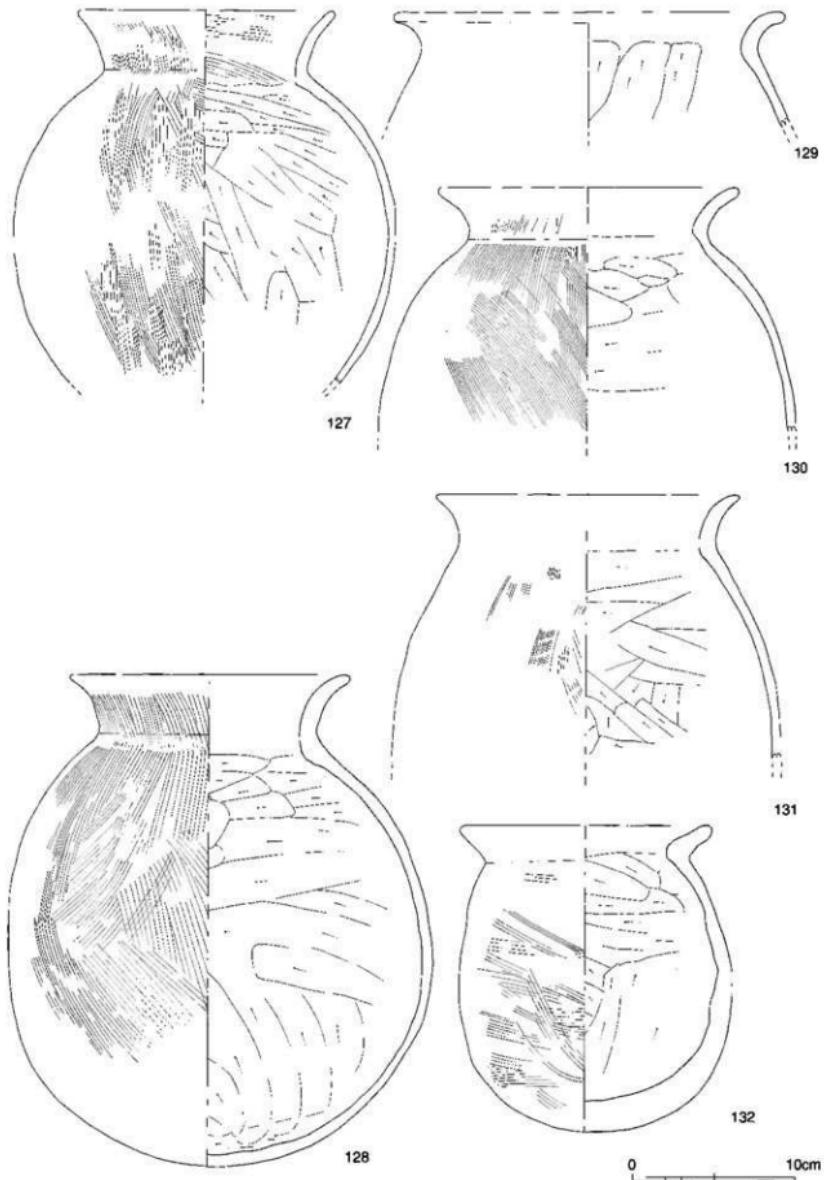
第56図 河道C遭構外出土土師器実測図(甕)



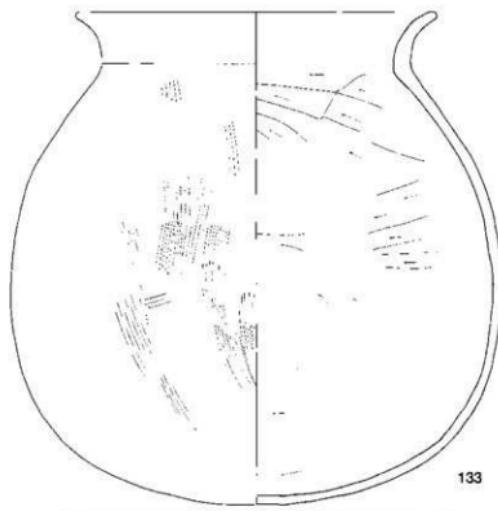
第57図 河道C遺構外出土土器実測図（施）



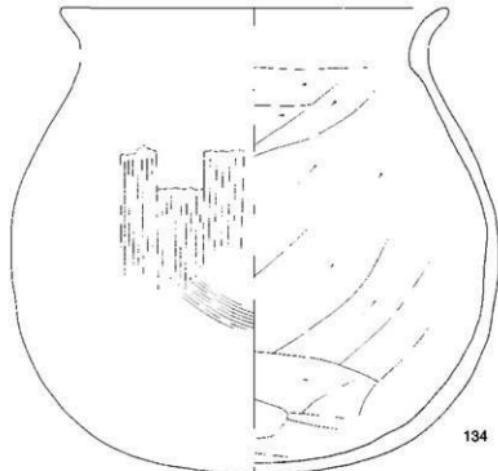
第58図 河道C遺構外出土土器実測図（施）



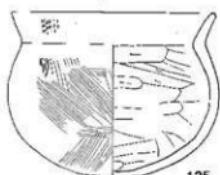
第59図 河道C遺構外出土土師器実測図(表)



133



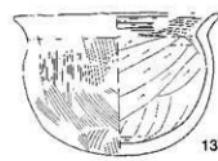
134



135



136

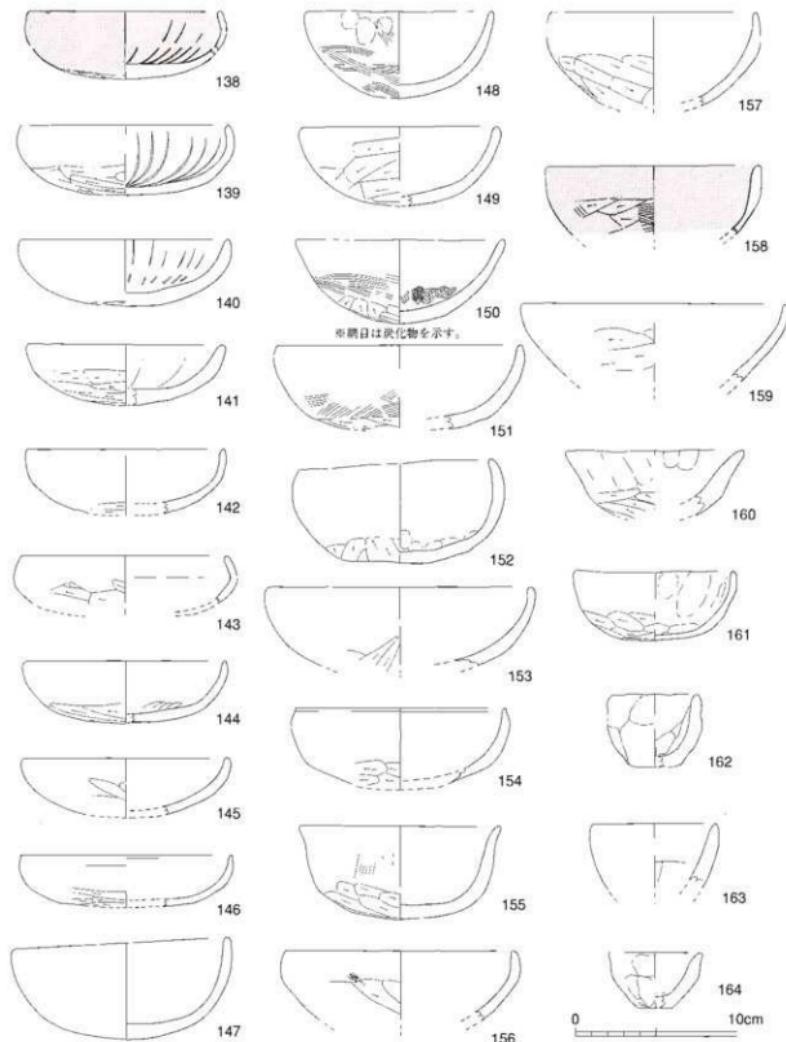


137

0 10cm

第60図 河道C遺構外出土土師器実測図(甕・鉢)

(4) 坯 (第61図138~164) 坩は口縁部の破片も含め52点が出土し、このうち27点を掲載した。138~146は坯部の浅いⅠ類、147~150は半円形のプロポーションをもつⅡ-a類、151~155はやや平坦な底部から内湾して立ち上がるⅡ-b類、156~159は体部が斜上方伸びるⅡ-c類、160~164は手捏ねのⅢ類である。



第61図 河道C遺構出土土師器実測図 (Hisho)

(5) 低脚坏 (第62図165～175) 165～175は低い脚をもつことから低脚坏とした。165～168は楕形の口縁をもつものである。165は内面に放射状の暗紋、外面にはミガキが施され、企面に赤色顔料が塗布されている。器壇が薄く端正な仕上がりとなっている。166～168は坏部が深く、脚底部に手持ちヘラケズリが施される。169～175は脚部の破片である。169は「八」の字に聞く長い脚部をもち、端部付近で更に大きく聞くものである。内面は放射状の暗紋、外面の高台取り付け部分にハケメが施される。170も坏部の深いものである。脚部内面にヘラケズリは施されず、坏部内面には5本の線刻をもつ。171は脚上端に坏部に差し込んで接合するための突起をもつ。172、173は指で摘み出すことで脚部を整形したものであり、無調整のままで高さも低い。174、175は充実した脚部をもち、脚底部をナデつけることによって壅みをつけている。

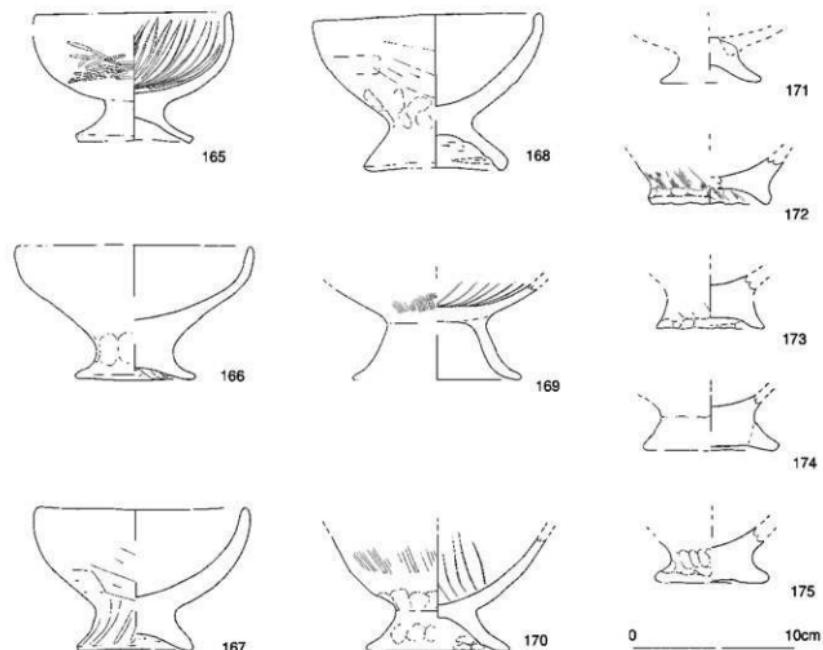
(6) 高坏 (第63図176～第66図219) 高坏の接合部分は136点が出土している。坏部の接合部0.5、脚部の接合部0.5、両方揃ったものを1個体として計算すると92個体以上となる。

176～179は口縁部と坏底部との境に段をもつI-a類である。I-a類はその殆どがE-2 i 技法による接合が行われていたが、179だけは例外的な接合方法がとられていた。脚が閉じているように見えるものであり、B接合を行った後、脚底部より粘土を付加し筒部を塞いでいる。赤色顔料が塗布されていることや器壇がやや厚いことからIII類に含まれるものかもしれない。

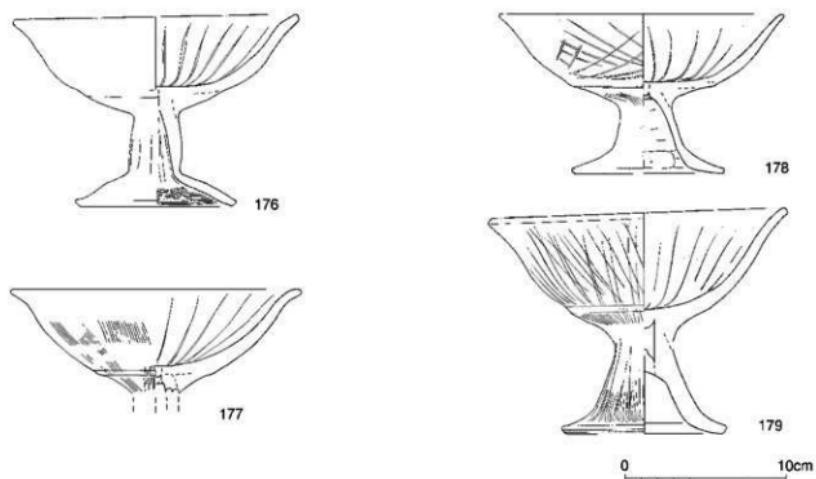
180～186は楕形の坏部をもつII類である。180～183は器壇が薄くE-2 i 技法により接合されたII-a類、184～186は器壇が厚くD-1 技法により接合されたII-b類である。

187～197は口縁端部が外反し、赤色顔料が塗布されるIII類である。187～189はBにより接合したのち、飛び出した粘土を丁寧にナデつけるIII-a類であり、198～201は同様の脚部と考えられる。198は脚部内面のナデ調整が省略されている。190は口縁端部が丸くおさめられ脚端部に内傾する面をもつIII-b類である。E-2 i 技法により接合されるが、坏底部と口縁の接合部分にハケメが観察でき、脚部と坏底部のみを先に接合整形した後、坏口縁部を作り足したものかもしれない。191、202も同様にIII-b類の破片と思われるものである。192は脚部はラッパ状に大きく開き、脚部の中央付近に接合痕があるIII-c類、193は坏部が皿状に大きく開き、充実した脚部をもつIII-d類であり、坏部と脚部の接合はD-1 技法である。194～197は口縁部が大きく外反し、充実した脚部をもつIII-f類であり、203～208も同様にIII-f類の脚部片と考えられる。

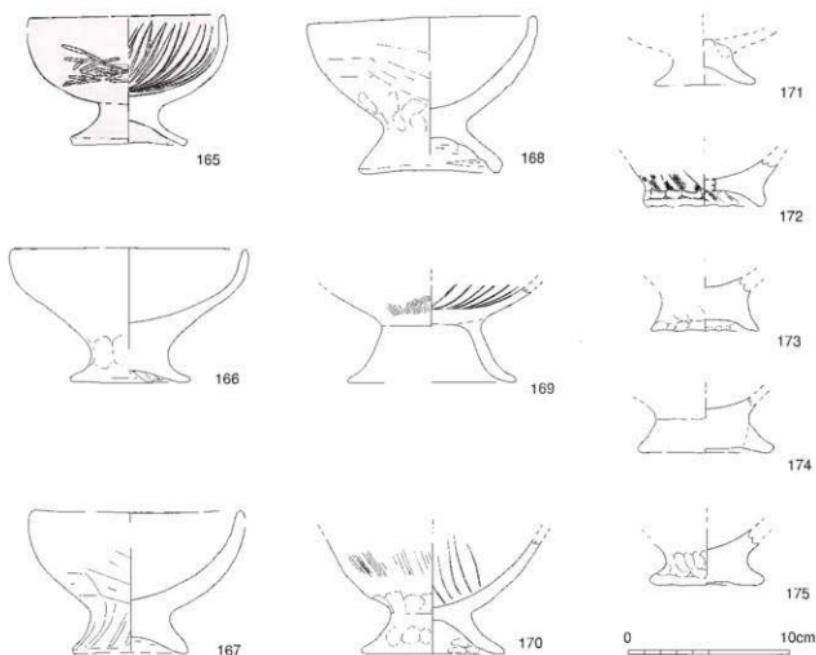
209～219は破片のためいずれとも判断し難いものである。209はA 技法により接合されたものである。A 技法により接合された高坏はこの1点だけが出土した。坏部内面より脚部に向かって小孔が開けられ、坏部側から粘土を補充し小孔が塞がれている。210、211はE-2 i 技法により接合されたものである。212～214は脚部内面に球面状の突起が観察できるB接合のものである。212はB-1により接合されている。215は脚部が閉じているように見えるが、脚部上端に棒状工具を差し込みそれを回転する事で三角錐状の穴を穿ち、B-2 i 技法による接合が行われている。216も脚部上端内面が横方向ケズリにより開いていることから同様の接合方法がとられたと考えられる。217はC、218はB、219はDにより接合されたものである。



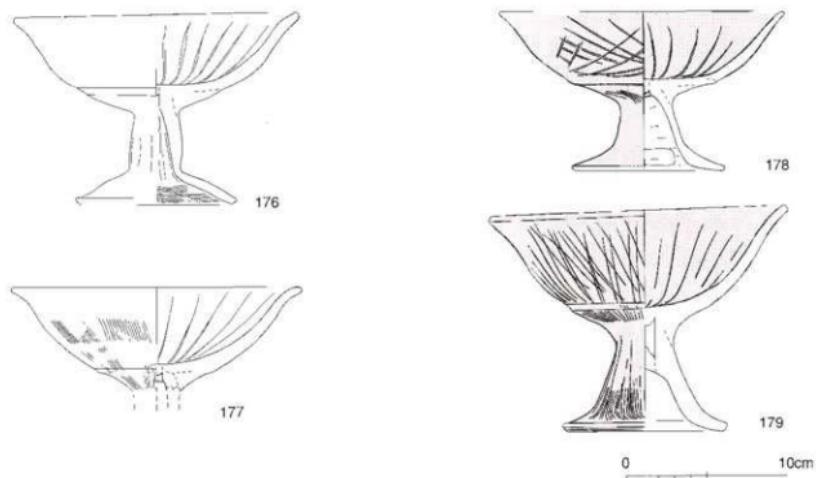
第62図 河道C遺構外出土土師器実測図（低脚杯）



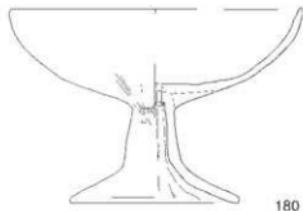
第63図 河道C遺構外出土土師器実測図（高環）



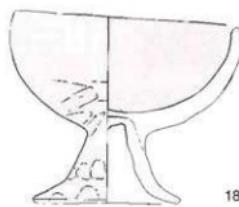
第62図 河道C遺構外出土土師器実測図（低脚坏）



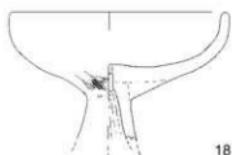
第63図 河道C遺構外出土土师器実測図（高坏）



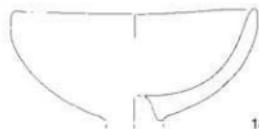
180



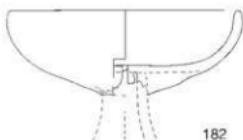
185



181



186



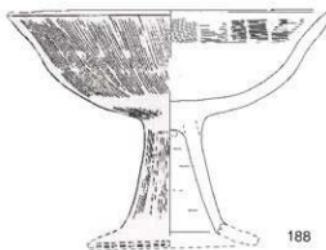
182



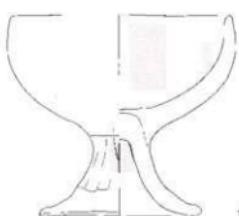
187



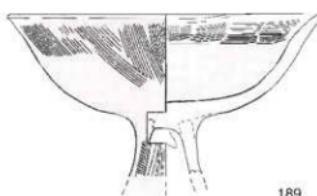
183



188



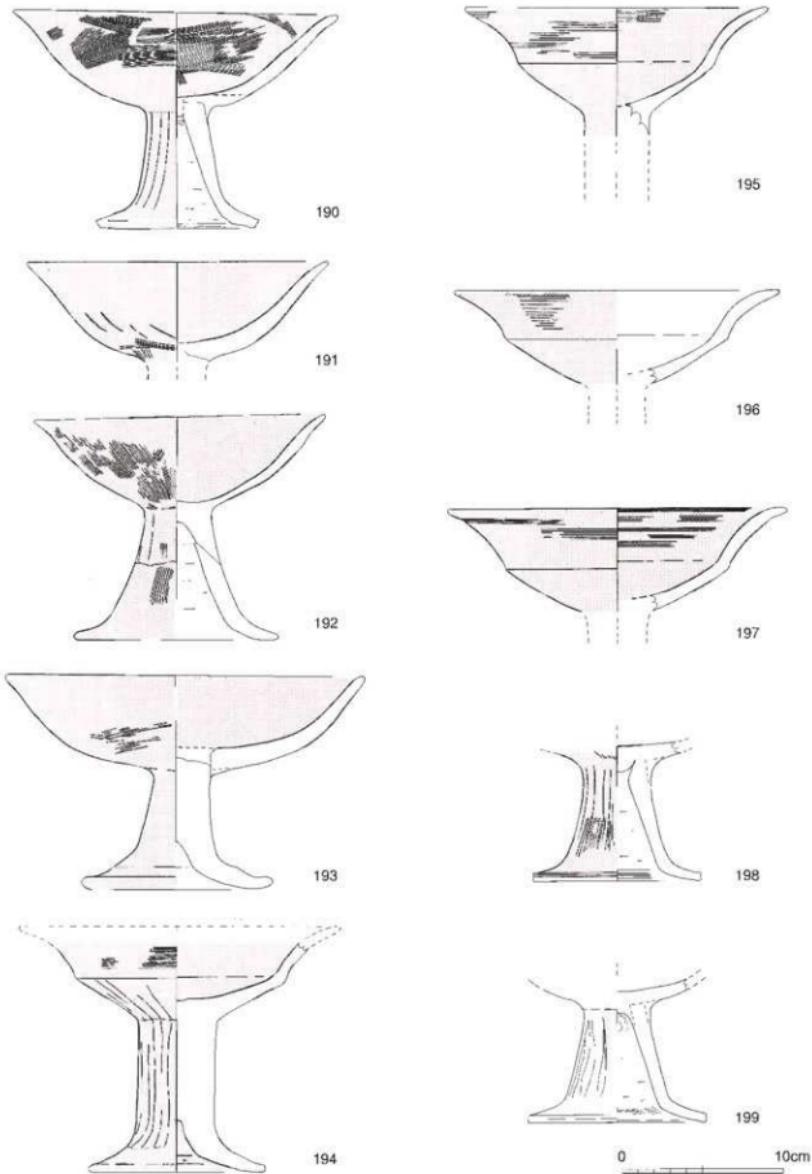
184



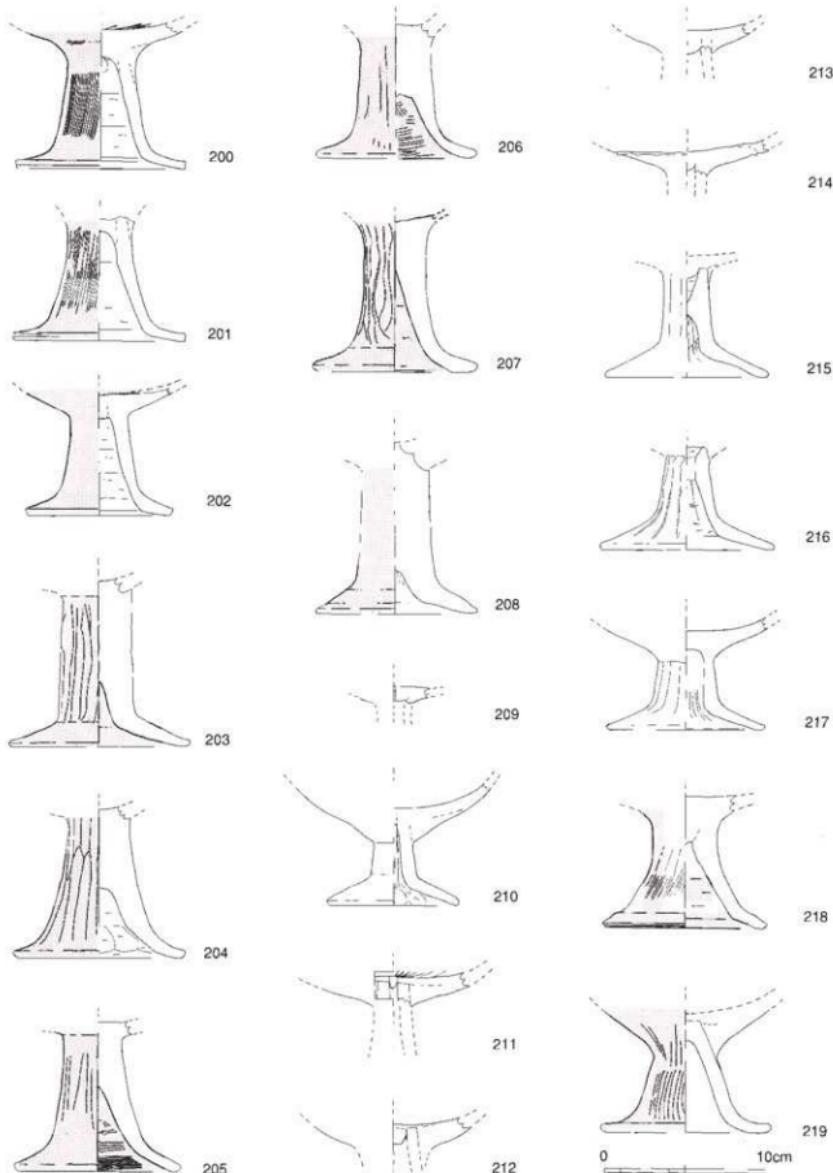
189

A scale bar indicating a length of 10 cm.

第64図 河道C遺構外出土土師器実測図（高環）

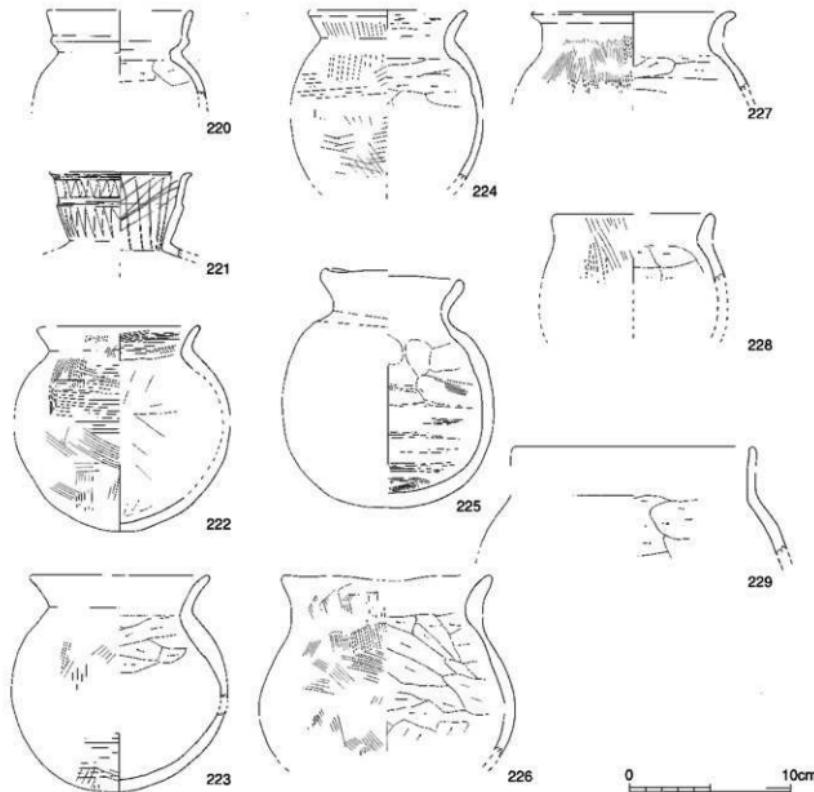


第65図 河道C遺構外出土土師器実測図（高環）

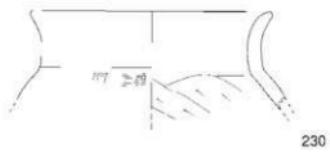


第66図 河道C遺構外出土土師器実測図（高坏）

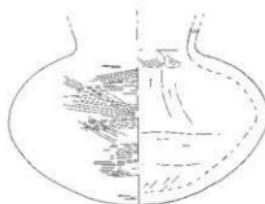
(7) 直口壺 (第67図220~第68図240) 220、221は複合口縁をもつI類である。220は内面頸部以下にはヘラケズリ、その他にはヨコナデが施される。221は直角に近く立ち上がる複合状の口縁をもち、端部は外方に折り曲げられ面をもつ。外面には横方向の暗紋で区切られた中に波状の暗紋、内面は放射状の暗紋が施される。222~237は単純口縁をもつII類である。222、223は「く」の字に屈曲する短めの口縁をもつII-a類、224、225は肩長のII-b類、226~228は撫で肩で口縁もややだれ気味のII-c類、229はなだらかに下がる肩部に直立する口縁がつくII-d類、230~232は真っ直ぐに立ち上がる口縁の先端が外方に折り曲げられたII-e類、233、234は扁平な球形の体部から、逆「ハ」の字状に立ち上がる短い口縁をもつII-f類であり、235も口縁を欠いているが同様な形状をもつと思われる。236は扁平な球形の体部から、直立する長い口縁をもつII-g類、237は肩部から直立気味に立ち上がる口縁をもち、口縁の平面は梢円形となるII-h類である。238~240は手捏ねのIII類とした。



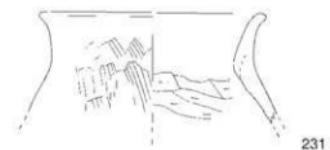
第67図 河道C遺構外出土土師器実測図（直口壺）



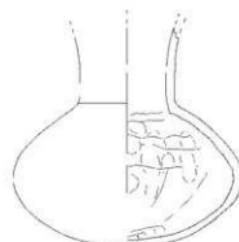
230



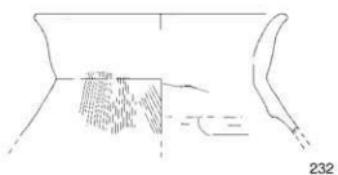
235



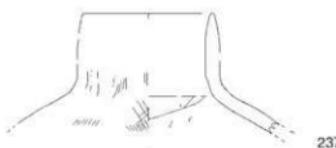
231



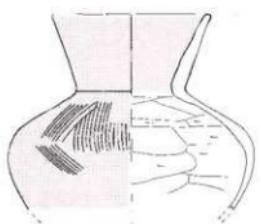
236



232



237



233



238



234



239



240

0 10cm

第68図 河道C遺構外出土土師器実測図（直口壺）

(8) 鼓形器台（第69図241～244） 241～244は鼓形器台の破片であり、完形に復元できる個体はなかった。筒部の縮約が進んだ時期のものであり、調整は受部内面がミガキ、裾部内面にはケズリが施される。244は受部外面にも縦方向のミガキをもつ。

(9) 瓶形土器（第69図245～247） 245～247は瓶形土器の破片と考えられる。245は胴部の破片であり、内面が縦方向のヘラケズリ、外面には縦方向のハケメが施される。246は把手部分であり、胴部に差し込んで取り付けられている。247は裾端部の破片であり底径38.7cmを測る。

(10) 瓶（第70図248～第71図258） 248～258は瓶である。248は底部に棒状粘土による管の子支えがつくタイプのものである。緩やかに斜上方に立ち上がる体部には牛角状の把手が取り付けられ、口縁部は緩く外反する。調整は外面が縦方向のハケメ、内面はヘラケズリが施される。他の瓶に比べ、やや小ぶりなものである。249は直線的に立ち上がる口縁をもち、胴部に牛角状の把手が差し込んで取り付けられている。調整は外面と口縁内面がハケメ、内面の口縁部以下にヘラケズリが施される。250～254は把手であり、強く折れ曲がるものや直線的なものなど様々である。図面に掲載したものも含め把手は28点（14個体分以上）を数える。255～258は底部部分の破片であり、底部に棒状の棧を渡すものである。このような棒状粘土の管の子支えは5点（3個体分以上）を数える。

(11) 窯（第72図259～第74図263） 259～263は移動式の窯である。焼き口外縁部に粘土帯を張り付けた庇をもつ。調整は外面が縦方向のハケメ、内面全体にヘラケズリを施す。頸部内面径は259が19.2cm、260が28.9cm、261が22.6cm、262が21.6cm、263が20.9cmを測る。掲載したものを含め窯口縁の破片は23点出土している。口縁部分の残存率（完形のものを100%）で計算すると416%となり、5個体以上が出土していることになる。

(12) 製塙土器（第75図264～273） 河道C造構外からは製塙土器口縁の破片が16点出土しているが、完形に復元できるものはなかった。264～270は口縁端部の破片である。264～267は口縁付近から大きく開き、端部を内側に括れさせる。268～270は口縁端部内面を強くナデつけるものである。いずれも二次焼成を受け変色し、調整は内外面ともにナデであるが、外面に比べると内面はやや大雜把であり、紐作りの痕跡がよく残る。口径は歪な形をしているため同じ個体においてもばらつきがでたが、およそ11.0～12.3cmと考えられる。271は胴部部分の破片である。やや開き気味に立ち上がる体部は口縁付近から大きく開く。272、273は製塙土器底部の破片と考えられる。低脚タイプのもので所々に指頭圧痕が残る。272は底径4.25cm、273は4.4cmを測る。

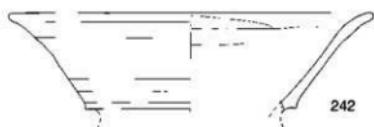
(13) 不明品（第76図274、275） 274は底部と口縁部がともに開いた瓶状を呈するものである。丸みをもった底部から体部は真っ直ぐに立ち上がり、端部は内傾し丸くおさめる。外面下段に粘土紐による積み上げがみられ、調整は内面がミガキ（工具によるナデか）、外面はミガキ状の痕跡が残る。胴部上半は二次焼成のためか表面の剥離が著しい。法量は口径14.4cm、器高16.0cm、底径5.5cmを測る。275は一見すると弥生前期の広口壺に酷似するが、内面に横方向のケズリが施される。底部となる可能性もある。口径30.6cmを測る。



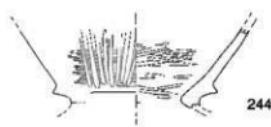
241



243



242



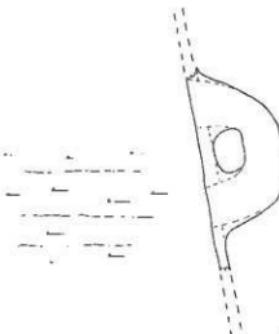
244



245



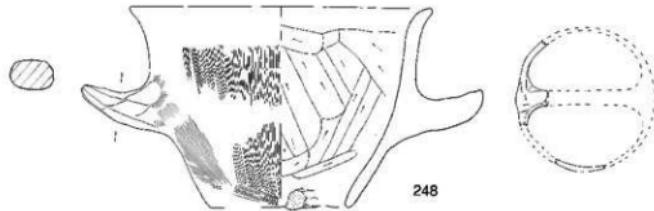
246



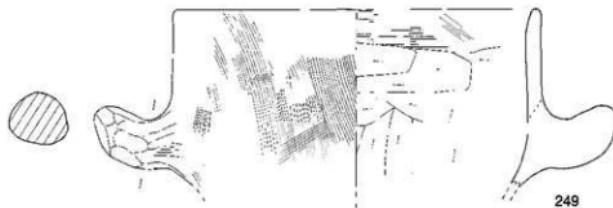
247

0 10cm

第69図 河道C遺構外出土土師器実測図（鼓形器台・瓶形土器）



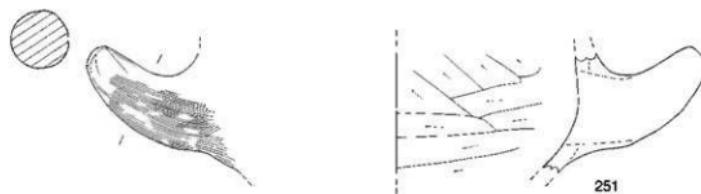
248



249



250



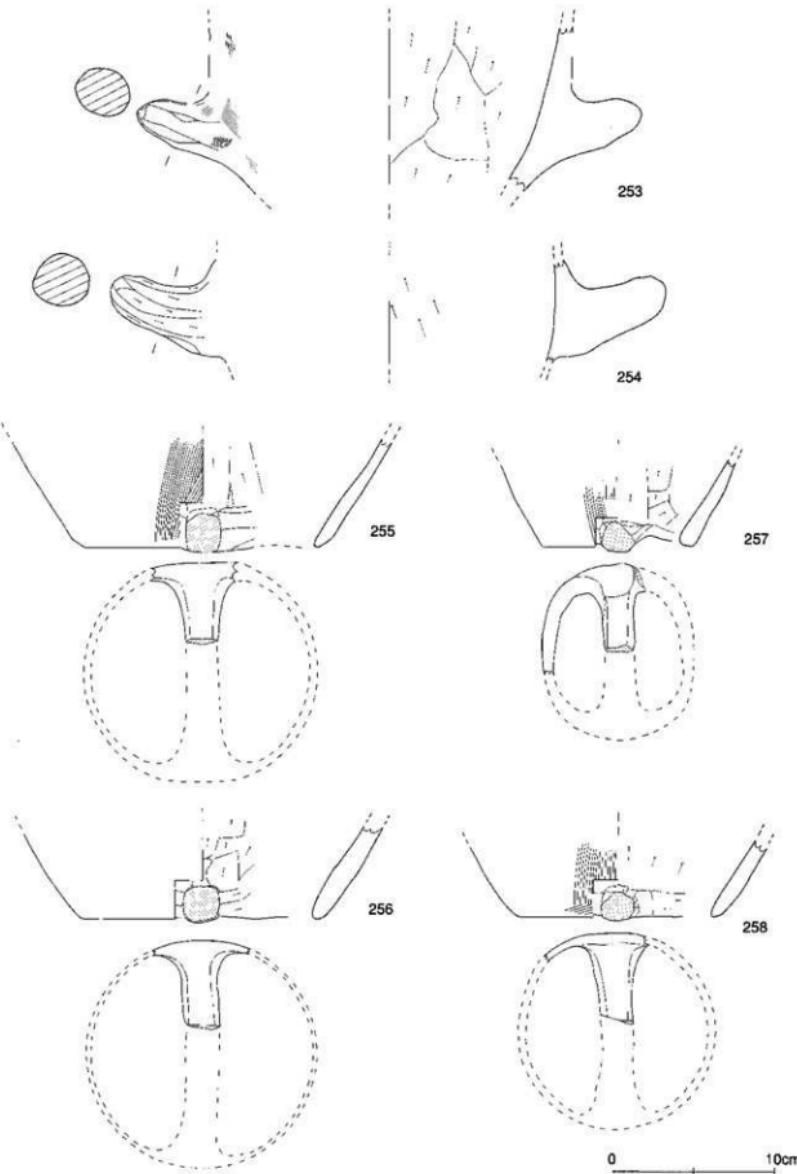
251



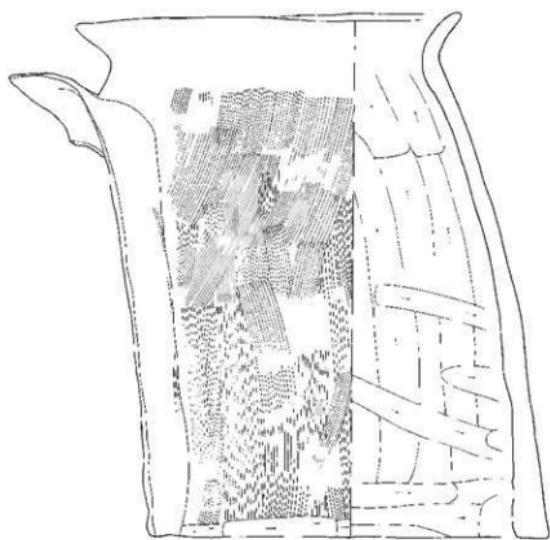
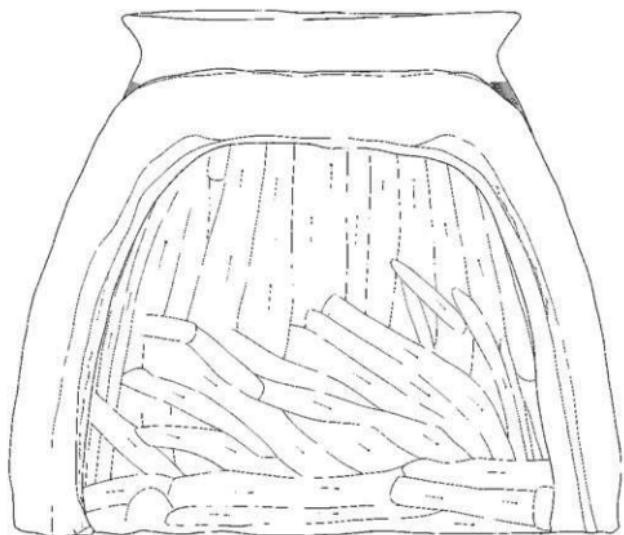
252

10cm

第70図 河道C遺構外出土土器実測図(瓶)



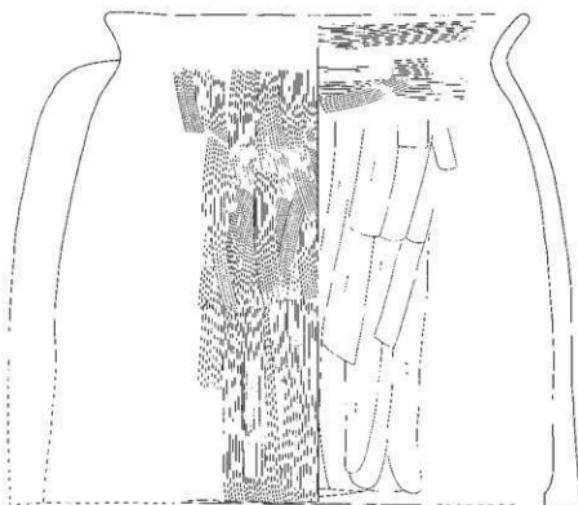
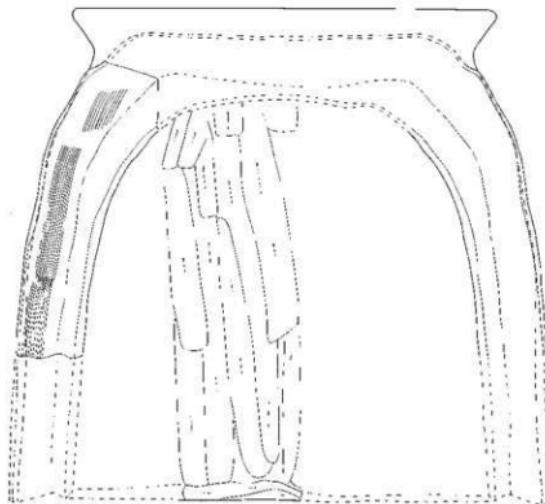
第71図 河道C遺構外出土土師器実測図(観)



259

0 10cm

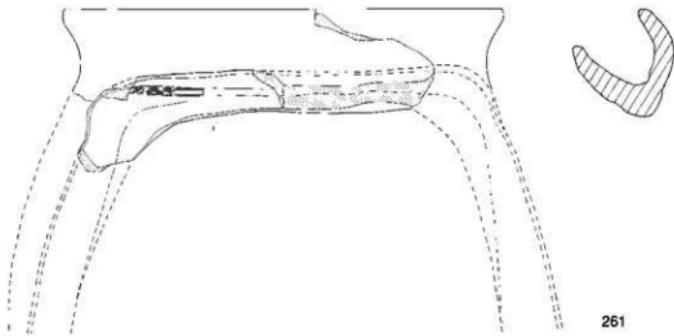
第72図 河道C遺構外出土土師器実測図（竈）



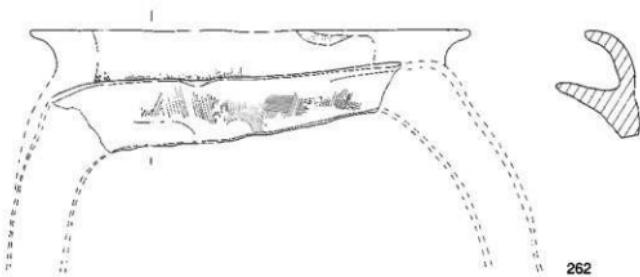
260

0 10cm

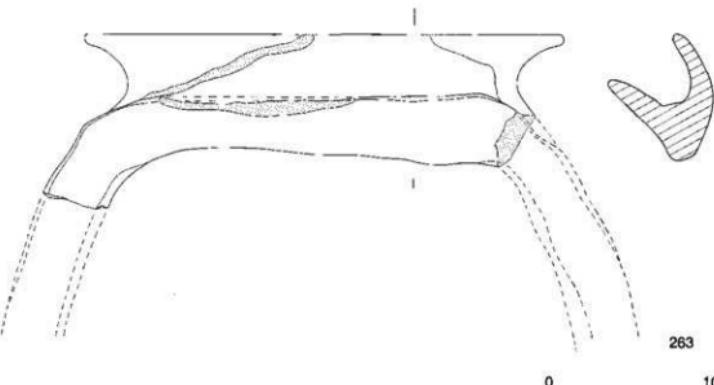
第73図 河道C遺構外出土土師器実測図（竈）



261



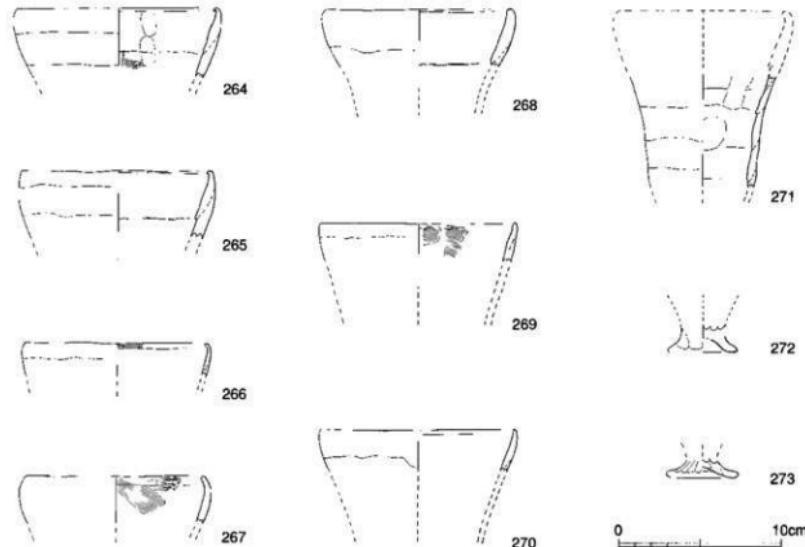
262



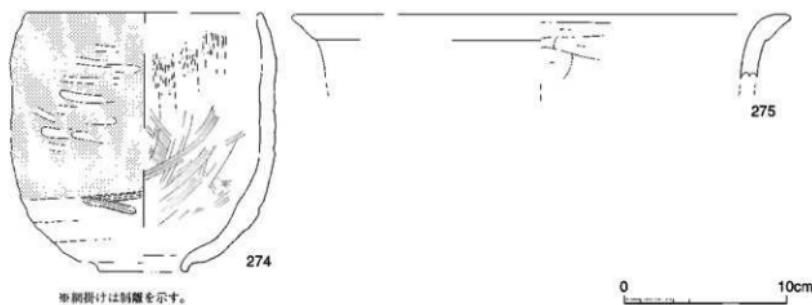
263

0 10cm

第74図 河道C遭構外出土土師器実測図（窓）



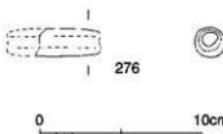
第75図 河道C邊構外出土土師器実測図（製塙土器）



第76図 河道C邊構外出土土師器実測図（不明品）

#### 4. 土製品（第77図276）

276は土錐である。一端を欠いているため本来の長さは判らないが、残存長4.0cmを測る。中央部の張り出しは弱く、幅1.5~1.8cmを測る。



第77図 河道C邊構外出土土製品実測図

## 5. 須恵器(第78図277～第85図391)

(1) 壱壺(第78図277～第80図351) 河道C遺構外からは大谷編年出雲1期から6期までの壺蓋が出でている。時期的には2期に属する壺蓋A2型と4期に属するA4～A6型の割合が高い。内訳は1期の壺(A1型)4点、2期の壺(A2型)61点、3期の壺(A3型)2点、4期の壺(A4～A6型)37点、5期の壺(A7型)7点、6期の壺(A8型)1点である。

277～280は天井部を欠くが、A1型の壺蓋と考えられる。稜は鋭く突出し、口縁端部に段をもち、外側が折れ気味に膨らむものである。器壁は薄く、口径12.0～12.4cmを測る。

281～301はA2型の壺蓋である。第13表で分類したI類は4点(281～284)、II類は6点(285～290)、III類は14点のうち11点(291～301)を掲載した。

302、303は丁寧なヘラケズリが施され器壁が薄く大型のA3型である。口縁内面に調整が加えられるA3a型であり、口径はそれぞれ14.3cm、14.0cmを測る。

304～311はA4型の壺蓋である。304～309は口縁部内面のやや上方に一条の沈線が巡るものであり、口径12.3～13.4cmを測る。310、311は口縁部が丸くおさめられ厚みが均一なものであり、口径はそれぞれ12.1cm、12.6cmを測る。311の内面には漆と考えられる黒色の付着物がある。

312～315は口縁端部が内湾するものであり、口径は12.2～13.3cmを測る。312はヘラケズリ後ナデ、313は口縁端部内面のやや上がった位置に沈線、314は天井部にヘラケズリが施されるなど古手の要素をもつが、全体のプロポーションからA7型に含めた。

316は口径が10.9cmまで小型化したものであり、A8型と考えられるが、口縁の内湾が弱く、天井部もやや平らなことからC2型の壺身となる可能性もある。

317～321は天井部を欠いているため詳細な形式はわからないがA4～A6型に含まれるものであり、25点のうち5点を掲載した。317、318は口縁端部を丸くおさめるもの、319～321は口縁部内面に一条の沈線を施すものである。321の内面には漆と考えられる黒色の付着物がある。

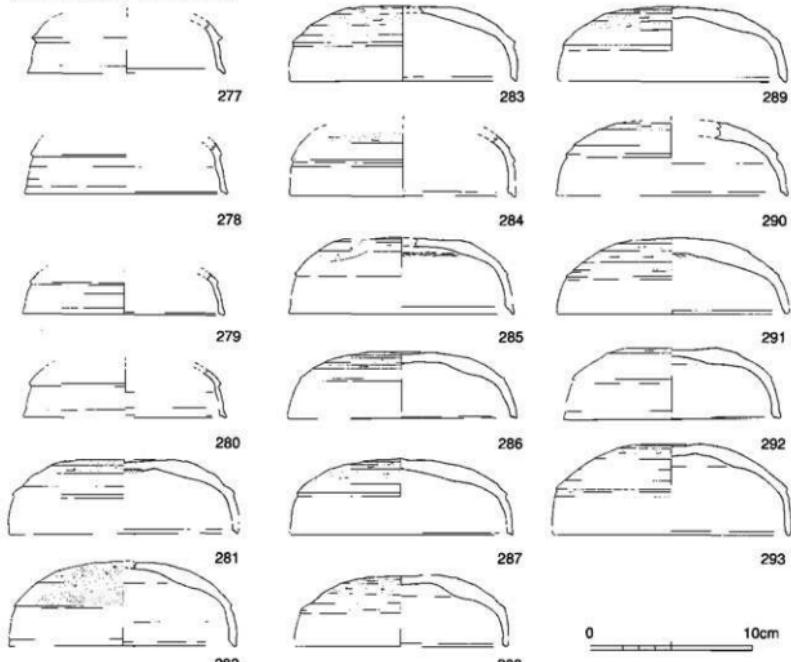
322～351は壺身である。壺身の内訳はA2型に伴うもの23点、A2a型の底部がないもの13点、A3型に伴うもの3点、A4～A7型に伴うもの10点、A4～A7型に伴う身のうち天井部がないものの18点、A8型に伴うもの1点、A8型に伴う壺身かC型の壺と考えられる口縁部の破片6点である。322～335は口縁の立ち上がりが高くA2型に伴う壺身と考えられる。322～325は口縁端部に段をもつA2a型であり、326～333は段をもたないA2b型である。334、335は便宜的にここに記載したが、A2a型の底部がないものであり、A1型の壺身か有蓋高壺E1型の口縁の可能性もある。336～338はやや大型なことからA3型に伴うものと思われる。339～350は壺蓋A4～A7型に伴うものである。349、350は底部を欠き、有蓋高壺の可能性も考えられる。339の内面には漆と考えられる黒色の付着物がある。351は小型化したものであり、A8型に伴う身と考えられる。

(2) 高壺(第81図352～369) 352～356は有蓋高壺である。352は方形透かしを1段3方に入れ、脚端部が下方へ突出する有蓋高壺E1型である。353は底部にカキメをもち、同様の壺部と考えられる。354は三角形透かしを2段千鳥に施すB型である。355は上段の3方に三角形透か

しをもち、カキメが施されることから同様にB型と思われる。356は透かしではなく、脚端部に返りをもつものであり、出雲地域ではあまり例をみないものである。時期は、高く直立する口縁をもつことから、出雲1期併行のものと考えられる。

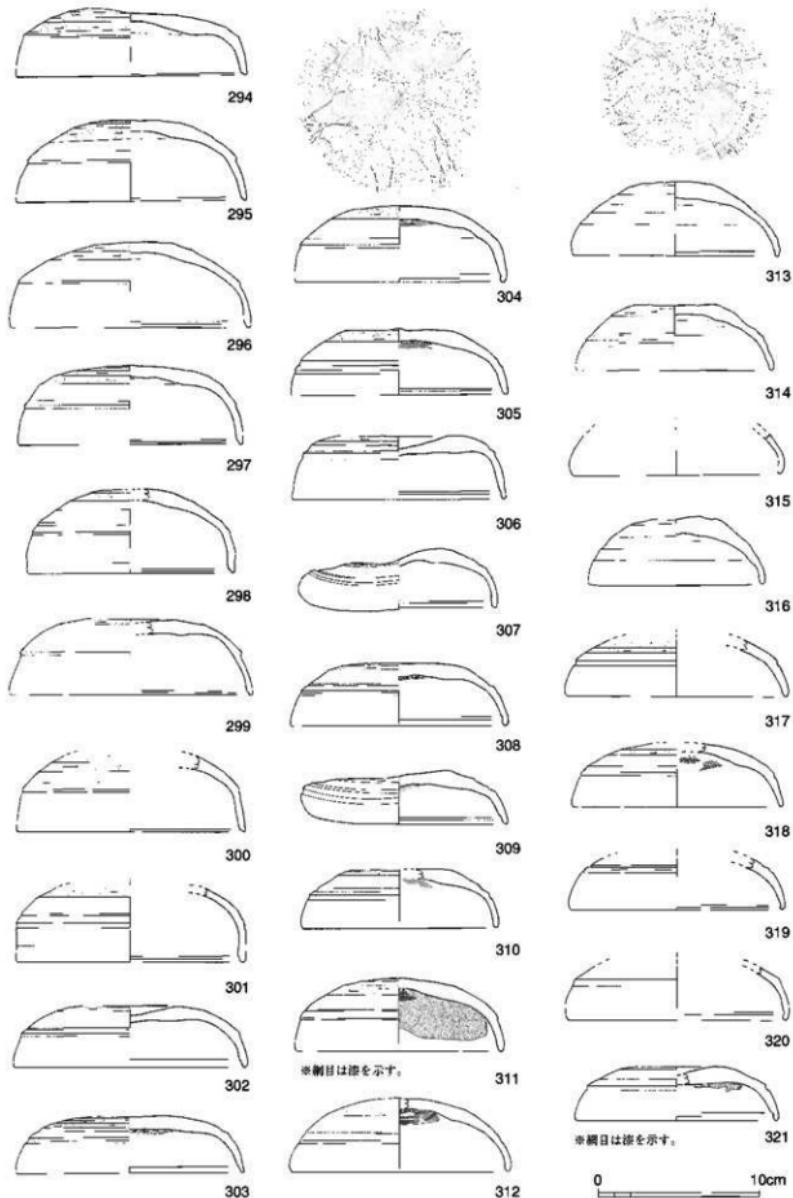
357～363は無蓋高坏である。357は大きな方形の透かしを3方に入れ、脚端部は下方へ突出する。坏部は底部から体部にかけ緩やかに立ち上がり、口縁部に段を設けるA1型である。358も同様にA1型に含まれるものである。359、360はやや外反する口縁端部をもち、脚部は2方向に三角形透かしを入れる。低脚無蓋高坏A4型の範疇に含まれるものであろう。361～363は大谷編年の分類にないものである。361は半円形の坏部の外面に沈線による段をもち、口縁内面にも段を有する。円柱状の脚筒部をもち、裾部分に円孔透かしが3方向に入る。調整は外面全体にカキ目が施される。362は坏部が丸みをもって立ち上がり、外面に段を有する。口径9.2cmを測る小型のものである。363は丸みをもって立ち上がり外面に2条の沈線をもつ。

364～369は脚部の破片である。364、365は端部が下方に突出し、方形の透かしをもつ有蓋高坏E1型か低脚無蓋高坏A1型の脚部と考えられる。366、367は三角形2方透かしをもち、低脚無蓋高坏A4型と思われる。368は長脚無蓋高坏B3型か有蓋高坏C型であろう。369は3方向に円孔透かしを施すものである。

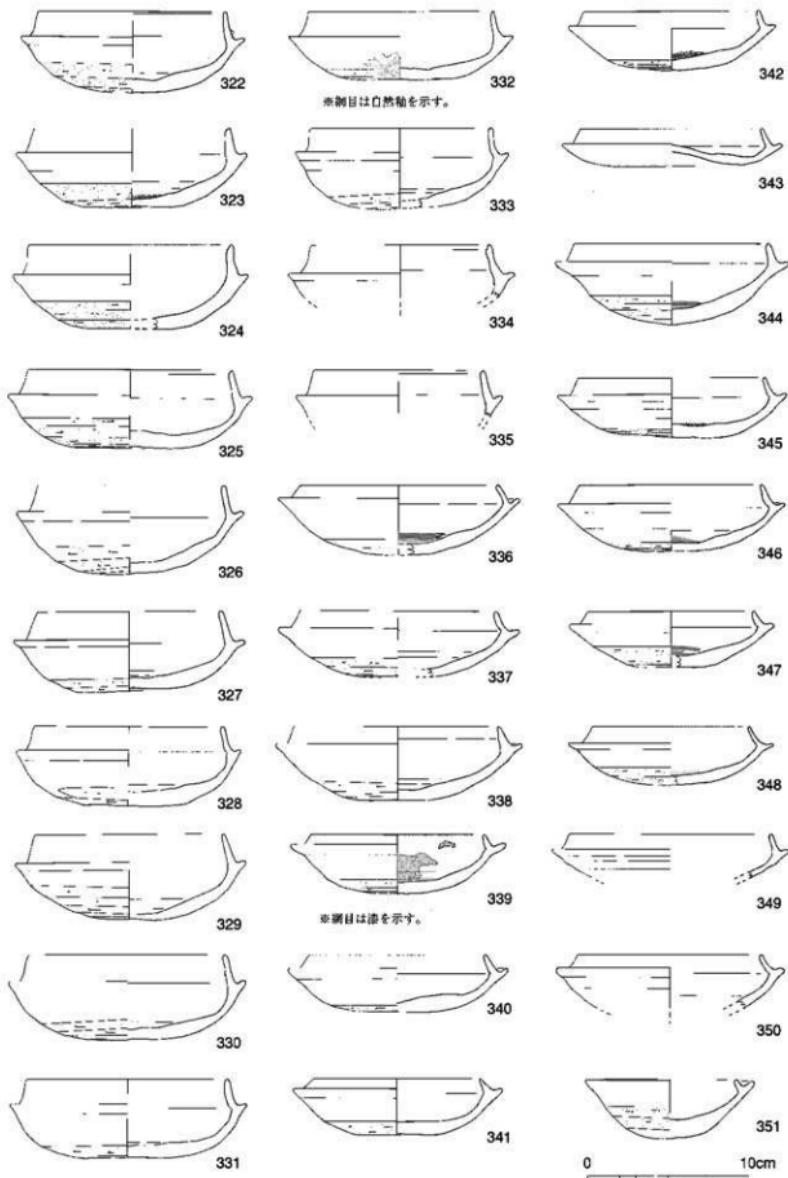


\*網掛けは自然縫を示す。

第78図 河道C 遺構外出土須恵器実測図（蓋坏）



第79図 河道C遺構外出土須恵器実測図（蓋坏）



第80図 河道C遺構外出土須恵器実測図（蓋環）



第81図 河道C造構外出土須恵器実測図（高坏）

(3) 壺・甕（第82図370～第83図375） 370は壺である。肩部は強く張り出し、胴部最大径は中央よりやや上がった位置にくる。調整は外面がタタキ、内面には同心円当て具痕が残る。壺の内部からは口縁の破片と共に鉈（刀子か）1点と多数の臼正が出土している。第31図152からも同じように臼正が出土しており、祭祀に関連したものと考えられる。図は壺の内部から出土した口縁端部の小片を図上で復元したものである。371～375は壺類口縁の破片である。371は口縁端部が薄手の二重口縁のもの、372～374は端部を肥厚させるもの、375は端部を強く外方に折り曲げるものである。371、372の外面には振幅の細かい波状文が施されている。

(4) 直口壺（第83図376、377） 376は複合状の口縁をもつ丸底の壺である。よく張り出した肩部をもち、口縁は斜上方に伸びる。外面の調整は底部がハケメ、肩部に刺突文が巡り、口縁下半には波状文が施される。内面は底部がナデ、その他は回転ナデである。377は胴長で口縁が斜上方に伸びる底部の破片である。調整は外面底部が回転ヘラケズリ、その他は回転ナデが施される。

(5) 頸（第83図378～382） 378、379は口縁部の破片である。端部に段をもち、378は頸部に379は口縁に振幅の小さな波状文が巡る。380、381は胴部の破片である。380は頸部が太いものであり、注口の上と下に沈線を入れ、ここに斜行刺突文を施す。底部内面には指頭圧痕が顯著に残る。381は頸部から体部下半にかけてカキ目が施されるものであり、丸底でヘラケズリは施されていない。

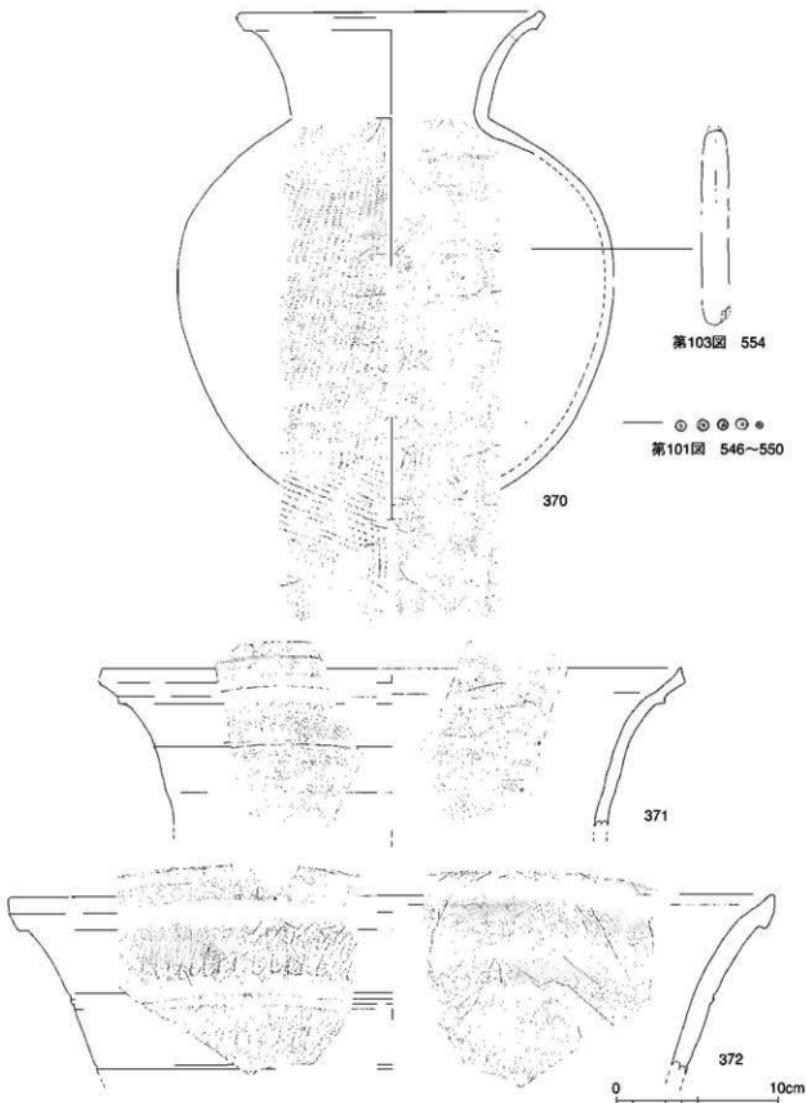
382は子持ち壺の子壺である。作りは端正で太めの頸部をもち、口縁端部はするどく段状に仕上げられている。胴部を沈線と斜行刺突文で飾り、頸部と口縁外面には波状文が施される。特筆すべきは前田遺跡の東、500mの場所に位置する増福寺20号墳から出土<sup>313</sup>した親壺と接合できたことである。第84図383は親壺との接合状況である。本来は親壺の肩部に4個の子壺が取り付けられていたものであり、このうちの1個が前田遺跡から、もう1個が親壺と一緒に20号墳の西裾平坦面からつぶされた状態で出土している。残る2個の子壺は発見されていない。

(6) 器種不明品（第85図384～387） 384は胴部に突帯が巡る壺の類である。肩部に円形の刺離痕をもつことから、子持ち壺胴部の破片と思われる。調整は内外面ともに回転ナデが施される。385は内湾気味に立ち上がる体部をもち、口縁は僅かに外方に折り曲げられ内面は括れるものである。調整は内外面ともに回転ナデが施される。386は内湾気味に立ち上がる体部の底に丸い圧痕があり、そこから放射状にヘラ状工具による線刻が伸びる。脚部のとれた高坏かもしれない。387は底部の端から高台状に伸びる脚をもち、先端は尖る。樽形埴の可能性がある。

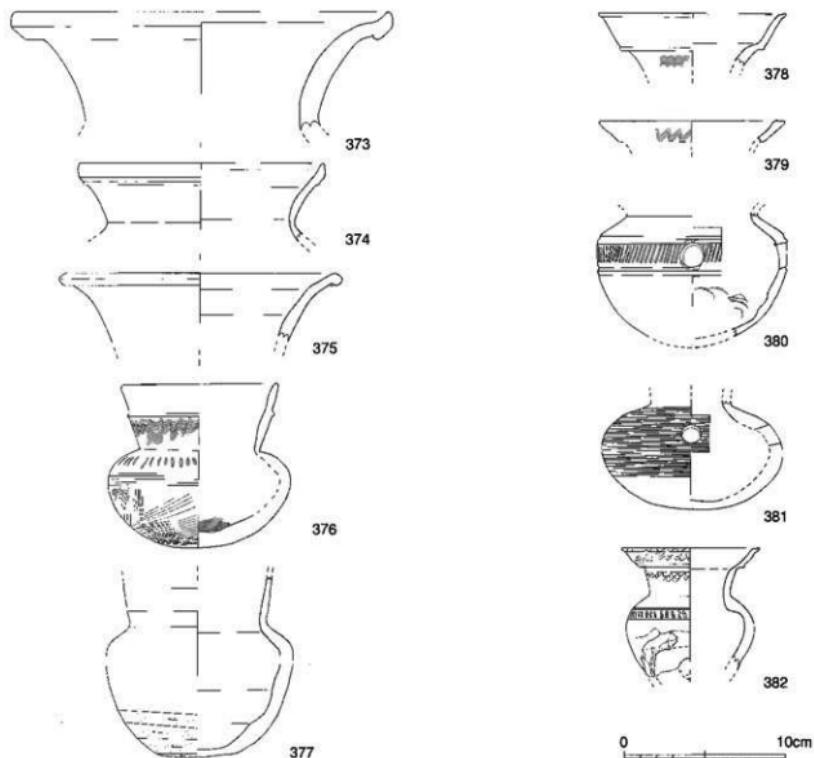
## 6. 不明土器（第85図388～391）

388～391は胴部部分の小片であり、韓式系土器かもしれない。388は小型の壺類胴部の破片である。外面には格子状のタタキが施され、内面は當て具痕をナデ消しているようである。焼成は良く焼き締まり、内面は暗紫灰色を呈する。389は壺類胴部の破片である。外面は格子状のタタキ、内面には青海波紋をもつ。焼成は瓦器に類似するものである。390は壺類頸部付近の破片である。外面は細かい平行タタキのち、原体工具のようなものでナデつけ、内面は當て具痕跡とみられる凹凸をハケメ状工具によりナデている。焼成は軟質であるが土師器とは異なる。

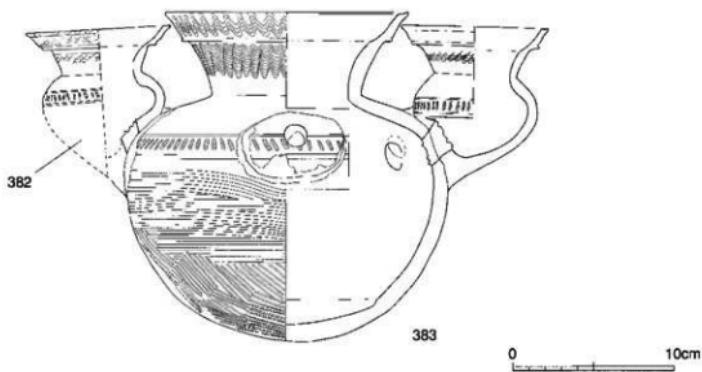
391は壺頸部の破片である。外面には格子タタキが施され、内面は風化のため判然としないがナデが施されているようである。焼成は軟質であるが土師器とは異なる。



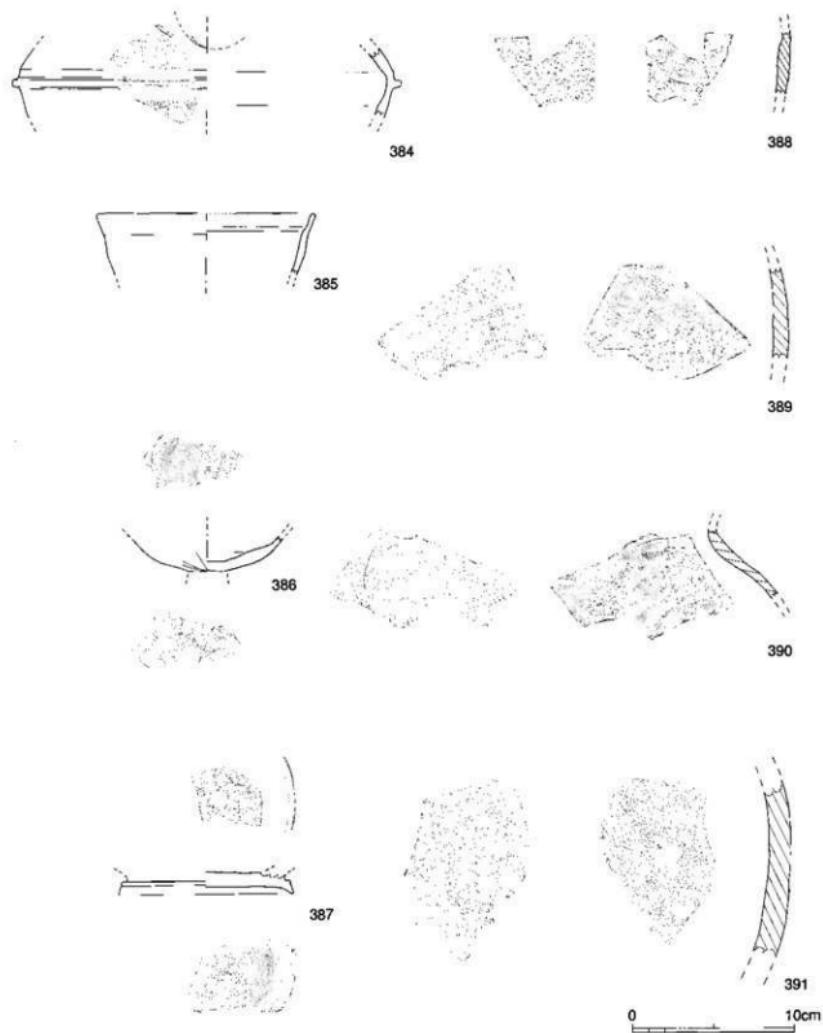
第82図 河道C 遺構外出土須恵器実測図（壺・壺蓋類）



第83図 河道C遺構外出土須恵器実測図（壺壺類・直口壺・甌）



第84図 増福寺20号墳出土子持ち甌との接合状況実測図



第85図 河道C造構外出土遺物実測図（須恵器器種不明品・不明土器）

## 7. 木製品（第86図392～第98図526）

### (1) 工具（第86図392～395）

392～395は短い角棒の先端を薄く尖らせたものであり、楔とした。法量は392が長さ11.7cm・幅3.0cm・厚さ2.5cm、393は長さ9.1cm・幅2.0cm・厚さ1.6cm、394は長さ15.2cm・幅2.6cm・厚さ2.4cm、395は長さ16.9cm・幅2.4cm・厚さ1.8cmを測る。395は角棒の両端を薄く尖らせたものであり、縦断面が平行四辺形となる。いずれのものも横断面形は方形を呈する。

この他、第34図172の琴、第88図421の馬歎？、第91図450の机か腰掛の脚板に厚さの薄い楔が打ち込まれている。

### (2) 農具（第86図396～第88図423）

396～398は曲柄平歎である。396は着柄軸の下部からゆるやかに広がって刃部に至る曲柄平歎CⅢ式、397は笠の下の括れから徐々に幅を増し、刃部が下ぶくれとなるDⅠ式、398は刃部先端付近の両側が括れるDⅢ式に相当する。ブナ科アカガシ亜属の柾目材が用いられている。

399は曲柄又歎である。笠の下のくびれから外彫しながら幅を増し、刃部がほぼ平行に伸びる曲柄又歎DⅢ式に相当する。ブナ科アカガシ亜属の柾目材が用いられている。

400、401は刃部部分を欠損しているため詳細は不明であるが、笠をもつことから曲柄歎身のD類に含まれるものと考えられる。広葉樹の柾目材が用いられている。

402は組み合わせ歎である。軸部から緩やかに広がり刃部に至る。刃部の両側はほぼ平行して伸びるため刃部幅と肩幅に大差はない。身の前面後面は不明瞭であるが、刃縁の片側は深目に削り、前後の区別を付けているようである。身の中央やや上寄りには $4.8 \times 2.6\text{cm}$ を測る柄孔が両面より開けられている。一般的にはあまり使用されないヒノキの追柾目から柾目材が用いられている。

403、404は歎、或いは鋤の断片と思われる。403は刃部先端に括れをもつものである。404は中央部分が隆起するものである。いずれも広葉樹の柾目材が用いられている。

405～410は芯持材以外で丸い棒状に加工されたものであり、柄として分類した。405は鋤柄の把手部分の断片と考えられる。平面台形状の把手をもち、断面は方形を呈する。406は出土地点などから前述の組み合わせ歎402の柄として使用されたものかもしれない。逆三角形状の把手をもち、把手断面は長方形、柄部断面は円形を呈する。材質はヒノキ科ヒノキ属製である。407は基部端のやや下がった位置に浅い括れを設け頭部を作り出す。柄は断面隅丸方形を呈し、一方の端を欠く。408は両端を欠くもので断面は橢円形を呈する。409は握り部分から柄軸に向かって徐々に幅を減じながら端部に至るものである。握り部分の断面は $2.6 \times 2.1\text{cm}$ の隅丸方形を呈し、柄軸は径 $1.9\text{cm}$ を測る円形となる。欠けた端部の形状や木質などから前述した杓子状木器第33図171の柄となるものかもしれない。410は完形のものである。基部端を削り残して断面隅丸方形の把手状に加工し、もう一方の端は先細りする。全長 $116.4\text{cm}$ を測る。

411は無節式の縦杵であり、片方の搗き部は欠損する。端部近くの径が最大で握り部に近づくに従い径を減じ、搗き部と握り部との境が不明瞭なCⅡ類である。搗き部最大径 $10.0\text{cm}$ 、握り

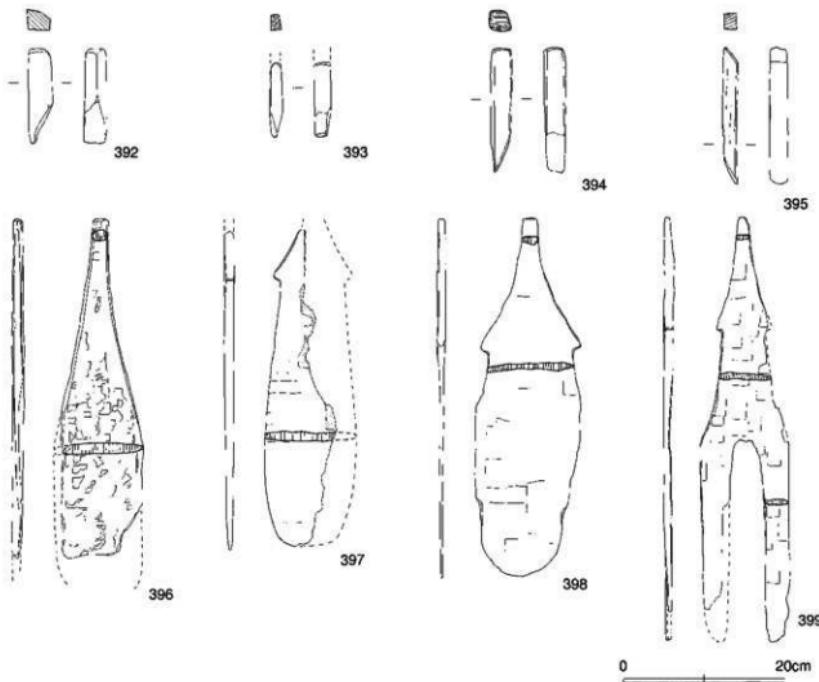
部径2.3cm、残存長39.7cmを測る。

412、413は横柾である。412は長さ19.0cmを測る敲打部の下部中央に径3.7cm、長さ10.0cmを測る柄をもつ。敲打部の中央は使用痕のため窪む。ヒノキ科ヒノキ属の芯持材が用いられている。413は長さ17.3cm、径8.1cmを測る円柱状を呈する敲打部の破片である。下部中央には径2.7cmを測る柄の剥離痕が残る。敲打部の中央両面には使用痕があり、横断面が扁平な円形となる。

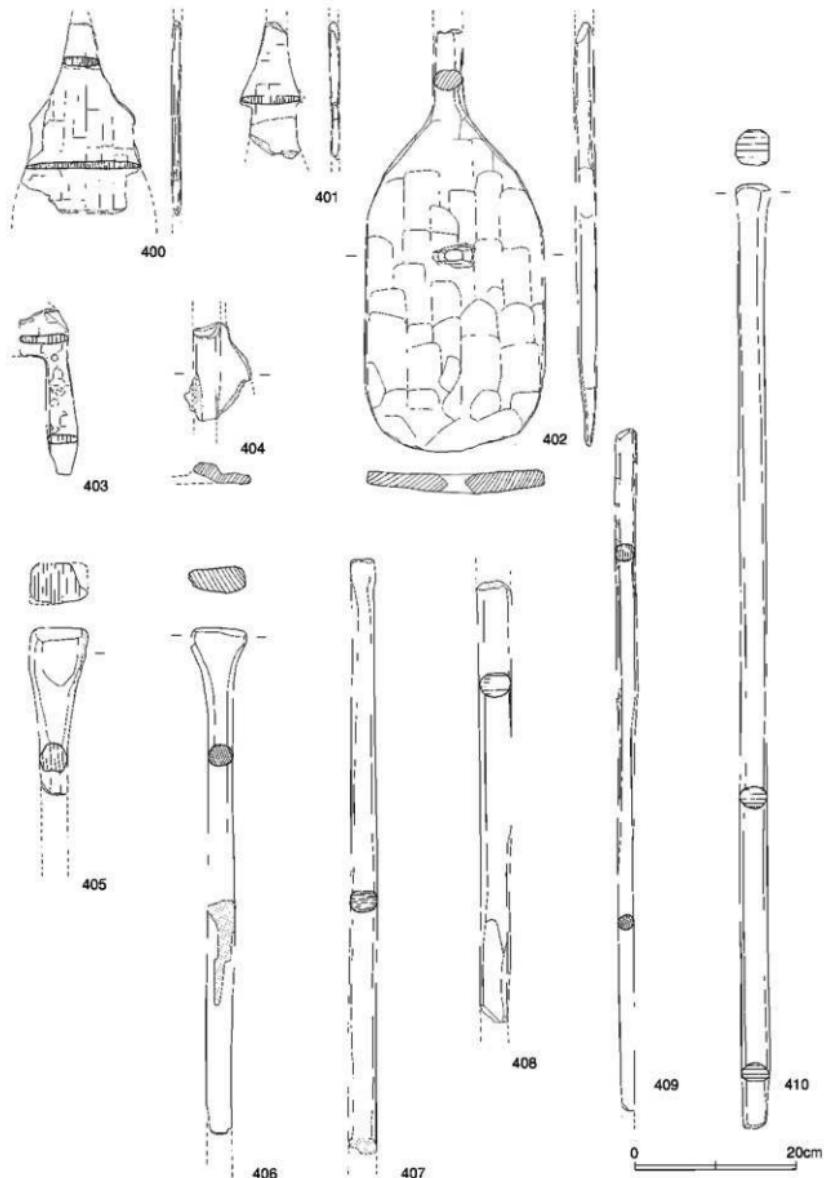
414～420は短く切断した芯持材の両端近くから中央に向かって削りこむ木錘4類である。

421は幅3.4cm×厚さ3.9cmを測る断面方形の棒に角孔を貫通させたものである。現状で4個の角孔が残り、この内2つに木製楔で止めた痕(?)が残存している。角孔間は心身距離で平均8.4cmを測る。端から1本目と2本目の角孔の間には、この角孔と交差するように3.8×1.9cmを測るやや大きめの孔が開けられている。馬歛かもしない。422も421と同様の形状をもつが、幅3.2cm×厚さ2.5cmを測るやや小ぶりな角棒である。また、角孔間の心身距離も平均5.8cmと若干狭い。両端を欠いているため端部の構造は不明であるが、枠型田下駄の継縫となるものかもしれない。

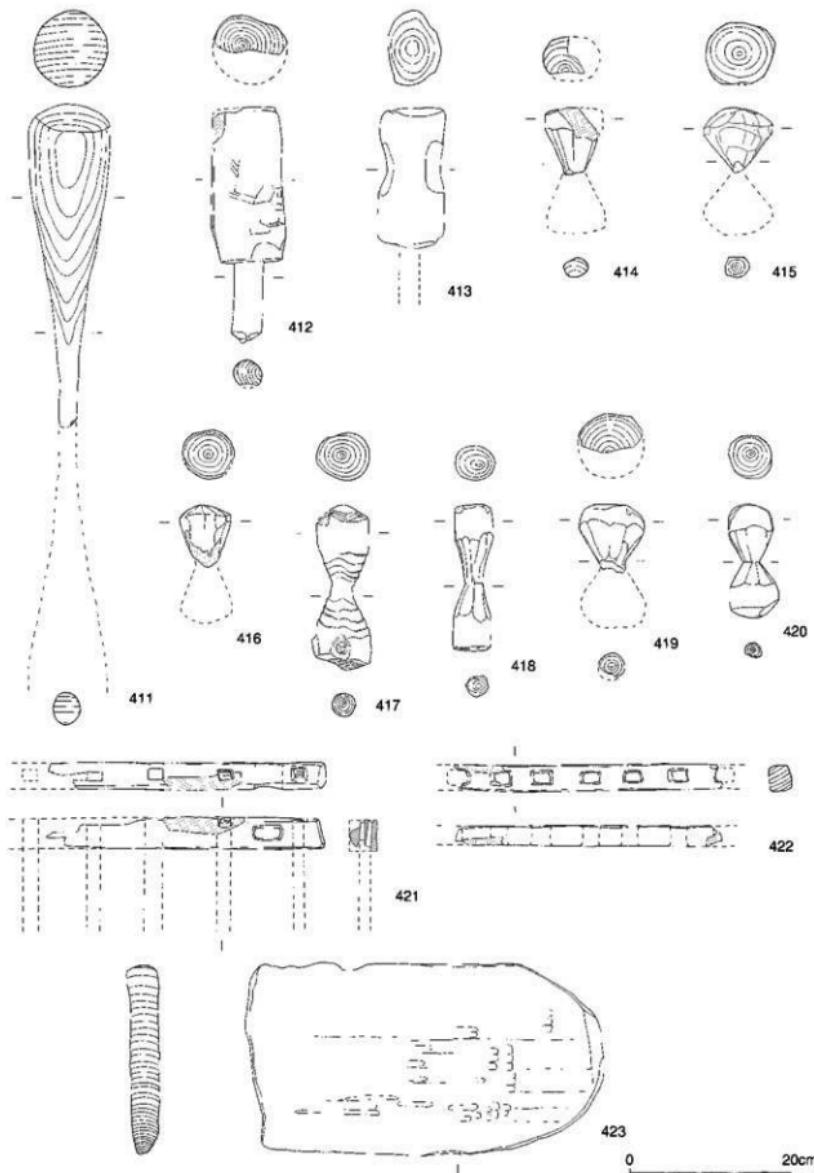
423は加工途中の組み合わせ釘と思われる。一部断面が三角形を呈しミカン割り材に近い。法量は現状で長さ43.6cm、幅23.5cm、厚さ3.8cmを測る。



第86図 河道C遺構外出土木製品実測図（工具・農具）



第87図 河道C遺構外出土木製品実測図（農具）



第88図 河道C遺構外出土木製品実測図（農具）

### (3) 紡織具（第89図424、425）

424は糸巻きの横木の断片である。中央に向かい幅広となり、交差する部分は厚みを減じ段がつき、中央には復元径2.4cmの軸孔が開く。ヒノキの追い柾目材が用いられている。

425は一本製の糸巻きと考えられるものである。板の短軸を半円形に削り込み、四隅は削り残され突起となる。全長21.1cm、幅5.7cm、厚さ1.5cmを測る。スギの板目材が用いられている。

### (4) 漁撈具（第89図426）

426は上端面あるいは外底面の延長で柄が伸びるものであり、アカ取り状の木製品とした。一般的なアカ取りと比べると側面の立ち上がりが低く、アカ取りとは別の機能を考えるべきかもしれない。側面の立ち上がりは2.6cm、把手の長さ7.9cm、幅5.0cm、厚さ1.8cmを測る。

### (5) 武器（第89図427、428）

427は身と茎を持つことから木鎌とした。身は三角錐状を呈し、現存する身の長さは7.9cmを測る。茎には断面が「U」字形を呈する長さ11.0cmを測る。装着溝をもち、身の部分にも伸びる。また、茎下端部には滑り止めが作り出され、ここを含めた茎の長さは10.3cmを測る。

428はいわゆる「頭椎大刀」の把であり、G類の無畦目式に属する。把間の背面には茎を落とし込むための溝が「V」字状に削り込まれている。把頭には1.4×0.7cm、把縁には1.1×0.5cmを測る角孔をもち、把間のやや上寄りには直径0.6cmと0.5cmを測る2つの目釘孔が穿孔されている。把頭と把縁の一部にはペンガラによる赤色顔料が残り、金属で覆った痕跡は認めがたい。全長24.4cm、把頭の長さ7.3cm・幅7.5cm・厚さ6.4cm、把間の長さ12.5cm・幅2.3~4.7cm・厚さ1.7~4.6cm、把縁の長さ4.6cm・幅3.2~4.8cm・厚さ2.0~3.8cmを測る。細かい加工痕が所々に残り、丁寧な作りとなっている。ツバキ科ツバキ属の芯持ち材が用いられている。

### (6) 服飾具（第90図429~431）

429~431は連歯下駄である。429は前壺を前歯よりも前の中央に開け、後壺を歯の内側に開けたものである。台と歯の横幅は等しく、側面からみると歯の内面は「ハ」の字状に削り出される。全長23.5cm、幅11.2cm、高さ5.4cm、後壺間6.0cm、前壺後壺間8.1cmを測る。台の平面は隅丸長方形を呈する。430は前壺を前歯よりも前の中央やや左寄りに開け、後壺を歯の内側に開けたものである。台と歯の横幅はほぼ等しい。腐食のためか木理が洗い出されたようになり、特に歯の部分が著しく、削り出しの状況は不明である。全長24.0cm、幅9.8cm、高さ4.8cm、後壺間5.1cm、前壺後壺間7.1cmを測る。台の平面は小判形を呈する。431は後歯部分の断片である。後壺を歯の内側に開けたものであり、台と歯の横幅はほぼ等しいようだが、摩滅により歯が殆ど消失しているためはっきりしない。高さ1.8cm、後壺間4.6cmを測る。

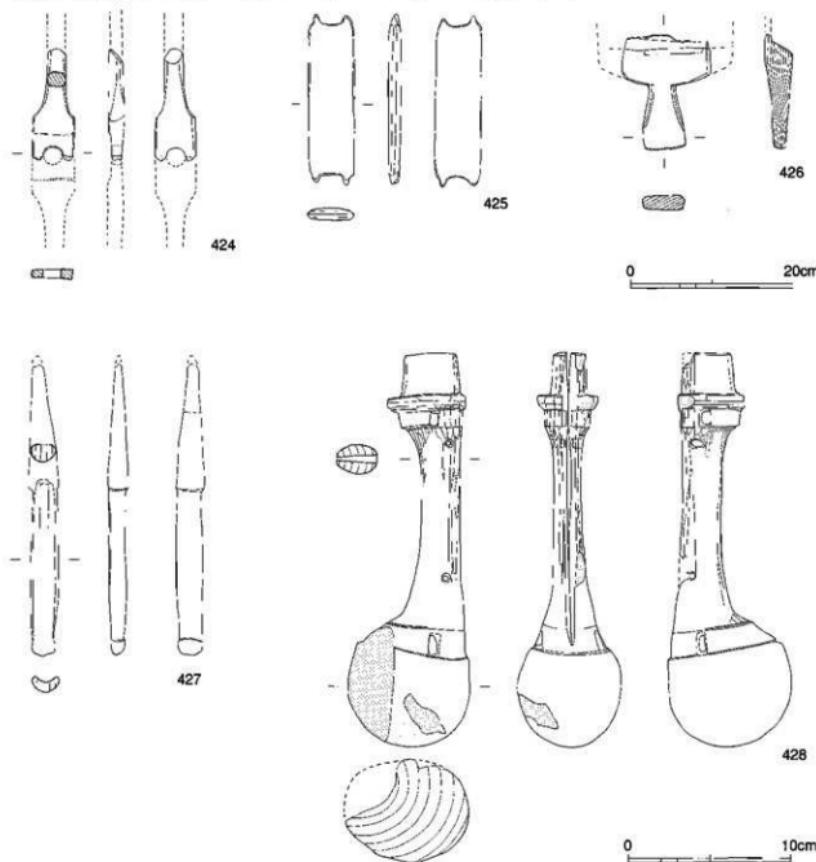
### (7) 食事具（第90図432~436）

432~436は真っ直ぐな柄とやや幅広となる扁平な身をもつことから杓子形木器とした。432、433は柄と身の境界ははっきりせず、身の最大幅が先端部分にくるものである。432は身幅最大3.0cm・柄幅2.1cm・残存長43.4cm・厚さ1.0cmを測り、433は身幅最大3.1cm・柄幅1.8cm・残

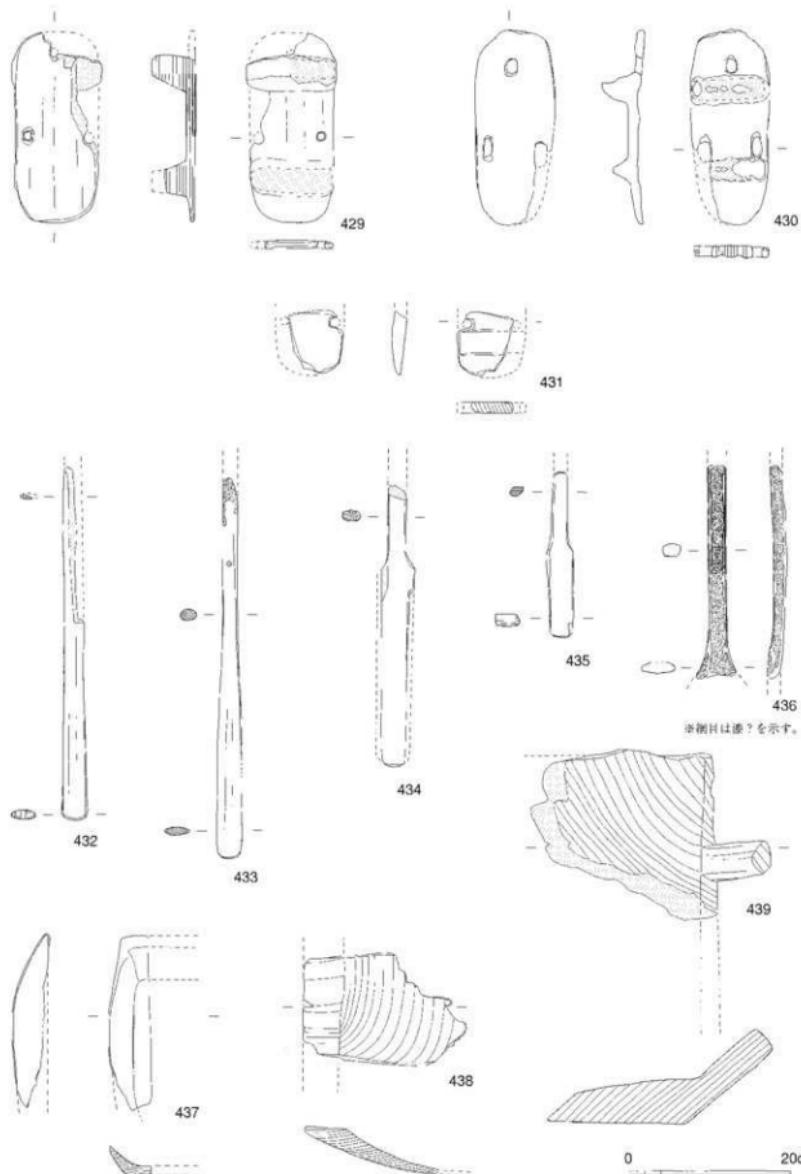
存長46.9cm・厚さ1.1~1.4cmを測る。434、435は柄と身の境界がはっきり分かるものであり、身の両辺が平行して伸びる。434は身幅最大4.1cm・柄幅2.3cm・残存長34.6cm・厚さ1.2~1.3cm、435は身幅最大3.3cm・柄幅2.1cm・残存長20.4cm・厚さ1.3~1.7cmを測る。436は柄と身の境界に段をもつものである。身は欠損しているが、平面が梢円形に近いものと思われる。全面が黒光りし、漆が塗布されているのかもしれない。柄幅2.1cm、厚さ1.6cm、残存長26.4cmを測る。

#### (8) 容器 (第90図437~439)

437~439は槽、盤の破片と考えられる。437は長辺よりも短辺の口縁が厚いものである。材質はヒノキ科ヒノキ属製である。438は厚手の口縁をもつものである。439は未製品の断片であり、短軸の側面延長上に棒状の把手がつく。ヒノキ科ヒノキ属製である。



第89図 河道C遺構外出土木製品実測図 (紡織具・漁撈具・武器)



第90図 河道C造構外出土木製品実測図（服飾具・食事具・容器）

### (9) 祭祀具（第91図440）

440は把を装着した抜き身の状態を表現した・木製の刀形である。把は把間を削ることにより把頭と把縁を表現し、把間は刃部側が大きく前られ屈曲する。刀身は棟と刃先が平行して伸び、先端の刃先側が削られ切先が表現されている。刀身の横断面形は長方形を呈するが、一部刃先が薄くなり三角形に近い部分も見られる。把と刀身との境界には溝がつけられており、全体的に見て写実的に模倣されたものといえる。全長51.9cm（把9.3cm・刀身42.6cm）、幅2.5cm、厚さ最大1.1cmを測る。スギ科スギの板目材が用いられている。

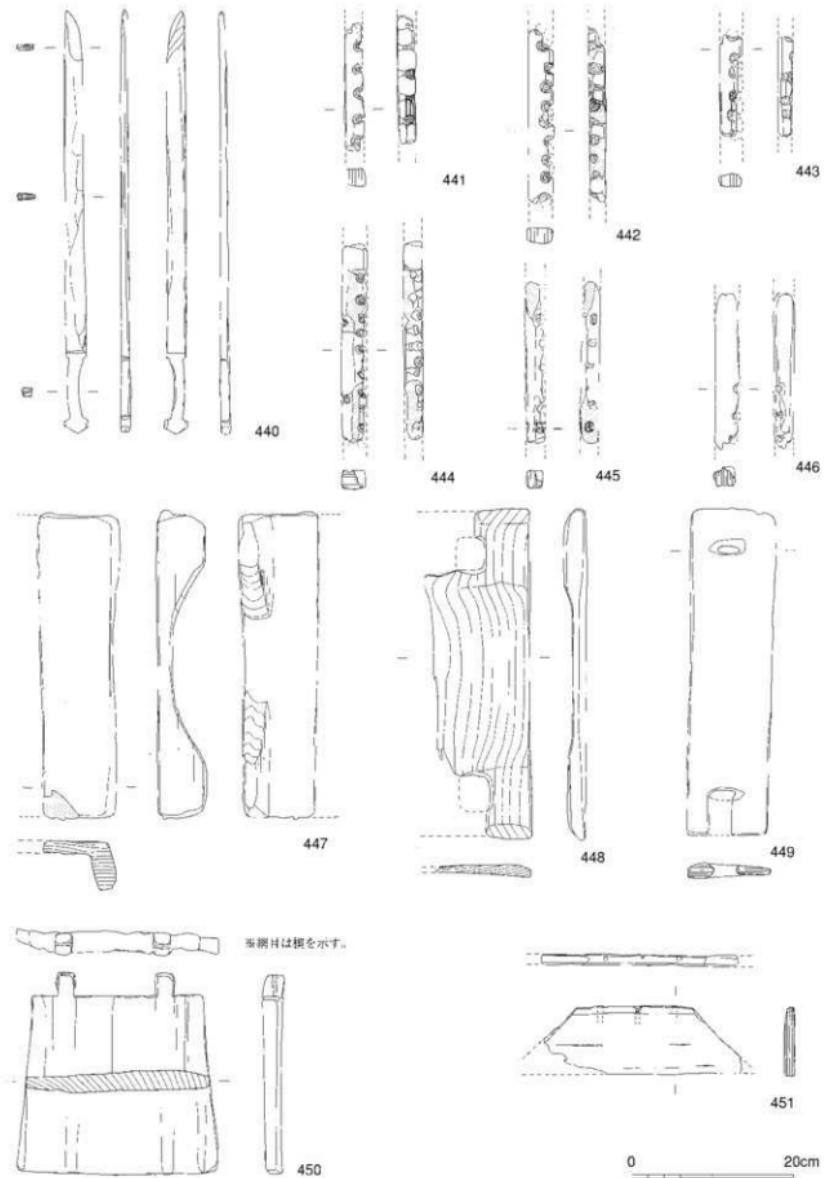
### (10) 雑具（第91図441～490）

441～446は長軸、或いは短軸の端に寄せて火鑽穴をもつ火鑽臼である。441は柾目となる長辺片側に5個の火鑽穴をもつ。側面には火鑽穴に接して火種を1カ所にためるために平面台形、断面「コ」の字状の溝が彫り込まれている。角棒状のスギ科スギ材が用いられている。442～444は火鑽穴に接して断面「V」字状の刻みを入れるものである。442は柾目となる長辺片側に10個、443は柾目となる長辺片側に5個と短辺片側に1個、444は板目となる長辺の一方に2個、もう一方に10個、側面の柾目となる長辺の一方に1個の火鑽穴をもつ。445、446は残りが悪いが、柾目となる長辺片側にそれぞれ6個、3個の火鑽穴の痕跡が残る。火鑽穴の径は似通っているが、深さは様々である。中には底部まで貫通したものもあるが、1つの穴を数回にわたり使用したためと思われる。樹種鑑定を行った442、444にはスギ科スギ材が用いられている。

447は供物を供える台としての機能も考えられるが、剣物であることから腰掛とした。座板の側面がそのまま脚外面に連なり、脚下面中央を大きく削り込んで4脚状に仕上げられている。脚部の横断面は座板に対して垂直ではなく、「ハ」の字状に削り出されている。現状で長さ37.5cm、幅10.0cm、厚さ1.6cm、高さ6.0cmを測る。スギ科スギの板目材が使用されている。

448は座板上面をゆるやかな中窪みに仕上げられていることから指物腰掛と考えられる。両端部付近には脚を差し込むための方形の柄孔が開けられている。現状で長さ40.7cm、幅12.9cm、厚さ1.6～2.8cmを測る。スギ科スギの板目材が用いられている。449も両端部付近に長さ2.7cm、幅1.0cmを測るやや小さな枘孔をもつものであり、机・腰掛の上板と思われるが、他の部材の可能性もある。表裏が平坦で窪みは観察できない。長さ40.1cm、幅10.4cm、厚さ2.0cmを測る。

450は脚部の上端に長さ2.8cm、幅2.0cm、厚さ2.5cmを測る2つの枘をもつ。枘と枘の間隔は内寸で10.0cmを測り、枘中央には枘孔に差し込んだ際に固定するために打ち込まれた楔が残る。平面形は底部がやや長い台形を呈し、枘を含めた法量は、高さ24.9cm、上部幅21.3cm、底部幅24.9cm、厚さ2.1～2.5cmを測る。伴う座板（天板）は四隅に枘孔が貫通するものと考えられる。ヒノキの柾目材が用いられている。451は脚底部が大きく開き、平面台形を呈する。脚部の上端からやや下がった位置が段状になり、上面には木釘が3本残る。机の脚と考えられ、伴う天板は底部に溝が穿たれたもので、木釘は脚上端部を溝に差し込んだ後に補強するために打ち込まれたものであろう。法量は上辺14.2cm、高さ8.3cmを測る。ヒノキの板目材が用いられている。



第91図 河道C造構外出土木製品実測図（祭祀具・雑具「机・腰掛」）

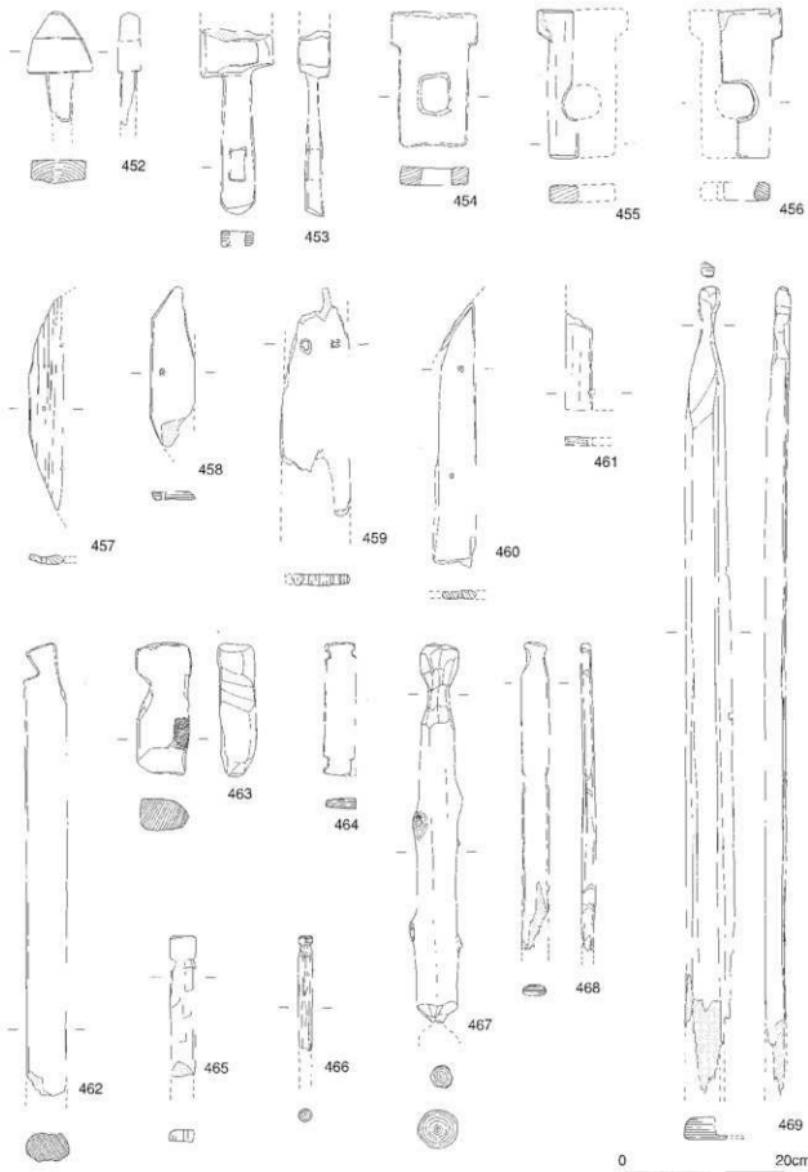
452～456は棒あるいは板の一端が一回り大きく、釘頭状に加工されたものであり、桧状木製品とした。452は断面方形を呈する軸の先に三角形の頭部をもつものであり、頭部中央より上は浅く削られ段がつく。ツバキ科サカキ属の芯に近い部分が用いられている。453は頭部の形状は不明であるが、長さ17.0cm、幅4.1cm、厚さ2.2cmを測る軸部の下端に3.6×1.5cmを測る長方形の枘孔が開けられている。スギ科スギの板口材が用いられている。454～456は板の一端が幅広に作られ頭部となり、中央付近に枘孔が開けられている。455、456は接合はできないが同一個体となる可能性が高い。

457～461は紐孔や釘孔をもつ部材である。いずれも断片のため全体がわかるものはない。

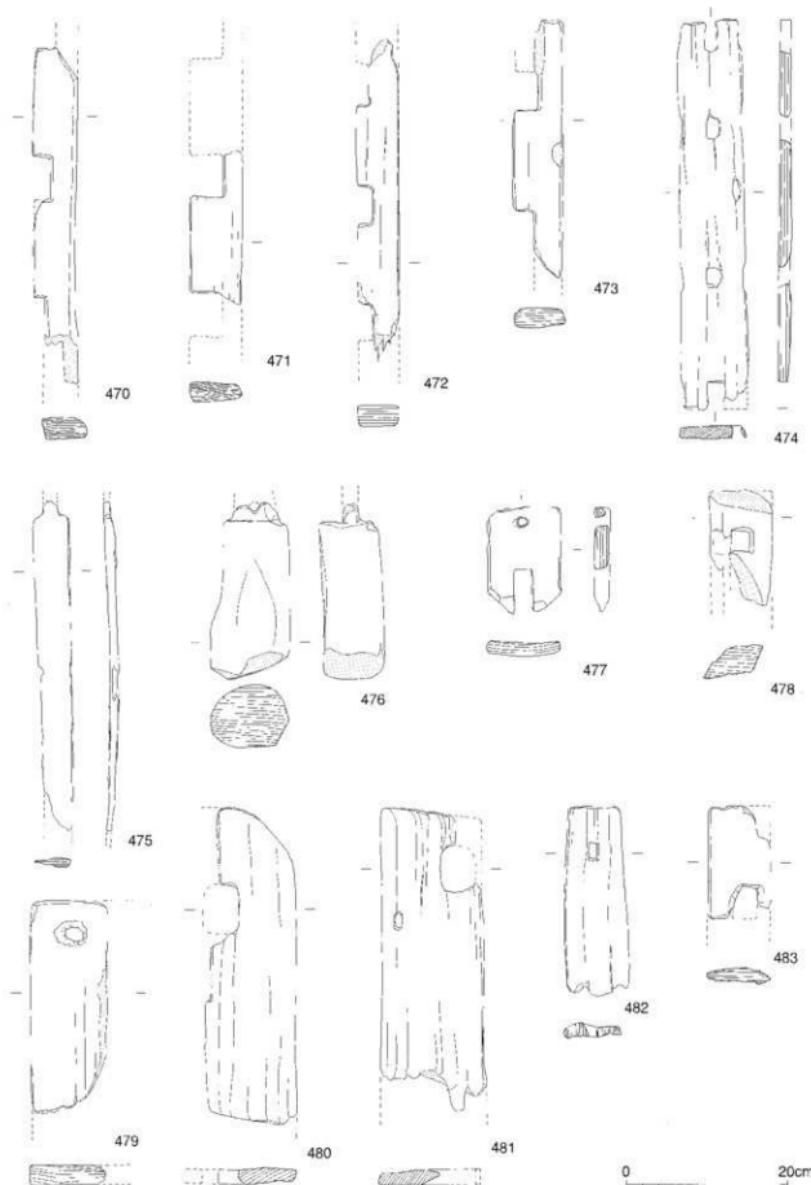
462～469は紐かけをもつ部材である。462は棒先端部の片側に「V」字状の切れ込みを入れ、もう一方は先端に向かって幅を減じさせる。463は先端付近の片側に「V」字状の切れ込みをもつものである。二次的に切断されており、所々に焼け焦げた跡がある。464は板の長軸両端付近に向側から「コ」の字状の割り込みを入れるものである。465は先端よりやや下がった位置に切り込みを入れ有頭状に仕上げたもので、表面は切り込みをもたず一直線をなす。466はイヌガヤの芯持ち材が用いられているものであり、先端からやや下がった位置より切り込みが入れられ有頭状に仕上げられている。表面は比較的丁寧な面取りが行われている。467は芯持ち材の一端が有頭状に仕上げられたものである。もう一方の端は欠損しているが、杭のようなものではなく、両端が有頭状に仕上げられたものと思われる。面取りは行われていないが、小枝は切り落とされている。468は先端付近の両側を浅く割り込んだものであり、軸部も左右対称となる位置に連続した浅い割り込みをもつ。第35図187と同一個体となる可能性がある。469は先端付近から先細に削り出され、端部は僅かに削り残され有頭状になる。もう一方の端は欠損しているが、同様の形状をもつものであろう。長軸の片側は底面が庇状に伸び、段状に仕上げられている。

470～490は継手や仕口をもつ部材である。470～473は板の長軸片側に連続する「コ」の字状の割り込みをもつ。別個に掲載したが同一個体である可能性もある。或いは、板の中央に連続する角孔が開けられていたものかもしれない。474は板の短軸両端に「コ」の字状の割り込みをもち、中央短軸寄りに2つの枘孔が開く。また、中央長軸の片側に寄せて細長い角孔をもつものであり、枘結合の箱と思われる。475は細長い板の短軸中央に枘をもつものであり、反対側は欠損のため定かではないが、同じような枘をもつ部材であろう。476は円柱状の体部の一端に枘をもち、枘には小さな円孔が穿たれる。477は短軸の一端に「コ」の字状の割り込みをもち、もう一方の端寄りには小さな円孔が穿たれる。478～483は枘孔が開けられた板或いは棒製品である。

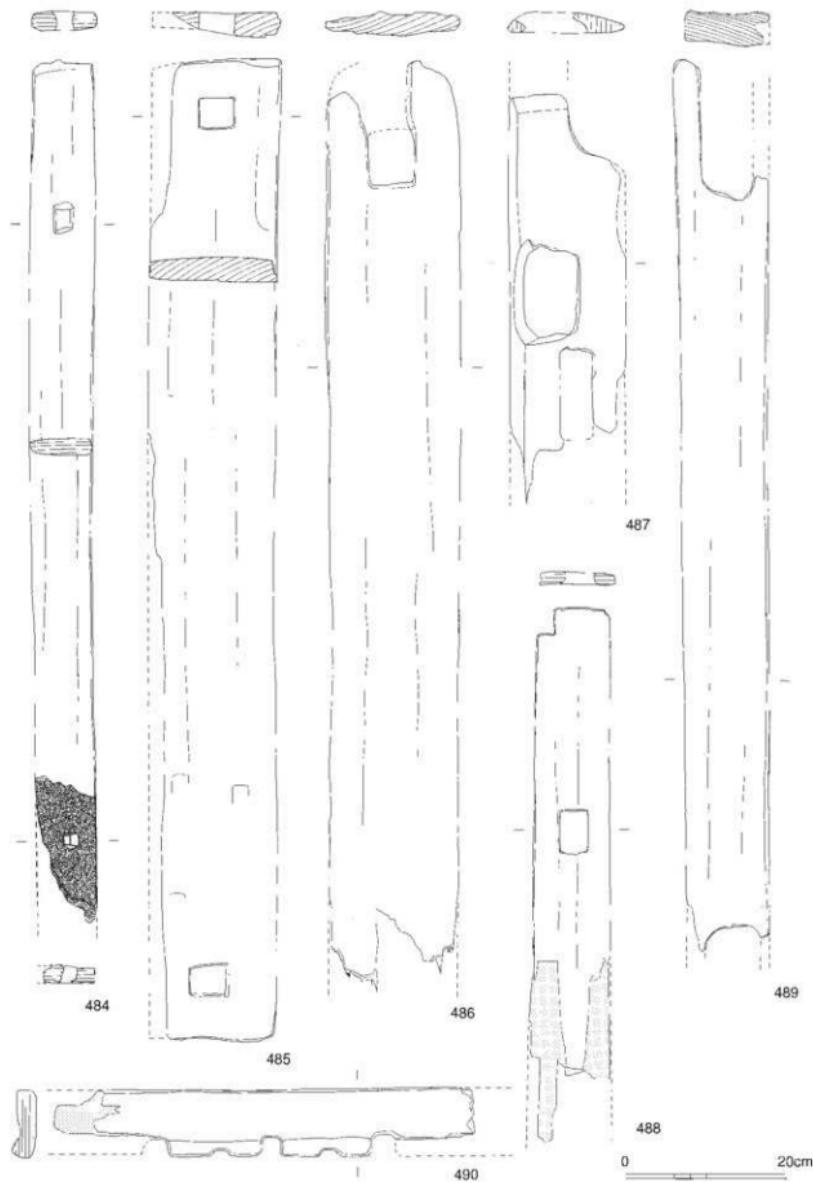
484～490は継手や仕口をもつ部材のうち、大型品や大型になると思われるものであり、建築部材とすべきかもしれない。484～488は四角い枘孔が開けられた板材であり、484の一端は焼け焦げている。489は短軸の両端に「コ」の字状の割り込みをもつ板材である。490は長軸上面の片側が削り残され一段高く仕上げられたものであり、この長軸側面には5つの「コ」の字状の割り込みが入れられている。



第92図 河道C遺構外出土木製品実測図（雜具「各種部材」）



第93図 河道C遺構外出土木製品実測図（雑具「各種部材」）



第94図 河道C造構外出土木製品実測図（雄具「各種部材」）

### (11) 建築部材（第95図491～494）

491は一本梯子である。上端は先端に向かって次第に幅を減じ、やや丸みをもたせて仕上げられたものであるが、下端の形状は欠損のため不明である。表面には2カ所の足掛けが残り、足掛けの上部は直角に、下部は斜めに切り出されている。中央に孔が開くが、これは木の節が抜け落ちたものと考えられる。残存長107.1cm、幅18.6cm、身の厚さ2.1cm、足掛け部分の厚さ最大6.6cmを測る。ヒノキ科ヒノキ属の板目材が用いられている。

492は厚板の把手状突起（門受け）部分の破片と思われるものであり、裏面には大きな剝離痕が残る。現状で長さ31.8cm、幅6.1～12.0cmを測り、スギ科スギの板目材が用いられている。

493は厚板の断片と思われる。円柱を呈する柄の側面片側が長軸側辺と連なるようにつき、側辺も丸みをもたせて仕上げられている。現状で長さ27.4cm、幅9.3cm、厚さ3.9cmを測る。

494は大型の板材であり、建築部材とした。残存長255.0cm、幅14.0cm、厚さ2.5cmを測る。

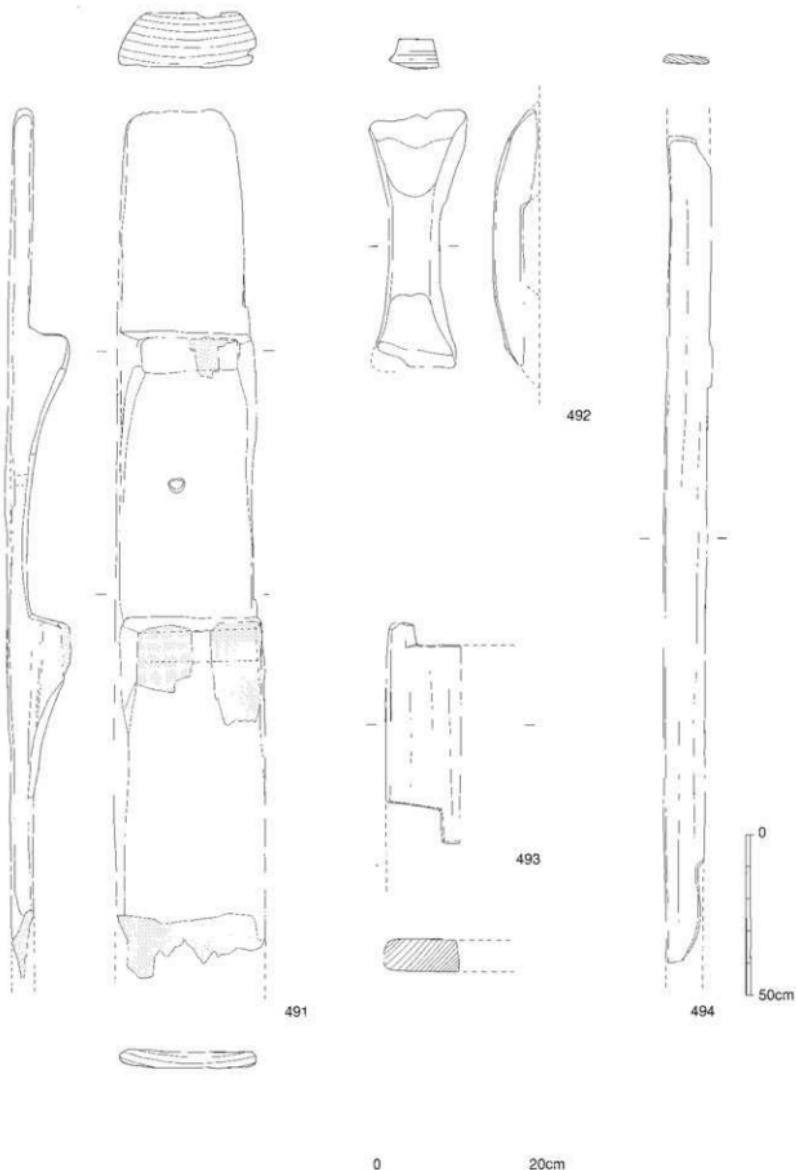
### (12) その他（第96図495～第98図526）

495～504は杭とした。495～501は芯持ち材が用いられたものであり、面取りは行われていない。496は一端が焼け焦げたもの、499は細長い枝の先端を尖らせたもの、500は両端を尖らせたものである。502～504は柵目（板目）材の一端を尖らせたものである。504は長さ182.2cmを測る大型品で、中程に「コ」の字状の割り込みをもつ。建築部材とすべきかもしれない。

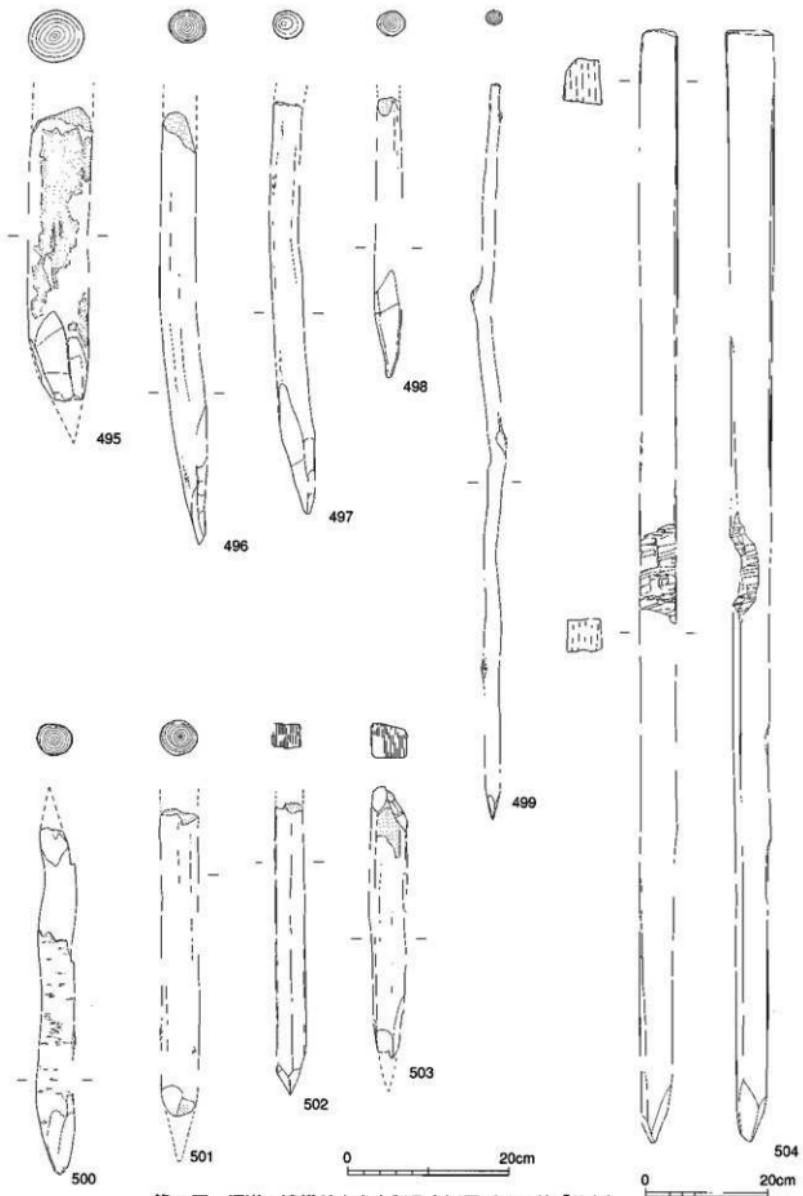
505～508は一端に焼け焦げをもつものである。意図的に割られたものもあることから薪か付け木と思われる。河道C遺構外からは58点が出土し、このうち4点を掲載した。いずれもヒノキ科ヒノキの芯に近い部分（枝か）である。

509、510は樹皮が外向きに巻き込まれた状態となったものである。幅が均一なことから自然に剥落したものではなく、人為的に剝ぎ取られたものと考える。引き延ばしての計測は行わなかったが、509は幅2.7cm、長さ約18cm、510は幅2.3cm、長さ約9cmを測る。

511～526ははっきりとした用途が判らないため不明品とした。511は一方の端を尖らせた板である。512は一方の端に半円形の割り込みをもち、他方は先細りに仕上げられる。この割り込みは丸い柄孔の可能性もある。513は短軸の端に寄せて角孔が開けられるものであり、もう一方の端にも欠損した痕跡があることから、同様に角孔が開けられていたものであろう。スギ科スギの板目材が用いられる。514は板の一方の端が削られ細身に仕上げられたものである。515は平面が梢円形を呈する板材であり、端には柄状のものが剥離した痕跡が残る。農具の未製品かもしれない。516は平面三角形を呈する板材の1つの頂点に半円形の割り込みをもつものである。517は板の長軸中央両側が削られ「中細り」となる板材である。518、519は丸い棒材の長軸と平行するように断面「U」字形の溝が掘られているものであり、同一個体である可能性がある。520は表面が「寧に加工され、加工痕が顯著に残る。鎌の刃部を模倣した可能性もあるが、使途が定かではないためここに掲載した。521は板材の中央に貫通しない方形の割り込みをもつものである。522は円盤の中央が浅く方形に削り込まれ、その周囲は溝状に削られ一段深くなる。中央には貫通しない



第95図 河道C遺構外出土木製品実測図（建築部材）

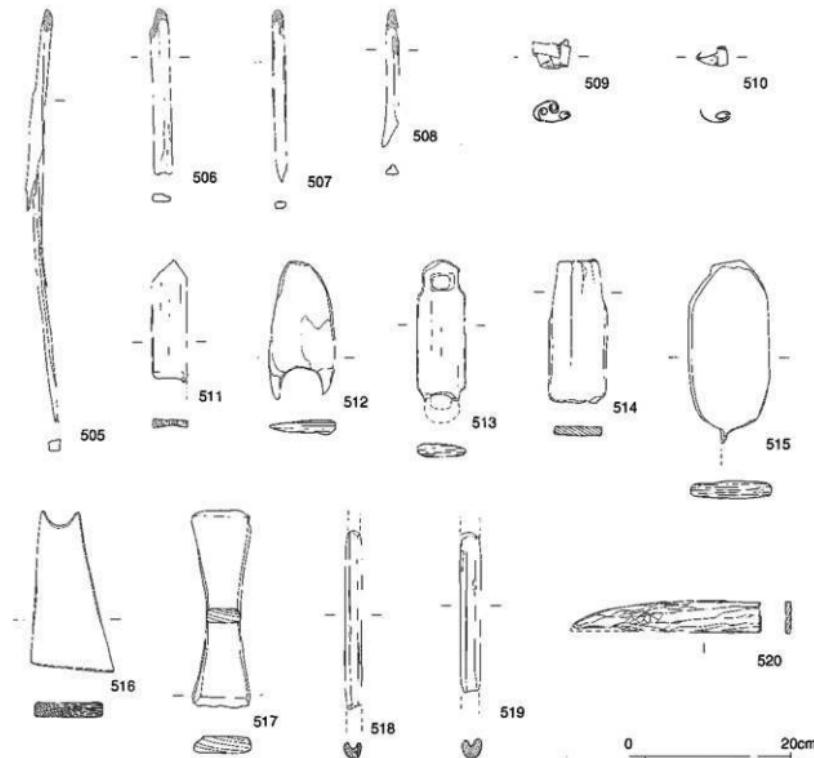


第96図 河道C造構外出土木製品実測図（その他「杭」）

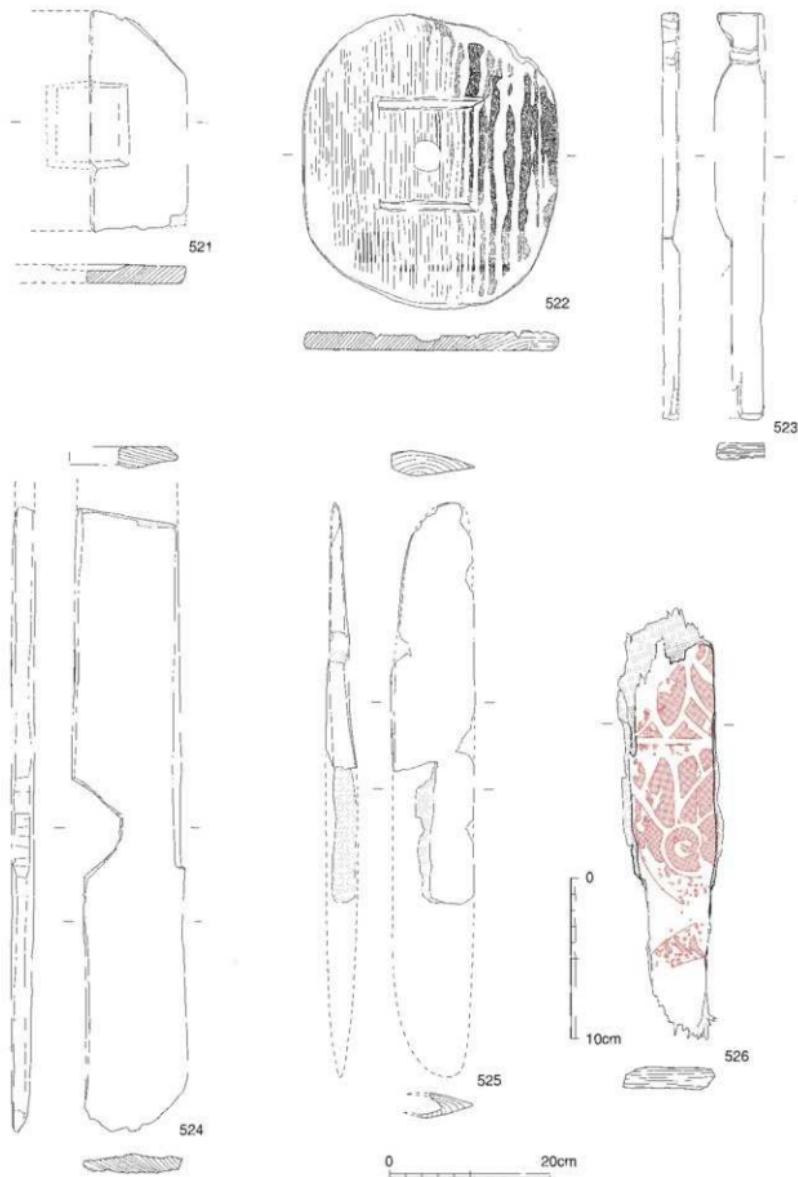
丸い孔が彫り込まれる。表面は焼け焦げ、木理が浮き出た感じとなっている。523は長軸の端に台形の削り込みをもつ。摩滅（腐食）のため判然としないが、中央部分にも同じような削り込みがあったと思われる。524は板材の長軸側面に「V」字状の削り込みをもつものである。525は断面三角形を呈し、翼状のプロポーションをもつ。ブナ科アカガシ亜属の芯に近い部分が用いられ、織り具の縞の可能性がある。526は赤色顔料により幾何学的文様が描かれた木片である。文様のパターンは上半分と下半分に分かれ、上下対象の文様になるものであろう。

#### 8. 植物遺体

河道C遺構外からはクルミ2個、柄の実2個と桃核26個が出土した。桃核のうち19個は前述の貼石遺構に近い場所からの出土である。また、岸辺からは第13層のオリーブ灰色粘土層に根を下ろす柄の株が3本検出された。このうちB-7区から見つかった1本は直径80cmを測るものであり、第126層灰色砂礫層～第30層灰色砂礫XIIの流れにより倒壊していた。



第97図 河道C遺構外出土木製品実測図（その他「薪・樹皮・不明品」）



第98図 河道C遺構外出土木製品実測図（その他「不明品」）

## 9. 石器 (第99図527～第102図553)

(1) 石鎌 (第99図527～529) 527～529は黒曜石製の石鎌である。527、528は凹基無茎式のものであり、縁辺に比較的丁寧な二次加工が施される。527は残存長1.55cm・残存幅1.18cm・厚さ0.32cm、528は長さ2.25cm・残存幅1.2cm・厚さ0.3cmを測る。529は基部に抉入りをもたない平基無茎式のものであり、二等辺三角形を呈する。長さ1.2cm・幅1.1cm・厚さ0.3cmを測る。

(2) 石錐？ (第99図530、531) 530、531は右錐と思われる破片である。不定型な剝片の一部に摘み部をもち、両端から加工調整が施され錐部にむかう。530は残存長1.5cm・幅1.6cm・厚さ0.3cm、531は残存長1.4cm・残存幅0.8cm・厚さ0.3cmを測る。

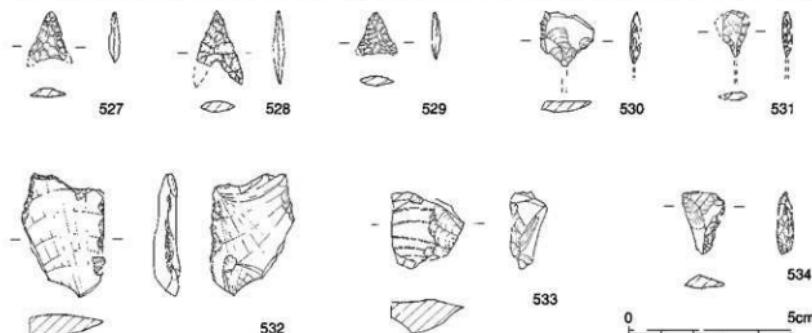
(3) スクレイパー (第99図532) 532は黒曜石製のスクレイパーである。不定形で縦軸の両面に比較的丁寧な二次加工が施される。長さ3.75cm・幅2.5cm・厚さ0.75cmを測る。

(4) 二次加工のある剝片石器 (第99図533～第100図536) 533～536は黒曜石製の二次加工のある剝片である。縁部に細かな二次加工が施されるもので、法量は533は長さ2.2cm・幅2.3cm・厚さ1.1cm、534は長さ1.9cm・幅1.3cm・厚さ0.45cm、535は長さ4.3cm・幅4.1cm・厚さ0.7cm、536は長さ4.85cm・幅3.5cm・厚さ1.0cmを測る。

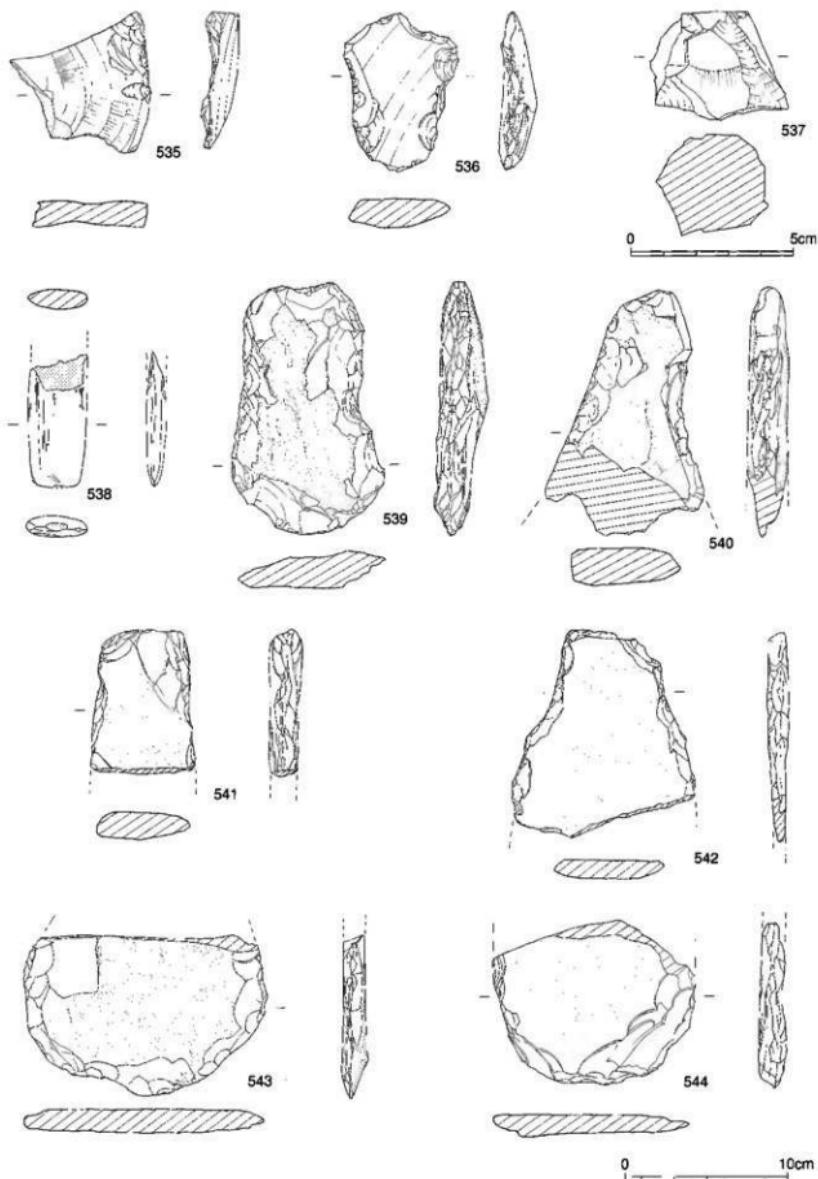
(5) 石核 (第100図537) 537は不規則な剝離面が残る黒曜石の石核であり、横断面は台形を呈する。法量は縦軸3.4cm、横幅2.0～4.0cmを測る。

(6) 磨製石斧 (第100図538) 538は頁岩製の磨製石斧の破片である。両面から丁寧な研磨を加え刃部が研ぎ出されたもので、所々に擦痕が残る。残存長8.2cm・幅3.5cm・厚さ1.2cmを測る。

(7) 打製石斧 (第100図539～544) 539～544は流紋岩製の打製石斧である。表裏に主要剝離面を大きく残し、側縁部から刃部にかけ粗い二次加工が施される。539は短冊形を呈するものである。長さ15.5cm・幅9.3cm・厚さ2.9cmを測る。540～542は基部部分の破片である。540が長さ15.5cm・幅9.4cm・厚さ2.5cm、541は長さ8.9cm・幅6.4cm・厚さ1.7cm、542は長さ12.8cm・幅11.2cm・厚さ1.2cmを測る。543、544は刃部部分の破片であり、バチ形に近いものと思われる。543は長さ9.7cm・幅14.8cm・厚さ1.4cm、544は長さ10.1cm・幅12.4cm・厚さ1.4cmを測る。



第99図 河道C遺構外出土石器実測図



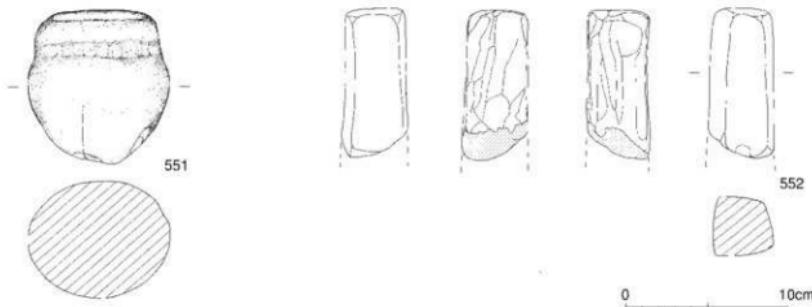
第100図 河道C遺構外出土石器実測図

(8) 勾玉（第101図545） 545は無色透明な水晶製の勾玉である。長さ2.7cm、幅0.8~1.5cm、厚さ0.9cm、孔径0.1~0.3cmを測る。断面は円形に近く、孔は片面より穿孔される。

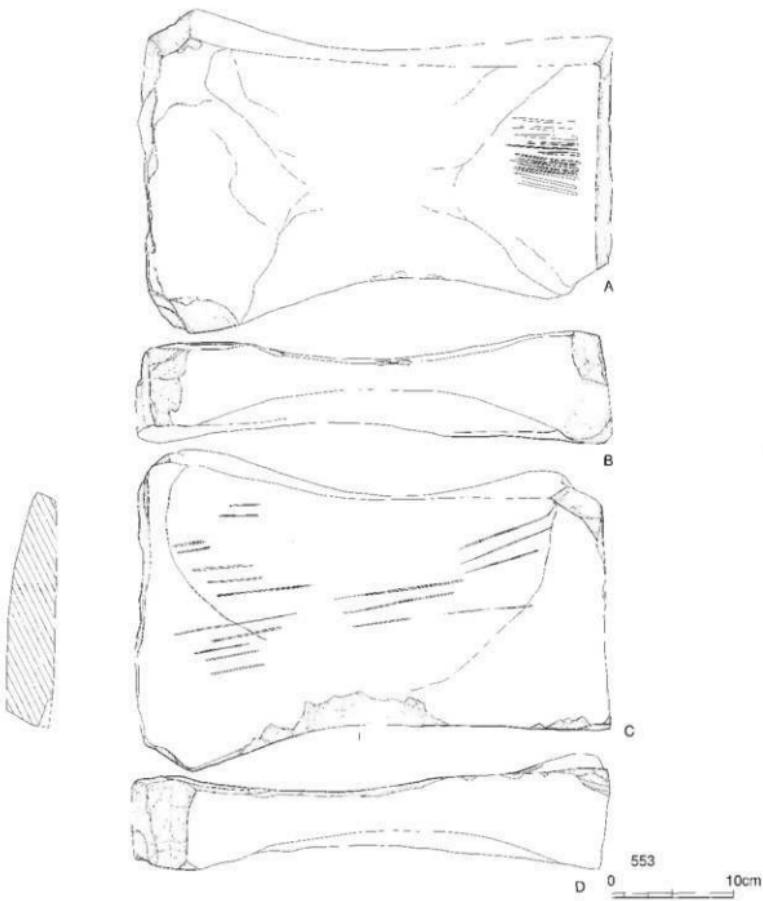
(9) 白玉（第101図546~550） 546~550は第82図370の須恵器壺内から出土した泥岩製の臼玉である。繋ぎ止められていた痕跡はなく、粘土の中からバラバラの状態で見つかった。薄く刻離したものや割れたものが多く、完形とわかるものは僅か5個体であった。全體重量の19.8gを完形品1個あたりの平均重量0.16gで割ると、124個体以上が納められていた計算になる。

(10) 不明品（第101図551） 551は短い軸部の先が有頭状となる性格不明の石製品である。軸部と頭部の境に組掛け状の瘤みをもつが、石材の柔らかい部分であり、川の流れに洗われて偶然凹んだ可能性もある。断面は楕円形を呈し、長さ9.5cm、最大幅8.7cmを測る。凝灰岩製である。

(11) 砥石（第101図552、第102図553） 552は肌理の細かな砥石であり四角柱状を呈する。長軸四面が使用され、所々に研磨痕が残る。長さ9.2cm、幅4.0cm、厚さ3.8cmを測る。553は板状を尾する大型の砥石であり、両面と長軸両側面が使用される。A面は長辺の両側に研磨痕が残り、中央にむけ半円形に摩滅する。中央部分が高く、長軸側縁の摩滅が著しい。B、D面は短軸端部付近に比べ中央部分が大きく窪む。C面は長軸の片側に半円形の研磨痕が残り、もう一方の長軸側縁近くにまで摩滅が及ぶ。法量は長さ37.4cm、幅25.3cm、厚さ2.0~8.4cmを測る。材質は均質な砂岩製であり、本村の西にある宍道町に産する来待石に酷似する。



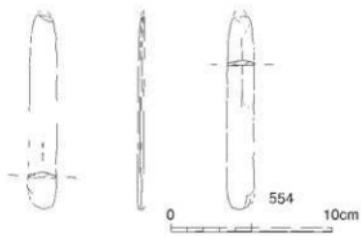
第101図 河道C遺構外出土石器実測図（玉類・砥石・不明品）



第102図 河道C遺構外出土石器実測図（砥石）

#### 10. 鉄器（第103図554）

554は第82図370内から白玉と一緒に出土した鉄製品である。長軸の両端はほぼ平行に伸び、先端部分で幅を減じる。錆化のため判然としないが、中央部分が若干高く、稜をもつことから鉈と考えられる。法量は長さ12.0cm、幅1.7cm、厚さ0.4cm、重量9.3gを測る。



第103図 河道C遺構外出土鉄器実測図

第17表 河道C構造出土土器観察表

単位(cm)

種別 番号	品目	器種	出土地点 土層	形状	色調	法量	測量・手法の特徴性	時期	備考
41-1	陶文土器	深鉢	B-7区 5.オリーブ黒色粘	1 mm 前後の砂粒を 多く含む 直	(外) 黒褐色 (内) 黑褐色	口径: 19.8	キャリバー形の口 沿は風化の ため小凹 有り	縄文時代中期?	
41-2	陶文土器	(底部) 深鉢	B-5区 5.オリーブ黒色粘	2 mm 大の砂粒を多 く含む 不規	(外) 浅黄褐色 (内) 浅黄褐色		側面に目をもつ鈎状 柱が張り付けられ る	縄文時代中期?	
41-3	縄文土器	深鉢	B-7区 5.オリーブ黒色粘	2 mm 大の砂粒を多 く含む 直	(外) 浅黄褐色 (内) 浅黄褐色		上縁に接して側面 目をもつ突帯	縄文時代中期 突帯文土器	
41-4	縄文土器	深鉢	C-7区 9.灰白色砂礫V-1 10.灰色砂礫	2 mm 前後の砂粒を 多く含む 不規	(外) 灰褐色 (内) 黑褐色		上縁に接して側面 目をもつ突帯	縄文時代中期 突帯文土器	
41-5	縄文土器	深鉢	A-6区 5.オリーブ黒色粘	0.5mm 大の砂粒を 多く含む 直	(外) にぶい黄褐色 (内) にぶい黄褐色		上縁に接して側面 目をもつ直線	縄文時代後期 帯文土器	
41-6	縄文土器	深鉢	B-6区 5.オリーブ黒色粘	2 mm 以下の砂粒を 多く含む 直	(外) 黄褐色 (内) にぶい黄褐色		口縁のやや下がっ た位置に列溝はを 施さない骨突	縄文時代後期 突帯文土器	
41-7	縄文土器	深鉢	B-6区 5.オリーブ黒色粘	1 mm 前後の砂粒を 多く含む 直	(外) にぶい黄褐色 (内) にぶい黄褐色		内外面ナダ	縄文時代後期	
41-8	縄文土器	深鉢	C-7区 9.灰白色砂礫V-1 10.灰色砂礫	1 mm 前後の砂粒を 多く含む 不規	(外) 灰褐色 (内) にぶい黄褐色		内外面ナダ	縄文時代後期	
41-9	縄文土器	深鉢	B-6区 5.オリーブ黒色粘	2 mm 以下の砂粒を 多く含む 直	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色		内外面ナダ	縄文時代後期	
41-10	縄文土器	鉢	B-5区 5.オリーブ黒色粘	2 mm 前後の砂粒を 多く含む 直	(外) 黑褐色 (内) 黑褐色		内外面ナダ	縄文時代後期	
41-11	縄文土器	(底部)	B-7区 5.オリーブ黒色粘	1 mm 前後の砂粒を 多く含む 直	(外) にぶい黄褐色 (内) にぶい黄褐色	底径: 7.3	外部外周が丁寧な 丸み、その他のミ ニマニア	底部外周が丁寧な 丸み、その他のミ ニマニア	底部外周が底い 高台となる
42-12	弥生土器	甕	B-6区 5.オリーブ黒色粘	2 mm 前後の砂粒を 多く含む 直	(外) 灰褐色 (内) 灰褐色		上縁外反、瓶部 に削り目、腹部に 2条の沈澱	弥生時代後期	
42-13	弥生土器	甕	B-6区 5.オリーブ黒色粘	2 mm 以下の砂粒を 多く含む 直	(外) にぶい黄褐色 (内) にぶい黄褐色		上縁外反、瓶部 に削り目	弥生時代後期	
42-14	弥生土器	甕	B-7区 26-30.灰白色砂 礫V-III	1 mm 以下の砂粒を 多く含む 直	(外) 黑褐色 (内) にぶい黄褐色	口径: 17.1	口部外周の鋭肉 線文ナダ消す	弥生時代後期 後半	集合口縁 外周に保付有
42-15	弥生土器	甕	C-7区 9.灰白色砂礫V-1 10.灰色砂礫	1~2 mm の砂粒を 多く含む 直	(外) にぶい灰褐色 (内) にぶい灰褐色	口径: 21.2	口部外周に擬匠 紋	弥生時代後期 後半	複合口縁
42-16	弥生土器	甕	A-6区 5.オリーブ黒色粘	2 mm 以下の砂粒を 多く含む やや直	(外) にぶい灰褐色 (内) にぶい灰褐色	口径: 18.2	口部外周に擬匠 紋	弥生時代後期 後半	複合口縁 外周に保付有
42-17	弥生土器	甕	B-7区 26-30.灰白色砂 礫V-III	1~4 mm の砂粒を 多く含む 直	(外) 黑褐色 (内) 黑褐色	口径: 16.6	口部外周に擬匠 紋	弥生時代後期 後半	集合口縁 外周に保付有
42-18	弥生土器	直腹瓶	C-7区 5.オリーブ黒色粘	2 mm 以下の砂粒を 多く含む 直	(外) にぶい灰褐色 (内) にぶい灰褐色	底径: 10.3	直化、夢滅		平底の直部
42-19	弥生土器	縦口瓶	B-7区 5.オリーブ黒色粘	1 mm 前後の砂粒を 多く含む 直	(外) 灰褐色 (内) にぶい灰褐色		外縁に擬匠紋	弥生時代後期 中央	
42-20	弥生土器	縦口瓶	C-7区 9.灰白色砂礫V-1 10.灰色砂礫	1 mm 前後の砂粒を 多く含む 直	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	底径: 11.0	瓶部外周に擬匠 紋	弥生時代後期 後半	複合口縁 外周に保付有
42-21	弥生土器	直腹瓶	B-6区 5.オリーブ黒色粘	角内面を多く含む、 直縁の始点 直	(外) にぶい灰褐色 (内) にぶい灰褐色	口径: 16.6	外縁に3本の 擬匠紋		口部外周に3本の 擬匠紋
42-22	弥生土器	直腹瓶	B-5区 24.灰白色砂 礫V-1 25.灰白色砂 礫V-2	角内面を多く含む、 直縁の始点 直	(外) 灰褐色 (内) 灰褐色		外縁はハケメ接平 行式縫		口部外周に赤色 糊料縫
43-23	土器	甕	C-7区 9.灰白色砂 礫V-1 10.灰色砂 礫	1.3mm 以下の砂粒 を多く含む、 直	(外) にぶい灰褐色 (内) にぶい灰褐色	口径: 20.9	外縁ハケメ・直 縁式接合行 止付、ハラケズリ	古墳時代前期	
44-24	土器	甕	C-7区 9.灰白色砂 礫V-1 10.灰色砂 礫	1 mm 以下の砂粒 を多く含む、 直	(外) にぶい灰褐色 (内) にぶい灰褐色	口径: 24.4	瓶部内面擬匠紋 止付、以下ハラケズリ、 その他のコナダ	古墳時代前期	複合口縁
44-25	土器	甕	C-6区 8.灰白色砂 礫V-1	1 mm 以下の砂粒 を多く含む、 直	(外) にぶい灰褐色 (内) にぶい灰褐色	口径: 24.3	瓶部内面擬匠紋 止付、その他のコナダ	古墳時代前期	複合口縁
44-26	土器	甕	D-10区 5.オリーブ黒色粘	1 mm 前後の砂粒 を多く含む、 直	(外) にぶい灰褐色 (内) にぶい灰褐色	口径: 20.8	内外面ヨコナダ	古墳時代前期	複合口縁
44-27	土器	甕	B-7区 26-30.灰白色砂 礫V-III	1 mm 前後の砂粒 を多く含む、 直	(外) にぶい灰褐色 (内) にぶい灰褐色	口径: 21.0	内外面ヨコナダ	古墳時代前期	複合口縁 外周に保付有
44-28	土器	甕	C-16区-D-16区 5.オリーブ黒色粘	1 mm 前後の砂粒 を多く含む、 直	(外) にぶい灰褐色 (内) にぶい灰褐色	口径: 21.7	内外面ヨコナダ	古墳時代中期	退化した複合口 縁

河道C造構外出土土器観察表

単位(cm)

標識番号	品目	部種	出土地點	土層	色調	法蓋	測量・手法の特徴	古墳時代中期	後	備考
44-29	土器部	壺	D-16区 5.オーリーブ黒色粘土	1mm 以下の砂粒含む む、黒	(外)に赤い黄褐色 (内)に灰褐色	口徑: 22.2	外面部ヨコナデ	古墳時代中期	退化した複合口縁	
44-30	土器部	壺	C-6区 8.灰色砂礫層	1mm 以下の砂粒含む む、黒	(外)に赤い黄褐色 (内)に灰褐色	口徑: 19.6	外面部ヨコナデ、 内面部部凹入ヘラクス	古墳時代中期	退化した複合口縁	
44-31	土器部	壺	D-8区 9.天色砂礫層	2mm 下の砂粒含む む、黒	(外)赤い黄褐色 (内)灰褐色	口徑: 13.8	外面部ヨコナデ 内面部凹入ハケメ、 内面部ラブズ	古墳時代中期	退化した複合口縁 外面部に焼付層	
44-32	土器部	壺	D-11区 5.オーリーブ黒色粘土	2mm 以下の砂粒含む む、黒	(外)赤い黄褐色 (内)灰褐色	口徑: 15.8	外面部ヨコナデ 内面部凹入化・内 面ヘラクス	古墳時代中期	退化した複合口縁	
45-33	土器部	壺	C-16区 5.オーリーブ黒色粘土	0.5mm 以下の砂粒含む む、黒	(外)に赤い黄褐色 (内)に灰褐色	口徑: 14.4	外面部ヨコナデ	小谷式	複合口縁 妻1個	
45-34	土器部	壺	C-7区 19.灰色砂礫層	0.5mm 以下の砂粒含む む、黒	(外)褐紅色 (内)灰褐色	口徑: 13.7	外面部ヨコナデ	小谷式	複合口縁 妻1個	
45-35	土器部	壺	C-16区 5.オーリーブ黒色粘土	1mm 以下の砂粒含む む、黒	(外)に赤い黄褐色 (内)に灰褐色	口徑: 15.8	外面部ヨコナデ	小谷式	複合口縁 妻1個	
45-36	土器部	壺	H-7区 26-30.灰色砂礫層	1mm 以下の砂粒含む む、黒	(外)に赤い黄褐色 (内)に灰褐色	口徑: 15.4	外面部ヨコナデ、 内面部部凹入ヘラ クス	小谷式の終わ り頭	複合口縁 妻1個	
45-37	土器部	壺	C-7区 5.オーリーブ黒色粘土	1mm 以下の砂粒含む む、黒	(外)赤い黄褐色 (内)灰褐色	口徑: 18.8	外面部ヨコナデ 内面部部凹入ヘラ クス	小谷式の終わ り頭	複合口縁 妻1個	
45-38	土器部	壺	D-8区 8.灰色砂礫層	1mm 以下の砂粒含む む、黒	(外)に赤い黄褐色 (内)に灰褐色	口徑: 18.4	外面部ヨコナデ	小谷式	複合口縁 妻1個 外面部付箋	
45-39	土器部	壺	C-7区 9.灰色砂礫層	1mm 以下の砂粒含む む、黒	(外)赤い黄褐色 (内)灰褐色	口徑: 19.8	外面部ヨコナデ	小谷式	複合口縁 妻1個 外底部全面上付箋	
45-40	土器部	壺	C-7区 10.灰色砂礫層	1mm 以下の砂粒含む む、黒	(外)に赤い黄褐色 (内)に灰褐色	口徑: 18.4	外面部ヨコナデ 内面部部凹入ヘラ クス	小谷式の終わ り頭	複合口縁 妻1個 外面部付箋	
45-41	土器部	壺	C-7区 24.灰色砂礫層	1mm 以下の砂粒含む む、黒	(外)に赤い黄褐色 (内)に灰褐色	口徑: 20.8	外面部ヨコナデ 内面部部以下ヘラ クス	小谷式の終わ り頭	複合口縁 妻1個 外面部付箋	
45-42	土器部	壺	D-11区 5.オーリーブ黒色粘土	1mm 以下の砂粒含む む、黒	(外)に赤い黄褐色 (内)に灰褐色	口徑: 25.8	外面部ヨコナデ		複合口縁 妻1個	
45-43	土器部	壺	A-5区 5.オーリーブ黒色粘土	0.5mm 以下の砂粒含む む、黒	(外)赤褐色 (内)に赤い黄褐色	口徑: 26.6	外面部ヨコナデ 内面部ヘラケズリ		複合口縁 妻1個 外面部付箋	
45-44	土器部	壺	D-8区 8.灰色砂礫層	1mm 以下の砂粒含む む、黒	(外)に赤い黄褐色 (内)に灰褐色	口徑: 29.5	外面部ヨコナデ、 内面部部沈穢		複合口縁 妻1個	
46-45	土器部	壺	H-7区 5.オーリーブ黒色粘土	1mm 以下の砂粒含む む、黒	(外)に赤い黄褐色 (内)に灰褐色	口徑: 29.4	外面部ヨコナデ		複合口縁 妻1個 外面部付箋	
46-46	土器部	壺	D-12区 5.オーリーブ黒色粘土	1mm 以下の砂粒含む む、黒	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口徑: 28.2	外面部ヨコナデ 内面部ヘラケズリ		複合口縁 妻1個 外面部付箋	
46-47	土器部	壺	A-6区 5.オーリーブ黒色粘土	1mm 以下の砂粒含む む、黒	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口徑: 22.3	外面部ヨコナデ 内面部ヘラケズリ		複合口縁 妻1個 外面部付箋	
46-48	土器部	壺	C-7区 5.オーリーブ黒色粘土	2mm 大の砂粒含む む、黒	(外)赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口徑: 24.6	外面部ヨコナデ 内面部ヘラケズリ		複合口縁 妻1個 外面部付箋	
47-49	土器部	壺	H-6区 29-30.灰色砂礫層	1mm 大の砂粒含む む、黒	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口徑: 17.3	外面部ヨコナデ 内面部ヘラケズリ		古墳時代中期	
47-50	土器部	壺	D-6区 26-30.灰色砂礫層	1mm 以下の砂粒含む む、黒	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口徑: 17.1	外面部ヨコナデ 内面部ヘラケズリ		古墳時代中期	
47-51	土器部	壺	B-6区 5.オーリーブ黒色粘土	1mm 以下の砂粒含む む、黒	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口徑: 17.7	外面部ヨコナデ 内面部ヘラケズリ		古墳時代中期	
47-52	土器部	壺	B-7区 26-30.灰色砂礫層	3mm 大の砂粒含む む、黒	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口徑: 17.5	外面部ヨコナデ 内面部ヘラケズリ		古墳時代中期	
47-53	土器部	壺	D-8区 5.オーリーブ黒色粘土	1mm 以下の砂粒含む む、黒	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口徑: 16.0	外面部ヨコナデ 内面部ヘラケズリ		古墳時代中期	
47-54	土器部	壺	H-7区 26-30.灰色砂礫層	0.5mm 以下の砂粒含む む、黒	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口徑: 16.7	外面部ヨコナデ 内面部ヘラケズリ		古墳時代中期	
47-55	土器部	壺	B-7区 26-30.灰色砂礫層	1mm 人の形含む む、黒	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口徑: 15.8	外面部ヨコナデ 内面部ヘラケズリ		古墳時代中期	
47-56	土器部	壺	B-7区 24.灰色砂礫層	1mm 以下の砂粒含む む、黒	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口徑: 19.2	外面部ヨコナデ 内面部ヘラケズリ		古墳時代中期	

## 河道C構造出土土器観察表

単位(cm)

探査番号	品目	器種	出土最高点 上層	施 工 史	色 調	法 量	調整・手法の特徴	時 期	備 考
47-57	土師器	甕	C-16区 5.オリーブ黒色粘土	1mm 以下の砂粒含む (外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄色	口径: 21.4	底部内面ココナ デ、体部内面ハケメ 内面ハラケズリ	古墳時代中期	退化した複合口 縁	退化した複合口 縁
47-58	土師器	甕	B-7区 26-30.灰白色砂 利-XII	2mm 以下の砂粒含む (外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 16.2	底部内面ハケメ、体部 内面ハラケズリ、古墳時代中期 その他のココナ	古墳時代中期	退化した複合口 縁	退化した複合口 縁
47-59	土師器	甕	C-6区 8.灰色砂離塵器	3mm 以下の砂粒含む (外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄色	口径: 16.3	内面ココナデ	古墳時代中期	退化した複合口 縁	退化した複合口 縁
47-60	土師器	甕	D-9区 9.灰色彩繪器 10.灰色砂利	1mm 以上の砂粒含む (外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 17.4	内面ココナデ	古墳時代中期	退化した複合口 縁	退化した複合口 縁
47-61	土師器	甕	B-7区 26-30.灰白色砂 利-XII	1mm 以下の砂粒含む (外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄色	口径: 15.1	外側ハケメ、底部 内面ハラケズリ、その他のココナ	古墳時代中期	退化した複合口 縁	退化した複合口 縁
48-62	土師器	甕	A-7区 26-30.灰白色砂 利-XII	1mm 以下の砂粒含む (外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 17.0 高さ: 27.6	口 直: 17.0 底 大径: 26.0 内面ハラケズリ	古墳時代中期	退化した複合口 縁	退化した複合口 縁
48-63	土師器	甕	D-2区 8.灰色砂離塵器	2mm 以下の砂粒含む (外)に赤い黄褐色 (内)灰黄色	口径: 16.6	底部内面ココナ デ、体部内面ハケメ 内面ハラケズリ	古墳時代中期	退化した複合口 縁	退化した複合口 縁
48-64	土師器	甕	C-10区 5.オリーブ黒色粘 土	1mm 以下の砂粒含む (外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 18.7	内面ココナデ	古墳時代中期	退化した複合口 縁	退化した複合口 縁
48-65	土師器	甕	C-16区 5.オリーブ黒色粘 土	2mm 以下の砂粒含む (外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 15.1	口 直: 17.0 底 大径: 26.0 内面ハラケズリ	古墳時代中期	退化した複合口 縁	退化した複合口 縁
48-66	土師器	甕	B-7区 26-30.灰白色砂 利-XII	1mm 前後の砂粒含 む (外) 黄褐色 (内) 黑褐色	口径: 18.9	底部内面ココナ デ、体部内面ハ ラケズリ	古墳時代中期	退化した複合口 縁	退化した複合口 縁
48-67	土師器	甕	C-7区 9.灰色彩繪器上 半	2mm 以上の砂粒含 む (外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 19.3 底 大径: 26.5 高さ: 29.8	口 直: 19.3 底 大径: 26.5 内面ハラケズリ	古墳時代中期	退化した複合口 縁	退化した複合口 縁
49-68	土師器	甕	D-9区 5.オリーブ黒色粘 土	1mm 以下の砂粒を 含む、密	口径: 21.1	底部内面ココナ デ、体部内面ハ ラケズリ	古墳時代中期	単純口縁	単純口縁
49-69	土師器	甕	B-6区 28-30.灰白色砂 利-XII	2mm 以下の砂粒を 含む、密	口径: 16.6	口 直: 19.3 底 大径: 26.5 内面ハラケズリ	古墳時代中期	単純口縁	単純口縁
49-70	土師器	甕	R-7区 24.灰白色砂利	1mm 以下の砂粒を 含む、密	口径: 15.5	底部内面ココナ デ、体部内面ハ ラケズリ	古墳時代中期	単純口縁	単純口縁
49-71	土師器	甕	D-8区 10.灰色彩繪器	2mm 以下の砂粒を 含む、密	口径: 19.7	底部内面ココナ デ、体部内面ハ ラケズリ	古墳時代中期	単純口縁	単純口縁
49-72	土師器	甕	D-9区 8.灰色彩繪器	1mm 以下の砂粒を 含む、密	口径: 16.3	底部内面ココナ デ、体部内面ハ ラケズリ	古墳時代中期	単純口縁	単純口縁
49-73	土師器	甕	B-7区 26-30.灰白色砂 利-XII	1-2mm 人の砂粒含 む、密	口径: 22.6	底部内面ココナ デ、体部内面ハ ラケズリ	古墳時代中期	単純口縁	単純口縁
49-74	土師器	甕	C-7区 9.灰色彩繪器下 半	1-2mm 人の砂粒含 む、密	口径: 23.2 底 大径: 29.1 高さ: 30.1	底部内面ココナ デ、体部内面ハ ラケズリ	古墳時代中期	単純口縁	単純口縁
49-75	土師器	甕	B-6区 5.オリーブ黒色粘 土	3mm 以下の砂粒を 含む、密	口径: 16.2	口 直: 17.2 底 大径: 26.4 高さ: 27.6	古墳時代中期	単純口縁	単純口縁
50-76	土師器	甕	C-7区 9.灰色彩繪器下 半	3mm 以下の砂粒を 含む、密	口径: 19.2 底 大径: 26.4 高さ: 27.6	口 直: 19.2 底 大径: 26.4 内面ハラケズリ	古墳時代中期	単純口縁	単純口縁
50-77	土師器	甕	B-7区 5.オリーブ黒色粘 土	1mm 3つの砂粒を 含む、密	口径: 19.9 底 大径: 26.7	底部内面ココナ デ、体部内面ハ ラケズリ	古墳時代中期	単純口縁	単純口縁
50-78	土師器	甕	B-7区 24.灰白色砂利	2mm の砂粒含む、 (外) 淡褐色 (内) 淡灰色	口径: 22.3	外側ハケメ、口 沿内面ココナ デ、体部内面ハ ラケズリ	古墳時代中期	単純口縁	単純口縁
50-79	土師器	甕	D-1区 5.オリーブ黒色粘 土	1mm 以下の砂粒を 含む、密	口径: 14.9 底 大径: 20.7	底部内面ココナ デ、体部内面ハ ラケズリ	古墳時代中期	単純口縁	単純口縁
50-80	土師器	甕	B-7区 26-30.灰白色砂 利-XII	1mm 以下の砂粒を 含む、密	口径: 18.6	底部内面ココナ デ、体部内面ハ ラケズリ	古墳時代中期	単純口縁	単純口縁
50-81	土師器	甕	D-7区 9.灰色彩繪器下 半	1mm 以下の砂粒を 含む、密	口径: 17.7	底部内面ココナ デ、体部内面ハ ラケズリ	古墳時代中期	単純口縁	単純口縁
50-82	土師器	甕	B-7区 26-30.灰白色砂 利-XII	2mm の砂粒含む、 (外) 淡褐色 (内) 淡灰色	口径: 16.1	底部内面ココナ デ、体部内面ハ ラケズリ	古墳時代中期	単純口縁	単純口縁
50-83	土師器	甕	D-6区 5.オリーブ黒色粘 土	1mm 以下の砂粒を 含む、密	口径: 16.8	底部内面ココナ デ、体部内面ハ ラケズリ	古墳時代中期	単純口縁	単純口縁
51-84	土師器	甕	D-8区 8.灰色彩繪器	1mm 以下の砂粒を 含む、密	口径: 17.7 底 大径: 26.8	底部内面ココナ デ、体部内面ハ ラケズリ	古墳時代中期	単純口縁	単純口縁

河道C構造出土土器観察表

単位(cm)

発掘番号	品目	基盤	出土地点 土層	胎 土成	色 調	法 業	摘要・手法の特徴	算 則	備 考
51-85	土器部	甕	R-7区 5.オリーブ黒色粘	1mm以下の砂粒を含む、密	(外)褐色 (内)黒色	口径: 21.3	L段階の外壁コナ チ、体部外ハケメ、 内ハラケズリ	単純口縁 選択型 外壁に葉付着	
51-86	土器部	甕	B-7区 5.オリーブ黒色粘	2mm以下の砂粒を含む、密	(外)灰黄色 (内)灰褐色	口径: 19.8	L段階の外壁コナ チ、体部外ハケメ、 内ハラケズリ	単純口縁 選択型 外壁に葉付着	
52-87	土器部	甕	D-8区 8.灰色砂礫層Ⅱ	2mm以下の砂粒を含む、密	(外)灰黄色 (内)灰褐色	口径: 17.0	L段階の外壁コナ チ、体部外ハケメ、 内ハラケズリ	単純口縁 選択型 外壁に葉付着	
52-88	土器部	甕	C-16区・D-16区 5.オリーブ黒色粘	1mm以下の砂粒を含む、密	(外)赤褐色 (内)灰褐色	口径: 22.4	L段階の外壁コナ チ、体部外ハケメ、 内ハラケズリ	単純口縁 選択型 外壁に葉付着	
52-89	土器部	甕	9.灰色砂礫層Ⅱ 10.灰色砂礫層	2mm以下の砂粒を含む、密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 17.7	L段階の外壁コナ チ、体部外ハケメ、 内ハラケズリ	単純口縁 選択型 外壁に葉付着	
52-90	土器部	甕	B-7区 5.オリーブ黒色粘	1mm前後の砂粒を含む、密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 19.8	L段階の外壁コナ チ、体部外ハケメ、 内ハラケズリ	単純口縁 選択型 外壁に葉付着	
53-91	土器部	甕	D-9区 5.オリーブ黒色粘	1mm以下の砂粒を含む、密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 18.6	L段階の外壁コナ チ、体部外ハケメ、 内ハラケズリ	単純口縁 選択型 外壁に葉付着	
53-92	土器部	甕	C-7区 9.灰色砂礫層Ⅱ 10.灰色砂礫層	12-3mmの大砂粒を含む、密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 20.0	L段階の外壁コナ チ、体部外ハケメ、 内ハラケズリ	単純口縁 選択型 外壁に葉付着	
53-93	土器部	甕	C-7区 5.オリーブ黒色粘	1mm以下の砂粒を含む、密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 19.5	L段階の外壁コナ チ、体部外ハケメ、 内ハラケズリ	単純口縁 選択型 外壁に葉付着	
53-94	土器部	甕	C-16区・C-17区 5.オリーブ黒色粘	1mm以下の砂粒を含む、密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 19.6	ナガリの外輪ヨコ ハラケズリ	単純口縁 選択型 外壁に葉付着	
53-95	土器部	甕	B-6区 5.オリーブ黒色粘	2mm以下の砂粒を含む、密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 19.0	L段階の外壁コナ チ、体部外ハケメ、 内ハラケズリ	単純口縁 選択型	
53-96	土器部	甕	D-10区 5.オリーブ黒色粘	1mm前後の砂粒を含む、密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 15.9	L段階の外壁コナ チ、体部外ハケメ、 内ハラケズリ	単純口縁 選択型	
53-97	土器部	甕	B-7区 24.灰色砂礫層Ⅰ	2mm以下の砂粒を含む、密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 22.0	L段階の外壁コナ チ、体部外ハケメ、 内ハラケズリ	単純口縁 選択型 外壁に葉付着	
54-98	土器部	甕	B-7区 24.灰色砂礫層Ⅰ	1mm以下の砂粒を含む、密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 14.0	L段階の外壁コナ チ、体部外ハケメ、 内ハラケズリ	単純口縁 選択型 外壁に葉付着	
54-99	土器部	甕	R-7区 5.オリーブ黒色粘	2mm以下の砂粒を含む、密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 17.1	L段階の外壁コナ チ、体部外ハケメ、 内ハラケズリ	単純口縁 選択型	
54-100	土器部	甕	9.灰色砂礫層Ⅱ 10.灰色砂礫層	1mm以下の砂粒を含む、密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 17.8	L段階の外壁コナ チ、体部外ハケメ、 内ハラケズリ	単純口縁 選択型	
54-101	土器部	甕	B-7区 26-30.灰砂礫層Ⅱ	1mm以下の砂粒を含む、密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 17.6	L段階の外壁コナ チ、体部外ハケメ、 内ハラケズリ	単純口縁 選択型	
54-102	土器部	甕	B-6区 5.オリーブ黒色粘	1mm以下の砂粒を含む、密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 21.3	最大径: 21.3 L段階の外壁コナ チ、体部外ハケメ、 内ハラケズリ	単純口縁 選択型 外壁に葉付着	
54-103	土器部	甕	C-7区 8.灰色砂礫層Ⅰ	2mm以下の砂粒を含む、密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 16.4	最大径: 16.4 L段階の外壁コナ チ、体部外ハケメ、 内ハラケズリ	単純口縁 選択型 外壁に葉付着	
55-104	土器部	甕	R-6区 5.オリーブ黒色粘	3mm以下の砂粒を含む、密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 17.5	最大径: 17.5 L段階の外壁コナ チ、体部外ハケメ、 内ハラケズリ	単純口縁 選択型 外壁に葉付着	
55-105	土器部	甕	R-7区 5.オリーブ黒色粘	1-2mmの大砂粒を含む、密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 17.2	最大径: 17.2 L段階の外壁コナ チ、体部外ハケメ、 内ハラケズリ	単純口縁 選択型	
55-106	土器部	甕	C-7区 24.灰色砂礫層Ⅰ	1mm以下の砂粒を含む、密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 18.6	L段階の外壁コナ チ、体部外ハケメ、 内ハラケズリ	単純口縁 選択型 外壁に葉付着	
55-107	土器部	甕	B-7区 24.灰色砂礫層Ⅰ	2mm以下の砂粒を含む、密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 14.2	L段階の外壁コナ チ、体部外ハケメ、 内ハラケズリ	単純口縁 選択型 外壁に葉付着	
55-108	土器部	甕	B-6区 5.オリーブ黒色粘	1mm以下の砂粒を含む、密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 15.2	最大径: 15.2 L段階の外壁コナ チ、体部外ハケメ、 内ハラケズリ	単純口縁 選択型 外壁に葉付着	
55-109	土器部	甕	C-7区 24.灰色砂礫層Ⅰ	3mm前後の砂粒を含む、密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 13.2	L段階の外壁コナ チ、体部外ハケメ、 内ハラケズリ	単純口縁 選択型 外壁に葉付着	
55-110	土器部	甕	R-5区 5.オリーブ黒色粘	1mm以下の砂粒を含む、密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 16.5	L段階の外壁コナ チ、体部外ハケメ、 内ハラケズリ	単純口縁 選択型	
56-111	土器部	甕	C-16区・D-16区 5.オリーブ黒色粘	1mm以下の砂粒を含む、密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 23.6	L段階の外壁コナ チ、体部外ハケメ、 内ハラケズリ	単純口縁 選択型 外壁に葉付着	
56-112	土器部	甕	A-6区 5.オリーブ黒色粘	1mm以下の砂粒を含む、密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 16.7	最大径: 16.7 L段階の外壁コナ チ、体部外ハケメ、 内ハラケズリ	単純口縁 選択型 外壁に葉付着	

河道C造構外出土土器観察表

単位(cm)

種類	品目	器種	出土地点 土層	断面 度	色調	法皇	調査・手法の特徴	時期	備考
56-13	土器部	甕	D-8区 3.灰色砂質陶器	1mm 大の鉢底を含む、密 合し、密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 20.0	口部内面赤コナ テラル外面ハケメ、 内面ハケズリ	単純口沿 甕X型 外周に横付着	
57-114	土器部	甕	C-16区・D-16区 5.オリーブ黒色粘	0.5mm 以下の砂粒 含む、密	(外)灰黃褐色 (内)灰黃褐色	口径: 19.2	口部内面赤コナ テラル外面ハケメ、 内面ハケズリ	単純口沿 甕X型	
57-115	土器部	甕	C-11区・D-11区 5.オリーブ黒色粘	2mm 以下の砂粒を 含む、密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 17.8	口部内面赤コナ テラル外面ハケメ、 内面ハケズリ	単純口沿 甕X型	
57-116	土器部	甕	C-16区・C-17区 5.オリーブ黒色粘	2mm 以下の砂粒を 含む、密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 16.0	口部内面ヨコナ・西 部斜面ヨコナ・内 面ハケズリ	単純口沿 甕X型	
57-117	土器部	甕	B-7区 5.オリーブ黒色粘	2mm 以下の砂粒を 含む、密	(外)に赤い黄褐色 (内)灰黃褐色	口径: 18.8	口部内面ヨコナ・西 部斜面ヨコナ・内 面ハケズリ	単純口沿 甕X型	
57-118	土器部	甕	C-8区 8.灰褐色砂質陶器	2mm 以下の砂粒を 含む、密	(外)に赤い黄褐色 (内)灰黃褐色	口径: 18.2	口部内面ヨコナ・西 部斜面ヨコナ・内 面ハケズリ	単純口沿 甕X型	
57-119	土器部	甕	B-7区 5.オリーブ黒色粘	1mm 大の砂粒を含 む、密	(外)に赤い黄褐色 (内)灰褐色	口径: 18.5	口部内面赤コナ テラル外面ハケメ、 内面ハケズリ	単純口沿 甕X型	
57-120	土器部	甕	D-10区 5.オリーブ黒色粘	1mm 前後の砂粒を 含む、密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 19.7	口部内面赤コナ テラル外面ハケメ、 内面ハケズリ	単純口沿 甕X型	
58-121	土器部	甕	C-7区 9.灰褐色砂質陶器 10.灰褐色陶	1mm 以下の砂粒を 多く含む	(外)浅黄褐色 (内)灰褐色	口径: 20.7	口部内面赤コナ テラル外面ハケメ、 内面ハケズリ	単純口沿 甕X型	
58-122	土器部	甕	B-6区 5.オリーブ黒色粘	2mm 以下の砂粒を 含む、密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 7.5	口部内面赤コナ テラル外面ハケメ、 内面ハケズリ	単純口沿 甕X型	
58-123	土器部	甕	D-8区 5.オリーブ黒色粘	1mm 以下の砂粒を 含む、密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 18.4	口部内面ヨコナ・西 部斜面ヨコナ・内 面ハケズリ	単純口沿 甕X型	
58-124	土器部	甕	C-7区 24.灰褐色砂質陶器 5.オリーブ黒色粘	1mm 以下の砂粒を 含む、密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 22.8	口部内面赤コナ テラル外面ハケメ、 内面ハケズリ	単純口沿 甕X型	
58-125	土器部	甕	D-7区 5.オリーブ黒色粘	2mm 以下の砂粒を 少含む、密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 11.4	口部内面赤コナ テラル外面ハケメ、 内面ハケズリ	単純口沿 甕X型	
58-126	土器部	甕	C-10区 5.オリーブ黒色粘	1mm 前後の砂粒を 含む、密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 19.7	口部内面赤コナ テラル外面ハケメ、 内面ハケズリ	単純口沿 甕X型	
59-127	土器部	甕	D-10区 5.オリーブ黒色粘	1~2mm 大の砂粒含 む、密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 15.8	口部内面赤コナ テラル外面ハケメ、 内面ハケズリ	単純口沿 甕X型	
59-128	土器部	甕	B-6区 5.オリーブ黒色粘	1mm 以下の砂粒を 含む、密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 17.2	口部内面ヨコナ・西 部斜面ヨコナ・内 面ハケズリ	単純口沿 甕X型	
59-129	土器部	甕	C-7区 5.オリーブ黒色粘	1mm 以下の砂粒を 多く含む、密 やや厚	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 24.1	口部内面赤コナ テラル外面ハケメ、 内面ハケズリ	単純口沿 甕X型	
59-130	土器部	甕	C-16区 5.オリーブ黒色粘	1mm 以下の砂粒を 含む、密	(外)灰褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 8.4	口部内面赤コナ テラル外面ハケメ、 内面ハケズリ	単純口沿 甕X型	
59-131	土器部	甕	C-7区 6.灰褐色砂質陶器 7.灰褐色砂質陶器	mm 以下の砂粒を 含む、密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 18.6	口部内面赤コナ テラル外面ハケメ、 内面ハケズリ	単純口沿 甕X型	
59-132	土器部	甕	B-7区 5.オリーブ黒色粘	1mm 前後の砂粒を 含む、密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 15.4	口部内面赤コナ テラル外面ハケメ、 内面ハケズリ	単純口沿 甕X型	
60-133	土器部	甕	D-8区 5.オリーブ黒色粘	1mm 以下の砂粒を 含む、密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 18.5	口部内面赤コナ テラル外面ハケメ、 内面ハケズリ	単純口沿 甕X型	
60-134	土器部	甕	C-16区・C-17区 5.オリーブ黒色粘	1mm 前後の砂粒を 含む、密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 22.9	口部内面赤コナ テラル外面ハケメ、 内面ハケズリ	単純口沿 甕X型	
60-135	土器部	甕	C-16区 5.オリーブ黒色粘	1mm 以下の砂粒を 含む、密	(外)黑色 (内)に赤い黄褐色	口径: 22.7	口部内面赤コナ テラル外面ハケメ、 内面ハケズリ	単純口沿 甕X型	
60-136	土器部	甕	B-7区 26~30.灰褐色陶 器V-X	mm の砂粒を 含む、密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 26.3	口部内面赤コナ テラル外面ハケメ、 内面ハケズリ	単純口沿 甕X型	
60-137	土器部	甕	B-6区 5.オリーブ黒色粘	1mm 以下の砂粒を 含む、密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 22.7	口部内面赤コナ テラル外面ハケメ、 内面ハケズリ	単純口沿 甕X型	
61-138	土器部	甕	C-11区・D-11区 5.オリーブ黒色粘	mm 前後の砂粒を 含む、密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 12.0	内面放射状の網紋、 底部外腹ハンドルハ ケズリ	坏丁類	
61-139	土器部	甕	C-2区 5.オリーブ黒色粘	0.5mm 以下の砂粒 を少量含む	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 12.8	内面放射状の網紋、 底部外腹ハンドルハ ケズリ	坏丁類	
61-140	土器部	甕	C-7区 9.灰褐色砂質陶器 10.灰褐色陶	1mm 以下の砂粒を 含む、密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 13.0	内面放射状の網紋、 底部外腹ハンドルハ ケズリ	坏丁類	

## 河道C構造出土土器観察表

単位(cm)

標印番号	品目	器種	出土地点 上層	地 盤 成 分	色 調	法 蓋 窓 蓋 手 柄	測 定 値	備 考
61-141	土器部	环	C-7区 9.灰色砂砾Ⅳ	2mm 以下の砂粒を 多く含む。密 度。	(外) 淡黄褐色 (内) 淡黄褐色	口径: 12.2 器高: 3.8 ラメトリ	内面反射板の跡有。 外部手柄持ちヘ ラメトリ	环I型 口縁部が焼焦
61-142	土器部	环	B-7区 21.灰色砂砾Ⅵ	1mm 以下の砂粒を 含む。密 度。	(外) にいわゆる 灰色 (内) にいわゆる 灰色	口径: 12.4 器高: 3.9 ラメトリ	内面ヨコナデとナ ダ、底面外周手持 ちヘラケズリ	环I型
61-143	土器部	环	C-17区 5.オリーブ黒色粘	0.5mm 以下の砂粒 を少量含む。 密度。	(外) にいわゆる 灰色 (内) にいわゆる 灰色	口径: 12.6 器高: 6.0 ラメトリ	内面ヨコナデ、底 部手柄持ちヘラ ケズリ	环I型 口縁部が焼焦
61-144	土器部	环	B-6区 5.オリーブ黒色粘	2mm 前後の砂粒含 む。密 度。	(外) にいわゆる 灰色 (内) にいわゆる 灰色	口径: 12.4 器高: 3.8 ラメトリ	内面ヨコナデとナ ダ、底面外周手持 ちヘラケズリ	环I型
61-145	土器部	环	C-17区 5.オリーブ黒色粘	1mm 以下の砂粒を 含む。密 度。	(外) にいわゆる 灰色 (内) にいわゆる 灰色	口径: 12.7 器高: 4.6 ラメトリ	内面ヨコナデとナ ダ、底面外周手持 ちヘラケズリ	环I型
61-146	土器部	环	C-16区・D-16区 5.オリーブ黒色粘	1mm 前後の砂粒を 含む。密 度。	(外) にいわゆる 灰色 (内) にいわゆる 灰色	口径: 13.1 器高: 4.3 ラメトリ	内面ヨコナデとナ ダ、底面外周手持 ちヘラケズリ	环I型 口縁部が焼れる
61-147	土器部	环	D-1区 5.オリーブ黒色粘	1mm 以上の砂粒を を少量含む。密 度。	(外) 淡色 (内) 淡色	口径: 15.6 器高: 6.0 ラメトリ	内面ヨコナデとナ ダ、底面外周手持 ちヘラケズリ	环IIa型
61-148	土器部	环	A-2区 5.オリーブ黒色粘	1mm 大の砂粒を少 量含む。密 度。	(外) にいわゆる 灰色 (内) にいわゆる 灰色	口径: 11.7 器高: 5.4 ラメトリ	内面ヨコナデとナ ダ、外延ハケメ	环IIa型
61-149	土器部	环	B-7区 26-30.灰白色砂 砾Ⅳ-X II	3mm 前後の砂粒を 含む。密 度。	(外) 淡黄褐色 (内) 淡黄褐色	口径: 12.0 器高: 4.9 ラメトリ	内面ヨコナデとナ ダ、外延手持ちヘ ラケズリ	环IIa型
61-150	土器部	环	B-6区 5.オリーブ黒色粘	0.5mm 以下の砂粒 を含む。密 度。	(外) にいわゆる 灰色 (内) にいわゆる 灰色	口径: 12.9 器高: 5.2 ラメトリ	内面ヨコナデとナ ダ、外延ハケメと 手持ちヘラケズリ	环IIa型 内面に炭化物有
61-151	土器部	环	C-7区 9.灰黄色砂砾Ⅳ -9.灰黄色	2mm 以下の砂粒を 含む。密 度。	(外) にいわゆる 灰色 (内) にいわゆる 灰色	口径: 15.2 ラメトリ	内面ヨコナデとナ ダ、外延ハケメと 手持ちヘラケズリ	环IIb型
61-152	土器部	环	B-7区 26-30.灰白色砂 砾Ⅳ-X II	0.5mm 以下の砂粒 を含む。密 度。	(外) にいわゆる 灰色 (内) にいわゆる 灰色	口径: 12.3 器高: 6.1 ラメトリ	内面ヨコナデとナ ダ、外延手持ちヘ ラケズリ	环IIb型
61-153	土器部	环	C-11区・D-11区 5.オリーブ黒色粘	0.5mm 以下の砂粒 を含む。密 度。	(外) にいわゆる 灰色 (内) にいわゆる 灰色	口径: 16.4 ラメトリ	内面ヨコナデとナ ダ、外延手持ちヘ ラケズリ	环IIb型
61-154	土器部	环	C-16区 5.オリーブ黒色粘	1mm 前後の砂粒を 少量含む。密 度。	(外) 淡色 (内) 淡色	口径: 13.0 器高: 4.0 ラメトリ	内面ヨコナデとナ ダ、外延手持ちヘ ラケズリ	环IIb型 口縁部が焼れる
61-155	土器部	环	C-8区 9.灰黄色砂砾Ⅳ -10.灰黄色	1mm 以下の砂粒を 多く含む。密 度。	(外) にいわゆる 灰色 (内) にいわゆる 灰色	口径: 12.5 器高: 5.8 ラメトリ	内面ヨコナデとナ ダ、外延手持ちヘ ラケズリ	环IIb型 口縁部が焼焦
61-156	土器部	环	C-17区 5.オリーブ黒色粘	1mm 以下の砂粒を 少量含む。密 度。	(外) にいわゆる 灰色 (内) にいわゆる 灰色	口径: 14.3 ラメトリ	内面ヨコナデとナ ダ、外延手持ちヘ ラケズリ	环IIc型
61-157	土器部	环	D-8区 8.灰黄色砂砾Ⅳ	2mm 以下の砂粒を 含む。密 度。	(外) 淡色 (内) 淡色	口径: 12.8 ラメトリ	内面ヨコナデとナ ダ、外延手持ちヘ ラケズリ	环IIc型
61-158	土器部	环	B-6区 5.オリーブ黒色粘	1mm 以下の砂粒を 少量含む。密 度。	(外) にいわゆる 灰色 (内) にいわゆる 灰色	口径: 13.3 ラメトリ	内面ヨコナデとナ ダ、外延手持ちヘ ラケズリとハケメ	环IIc型 外延にいわゆる 灰色の斑点有
61-159	土器部	环	C-16区・D-10区 5.オリーブ黒色粘	1mm 前後の砂粒を 多く含む。密 度。	(外) 白色 (内) 白色	口径: 16.5 ラメトリ	内面ヨコナデとナ ダ、外延手持ちヘ ラケズリ	环IIc型
61-160	土器部	环	C-16区・D-16区 5.オリーブ黒色粘	2mm 前後の砂粒を 含む。密 度。	(外) 淡灰色 (内) 灰色	口径: 11.0 ラメトリ	内面ヨコナデとナ ダ、外延手持ちヘラ ケズリ	环III型 軽量の手柄有
61-161	土器部	环	D-7区 9.灰黄色砂砾Ⅳ -10.灰黄色	1mm 以下の砂粒を 多く含む。密 度。	(外) にいわゆる 灰色 (内) にいわゆる 灰色	口径: 9.9 器高: 4.3 ラメトリ	内面ヨコナデとナ ダ、外延手持ちヘ ラケズリ	环III型 手柄ね
61-162	土器部	环	C-17区 5.オリーブ黒色粘	1mm 以下の砂粒を 多く含む。密 度。	(外) 淡黄褐色 (内) 淡黄褐色	口径: 5.2 器高: 4.5 ラメトリ	内面ヨコナデとナ ダを残す	环III型 手柄ね
61-163	土器部	环	C-7区 5.オリーブ黒色粘	0.5mm 以下の砂粒を 多く含む 度。	(外) にいわゆる 灰色 (内) 淡黄褐色	口径: 7.6 ラメトリ	内面ヨコナデとナ ダを残す	环III型 手柄ね
61-164	土器部	环	C-17区 5.オリーブ黒色粘	0.5mm 大の砂粒を 多く含む 度。	(外) にいわゆる 灰色 (内) にいわゆる 灰色	口径: 5.8 ラメトリ	内面ヨコナデとナ ダを残す	环III型 手柄ね
62-165	土器部	直筒环	C-7区 21.灰黄色砂砾VI	1mm 以下の砂粒を 多く含む。密 度。	(外) にいわゆる 灰色 (内) にいわゆる 灰色	口径: 12.0 器高: 6.9 ラメトリ	内面ヨコナデとナ ダ、外延手持ちヘ ラケズリとヨコナ ダ	内面に赤色斑 点有
62-166	土器部	直筒环	D-10区 5.オリーブ黒色粘	1mm 以下の砂粒を 多く含む。密 度。	(外) にいわゆる 灰色 (内) にいわゆる 灰色	口径: 12.6 器高: 7.4 ラメトリ	内面ヨコナデとナ ダ、外延手持ちヘ ラケズリ	
62-167	土器部	直筒环	D-9区 H.灰黄色砂砾IV	1mm 前後の砂粒を 多く含む。密 度。	(外) にいわゆる 灰色 (内) にいわゆる 灰色	口径: 12.8 器高: 7.2 ラメトリ	内面ヨコナデとナ ダ、外延手持ちヘ ラケズリ、軽量	
62-168	土器部	乳突环	B-7区 5.オリーブ黒色粘	2mm 大の砂粒を含 む。密 度。	(外) 淡色 (内) 淡色	口径: 13.9 器高: 8.9 ラメトリ	内面ヨコナデとナ ダ、外延手持ちヘ ラケズリ、軽量	

## 河道C 遺構外出土土器観察表

単位(cm)

件番 番号	品目	器種	出土点 上層	施 工 成 形 法 書	名 稱	測定・手法の特徴	時 期	備 考
62-169	土器部	低身灰	5-6区 5.オリーブ黒色粘 土	1.5cm以下の砂粒 含む、密 (外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	底径: 0.4	底部下面敷射状の暗 緑、外縁ハケメ、脚 部内外面ヨコナデ 芦部内面下部の擦 痕、外縁ハケメ、 脚部内外面ヨコナデ		
62-170	土器部	低身灰	C-6区 5.オリーブ黒色粘 土	1mm以下の砂粒を 含む、密 (外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	底径: 8.8			
62-171	土器部	低身灰	C-7区 5.オリーブ黒色粘 土	1mm 前後の砂粒を 含む、密 (外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	底径: 6.2	脚部外外面ヨコナ デ		
62-172	土器部	低身灰	C-8区 5.オリーブ黒色粘 土	0.5mm 大の砂粒含 む (外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	底径: 7.1	脚部内外間に断続 した凹凸がある	相模の手作ね	
62-173	土器部	低身灰	C-8区 5.赤色砂礫陶 10.灰色砂質	1mm 以下の砂粒を 含む (外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	底径: 6.7	脚部内外間に断続 した凹凸がある	相模の手作ね	
62-174	土器部	低身灰	C-16区 5.オリーブ黒色粘 土	2mm 大の砂粒を含 む 不均	底径: 8.4	脚部内外間に断続 した凹凸がある	相模の手作ね	
62-175	土器部	低身灰	C-16区 D-6区 5.オリーブ黒色粘 土	3mm 以下の砂粒を 含む (外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	底径: 7.0	脚部内外間に断続 した凹凸がある	相模の手作ね	
63-176	土器部	高身灰	D-9区 5.オリーブ黒色粘 土	0.5mm 以下の砂粒 少々含む、密 (外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 17.3 底径: 9.4 高さ: 11.7	口部内面暗紅、脚 部外縁ハケメ、 脚部内面ヨコナデ	高环Ia期 接合: E-2	
63-177	土器部	高身灰	H-7区 5.オリーブ黒色粘 土	0.5mm 以下の砂粒 含む、密 (外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 18.0	口部内面暗紅、外 縁ハケメ	高环Ia期 接合: E-2	
63-178	土器部	高身灰	C-7区 5.オリーブ黑色粘 土	1mm D-7の砂粒を 含む (外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 17.4 底径: 9.2 高さ: 9.9	口部内面暗紅、外 縁ハケメ、脚部内 面ヨコナデ	高环Ia期 接合: E-2	西日本式
63-179	土器部	高身灰	C-7区 5.オリーブ黒色粘 土	0.5mm 以下の砂粒 含む、密 (外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 18.0 底径: 9.4 高さ: 13.7	口部内面暗紅、ガキ 付ハケメ、内面ヨコ ナデ	高环Ia期 接合: E-2	赤色砂質陶器
64-180	土器部	高身灰	G-7区 5.赤色砂礫陶 10.灰内砂質	2-3mm 大の砂粒を 含む、密 (外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 17.8 底径: 10.4 高さ: 12.0	口部内面ヨコナデ、 脚部内面暗紅、 脚部外縁ハケメ	高环Ia期 接合: E-2	
64-181	土器部	高身灰	H-7区 26-30.灰色砂質 Ⅲ-X II	2-3mm 大の砂粒を 含む (外)青黄褐色 (内)褐色	口径: 13.4	口部内面暗紅、外 縁ハケメ	高环Ia期 接合: E-2	
64-182	土器部	高身灰	H-7区 26-30.灰色砂質 Ⅲ-X II	1mm 大の砂粒を含 む、密 (外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 14.3	口部内面ヨコナ デ、外縁ハケメ	高环Ia期 接合: E-2	
64-183	土器部	高身灰	H-6区 5.オリーブ黒色粘 土	1mm 前後の砂粒を 含む、密 (外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 16.0	脚部内面ハケメ、 脚部外縁ハケメ	高环Ia期 接合: E-2	
64-184	土器部	高身灰	B-7区 5.オリーブ黒色粘 土	1mm 以下の砂粒を 含む、密 (外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 13.4 底径: 10.0 高さ: 12.4	脚部内面ヨコナ デ、外縁ハケメ	高环Ia期 接合: E-2	西日本式
64-185	土器部	高身灰	B-7区 5.オリーブ黒色粘 土	1mm 以下の砂粒を 含む、密 (外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 13.7 底径: 9.0 高さ: 11.5	脚部内面ヨコナ デ、外縁ハケメ	高环Ia期 接合: E-2	西日本式
64-186	土器部	高身灰	B-7区 5.オリーブ黒色粘 土	1mm 以下の砂粒を 含む、密 (外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 14.8	脚部内面ヨコナ デ	高环Ia期 接合: E-2	西日本式
64-187	土器部	高身灰	C-6区 5.赤色砂礫陶 10.灰内砂質	圓鉗を含む、密 (外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 19.4 底径: 12.3 高さ: 14.0	脚部内面ヨコナ デ、その他のハケ メ	高环Ia期 接合: E-2	
64-188	土器部	高身灰	H-6区 5.オリーブ黒色粘 土	圓鉗を含む、密 (外)赤色砂質 陶	口径: 19.6	脚部内面ヨコナ デ、その他のハケ メ	高环Ia期 接合: E-2	
64-189	土器部	高身灰	B-7区 26-30.灰内砂質 Ⅲ-X II	圓鉗を含む、密 (外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 19.4	脚部内面ヨコナ デ、その他のハケ メ	高环Ia期 接合: E-2	
65-190	土器部	高身灰	C-17区 5.オリーブ黒色粘 土	圓鉗を含む、密 (外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 23.0 底径: 9.5 高さ: 13.4	脚部内面ハケメ、 脚部外縁ハケメ、 脚部内面ヨコナ デ	高环Ia期 接合: E-2	西日本式
65-191	土器部	高身灰	S-6区 5.オリーブ黒色粘 土	圓鉗を含む、密 (外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 18.5	外縁の接合部分に ハケメ	高环Ia期 接合: E-2	西日本式
65-192	土器部	高身灰	C-16区・D-16区 5.オリーブ黒色粘 土	圓鉗を含む、密 (外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 27.8 底径: 12.5 高さ: 13.8	脚部外縁ハケメ、 脚部外縁ヨコナ デ	高环Ia期 接合: E-2	
65-193	土器部	高身灰	C-7区 5.オリーブ黒色粘 土	1mm D-7の砂粒を 多く含む、密 (外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 21.8 底径: 11.7 高さ: 13.3	脚部外縁の一部に ハケメ	高环Ia期 接合: E-2	
65-194	土器部	高身灰	B-7区 5.オリーブ黒色粘 土	圓鉗を含む、密 (外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 19.8	脚部外縁ヨコナ デ、脚部外縁ハ ケメ	高环Ia期 接合: E-2	西日本式
65-195	土器部	高身灰	C-7区 5.オリーブ黒色粘 土	圓鉗を含む、密 (外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 18.6	脚部内面ハケメ ハケメ	高环Ia期 接合: E-2	西日本式
65-196	土器部	高身灰	C-16区 5.オリーブ黒色粘 土	圓鉗を含む、密 (外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 20.0	脚部内面ハケメ ハケメ	高环Ia期 接合: E-2	西日本式

河道C 構造外出土土器観察表

単位 (cm)

層番号	品目	器種	出土位置	測定方法	色調	底径	高さ	開口部、手法の特徴	特則	備考
65-197	土器器	高环	C-7区 5.オーリーブ黒色粘	微細粒を含む、密	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 20.5	山形部内外縁ハケ マツリ(赤いナガカ)		高环:A類	
65-198	土器器	高环	C-7区 5.オーリーブ黒色粘	微細粒を含む、密	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	底径: 10.4	腹部外側前方の ミガキハケメ、 内面ケズリ	接合: B	高环:A類	明光差の傾斜性
65-199	土器器	高环	B-7区 5.オーリーブ黒色粘	微細粒を含む、密	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	底径: 11.0	腹部外側前方の ミガキ、内面ケズ リヒンテ	接合: B	高环:A類	赤色の傾斜性
66-200	土器器	高环	D-9区 5.オーリーブ黒色粘	微細粒を含む、密	(外)明灰褐色 (内)明灰褐色	底径: 10.5	外側ハケメ、内面 ケズリヒナダ		高环:A類	明光差の傾斜性
66-201	土器器	古盘	D-9区 5.オーリーブ黒色粘	微細粒を含む、密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	底径: 10.6	高円部中央後ハケ メ、内面ケズリヒ ナダ		高环:A類	明光差の傾斜性
66-202	土器器	高环	D-6区 5.オーリーブ黒色粘	微細粒を含む、密	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	底径: 9.0	外底ヨコナガ、内 口ケズリ		高环:B類	赤色の傾斜性
66-203	土器器	高环	C-17区 5.オーリーブ黒色粘	微細粒を含む、密	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	底径: 11.2	外底腹側のミガ キ		高环:B類	赤色の傾斜性
66-204	土器器	高环	C-7区 5.オーリーブ黒色粘	微細粒を含む、密	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	底径: 10.6	外側前方のミガ キ、内面ケズリヒ ナダ		高环:B類	赤色の傾斜性
66-205	土器器	高环	B-7区 5.オーリーブ黒色粘	1mm 以下の微細粒 を含む、密	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	底径: 10.3	外底腹側のミガ キ、脚部内面ハケ メ		高环:B類	赤色の傾斜性
66-206	土器器	高环	C-16区 5.オーリーブ黒色粘	2mm 以下の微細粒 を含む、密	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	底径: 10.0	外底腹側のミガ キ、脚部内面ハケ メ		高环:B類	赤色の傾斜性
66-207	土器器	高环	C-7区 5.オーリーブ黒色粘	1mm 以下の微細粒 を含む、密	(外)明灰褐色 (内)明灰褐色	底径: 10.2	外底腹側のミガ キ、内面ケズリヒ ナダ		高环:B類	赤色の傾斜性
66-208	土器器	高环	D-9区 5.灰白色細縫目	微細粒を含む、密	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	底径: 10.0	外側腹側のミガ キ		高环:B類	赤色の傾斜性
66-209	土器器	高环	D-8区 8.灰色砂縫目	1mm 以下の微細粒 を含む、密	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色				接合: A	
66-210	土器器	高环	B-7区 26-30.灰色砂縫 目-X II	2mm 前後の微細粒 を含む、密	(外)褐色 (内)褐色	底径: 8.2	拡張部内面に絞り 直		接合: B-2	
66-211	土器器	高环	C-17区 5.オーリーブ黒色粘	1mm の砂粒を含 む、密	(外)褐色 (内)褐色		外側内面絞		接合: B-2	
66-212	土器器	高环	D-8区 5.オーリーブ黒色粘	0.5mm 以下の微細粒 を含む、密	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色				接合: B-	
66-213	土器器	高环	C-7区 5.オーリーブ黒色粘	1mm 以下の砂粒を 含む、密	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色				接合: B	
66-214	土器器	高环	C-7区 5.オーリーブ黒色粘	0.5cm 程度の砂粒 を含む、密 やや良	(外)赤褐色 (内)淡褐色				高环:A類 接合: B(B-2iii か)	
66-215	土器器	碗	B-7区 26-30.灰色砂縫 目-X II	3mm 前後の砂粒を 含む、密	(外)褐色 (内)褐色	底径: 10.6	外側腹側のミガ キ、内面ケズリヒ ナダ		接合: B-2	
66-216	土器器	高环	C-7区 9.灰色砂縫目 10.灰褐色砂	1mm 以下の砂粒を 含む、密	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	底径: 10.6	外底腹側のミガ キ、内面ケズリヒ ナダ		接合: B-2	
66-217	土器器	高环	C-17区 5.オーリーブ黒色粘	0.5mm 以下の砂粒 を含む、密	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	底径: 9.8	外側腹側のミガ キ、内面ケズリヒ ナダ		接合: C	
66-218	土器器	高环	C-7区 5.オーリーブ黒色粘	微細粒を含む、密	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	底径: 10.1	外側腹側のミガ キ、内面ケズリヒ ナダ		接合: D	明光色の傾斜性
66-219	土器器	高环	B-7区 5.オーリーブ黒色粘	微細粒を含む、密	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	底径: 10.5	外側ハケメ、内面 ナラサカ		接合: E	明光色の傾斜性
66-220	土器器	直口盤	B-7区 25.灰褐色砂縫目上	1mc 大の砂粒を含 む、密	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 9.0	山形部外縁ヨコナ ガ、体部内面ハケ メ		直口盤	直口盤工類
66-221	土器器	直口盤	B-7区 26-30.灰色砂縫 目-X II	微細粒含む、密	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 8.8	山形部外縁に絞状		直口盤	直口盤工類
66-222	土器器	直口盤	B-7区 24.灰褐色砂縫目上	微細粒	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 10.2	山形部外縁ハケメ、 体部外縁ハケメ、内 面ケズリヒナダ		直口盤	直口盤工類
66-223	土器器	直口盤	B-7区 5.オーリーブ黒色粘	1mc 前後の砂粒を 含む、密	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	最大径: 13.5 高さ: 12.7	山形部内面ヨコナ ガ、体部外縁ハケメ ナダ		直口盤	直口盤工類
66-224	土器器	直口盤	B-7区 5.オーリーブ黒色粘	2mc 以下の砂粒を 含む、密	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 9.8	山形部外縁ハケ メ、体部外縁ハケ メ、内面ハラサカ		直口盤	直口盤工類

河道C遺構外出土器觀察表

単位(cm)

件番 号	品目 器種	出土地点 土層	胎 形	色 調	法 量	測定、手法の特徴	時 期 編 考
67-225	土器器	直口壺	C-7区 24.天井形頸片	3mm 人の脚長含む。 (外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 8.9 最大径: 13.0 高さ: 4.5	口部内部外側ヨコナデ、本體内外面 ヨコナデ	直口壺Ⅱ類 外面に焼付層
67-226	土器器	直口壺	B-7区 5.オリーブ黒色胎	1mm 以下の砂粒を 含む、青 小貝	口径: 13.0	口部外部ハケメ、 内部外側ハケメ・ 内面ハラケズリ	直口壺Ⅲ類 外面に焼付層
67-227	土器器	直口壺	C-17区 5.オリーブ黒色胎	1mm 以下の砂粒を 含む、青	口径: 12.6	口部外部ハケメ・内面 ヨコナデ、本體外側ハケ メ・内面ハラケズリ	直口壺Ⅲ類 外面に焼付層
67-228	土器器	直口壺	C-9区 5.オリーブ黒色胎	2mm 以下の砂粒を 含む、青	口径: 10.0	口部内部ハケメ・内面 ヨコナデ、本體外側ハケ メ・内面ハラケズリ	直口壺Ⅲ類
67-229	土器器	直口壺	B-7区 26.30.赤色胎	1mm 以下の砂粒を 含む、青 小貝	口径: 15.1	口部内部ハケメ・内面 ヨコナデ、本體外側ハケ メ・内面ハラケズリ	直口壺Ⅲ類
68-230	土器器	直口壺	D-8区 9.天井形頸片Ⅳ 10.赤色胎	1mm 以下の砂粒を 含む、青 小貝	口径: 14.9	口部内部外側ヨコナ デ、本體外側ハケメ ・内面ハラケズリ	直口壺Ⅳ類
68-231	土器器	直口壺	C-7区 9.天井形頸片Ⅳ 10.赤色胎	1mm 以下の砂粒を 含む、青	口径: 14.0	口部内部ハケメ・内面 ヨコナデ、本體外側ハケ メ・内面ハラケズリ	直口壺Ⅳ類
68-232	土器器	直口壺	B-7区 3.オリーブ黒色胎	1mm 以下の砂粒を 含む、青	口径: 15.6	口部内部ハケメ・内面 ヨコナデ、本體外側ハケ メ・内面ハラケズリ	直口壺Ⅳ類
68-233	土器器	直口壺	D-8区 5.オリーブ黒色胎	2mm 以下の砂粒を 含む、青	口径: 9.8	口部内部外側ヨコナ デ、本體外側ハケメ ・内面ハラケズリ	直口壺Ⅴ類
68-234	土器器	直口壺	B-7区 24.天井形頸片Ⅴ	1mm 以下の砂粒を 含む、青 小貝	口径: 10.7 最大径: 13.5 高さ: 5.3	口部内部外側ヨコナ デ、本體外側ハケメ ・内面ハラケズリ	直口壺Ⅴ類
68-235	土器器	直口壺	H-7区 26-30.赤色胎	1mm 以下の砂粒を 含む、青 小貝	口径: 15.0	口部外側ハケメ、 内面ハラケズリ	直口壺Ⅴ類
68-236	土器器	直口壺	D-8区 8.赤色胎	2mm 以下の砂粒を 含む、青	口径: 11.2	口部外部外側ヨコナ デ、本體外側ハケメ ・内面ナダ	直口壺Ⅵ類
68-237	土器器	直口壺	B-7区 26-30.赤色胎	1-2mm 大の砂粒含 む、青 小貝	口径: 8.2-8.8	口部内部ハケメ・内面 ヨコナデ、本體外側ハケ メ・内面ハラケズリ	直口壺Ⅵ類
68-238	土器器	直口壺	C-11区 5.オリーブ黒色胎	1mm 大の砂粒を含 む、青 小貝	口径: 6.5	口部内部外側ヨコナ デ、本體外側ハケメ ・内面ハラケズリ	直口壺Ⅶ類 手捺ね
68-239	土器器	直口壺	D-7区 5.オリーブ黒色胎	1mm 以下の砂粒を 含む、青 小貝	口径: 5.0 最大径: 5.8 高さ: 4.4	口部内部外側ヨコナ デ、本體外側ハケメ ・内面ナダ	直口壺Ⅶ類 手捺ね
68-240	土器器	直口壺	D-7区 5.オリーブ黒色胎	0.5mm 大の砂粒含 む、青 小貝	口径: 5.8	口部内部外側ヨコナ デ、本體外側ハケメ ・内面ナダ	直口壺Ⅶ類 手捺ね
69-241	土器器	直口壺	C-11区 5.オリーブ黒色胎	1mm 以下の砂粒を 含む、青 小貝	口径: 21.0	口部外側ハケメ、 内面ハラケズリ	直口壺Ⅶ類 手捺ね
69-242	土器器	直口壺	C-7区 9.天井形頸片Ⅳ 10.赤色胎	1mm 以下の砂粒を 含む、青 小貝	口径: 22.3	口部外側ヨコナデ ・内面ハラケズリ	直口壺Ⅶ類 手捺ね
69-243	土器器	直口壺	D-11区 5.オリーブ黒色胎	1mm 大の砂粒を含 む、青 小貝	口径: 2.3	口部内部ハラケズ リ	直口壺Ⅶ類
69-244	土器器	直口壺	C-7区 9.天井形頸片Ⅳ 10.赤色胎	2mm 以下の砂粒を 含む、青	口径: 8.0	口部内外面にミガ キ	直口壺Ⅶ類
69-245	土器器	直口壺	H-6区 26-30.赤色胎	1mm 以下の砂粒を 含む、青 小貝	外側にハケメ ・内面ハラケズリ	直口壺Ⅶ類	
69-246	土器器	直口壺	D-8区 9.天井形頸片Ⅳ 10.赤色胎	2mm 以下の砂粒を 含む、青 小貝	把手取り付け部分 にハナデ、内面ハ ラケズリ	直口壺Ⅶ類	
69-247	土器器	直口壺	D-8区 8.赤色胎	3mm 前後の砂粒含 む、青 小貝	口径: 38.7	黒化、腐滅	直口壺Ⅶ類
70-248	土器器	瓶	C-8区 9.天井形頸片Ⅳ 10.赤色胎	2mm 以下の砂粒を 含む、青 小貝	口径: 18.6 最大径: 20.8 高さ: 8.5	口部内部外側ヨコナ デ、本體外側ハケメ ・内面ハラケズリ	外面に焼付層
70-249	土器器	瓶	C-16区 5.オリーブ黒色胎	1mm 前後の砂粒を 含む、青	口径: 22.5	口部内部外側ヨコナ デ、本體外側ハケメ ・内面ハラケズリ	外面に焼付層
70-250	土器器	瓶	D-8区 5.オリーブ黒色胎	1mm 以下の砂粒を 含む、青	口径: 18.6 最大径: 20.8 高さ: 8.5	口部外部ハケメ、 内面ハラケズリ	把手
70-251	土器器	瓶	B-7区 26-30.赤色胎	2cm 以上の砂粒を 含む、青	口径: 18.6 最大径: 20.8 高さ: 8.5	外側ハケメ、内面 ハラケズリ	把手
70-252	土器器	瓶	D-8区 6.赤色胎	1mm 以下の砂粒を 含む、青	口径: 18.6 最大径: 20.8 高さ: 8.5	外側ハケメ、内面 ハラケズリ	把手

河道C遺構出土土器観察表

単位(cm)

調査番号	品目	器種	出土場所 上層	施土法	色調	法 畠	測定・手法の特徴	時 期	備考
71-233	土器部	瓶	C-14区 5.オリーブ黒色系	1mm 人の砂粒を含む。密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	外輪ハケメ、内側 ヘラケズリ	把手		
71-234	土器部	瓶	C-17区 5.オリーブ黒色系	1mm 以下の砂粒を含む。密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	把手下端ヘラケズリ リ、底部内面ヘラ ケズリ	把手		
71-255	土器部	瓶	C-16区・C-17区 5.オリーブ黒色系	0.5mm 以下の砂粒を含む。密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	外輪ハケメ、内面 ヘラケズリ		棒状の模	
71-256	土器部	瓶	H-6区 26-30.灰白色砂 W-X II	2mm 前後の砂粒を含む。密	(外)に明瞭灰 (内)に明瞭灰	底径: 14.2 外輪ハケメ、内面 ヘラケズリ		棒状の模	
71-257	土器部	瓶	C-16区 5.オリーブ黒色系	1mm 以下の砂粒を含む。密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	底径: 9.2 外輪ハケメ、内面 ヘラケズリ		棒状の模	
71-258	土器部	瓶	B-7区 26-30.灰白色砂 W-X II	1mm 以下の砂粒を含む。密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	底径: 12.0 外輪ハケメ、内面 ヘラケズリ		棒状の模	
72-259	土器部	瓶	9.灰白色砂 10.灰白色砂 C-8X	1mm 以下の砂粒を含む。密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 24.4 口部外側ヨコナ 横幅: 25.2 底径: 32.3 外輪ハケメ、内面 ヘラケズリ	口径: 24.4 口部外側ヨコナ 横幅: 25.2 底径: 32.3 外輪ハケメ、内面 ヘラケズリ	内面に付着	
73-260	土器部	瓶	9.灰白色砂 10.灰白色砂	1mm 以下の砂粒を含む。密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 34.7 口部外側ヨコナ 横幅: 35.8 底径: 40.6 外輪ハケメ、内面 ヘラケズリ	口径: 34.7 口部外側ヨコナ 横幅: 35.8 底径: 40.6 外輪ハケメ、内面 ヘラケズリ	内面に付着	
74-261	土器部	瓶	C-16区 5.オリーブ黒色系	1mm 前後の砂粒を含む。密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 27.1 口部外側ヨコナ 横幅: 28.2 底径: 32.4 外輪ハケメ、内面 ヘラケズリ	口径: 27.1 口部外側ヨコナ 横幅: 28.2 底径: 32.4 外輪ハケメ、内面 ヘラケズリ	内面に付着	
74-262	土器部	瓶	C-7区 9.灰白色砂 10.灰白色砂	1mm 以下の作業を含む。密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 27.0 口部外側ヨコナ 横幅: 28.2 底径: 32.4 外輪ハケメ、内面 ヘラケズリ	口径: 27.0 口部外側ヨコナ 横幅: 28.2 底径: 32.4 外輪ハケメ、内面 ヘラケズリ	内面に付着	
74-263	土器部	瓶	C-17区 5.オリーブ黒色系	2mm 前後の砂粒を含む。密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 29.4 口部外側ヨコナ 横幅: 30.6 底径: 35.5 外輪ハケメ、内面 ヘラケズリ	口径: 29.4 口部外側ヨコナ 横幅: 30.6 底径: 35.5 外輪ハケメ、内面 ヘラケズリ	内面に付着	
75-264	土器部	瓶	C-17区 5.オリーブ黒色系	1mm 前後の砂粒を含む。密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 12.3 底盤がよく残る。外 輪ハケメ	口径: 12.3 底盤がよく残る。外 輪ハケメ	二次焼成	
75-265	土器部	瓶	C-17区 5.オリーブ黒色系	やや不良	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 11.6 粘土の積み上げ 底盤がよく残る。外 輪ハケメ	口径: 11.6 粘土の積み上げ 底盤がよく残る。外 輪ハケメ	二次焼成	
75-266	土器部	瓶	H-7区 5.オリーブ黒色系	密	(外)赤褐色 (内)赤褐色	口径: 11.1 粘土の積み上げ 底盤がよく残る。外 輪ハケメ	口径: 11.1 粘土の積み上げ 底盤がよく残る。外 輪ハケメ	二次焼成	
75-267	土器部	瓶	C-11区・D-11区 5.オリーブ黒色系	密	(外)灰青褐色 (内)灰青褐色	口径: 11.0 粘土の積み上げ 底盤がよく残る。外 輪ハケメ	口径: 11.0 粘土の積み上げ 底盤がよく残る。外 輪ハケメ	二次焼成	
75-268	土器部	瓶	H-7区 5.オリーブ黒色系	密	(外)に赤い褐色 (内)に赤い褐色	口径: 11.0 底盤がよく残る。外 輪ハケメ	口径: 11.0 底盤がよく残る。外 輪ハケメ	二次焼成	
75-269	土器部	瓶	D-7区 5.オリーブ黒色系	密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 12.0 粘土の積み上げ 底盤がよく残る。外 輪ハケメ	口径: 12.0 粘土の積み上げ 底盤がよく残る。外 輪ハケメ	二次焼成	
75-270	土器部	瓶	C-11区・C-11区 5.オリーブ黒色系	密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 12.0 粘土の積み上げ 底盤がよく残る。外 輪ハケメ	口径: 12.0 粘土の積み上げ 底盤がよく残る。外 輪ハケメ	二次焼成	
75-271	土器部	瓶	C-17区 5.オリーブ黒色系	密	(外)赤褐色 (内)赤褐色	口径: 11.1 粘土の積み上げ 底盤がよく残る。外 輪ハケメ	口径: 11.1 粘土の積み上げ 底盤がよく残る。外 輪ハケメ	二次焼成	
75-272	土器部	瓶	H-7区 5.オリーブ黒色系	密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	底径: 4.3 内外器ナナ	底径: 4.3 内外器ナナ	二次焼成	
75-273	土器部	瓶	C-11区・D-11区 5.オリーブ黒色系	密	(外)赤褐色 (内)赤褐色	底径: 4.4 内外器ナナ	底径: 4.4 内外器ナナ	二次焼成	
76-274	土器部	7周目	C-17区 5.オリーブ黒色系	2mm 以下の砂粒を含む。密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 14.4 底盤外側赤褐色の方 の外、外輪外側とギ ザギザ	口径: 14.4 底盤外側赤褐色の方 の外、外輪外側とギ ザギザ	盛火	
76-275	土器部	7周目	C-16区 5.オリーブ黒色系	1mm 从一の砂粒含む。密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	口径: 30.6 内側ケズリ	口径: 30.6 内側ケズリ	底部から	
77-276	土器部	7周目	C-7区 5.オリーブ黒色系	微端含む。密	(外)に赤い黄褐色 (内)に赤い黄褐色	底径: 1.8 孔径: 0.7 底径: 4.0	底径: 1.8 孔径: 0.7 底径: 4.0		
78-277	須志部	杯	B-7区 5.オリーブ黒色系	密	(外)赤褐色 (内)赤褐色	口径: 12.0 口部内側赤褐色、出 露口縁 内径: 11.2 ナナ	口径: 12.0 口部内側赤褐色、出 露口縁 内径: 11.2 ナナ	A1型	
78-278	須志部	杯	B-7区 5.オリーブ黒色系	密 良好	(外)赤褐色 (内)赤褐色	口径: 12.4 口部内側赤褐色 内径: 11.6 ナナ	口径: 12.4 口部内側赤褐色 内径: 11.6 ナナ	A1型	
78-279	須志部	杯	C-8X 5.オリーブ黒色系	密 良好	(外)赤褐色 (内)赤褐色	口径: 12.3 口部内側赤褐色 内径: 11.5 ナナ	口径: 12.3 口部内側赤褐色 内径: 11.5 ナナ	A1型	
78-280	須志部	杯	C-7区 5.オリーブ黒色系	密 良好	(外)赤褐色 (内)赤褐色	口径: 12.4 口部内側赤褐色 内径: 11.6 ナナ	口径: 12.4 口部内側赤褐色 内径: 11.6 ナナ	A1型	

河道C遺構出土土器観察表

単位(cm)

擇国番号	品目	器種	出土地点 大・番	胎 土	色 調	法 量	測量・寸法の特徴	時期	備考	
78-281	須恵器	环形	C-16区 5.オリーブ黒色釉	良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 14.0 内径: 13.2 器高: 1.5	天井部外縁可動部へ ラケズリ、その他 内縫ナジ	出雲2期	A2型・T類(古いもの)	
78-282	須恵器	环形	D-8区 5.オリーブ黒色釉	1mm人の砂粒を僅かに含む。密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 13.8 内径: 12.9 器高: 3.5	天井部外縁可動部へ ラケズリ、その他 内縫ナジ	出雲2期	A2型・I類(古いもの) その自然仕打付	
78-283	須恵器	环形	C-16区 5.オリーブ黒色釉	良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 13.9 内径: 13.1 器高: 4.5	天井部外縁可動部へ ラケズリ、その他 内縫ナジ	出雲2期	A2型・I類(古いもの)	
78-284	須恵器	环形	C-16区 5.オリーブ黒色釉	良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 13.8 内径: 12.8	天井部外縁可動部へ ラケズリ、その他 内縫ナジ	出雲2期	A2型・I類(古いもの)	
78-285	須恵器	环形	C-16区 5.オリーブ黒色釉	良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 13.6 内径: 12.6 器高: 4.7	天井部外縁可動部へ ラケズリ、その他 内縫ナジ	出雲2期	A2型・II類	
78-286	須恵器	环形	C-16区・D-16区 5.オリーブ黒色釉	密 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 14.0 内径: 13.2 器高: 4.1	天井部外縁可動部へ ラケズリ、その他 内縫ナジ	出雲2期	A2型・II類	
78-287	須恵器	环形	C-16区 5.オリーブ黒色釉	密 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 13.6 内径: 12.9 器高: 4.3	天井部外縁可動部へ ラケズリ、その他 内縫ナジ	出雲2期	A2型・II類	
78-288	須恵器	环形	C-16区 5.オリーブ黒色釉	1mm以下の砂粒を僅かに含む。密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 14.0 内径: 12.4 器高: 4.3	天井部外縁可動部へ ラケズリ、その他 内縫ナジ	出雲2期	A2型・II類	
78-289	須恵器	环形	C-16区・D-16区 5.オリーブ黒色釉	密 良好	(外)灰褐色 (内)深黄色	口径: 14.0 内径: 13.1 器高: 4.2	天井部外縁可動部へ ラケズリ、その他 内縫ナジ	出雲2期	A2型・II類	
78-290	須恵器	环形	C-16区 5.オリーブ黒色釉	1mm前後の砂粒を僅かに含む。密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 14.2 内径: 13.2	天井部外縁可動部へ ラケズリ、その他 内縫ナジ	出雲2期	A2型・II類	
78-291	須恵器	环形	C-16区 5.オリーブ黒色釉	やや不良	(外)灰白色 (内)灰白色	口径: 14.2 内径: 13.4 器高: 4.7	天井部外縁可動部へ ラケズリ、その他 内縫ナジ	出雲2期	A2型・Ⅲ類(新しいもの)	
78-292	須恵器	环形	C-17区 5.オリーブ黒色釉	密 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 13.5 内径: 12.4 器高: 4.8	天井部外縁可動部へ ラケズリ、その他 内縫ナジ	出雲2期	A2型・Ⅲ類(新しいもの)	
78-293	須恵器	环形	C-16区 5.オリーブ黒色釉	密 良好	1mmの大砂粒を僅かに含む。密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 14.6 内径: 13.5 器高: 5.0	天井部外縁可動部へ ラケズリ、その他 内縫ナジ	出雲2期	A2型・Ⅲ類(新しいもの)
79-294	須恵器	环形	C-7区 5.オリーブ黒色釉	密 良好	1mmの大砂粒を僅かに含む。密	(外)灰白色 (内)灰白色	口径: 14.1 内径: 13.4 器高: 5.2	天井部外縁可動部へ ラケズリ、その他 内縫ナジ	出雲2期	A2型・Ⅲ類(新しいもの)
79-295	須恵器	环形	B-7区 5.オリーブ黒色釉	密 良好	1mmの大砂粒を僅かに含む。密	(外)灰白色 (内)灰白色	口径: 14.7 内径: 13.6 器高: 5.2	天井部外縁可動部へ ラケズリ、その他 内縫ナジ	出雲2期	A2型・Ⅲ類(新しいもの)
79-296	須恵器	环形	C-17区 5.オリーブ黒色釉	密 良好	1mmの大砂粒を僅かに含む。密	(外)灰白色 (内)灰白色	口径: 13.7 内径: 13.6 器高: 5.2	天井部外縁可動部へ ラケズリ、その他 内縫ナジ	出雲2期	A2型・Ⅲ類(新しいもの)
79-297	須恵器	环形	C-7区 5.オリーブ黒色釉	1mm以下の砂粒を僅かに含む。密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 13.7 内径: 13.0 器高: 4.8	天井部外縁可動部へ ラケズリ、その他 内縫ナジ	出雲2期	A2型・Ⅲ類(新しいもの)	
79-298	須恵器	环形	C-16区 5.オリーブ黒色釉	密 良好	1mmの大砂粒を僅かに含む。密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 12.8 内径: 12.0 器高: 5.2	天井部外縁可動部へ ラケズリ、その他 内縫ナジ	出雲2期	A2型・Ⅲ類(新しいもの)
79-299	須恵器	环形	C-16区 5.オリーブ黒色釉	密 良好	1mmの大砂粒を僅かに含む。密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 14.9 内径: 12.4 器高: 5.2	天井部外縁可動部へ ラケズリ、その他 内縫ナジ	出雲2期	A2型・Ⅲ類(新しいもの)
79-300	須恵器	环形	C-7区 5.オリーブ黒色釉	密 良好	10.灰白色	口径: 14.0 内径: 13.3	天井部外縁可動部へ ラケズリ、その他 内縫ナジ	出雲2期	A2型・Ⅲ類(新しいもの)	
79-301	須恵器	环形	D-16区 5.オリーブ黒色釉	密 良好	1mmの大砂粒を僅かに含む。密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 11.0 内径: 11.3 器高: 3.1	天井部外縁可動部へ ラケズリ、その他 内縫ナジ	出雲2期	A2型・Ⅲ類(新しいもの)
79-302	須恵器	环形	B-7区 5.オリーブ黒色釉	1mm人の砂粒を僅かに含む。密	(外)オリーブ灰色 (内)オリーブ灰色	口径: 14.3 内径: 13.3 器高: 3.8	天井部外縁可動部へ ラケズリ、その他 内縫ナジ	出雲2期	A3a型	
79-303	須恵器	环形	C-16区・D-16区 5.オリーブ黒色釉	1mm人の砂粒を僅かに含む。密	(外)灰白色 (内)灰白色	口径: 14.1 内径: 13.2 器高: 3.5	天井部外縁可動部へ ラケズリ、内縫ナジ、 若高: 3.5 その他の縫合ナジ	出雲3期	A3a型	
79-304	須恵器	环形	C-17区 5.オリーブ黒色釉	密 不良	1mmの大砂粒を僅かに含む。密	(外)灰白色 (内)灰白色	口径: 12.9 内径: 12.2 器高: 4.7	天井部外縁可動部へ ラケズリ、内縫ナジ、 その他の縫合ナジ	出雲4期	天井部外縁可動部へ ラケズリ、内縫ナジ、 その他の縫合ナジ
79-305	須恵器	环形	C-17区 5.オリーブ黒色釉	密 不良	1mmの大砂粒を僅かに含む。密	(外)灰白色 (内)灰白色	口径: 13.3 内径: 12.6 器高: 4.1	天井部外縁可動部へ ラケズリ、内縫ナジ、 その他の縫合ナジ	出雲4期	A4型
79-306	須恵器	环形	C-16区 5.オリーブ黒色釉	密 良好	1mm人の砂粒を僅かに含む。密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 12.8 内径: 12.6 器高: 3.9	天井部外縁可動部へ ラケズリ、内縫ナジ、 その他の縫合ナジ	出雲4期	A4型
79-307	須恵器	环形	C-16区 5.オリーブ黒色釉	密 良好	1mm人の砂粒を僅かに含む。密	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 12.5 内径: 12.6 器高: 3.7	天井部外縁可動部へ ラケズリ、内縫ナジ、 その他の縫合ナジ	出雲4期	A4型
79-308	須恵器	环形	C-16区・D-16区 5.オリーブ黒色釉	密 良好	1mm以下の砂粒を僅かに含む。密	(外)灰白色 (内)灰白色	口径: 13.4 内径: 12.6 器高: 3.9	天井部外縁可動部へ ラケズリ、内縫ナジ、 その他の縫合ナジ	出雲4期	A4型

### 河道C遺構外出土土器觀察表

单位 (cm)

## 河道C遭構外出土土器観察表

単位(cm)

澤岡 番号	品目	器種	出土地点 上層	胎 土	色 調	注 記	測定・半径の特徴	時 期	備 考
83-337	須恵器	环身	C-16区 5.オリーブ黒色釉 良好	0.5mm 以下の砂粒 を僅かに含む。青 色好	(外)灰色 (内)灰色	口径: 15.4 底面直径: 14.0 厚さ: 4.0	底部外縁斜面へラ ケズリ。その他圓 軸ナグ	出雲3期	A3型に作る环 身か
80-338	須恵器	环身	C-16区 5.オリーブ黒色釉 良好	蜜	(外)灰色 (内)灰色	口径: 15.4 底面直径: 14.0 厚さ: 4.0	底部外縁斜面へラ ケズリ・内面ナグ、 その他の軸ナグ	出雲3期	A3型に作る环 身か
80-339	須恵器	环身	C-17区 5.オリーブ黒色釉 良好	1mm 以下の砂粒を 僅かに含む。青 色好	(外)灰色 (内)灰色	口径: 15.4 底面直径: 14.0 厚さ: 4.0	底部外縁斜面へラ ケズリ・内面ナグ、 その他の軸ナグ	出雲4-5期	古墳時代の特徴。 青色好
80-340	須恵器	环身	C-17区 5.オリーブ黒色釉 良好	1mm 以下の砂粒を 僅かに含む。青 色好	(外)灰色 (内)灰色	口径: 15.4 底面直径: 14.0 厚さ: 4.0	底部外縁斜面へラ ケズリ・内面ナグ、 その他の軸ナグ	出雲4-5期	A4-A7型に伴 う环身か
80-341	須恵器	环身	C-16区 5.オリーブ黒色釉 良好	蜜	(外)灰色 (内)灰色	口径: 15.4 底面直径: 14.0 厚さ: 4.0	底部外縁斜面へラ ケズリ・内面ナグ、 その他の軸ナグ	出雲4-5期	A4-A7型に伴 う环身か
80-342	須恵器	环身	C-16区・D-16区 5.オリーブ黒色釉 良好	1mm 以下の砂粒を 僅かに含む。青 色好	(外)灰色 (内)灰色	口径: 15.4 底面直径: 14.0 厚さ: 4.0	底部外縁斜面へラ ケズリ・内面ナグ、 その他の軸ナグ	出雲4-5期	A4-A7型に伴 う环身か
80-343	須恵器	环身	C-17区 5.オリーブ黒色釉 良好	蜜	(外)灰色 (内)灰色	口径: 15.4 底面直径: 14.0 厚さ: 4.0	底部外縁斜面へラ ケズリ・内面ナグ、 その他の軸ナグ	出雲4-5期	A4-A7型に伴 う环身か
80-344	須恵器	环身	C-16区・C-17区 5.オリーブ黒色釉 良好	1mm 以下の砂粒を 僅かに含む。青 色好	(外)灰色 (内)灰色	口径: 15.4 底面直径: 14.0 厚さ: 4.0	底部外縁斜面へラ ケズリ・内面ナグ、 その他の軸ナグ	出雲4-5期	A4-A7型に伴 う环身か
80-345	須恵器	环身	C-16区・D-16区 5.オリーブ黒色釉 良好	蜜	(外)灰色 (内)灰色	口径: 15.4 底面直径: 14.0 厚さ: 4.0	底部外縁斜面へラ ケズリ・内面ナグ、 その他の軸ナグ	出雲4-5期	A4-A7型に伴 う环身か
80-346	須恵器	环身	C-7区 9.灰青色織部一 10.灰青色質	蜜	(外)灰色 (内)灰色	口径: 15.4 底面直径: 14.0 厚さ: 4.0	底部外縁斜面へラ ケズリ・内面ナグ、 その他の軸ナグ	出雲4-5期	A4-A7型に伴 う环身か
80-347	須恵器	环身	C-17区 5.オリーブ黒色釉 良好	蜜	(外)灰色 (内)深灰色	口径: 15.4 底面直径: 14.0 厚さ: 4.0	底部外縁斜面へラ ケズリ・内面ナグ、 その他の軸ナグ	出雲4-5期	A4-A7型に伴 う环身か
80-348	須恵器	环身	D-1区 8.灰青色織部Ⅲ 9.灰青色質Ⅲ	蜜 火炎	(外)灰青色 (内)深灰色	口径: 15.4 底面直径: 14.0 厚さ: 4.0	底部外縁斜面へラ ケズリ・内面ナグ、 その他の軸ナグ	出雲4-5期	A4-A7型に伴 う环身か
80-349	須恵器	环身	B-6区 25.灰青色織部Ⅳ	蜜 良好	(外)灰色 (内)灰色	口径: 15.4 底面直径: 14.0 厚さ: 4.0	口沿内外面凹凸 ナグ	古墳4-5期	A4-A7型に伴 う环身か
80-350	須恵器	环身	C-16区 5.オリーブ黒色釉 良好	蜜	(外)灰色 (内)灰色	口径: 15.4 底面直径: 14.0 厚さ: 4.0	口沿内外面凹凸 ナグ	古墳4-5期	A4-A7型に伴 う环身か有茎高 杯
80-351	須恵器	环身	C-16区 5.オリーブ黒色釉 良好	蜜	(外)灰色 (内)灰色	口径: 15.4 底面直径: 14.0 厚さ: 4.0	口沿外縁斜面へラ ケズリ・内面ナグ、 その他の軸ナグ	出雲6期	A8型に作る环 身
81-352	須恵器	有茎 高杯	C-7区 9.灰青色織部一 10.灰青色質	蜜 良好	(外)灰色 (内)灰色	口径: 15.4 底面直径: 14.0 厚さ: 4.0	口沿外縁斜面へラ ケズリ・内面ナグ、 その他の軸ナグ	出雲1期	方形3方造り。 有茎高杯I型
81-353	須恵器	有茎 高杯	H-7区 5.オリーブ黒色釉 良好	蜜 良好	(外)灰色 (内)灰色	口径: 15.4 底面直径: 14.0 厚さ: 4.0	口沿外縁斜面 ナグ、底部外縁 斜面ナグ	出雲1期	有茎高杯II型
81-354	須恵器	有茎 高杯	C-16区 5.オリーブ黒色釉 良好	1mm 人の砂粒を僅 かに含む。青 色好	(外)灰色 (内)灰色	口径: 15.4 底面直径: 14.0 厚さ: 4.0	底部外縁斜面 カキメ、脚部外縁 斜面カキメ、 その他の軸ナグ	出雲3期	2段下島に一角 脚造り。 有茎高杯II型
81-355	須恵器	有茎 高杯	C-16区・D-16区 5.オリーブ黒色釉 良好	1mm 大の砂粒を僅 かに含む。青 色好	(外)灰色 (内)灰色	口径: 15.4 底面直径: 14.0 厚さ: 4.0	底部外縁斜面 カキメ、脚部外縁 斜面カキメ、 その他の軸ナグ	出雲3期	2段の外縁斜面 カキメ、 脚部外縁斜面 カキメ、 その他の軸ナグ
81-356	須恵器	有茎 高杯	D-11区 5.オリーブ黒色釉 良好	1mm 大の砂粒を僅 かに含む。青 色好	(外)灰色 (内)灰色	口径: 15.4 底面直径: 14.0 厚さ: 4.0	底部外縁斜面へラ ケズリ・内面ナグ、 その他の軸ナグ	正雲1期存行 か	出し無し 入込式か
81-357	須恵器	低脚無 高杯	B-6区 24.灰青色織部Ⅳ	蜜 良好	(外)灰色 (内)灰色	口径: 15.4 底面直径: 14.0 厚さ: 4.0	脚部外縁斜面 カキメ、脚部外縁 斜面カキメ、 その他の軸ナグ	出雲1期	方形3方造り。 有茎高杯A型 A1B
81-358	須恵器	低脚無 高杯	C-9区 5.オリーブ黒色釉 良好	蜜 良好	(外)灰色 (内)灰色	口径: 15.4 底面直径: 14.0 厚さ: 4.0	底部外縁斜面 カキメ、脚部外縁 斜面カキメ、 その他の軸ナグ	出雲1期	低脚無茎高杯 A1B
81-359	須恵器	低脚無 高杯	C-17区 5.オリーブ黒色釉 良好	1mm 人の砂粒を僅 かに含む。青 色好	(外)灰色 (内)灰色	口径: 15.4 底面直径: 14.0 厚さ: 4.0	底部外縁斜面へラ ケズリ・内面ナグ、 その他の軸ナグ	古墳4-5期	2段外縁斜面 カキメ、 脚部外縁斜面 カキメ、 その他の軸ナグ (=2段の外縁斜面 カキメ)
81-360	須恵器	低脚無 高杯	C-17区 5.オリーブ黒色釉 良好	1mm 大の砂粒を僅 かに含む。青 色好	(外)灰色 (内)灰色	口径: 15.4 底面直径: 14.0 厚さ: 4.0	底部外縁斜面 カキメ、脚部外縁 斜面カキメ、 その他の軸ナグ	出雲4-5期	2段外縁斜面 カキメ、 脚部外縁斜面 カキメ、 その他の軸ナグ (=2段の外縁斜面 カキメ)
81-361	須恵器	低脚無 高杯	C-7区 5.オリーブ黒色釉 良好	蜜 良好	(外)灰色 (内)灰色	口径: 15.4 底面直径: 14.0 厚さ: 4.0	底部外縁斜面 カキメ、脚部外縁 斜面カキメ、 その他の軸ナグ	円錐3方造り	3方に通し底 入込式か
8-362	須恵器	無茎 高杯	C-17区 9.灰青色織部一 10.灰青色質	蜜 良好	(外)灰色 (内)灰色	口径: 15.4 底面直径: 14.0 厚さ: 4.0	内面外縁斜面ナグ		3方に通し底 入込式か
81-363	須恵器	高杯	C-16区 5.オリーブ黒色釉 良好	蜜	(外)灰色 (内)灰色	口径: 15.4 底面直径: 14.0 厚さ: 4.0	底部外縁斜面へラ ケズリ・内面ナグ、 脚部外縁斜面カキメ	出雲1期	方形3方造り。 有茎高杯I型
81-364	須恵器	高杯	B-7区 5.オリーブ黒色釉 良好	蜜 良好	(外)灰色 (内)灰色	口径: 15.4 底面直径: 14.0 厚さ: 4.0	底部外縁斜面 カキメ、脚部外縁 斜面カキメ	出雲1期	方形3方造り。 有茎高杯I型

河道C遺構外出土土器観察表

単位(cm)

辨別番号	品目	器種	出土地点上層	胎土	色調	法量	調整・手法の特徴	時代	備考
81-365	須恵器	高环 脚部	B-7区 26-30.灰褐色 Ⅲ-XⅡ	2mm 前後の砂粒を 僅かに含む。否 良好	(外)灰色 (内)灰色	口径: 9.7	輪削外脚カキメ	出世1期	方形3方造かし 直腹環口で丸巻 縁無地アラサ型
81-366	須恵器	高环 脚部	C-16区 5.オリーブ黒色粘 良好	1mm 大の砂粒を僅 かに含む。否 良好	(外)灰色 (内)灰色	口径: 9.5	輪削外脚輪脚ナデ	出世4-5期	三角形2方造かし 底脚無巻地 アラサ型
81-367	須恵器	高环 脚部	C-17区 5.オリーブ黒色粘 良好	1mm 大の砂粒を僅 かに含む。否 良好	(外)灰色 (内)灰色	口径: 11.1	輪削外脚輪脚ナデ ケズリ、背面ナゲ その他の脚ナデ	出世4-5期	三角形3方造かし 直腹無巻地 マカア型か
81-368	須恵器	高环 脚部	C-17区 5.オリーブ黒色粘 良好	—	(外)灰色 (内)灰色	口径: 10.9	の他の脚ナデ	出世3期か4期	方形3方造かし 直腹環口で長巻 縁無地アラサ型
81-369	須恵器	高环 脚部	C-9区 5.オリーブ黒色粘 良好	—	(外)灰色 (内)灰色	—	輪削外脚と脚部外 面カキメ	円形3方造かし	—
82-370	須恵器	壺	B-7区 5.オリーブ黒色粘 良好	—	(外)灰色 (内)灰色	口径: 18.9 最大径: 26.8 厚: 3.2	「輪削外脚と脚部外 面カキメ」 内部凹凸ナゲ 底、背面當て然掘	内部から白土 鉛墨等	—
82-371	須恵器	壺	D-8区 5.オリーブ黒色粘 良好	1mm 大の砂粒を含 む。否 良好	(外)灰色 (内)灰色	口径: 35.6	輪削外面上に波状 文	—	—
82-372	須恵器	壺	B-7区 5.オリーブ黒色粘 良好	—	(外)灰色 (内)灰色	口径: 47.0	輪削外面上に波状 文	—	—
83-373	須恵器	壺	C-16区 5.オリーブ黒色粘 良好	2mm 前後の砂粒を 僅かに含む。否 良好	(外)灰色 (内)灰色	口径: 23.0	輪削外面上に波状 文	—	—
83-374	須恵器	壺	B-7区 26-30.灰褐色 Ⅲ-XⅡ	1mm 以下の砂粒を 僅かに含む。否 やや不良	(外)灰色 (内)灰色	口径: 15.0	輪削外面上に波状 文	—	—
83-375	須恵器	壺	C-7区 5.オリーブ黒色粘 良好	—	(外)灰色 (内)灰色	口径: 16.5	輪削外面上に波状 文	—	—
83-376	須恵器	立門塗	H-7区 26-30.灰褐色 Ⅲ-XⅡ	—	(外)灰色 (内)灰色	口径: 9.6 最大径: 11.1 厚: 10.1	「輪削外面上に波状 文、底脚無地アラサ 型」 底部外側は同軸ヘ ケズリ、その他の 脚ナデ	—	—
83-377	須恵器	立門塗	C-16区 5.オリーブ黒色粘 良好	—	(外)灰色 (内)灰色	最大径: 11.1	—	—	—
83-378	須恵器	壺	B-7区 24.灰褐色砂粒Ⅱ 良好	1mm 前後の砂粒を 僅かに含む。否 良好	(外)灰色 (内)灰色	口径: 11.5	輪削外面上に波状 文	—	—
83-379	須恵器	壺	B-7区 24.灰褐色砂粒Ⅱ 良好	—	(外)灰色 (内)灰色	口径: 11.4	輪削外面上に波状 文	—	—
83-380	須恵器	壺	D-11区 5.オリーブ黒色粘 良好	—	(外)灰色 (内)灰色	最大径: 11.7	輪削外面上に波状 文、底脚内部に指頭压 印	盤A型か	—
83-381	須恵器	壺	C-17区 5.オリーブ黒色粘 良好	1mm 前後の砂粒を 僅かに含む。否 良好	(外)灰色 (内)灰色	最大径: 11.1	輪削外面上にカキメ	—	—
83-382	須恵器	壺	D-9区 5.オリーブ黒色粘 良好	—	(外)灰色 (内)灰色	口径: 8.5 最大径: 7.9	輪削外面上に波状 文、輪削外面上に カキメ	子持ち足	—
84-383	須恵器	壺	増幡寺20号墳出土	—	—	—	—	882との接合段 況実測図	—
85-384	須恵器	小口品	C-17区 5.オリーブ黒色粘 魚好	—	(外)灰色 (内)灰色	—	内外面脚軸ナデ	子持地か	—
85-385	須恵器	小口品	B-7区 26-30.灰褐色 Ⅲ-XⅡ	—	(外)灰色 (内)灰色	口径: 13.4	内外面脚軸ナデ	—	—
85-386	須恵器	小口品	C-7区 5.オリーブ黒色粘 良好	—	(外)灰色 (内)灰色	—	底部外側に丸い压 痕と反射状のヘラ 痕	壺环少	—
85-387	須恵器	小口品	C-16区 5.オリーブ黒色粘 良好	—	(外)灰色 (内)灰色	口径: 10.7	内外面ナデ、輪削 外面上ナデ	—	尚未確認とは違う ものと思われる。 形態?
85-388	不明品	壺	B-6区 5.オリーブ黒色粘 良好	—	(外)灰色 (内)灰色	—	外周格子状タタキ、 内面ナデ	輪式系上器か	—
85-389	不明品	壺	B-7区 5.オリーブ黒色粘 良好	—	(外)灰色 (内)灰色	—	外周格子状のタタ キ、内面凸溝波紋	輪式系上器か	—
85-390	不明品	壺	D-7区 5.オリーブ黒色粘 不良	—	(外)に赤褐色 (内)に赤褐色	—	外周は平行タタキ 後ナゲ、内面ナデ	輪式系上器か	—
85-391	不明品	壺	C-7区 5.オリーブ黒色粘 不良	0.5mm 前後の砂粒 を僅かに含む。否 不良	(外)に赤褐色 (内)に赤褐色	—	外周格子状タタキ 内面は風化のため 不明(ナデ少)	輪式系土器か	—

第18表 河道C構造外出土木製品観察表

単位(cm)

件番号	品目	種類	出土地点 土層	木取り	樹種	法 量 ( ) 内は復元法量	備考
86-392	工具	鍬	D-6区 5.オリーブ黒色粘	追跡目		長さ: 11.7 幅: 3.0 厚さ: 2.5	
86-393	工具	鍬	C-16区・D-16区 5.オリーブ黒色粘	板目		長さ: 9.1 幅: 2.0 厚さ: 1.6	
86-394	工具	鍬	D-8区 5.オリーブ黒色粘	板目		長さ: 15.2 幅: 2.6 厚さ: 2.4	
86-395	工具	鍬	B-6区 5.オリーブ黒色粘	追跡目		長さ: 16.9 幅: 2.4 厚さ: 1.8	
86-396	農具	山耕平鋤	D-8区 9.灰色砂礫Ⅲ-10.灰色 砂質	板目	ブナ科アカガシ亞属	長さ: 41.8 幅: 10.0 厚さ: 1.6	山耕平鋤C式
86-397	農具	山耕平鋤	B-7区 24.灰色砂礫Ⅲ	板目	ブナ科アカガシ亞属	長さ: 39.1 幅: 11.0 厚さ: 1.2	山耕平鋤D式
86-398	農具	山耕平鋤	B-6区 25.灰色砂礫Ⅲ	研目	ブナ科アカガシ亞属	長さ: 44.1 幅: 11.2 厚さ: 1.1	山耕平鋤の式
86-399	農具	山耕又鋤	D-9区 5.オリーブ黒色粘	板目	ブナ科アカガシ亞属	長さ: 52.0 幅: 10.7 厚さ: 1.2	山耕又鋤の式
87-400	農具	山耕鋤身	C-7区 5.オリーブ黒色粘	追跡目		長さ: 23.4 幅: 10.9 厚さ: 1.2	山耕鋤身D型
87-401	農具	山耕鋤身	D-8区 9.灰色砂礫Ⅲ-10.灰色 砂質	板目	広葉樹	長さ: 16.6 幅: 12.7 厚さ: 1.3	山耕鋤身D型
87-402	農具	鋤	C-7区 5.オリーブ黒色粘	追跡目・ 板目	ヒノキ科ヒノキ属	長さ: 51.5 幅: 21.9 厚さ: 2.5	丸肩柄み合わせ造
87-403	農具	鋤・鉗	B-6区 5.オリーブ黒色粘	板目		長さ: 20.1 幅: 6.0 厚さ: 1.5	
87-404	農具	鋤・鉗	C-16区 5.オリーブ黒色粘	板目		長さ: 12.0 幅: 7.1 厚さ: 1.8	
87-405	農具	鋤	B-7区 24.灰色砂礫Ⅲ	板目		長さ: 20.7 幅: 6.0 厚さ: 3.4	断面方形の頭部、鋸刃少 鋸刃部
87-406	農具	鋤	B-7区 24.灰色砂礫Ⅲ	板目	ヒノキ科ヒノキ属	長さ: 62.4 幅: 10.0 厚さ: 2.6	鋸刃V型
87-407	農具	鋤	D-9区 5.オリーブ黒色粘	板目		長さ: 73.3 幅: 3.5 厚さ: 2.8	断面方形の溝り止めを作り 出す
87-408	農具	鋤	D-9区 5.オリーブ黒色粘	板目		長さ: 51.6 幅: 2.2 厚さ: 3.2	
87-409	農具	鋤	B-7区 5.オリーブ黒色粘	研目		長さ: 144.1 幅: 16.5 厚さ: 2.1	
87-410	農具	鋤	B-7区 24.灰色砂礫Ⅲ	板目	スギ科スギ	長さ: 116.4 幅: 4.2 厚さ: 4.3	把手部分を削り残しあげ 作り出す
88-411	農具	鋤	D-8区 8.灰色砂礫Ⅲ	板目	ブナ科アカガシ亞属	長さ: 39.7 幅: 10.0 厚さ: 2.3	鋸刃式の鋤C型
88-412	農具	横組	C-17区 5.オリーブ黒色粘	芯材	ヒノキ科ヒノキ属	長さ: 29.0 幅: 10.0 厚さ: 3.7	刀物による切落作
88-413	農具	横組	D-8区 5.オリーブ黒色粘	芯材	広葉樹	長さ: 17.3 幅: 8.1 厚さ: 6.6	直径2.7cmの握り部の裏 が残る
88-414	農具	水鉈	B-7区 25.灰色砂礫Ⅲ-30.灰色 砂質X-B	芯材	広葉樹	長さ: 8.3 (15.4) 幅: 7.0 厚さ: 2.6	木鉈4脚
88-415	農具	木鉈	C-7区 24.灰色砂礫Ⅲ下部	芯材		長さ: 7.9 (13.6) 幅: 6.4 厚さ: 1.7	木鉈4脚
88-416	農具	木鉈	B-7区 24.灰色砂礫Ⅲ下部	芯材		長さ: 7.7 (14.7) 幅: 6.4 厚さ: 2.6	木鉈4脚
88-417	農具	木鉈	C-6区 5.オリーブ黒色粘	芯材	マツ科モミ属	長さ: 20.3 幅: 7.0 厚さ: 2.5	木鉈4脚
88-418	農具	木鉈	B-7区 24.灰色砂礫Ⅲ下部	芯材	ノバキ科サカキ属	長さ: 18.0 幅: 6.8 厚さ: 2.2	木鉈4脚

## 河道C遺構出土木製品観察表

単位(cm)

編番 番号	品 物	種 類	出土発 生地 所	本数	形 状	法 量 (cm) ; 内は復元法量	備 考
88-419	農具	木鍬	C-16区・D-11区 5.オリーブ黒色柄	芯材	広葉根	長さ: 6.4 (15.2) 幅: 頭部7.9・頭3.0	木鍬4脚
88-420	農具	木鍬	H-6区 5.オリーブ黒色柄下層	芯材	ブナ特シノキ	長さ: 14.3 幅: 頭部6.0・頭4.7	木鍬4脚
88-421	農具	馬鍬?	C-16区 5.オリーブ黒色柄	近似目		長さ: 33.9 幅: 3.9 厚さ: 3.9	馬鍬の身部分 (平均) 8.4
88-422	農具	鋤	D-6区 L-7区? 5.オリーブ黒色柄	近似目	ヒノキ特シノキ	長さ: 33.0 幅: 3.2 厚さ: 2.5	馬鍬の身部分 (平均) 5.8
88-423	農具	轍	B-6区 5.オリーブ黒色柄	板目	広葉根	長さ: 33.7 幅: 23.3 厚さ: 3.8	轍鉄の未製作
89-424	精緻工具	糸巻き	C-17区 5.オリーブ黒色柄	近似目	ヒノキ特シノキ	長さ: 13.7 幅: 中央部5.0・袖部2.2 厚さ: 中央部3.0・袖部0.9	
89-425	精緻工具	糸巻き	D-6区 5.オリーブ黒色柄	板目	スギ特スギ	長さ: 21.1 幅: 1.5	
89-426	精緻工具	あか取り	C-7区 5.オリーブ黒色柄	近似目	スギ特スギ	長さ: 12.5 (把手部7.9) 幅: 10.3 (把手部5.0) 厚さ: 3.4 (把手部1.8)	あか取り直角 取っ手付き直角、エミスク いか
89-427	武器	刀身	D-6区 8.灰色砂礫Ⅲ	板目	ヒノキ特ヒノキ	長さ: 18.2 (身7.9+茎10.3) 幅: 身1.8・茎1.8 厚さ: 身2.2・茎1.1	装着溝有り
89-428	武器	刀身	C-17区 5.オリーブ黒色柄	芯材	ツバキ特ツバキ	全長: 23.3 幅: 2.3-2.5 厚さ: 1.7-6.4	G型抜刃式(頭椎大刀) ベンガラによる赤色顔料
90-429	王飾具	連面下款	B-7区 5.オリーブ黒色柄	板目	スギ特スギ	長さ: 23.5 幅: 2.4 厚さ: 1.4	直側面: 6.0 前側面 直側面: 6.0 後側面
90-430	王飾具	連面下款	C-7区 5.オリーブ黒色柄	板目	イチイ谷カサ	長さ: 24.0 幅: 4.8 厚さ: 1.7	直側面: 7.1 前側面
90-431	厨道具	運面下款	C-16区・D-6区 5.オリーブ黒色柄	近似目	イチイ谷カサ	長さ: 27.6 幅: 6.4 厚さ: 1.8	直側面: 4.6 使用のため曲がり
90-432	武事具	弓子形木器	B-7区 24.灰色砂礫Ⅳ	板目		長さ: 43.4 幅: 36.0・頭2.1 厚さ: 1.0	
90-433	武事具	弓子形木器	C-16区・D-16区 5.オリーブ黒色柄	近似目		長さ: 46.9 幅: 36.0・頭1.8 厚さ: 1.0	
90-434	武事具	弓子形木器	B-7区 24.灰色砂礫Ⅳ	板目		長さ: 34.6 幅: 32.2・頭2.3 厚さ: 1.0	
90-435	食事具	杓子形木器	C-7区 5.オリーブ黒色柄	板目		長さ: 20.4 幅: 16.8・頭2.1 厚さ: 1.0	
90-436	食事具	杓子形木器	D-6区 5.オリーブ黒色柄	不規	クワ特クワ	長さ: 26.4 幅: 2.1 厚さ: 1.6	全體に塗か
90-437	容器	桶・瓶	C-7区 24.灰砂礫Ⅵ	板目	ヒノキ特ヒノキ	長さ: 21.6 幅: 5.1 厚さ: 1.2	底: 4.0
90-438	容器	桶・瓶	B-7区 26.灰砂礫Ⅶ-30.灰色 砂礫Ⅷ	板目		長さ: 20.1 幅: 13.8 厚さ: 1.0	
90-439	容器	桶・瓶	D-6区 8.灰砂礫Ⅸ	近似目	ヒノキ特ヒノキ	長さ: 23.0 (把手1.1) 幅: 18.1 (把手4.5) 厚さ: 1.0 (把手4.5)	把手をもつ水桶出 あか取りか舟舟の可能性も ある
91-440	厨道具	刀形	A-3区 36.灰砂礫Ⅹ-30.灰 色砂礫Ⅺ	板目	スギ特スギ	全長: 61.0 幅: 19.3・刀身42.6 厚さ: 2.5	
91-441	厨道具	火 具	C-16区 5.オリーブ黒色柄	板目	スギ特スギ	長さ: 15.8 幅: 2.4 厚さ: 2.3	5箇の火櫻穴
91-442	厨道具	火 具	C-16区・D-16区 (火櫻目)	板目	スギ特スギ	長さ: 21.4 幅: 3.1 厚さ: 2.0	10箇の火櫻穴
91-443	厨道具	火 具	C-7区 (火櫻目)	板目	針葉樹	長さ: 12.6 幅: 2.8 厚さ: 1.8	6箇の火櫻穴
91-444	厨道具	火 具	D-6区 5.オリーブ黒色柄	板目	スギ特スギ	長さ: 24.3 幅: 3.1 厚さ: 2.3	18箇の火櫻穴
91-445	厨道具	火 具	D-9区 5.灰砂礫Ⅲ	板目	針葉樹	長さ: 19.8 幅: 2.3 厚さ: 2.3	6箇の火櫻穴
91-446	厨道具	火 具	D-8区 (火櫻目)	板目	針葉樹	長さ: 19.0 幅: 3.0 厚さ: 2.6	3箇の火櫻穴

## 河道C造構外土木製品観察表

単位(cm)

番号	品目	種類	出土地点	木取り	樹種	法差 (内に仮元出典)	備考
91-447	道具	引物板	C-7区 5.オリーブ黒色粘	板目	スギ等スギ	長さ: 37.5 幅: 20.0 厚さ: 1.6 高さ: 6.0	
91-448	道具	指物搬出	B-7区 24.灰色薄板	板目	スギ等スギ	長さ: 46.7 幅: 12.9 厚さ: 1.6 - 2.8	2側の孔をもつ
91-449	道具	指物搬出	C-10区 5.オリーブ黒色粘	板目		長さ: 46.0 幅: 10.4 厚さ: 2.0	2側の溝をもつ
91-450	道具	脚板	D-8区 5.オリーブ黒色粘	板目	ヒノキ科ヒノキ属	高さ: 34.9 幅: 21.3~24.9 厚さ: 2.1~2.5	私小指物搬出の脚板、油ぬりあり
91-451	道具	脚板	B-7区 5.オリーブ黒色粘	板目	ヒノキ科ヒノキ属	高さ: 8.3 幅: 14.2~ 6.5 厚さ: 1.3	帆立形式小物搬出の脚板、大封が3本残る
92-452	道具	当社製品	B-6区 5.オリーブ黒色粘	芯に近い部分	ツバキ科サカキ属	長さ: 13.5 (幅7.4) 幅: 溝部7.5・縦23.3 厚さ: 2.0	大印状
92-453	道具	收納用具	B-7区 5.オリーブ黒色粘	板目	スギ等スギ	長さ: 22.8 幅: 溝部4.9・縦24.1 厚さ: 溝部3.8・縦23.2	柄穴有り
92-454	道具	私家製品	D-9区 5.オリーブ黒色粘	造作性	マツ科モミ属	長さ: 2.2 幅: 溝部10.7・縦28.6 厚さ: 2.2	柄穴有り
92-455	道具	当社製品	C-16区 5.オリーブ黒色粘	造作性		長さ: 18.2 幅: 溝部4.5~ 16.23.7 厚さ: 2.1	455と同一個体か
92-456	道具	当社製品	C-6区 5.オリーブ黒色粘	油包仕		長さ: 18.3 幅: 溝部7.7・縦26.4 厚さ: 2.2	
92-457	道具	棒手や芯 孔をもつ 部材	B-6区 5.オリーブ黒色粘	油包仕		長さ: 26.0 幅: 5.4 厚さ: 1.1	
92-458	道具	棒手や芯 孔をもつ 部材	B-7区 5.オリーブ黒色粘	板目		長さ: 9.6 幅: 5.4 厚さ: 1.1	
92-459	道具	孔をもつ 部材	C-7区 9.灰色中継板+10.灰色 芯板	芯目		長さ: 28.1 幅: 8.0 厚さ: 1.4	
92-460	道具	孔をもつ 部材	B-7区 5.オリーブ黒色粘	造作性		長さ: 32.5 幅: 5.2 厚さ: 1.0	
92-461	道具	孔をもつ 部材	B-7区 5.オリーブ黒色粘	板目		長さ: 11.9 幅: 3.5 厚さ: 1.0	
92-462	道具	紐かけを もつ部材	D-16区 5.オリーブ黒色粘	組合		長さ: 55.8 幅: 5.1 厚さ: 3.5	
92-463	道具	紐かけを もつ部材	C-7区 5.オリーブ黒色粘	組合		長さ: 16.4 幅: 6.8 厚さ: 4.1	焼け焦げる
92-464	道具	紐かけを もつ部材	B-7区 24.灰色薄板	板目	ヒノキ科ヒノキ属	長さ: 16.4 幅: 3.7 厚さ: 1.3	両側の穴間に抉らのある部材
92-465	道具	紐かけを もつ部材	D-8区 5.オリーブ黒色粘	組合		長さ: 17.4 幅: 3.2 厚さ: 1.4	有頭撃
92-466	道具	紐かけを もつ部材	D-9区 5.オリーブ黒色粘	芯材	イヌガヤ科イヌガヤ	長さ: 14.2 幅: 溝部1.7・縦1.7	有頭撃
92-467	道具	紐かけを もつ部材	B-7区 5.オリーブ黒色粘	芯材		長さ: 46.8 幅: 5.9	有頭撃
92-468	道具	紐かけを もつ部材	C-7区 5.オリーブ黒色粘	板目		長さ: 37.9 幅: 3.4 厚さ: 1.7	第35回187と同形態
92-469	道具	紐かけを もつ部材	C-16区 5.オリーブ黒色粘	板目		長さ: 99.3 幅: 5.9 厚さ: 2.7	有頭撃
93-470	道具	紐手や芯 口をもつ 部材	C-16区 5.オリーブ黒色粘	板目		長さ: 41.3 幅: 5.5 厚さ: 2.6	第36回192、第93回471・ 472・473と同形態
93-471	道具	紐手や芯 口をもつ 部材	C-16区 5.オリーブ黒色粘	板目		長さ: 18.9 幅: 6.4 厚さ: 2.3	第36回192、第93回470・ 472・473と同形態
93-472	道具	紐手や芯 口をもつ 部材	C-16区 5.オリーブ黒色粘	板目		長さ: 39.8 幅: 5.2 厚さ: 2.5	第36回192、第93回470・ 472・473と同形態
93-473	道具	紐手や芯 口をもつ 部材	C-16区 5.オリーブ黒色粘	板目		長さ: 31.7 幅: 6.1 厚さ: 2.5	第36回192、第93回470・ 472・473と同形態
93-474	道具	紐手や芯 口をもつ 部材(箱)	B-6区 5.オリーブ黒色粘	造作性	スギ等スギ	長さ: 48.2 幅: 8.3 厚さ: 1.5	内結合の籠か

## 河道C遺構外出土木製品観察表

単位(cm)

標識番号	品目	種類	出土地点 土層	木取り	樹種	法 ( )内は復元法量	備考
93-473	道具	櫛手や仕 口をもつ 部材	D-8区 5.オリーブ黒色粘	板目		長さ: 10.6 幅: 4.6 厚さ: 1.2	竹取山下段の植残・縫合 跡か、第36回193と同形 型
93-476	道具	I口をもつ B-7区 5.オリーブ黒色粘		板目	ヒノキ科ヒノキ属	長さ: 21.9 幅: 9.7	円柱状の片方に出格
93-477	道具	I口をもつ D-8区 5.オリーブ黒色粘		板目	スギ科スギ	長さ: 13.1 幅: 8.9 厚さ: 1.8	丸い柄孔有り
93-478	道具	I口をもつ I-8区 5.オリーブ黒色粘		板目		長さ: 14.3 幅: 7.6 厚さ: 3.2	3方向から梢孔が開けられる
93-479	道具	櫛手や仕 口をもつ 部材	C-7区 9.灰色砂糖灰-10.灰色 砂糖	板目		長さ: 26.4 幅: 9.3 厚さ: 2.5	
93-480	道具	櫛手や仕 口をもつ 部材	D-9区 5.オリーブ黒色粘	邊框目		長さ: 39.0 幅: 10.9 厚さ: 1.9	
93-481	道具	櫛手や仕 口をもつ 部材	D-9区 5.オリーブ黒色粘	板目		長さ: 27.4 幅: 12.6 厚さ: 1.8	
93-482	道具	櫛手や仕 口をもつ 部材	C-17区 5.オリーブ黒色粘	板目		長さ: 23.6 幅: 7.7 厚さ: 1.6	
93-483	道具	櫛手や仕 口をもつ 部材	C-8区 5.オリーブ黒色粘	板目		長さ: 14.0 幅: 7.7 厚さ: 1.8	
94-484	道具	人型の櫛手 や口をもつ 部材	D-8区 5.オリーブ黒色粘	板目		長さ: 105.9 幅: 8.0 厚さ: 1.4	方の端が突出する 2つの枘穴をもつ 建設部材か
94-485	道具	大きな紐子 や口をもつ 部材	B-6区 5.オリーブ黒色粘	邊框目		長さ: 220.0 幅: 15.6 厚さ: 1.8	2つの枘穴をもつ 建設部材か
94-486	道具	大きな紐子 や口をもつ 部材	C-7区 5.オリーブ黒色粘	邊框目		長さ: 112.5 幅: 16.5 厚さ: 2.9	建設部材か
94-487	道具	大きな紐子 や口をもつ 部材	C-7区 24.灰色砂糖灰下盤	板目		長さ: 65.5 幅: 14.4 厚さ: 2.4	建設部材か
94-488	道具	大きな紐子 や口をもつ 部材	B-6区 5.オリーブ黒色粘	板目		長さ: 110.0 幅: 11.4 厚さ: 1.5	建設部材か
94-489	道具	人型の櫛手 や口をもつ 部材	D-7区 5.オリーブ黒色粘	邊框目		長さ: 51.7 幅: 8.3 厚さ: 2.4	建設部材か
94-490	道具	人型の櫛手 や口をもつ 部材	B-7区 24.灰色砂糖灰	板目		長さ: 107.1 幅: 18.6 厚さ: 1.1-6.6	
95-491	建築部材	木橋子	C-16区 5.オリーブ黒色粘	板目	ヒノキ科ヒノキ属	長さ: 93.8 幅: 6.1-12.0 厚さ: 3.7	
95-492	建築部材	柱状突起	B-6区 5.オリーブ黒色粘	板目	スギ科スギ	長さ: 27.4 幅: 9.3 厚さ: 1.9	屋以外の可能性も考えられる
95-493	建築部材	板	C-7区 5.オリーブ黒色粘	邊框目		長さ: 255.0 幅: 14.0 厚さ: 1.5	
95-494	建築部材	大工の板橋	C-7区 5.オリーブ黒色粘	邊框目		長さ: 356.0 幅: 14.0 厚さ: 1.5	
96-495	その他	杭	C-16区 5.オリーブ黒色粘	芯材	広葉樹	長さ: 36.2 径: 6.8	樹皮が残る
96-496	その他	杭	B-7区 5.オリーブ黒色粘	芯材	広葉樹	長さ: 53.3 径: 4.4	抜け残げる
96-497	その他	杭	A-5区 5.オリーブ黒色粘	芯材		長さ: 50.8 径: 3.5	
96-498	その他	杭	A-5区 5.オリーブ黒色粘	芯材		長さ: 34.5 径: 3.5	
96-499	その他	杭	C-7区 5.オリーブ黒色粘	芯材		長さ: 90.5 径: 1.9	
96-500	その他	杭	B-7区 5.オリーブ黒色粘	芯材		長さ: 42.7 径: 4.4	樹皮が残る
96-501	その他	杭	C-16区 5.オリーブ黒色粘	芯材		長さ: 37.7 径: 4.6	
96-502	その他	杭	C-7区 5.オリーブ黒色粘	板目 (板目)	スギ科スギ	長さ: 36.3 幅: 3.6 厚さ: 3.3	

## 河道C遺構出土木製品観察表

単位(cm)

神奈 番号	品 目 種 類	出土地點 上 層	本取 り	樹 種	法 蓋 ( )内は復元法量	備 考
96-503	その他 枝	C-16区 5.オリーブ黒色粘	枝目		長さ:33.5 幅:4.6 厚さ:4.5 底さ:182.2 重さ:7.8 取さ:6.3	
96-504	その他 枝	C-7区 5.オリーブ黒色粘	枝目 (枝目)			抉り有り、建設部材
97-505	その他 葉か付け木	D-8区 5.オリーブ黒色粘	芯に近い 部分	ヒノキ科ヒノキ属	長さ:50.8 幅:1.9 厚さ:1.4	燃えさし
97-506	その他 葉か付け木	D-8区 5.オリーブ黒色粘	芯に近い 部分	ヒノキ科ヒノキ属	長さ:20.3 幅:2.3 厚さ:1.0	燃えさし
97-507	その他 葉か付け木	D-8区 5.オリーブ黒色粘	芯に近い 部分	ヒノキ科ヒノキ属	長さ:21.7 幅:1.7 厚さ:0.8	燃えさし
97-508	その他 葉か付け木	D-8区 5.オリーブ黒色粘	芯に近い 部分	ヒノキ科ヒノキ属	長さ:16.9 幅:1.6 厚さ:1.2	燃えさし
97-509	その他 樹皮	D-8区 5.オリーブ黒色粘		バラ科サクラ属	長さ:約18.0 幅:2.7 厚さ:0.05	
97-510	その他 樹皮	D-8区 5.オリーブ黒色粘		バラ科サクラ属	長さ:約20.0 幅:2.3 厚さ:0.05	
97-511	その他 吊造不明品	24.灰色砂輪Ⅴ下5.オリ ー・黒色粘	柱目		長さ:15.0 幅:4.4 厚さ:1.1	先端の尖った板材
97-512	その他 角造不明品	D-8区 9.灰色砂輪Ⅵ-10.灰色 砂輪			長さ:17.0 幅:8.1 厚さ:1.7	横円を呈し、一方に半円形 の抉り
97-513	その他 用途不明品	C-16区 5.オリーブ黒色粘	板目	スギ科スギ	長さ:17.2(19.7) 幅:5.9 厚さ:1.5	枘孔有り(復元2個)
97-514	その他 用途不明品	D-9区 5.オリーブ黒色粘	追征目		長さ:17.7 幅:4.9-7.2 厚さ:1.0	背面を削り先端彫
97-515	その他 用途不明品	B-6区 5.オリーブ黒色粘	板目		長さ:22.5 幅:9.8 厚さ:1.0	未製品か・椭円形
97-516	その他 用途不明品	B-7区 5.オリーブ黒色粘	板目	ヒノキ科ヒノキ属	長さ:19.9 幅:4.6-10.1 厚さ:1.8	半円状の抉りがある
97-517	その他 用途不明品	D-8区 5.オリーブ黒色粘	追征目	ヒノキ科ヒノキ属	長さ:24.1 幅:4.2-7.0 厚さ:2.0	中央がくぼんだバナ族
97-518	その他 用途不明品	D-8区 5.オリーブ黒色粘	柱目		長さ:22.0 幅:2.1 厚さ:2.1	溝のある丸棒 第97-519と同・側体小
97-519	その他 角造不明品	D-8区 5.オリーブ黒色粘	柱目		長さ:19.6 幅:2.6 厚さ:2.3	溝のある丸棒 第97-518と同・側体小
97-520	その他 用途不明品	C-16区 5.オリーブ黒色粘	追征目		長さ:23.1 幅:4.0 厚さ:0.7	丁寧な作り、縦糸か
98-521	その他 用途不明品	24.灰色砂輪Ⅴ下5.オリ ー・黒色粘	追征目		長さ:27.4 幅:12.3 厚さ:2.4	板材中火に方形の抉り込み
98-522	その他 用途不明品	B-6区 5.オリーブ黒色粘	追征目	スギ科スギ	長さ:31.4×36.4 厚さ:2.4	円盤状木製品・中央に方形 の溝
98-523	その他 用途不明品	B-7区 5.オリーブ黒色粘	追征目		長さ:30.1 幅:6.1 厚さ:1.9	
98-524	その他 用途不明品	26.灰色砂輪Ⅵ-30.灰色 砂輪Ⅹ	柱目		長さ:76.8 幅:13.4 厚さ:2.8	板材の片面に三角形の抉り 込みをもつ
98-525	その他 用途不明品	C-16区 5.オリーブ黒色粘	芯に近い 部分	ブナ科アカガシ属	長さ:104(70.6) 幅:10.4 厚さ:3.0	鉛打?
98-526	その他 用途不明品	H-6区裏壁上 5.オリーブ黒色粘上層 中	板目	ヒノキ科に属する樹 種	長さ:36.8 幅:6.0 厚さ:1.4	赤色の彩色文様をもつ

第19表 河道C構造外出土石器観察表

単位(cm)

標識番号	品目	出土地点	法量	材質	色調	備考
99-327	石錐	B-6区 5.オリーブ黒色粘	長さ:1.55 厚さ:0.32	幅:1.18 重量:0.4g	無理石	黒色 円錐無茎式
99-528	石錐	C-10区 5.オリーブ黒色粘	長さ:2.25 厚さ:0.3	幅:1.2 重量:0.6g	無理石	黒色 円錐無茎式
99-529	石錐	B-6区 5.オリーブ黒色粘	長さ:1.12 厚さ:0.3	幅:1.1 重量:0.4g	無理石	黒色 平底無茎式
99-530	石錐か	D-8区 5.オリーブ黒色粘	長さ:1.15 厚さ:0.3	幅:1.6 重量:1.1g	無理石	黑色
99-531	石錐か	5.オリーブ黒色粘土層 東上	長さ:1.14 厚さ:0.3	幅:0.8 重量:0.3g	無理石	黒色
99-532	スクレイパー	B-8区 5.オリーブ黒色粘	長さ:3.75 厚さ:0.75	幅:2.5 重量:6.7g	無理石	黒色
99-533	二次加工のある 刮片石器	B-7区 5.オリーブ黒色粘	長さ:2.2 厚さ:1.1	幅:2.3 重量:4.8g	無理石	黒色
99-534	二次加工のある 刮片石器	B-6区 5.オリーブ黒色粘	長さ:1.19 厚さ:0.45	幅:1.3 重量:0.8g	無理石	黒色
100-335	二次加工のある 刮片石器	A-6区 5.オリーブ黒色粘	長さ:1.43 厚さ:0.7	幅:4.1 重量:16.3g	無理石	黒色
100-536	二次加工のある 刮片石器	D-9区 6.灰色砂礫層	長さ:1.85 厚さ:1.0	幅:3.5 重量:15.9g	無理石	黒色
100-537	核	C-6区 5.オリーブ黒色粘	幅:3.4	幅:2.0~4.0 重量:46.1g	無理石	黒色
100-538	刮製石斧	C-7区 6.灰色砂礫層→7.灰色砂礫 II	長さ:8.2 厚さ:1.2	幅:3.5 重量:51.0g	頁岩	暗灰色 表面をもつ
100-539	打製石斧(石錐)	A-6区 5.オリーブ黒色粘	長さ:15.5 厚さ:2.9	幅:9.8 重量:478.0g	泥状岩 (表面赤褐色)	
100-540	打製石斧(石錐)	D-9区 5.オリーブ黒色粘	長さ:15.3 厚さ:2.5	幅:9.4 重量:368.8g	泥状岩 (表面赤褐色)	
100-541	打製石斧(石錐)	D-6区 5.オリーブ黒色粘	長さ:8.9 厚さ:1.7	幅:6.4 重量:169.3g	泥状岩 (表面赤褐色)	
100-542	打製石斧(石錐)	C-12区 5.オリーブ黒色粘	長さ:12.8 厚さ:1.2	幅:11.2 重量:195.8g	泥状岩 (表面赤褐色)	
100-543	打製石斧(石錐)	D-9区 26.灰色砂礫層~30.灰色砂 礫層	長さ:9.7 厚さ:1.4	幅:14.8 重量:321.8g	泥状岩 (表面赤褐色)	
100-544	打製石斧(石錐)	C-7区 9.灰色砂礫層~10.灰色砂 礫層	長さ:10.1 厚さ:1.4	幅:12.4 重量:226.2g	泥状岩 (表面赤褐色)	
101-545	勾矢	B-8区 5.オリーブ黒色粘	長さ:2.7 孔径:0.1~0.3	幅:0.8~1.5 重量:4.2g	水晶	透明
101-546	臼杵	B-7区 5.オリーブ黒色粘	直径:0.67 孔径:0.16	厚さ:0.47 重量:半平均0.16g	泥岩	灰褐色
101-547	臼杵	B-7区 5.オリーブ黒色粘	直径:0.70 孔径:0.13	厚さ:0.25 重量:半平均0.16g	泥岩	灰褐色
101-548	臼杵	B-7区 5.オリーブ黒色粘	直径:0.63 孔径:0.13	厚さ:0.49 重量:半平均0.16g	泥岩	灰褐色
101-549	臼杵	B-7区 5.オリーブ黒色粘	直径:0.75 孔径:0.18	厚さ:0.38 重量:半平均0.16g	泥岩	灰褐色
101-550	臼杵	B-7区 5.オリーブ黒色粘	直径:0.40 孔径:0.17	厚さ:0.37 重量:半平均0.16g	泥岩	灰褐色
101-551	小石器	D-6区 5.オリーブ黒色粘	長さ:9.5	幅:7.4~8.7 重量:727.4g	泥状岩 灰褐色	石錐か
101-552	砾石	C-10区 5.オリーブ黒色粘	長さ:9.2 厚さ:3.8	幅:4.0 重量:220.5g	泥状岩 有黄褐色	
102-553	砾石	D-11区 5.オリーブ黒色粘	長さ:37.4 厚さ:2.0~8.4	幅:25.3 重量:9.4kg	均質な砂岩 米粒石か	に赤い葉緑色

第20表 河道C構造外出土鉄器観察表

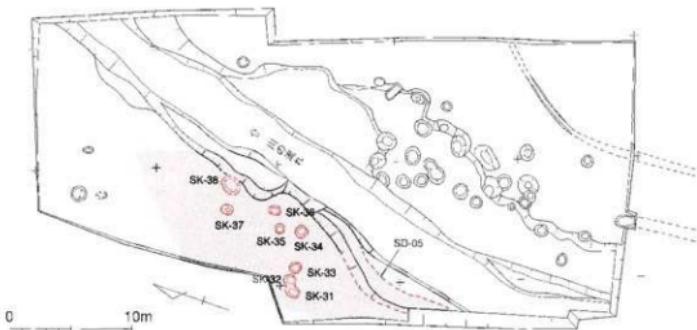
単位(cm)

標識番号	品目	出土地点	法量	備考
103-554	鉄?	B-7区	長さ:12.0 幅:1.7 厚さ:0.4 重量:9.5g	第82回370内出土 重量は549~553の平均

#### 4. 黒褐色土層

ここでは第4層黒褐色土層が堆積した12頁第4表の⑨を取り扱う。この層は旧河川左岸から河道内にかけての狭い範囲に堆積していたものである。河道内に堆積した第4図第4層（SD-05埋土）は人為的に掘削された溝のようなものであり、この時期まで川が流れていったわけではない。この溝の平面プランは確認できなかった。

遺物には縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、中国製磁器、木製品、石器があり、時期的には縄文時代晚期から12世紀前半までと非常に幅広い。この中にはSD-05掘削時に河川内から掘り返されたものがかなりの割合で含まれていると考えられる。また、土層中には土師質土器の細片と思われる橙、黄橙色を呈する粒子が多量に含まれていたが、取り上げのできるものではなかった。SK-31～38については遺物が出土していないため時期は判らないが、埋土が黒褐色土層であることからここで取り扱った。

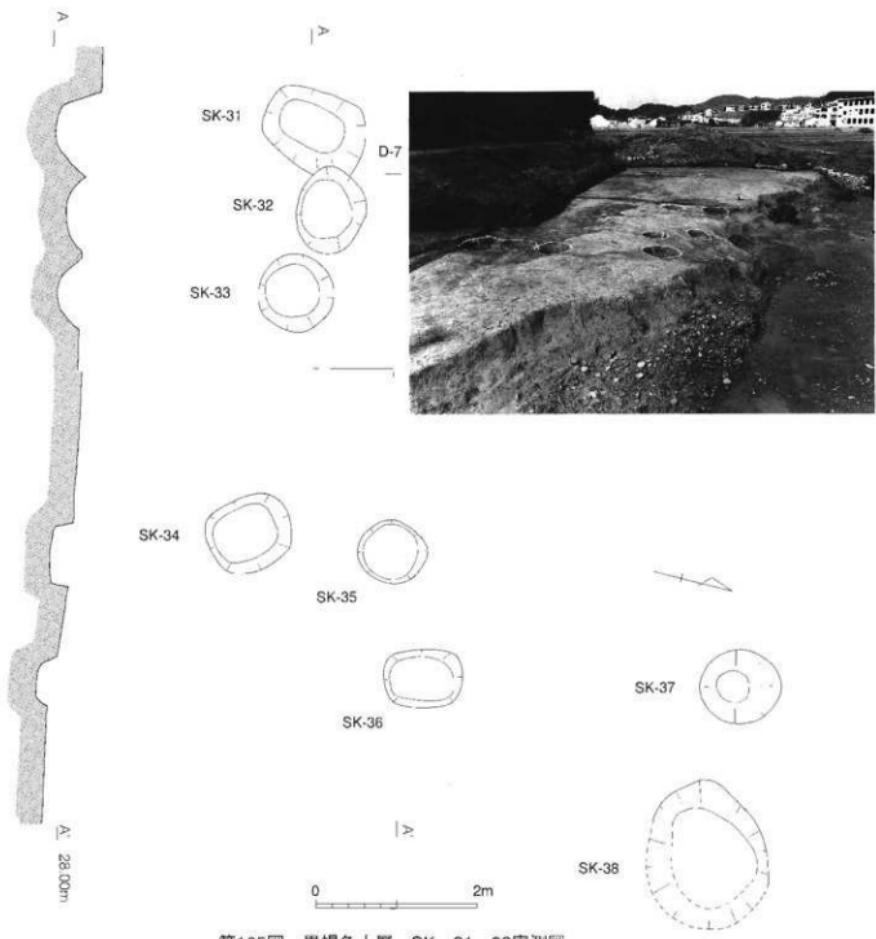


第104図 黒褐色土層堆積状況（赤網部分）・遺構位置図（赤線部分）

#### 土坑 SK-31～38（第105図）

河川左岸の標高27.75～28.75mを測る位置で検出された土坑群である。SK-31は隅丸長方形を呈し、長軸131.0cm、短軸96.0cm、深さ最大58.5cmを測る。SK-32と切り合う格好で検出されたものであり、新旧関係はSK-31(古)→SK-32(新)である。SK-32は楕円形を呈し、長軸107.0cm、短軸85.0cm、深さ最大26.0cmを測る。SK-33は円形を呈し、直径95.0cm、深さ最大34.2cmを測る。SK-34は隅丸方形を呈し、長軸104.0cm、短軸90.0cm、深さ最大38.5cmを測る。SK-35は円形を呈し、直径81.0cm、深さ最大28.0cmを測る。SK-36は隅丸長方形を呈し、長軸97.0cm、短軸71.0cm、深さ最大32.2cmを測る。SK-37は円形を呈し、直径100.0cm、深さ最大65.8cmを測る。SK-38は楕円形を呈し、長軸166.0cm、短軸79.5cm、深さ最大54.1cmを測る。

出土遺物としては土師質土器の細片と思われる橙、黄橙色を呈する粒子が出土したが、風化が著しく取り上げが出来るようなものではなかった。



第105図 黒褐色土層 SK-31~38実測図

#### 黒褐色土層出土遺物（第106図1～第111図44）

##### 1. 繩文土器(第106図1、2)

1、2は晩期の突帯文土器である。1は口縁端部外面のやや下がった位置に刻み目を施す突帯が巡る。調整は内面がナデ、外表面はミガキ風のハラナデが施され、突帯張り付け後に二枚貝状工具により刻み目が入れられている。2は刻み目を施さない突帯をもつもので、突帯貼り付け位置は口縁端部に接するものである。調整は風化が著しく不明である。

## 2. 弥生土器 (第106図 3、4)

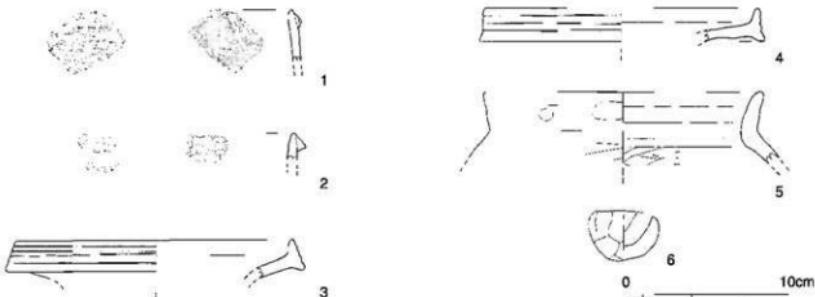
3、4は第42図21、22と同様のものであり、いわゆる特殊器台、特殊壺と呼ばれる種類の土器である。3は口縁部が内傾して立ち上がり、外面に4条のヘラ描平行沈線文をもつ。4は口縁部が直立気味に立ち上がり、外面に3条の擬凹線文をもつ。胎土には角閃石を多く含み、色調はにぶい褐色を呈する。いずれも吉備系の胎土であり、時期はいわゆる立坂型である。

## 3. 土師器 (第106図 5、6)

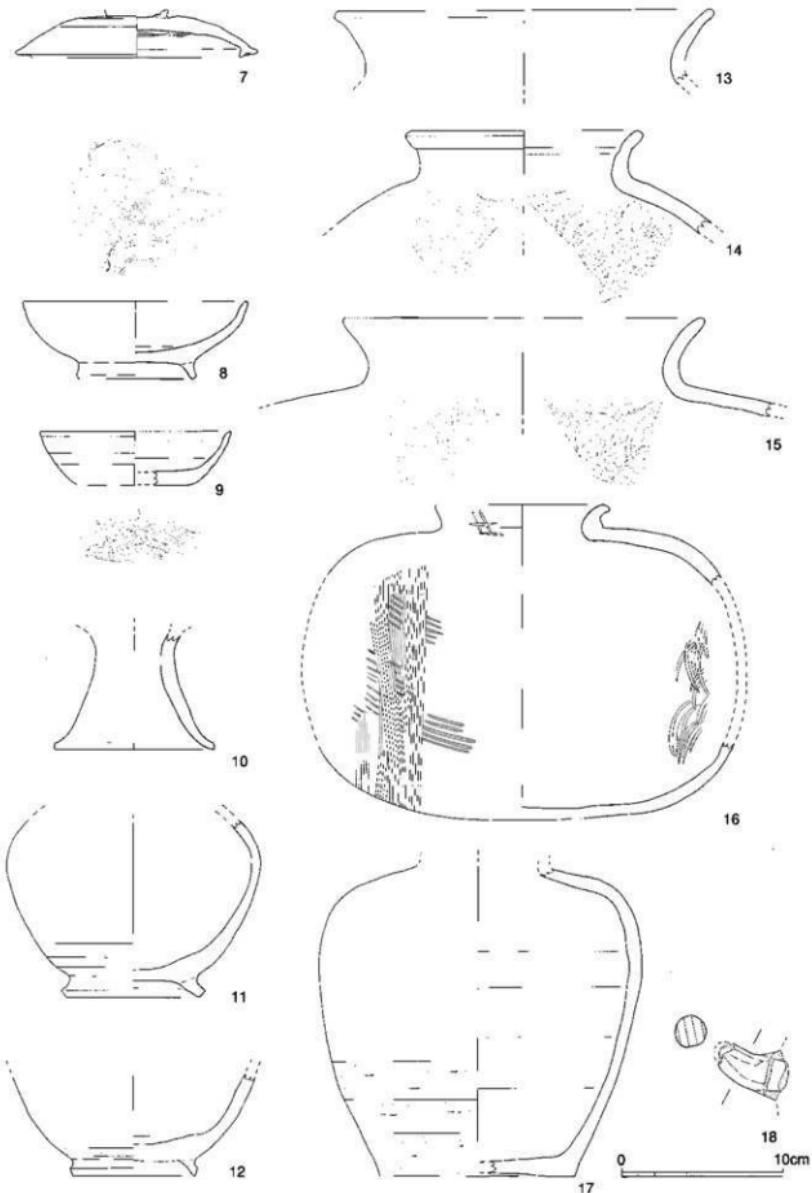
5は単純口縁の壺口縁部であり、分類表に載せていないものである。直立気味に立ち上がる短い口縁をもち、肩部が良く張り出す。調整は口縁の内外面が強いヨコナデ、内面口縁以下に横方向のヘラケズリが施される。6は手捏ねの壺Ⅲ類である。外面には指頭圧痕が残り、内面は指を入れて回転させたヨコ方向のナデが観察できる。

## 4. 須恵器 (第107図7~18)

7は輪状摘みをもち、口縁部には返りがつく。大谷編年の壺蓋B1型に含まれるものである。8は高台をもつ壺身である。丸みをもって立ち上がり、端部が若干外方に折り曲げられる。底部に糸切り痕は観察できず、壺部内面に横一字文字のヘラ記号をもつ。9は無高台の壺であり、外面に回転糸切りが施される。口縁が先細りしながら伸び、端部はやや外方に曲げられる。高広編年のIV A期に含まれるものである。10は高壺脚部の破片であり、透かし孔をもたないタイプのものである。脚筒部より緩やかに広がり端部には半坦面をもつ。11、12は長頸壺底部の破片と考えられる。「ハ」の字に開くしっかりとした高台が取り付けられている。底部の切り離しに糸切り痕は観察できない。13~15は壺甌類口縁の破片である。13、14は口縁部が外反し、端部を丸くおさめるものである。15は外反する口縁の端部付近で更に強く外方に折り曲げられるものである。16は梢円形の体部に短い外反する口縁をもつ横瓶である。調整は体部外面がタタキとカキメ、内面は同心円当て具痕と回転ナデが施される。口縁外面にはヘラ記号をもつ。17は平底を有する壺底部の破片である。肩部がよく張り出し、胴長のものである。18は先端が僅かに上方に折り曲げられた把手の破片である。調整は強いナデが施される。



第106図 黒褐色土層出土遺物実測図（縄文土器・弥生土器・土師器）



第107図 黒褐色土層出土須恵器実測図

## 5. 土師質土器（第108図19～33）

前山遺跡からは土師質土器が234点出土し、このうち黒褐色土層からは60点が出土している。土師質土器の整理には、形態的に類似した資料が多い<sup>玉台</sup>石台遺跡の分類に従った。

(1) 高台のないもの（第108図19～26） 高台のない土師質土器底部は24点が出土し、このうち8点を掲載した。すべてロクロ整形で、底部の切り離しは糸切りによる。19は唯一完形に復元できたものである。体部は幾分、内湾気味に立ち上がり、端部は外方向に開き丸くおさめる。口径8.8cm、器高2.5cm、底径3.9cmを測り、高台のない皿形土器II-b類に含まれる。20～22は底径3.8～4.1cmとやや小ぶりであり、皿形土器底部の破片と思われる。23～26は底径5.2～6.6cmを測るものであり、壺形土器あるいは楕形土器底部の破片と思われる。

(2) 脚付きのもの（第108図27～29） 脚付きの土師質土器は4点が出土し、このうち3点を掲載した。27、28は脚部が鼓形に近い形をなす小形品である。27は脚部高2.4cm、底径4.1cm、28は脚部高2.5cm、底径4.0cmを測る。やや底径が小さいが、形状から脚付きの壺形土器III-b類に含まれるものと考える。29は非常に短い脚をもち、脚部高1.6cm、底径4.2cmを測る。

(3) 高台のあるもの（第108図30～32） 高台のある土師質土器は13点が出土し、このうち3点を掲載した。30、31は高台のある壺形土器C類と考えられる。高台径は30が5.2cm、31が5.0cmを測る。32は口径12.1cm、器高3.6cm、高台径6.4cm、受部高1.0cmを測る皿形土器である。体部は横方向に大きく開き、受部はきわめて浅い。「ハ」の字状に開くしっかりとした高台をもつ。

(4) 器種不明（第108図33） 口縁の破片は出土量が少なく、3点が出土し、このうち1点を掲載した。33は逆「ハ」の字状に直線的に伸び、端部も真っ直ぐなものである。口径15.0cmを測る。

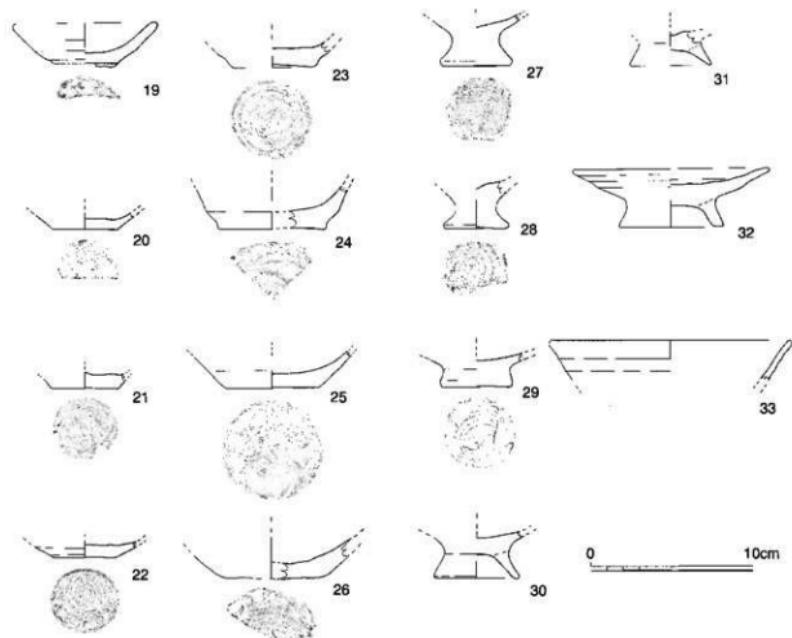
## 6. 中国製磁器（第109図34、35）

黒褐色土層からは中国製白磁碗が3点出土し、このうち2点を掲載した。いずれも胎土は灰白色で黒い微砂粒を含む。34は体部が逆「ハ」の字状に真っ直ぐ伸び、端部外面に幅1.1cm、厚さ0.7cmの分厚い玉縁をもつ。内面の見込み部分を窪ませ、沈線状の段をもつ。高台は低く、高台外面は垂直に、内面は斜めに削り出され、灰白色の釉が高台を除いて薄くかけられている。法量は口径16.4cm、器高5.6cm、高台径7.0cmを測る。太宰府出土の白磁碗IV類に含まれるもので、12世紀前半のものと考えられる。35も同様に分厚い玉縁をもった碗口縁の破片であり、白磁碗IV類に含まれる。内外面には灰白色の釉が薄くかけられている。口径16.2cmを測る。

## 7. 木製品（第110図36～38）

黒褐色土層からは木製品が38点出土し、このうち形のわかる3点を掲載した。36、37はスギ科スギ材が用いられた火鑽臼である。36は柾目となる長辺の一方に9個の火鑽穴をもつが、火鑽穴の残りは悪い。残存長22.3cm、幅2.9cm、厚さ2.1cmを測る。37は柾目となる長辺片側に1個・短辺に1個の火鑽穴をもつ。残存長24.4cm、幅4.2cm、厚さ1.8cmを測る。

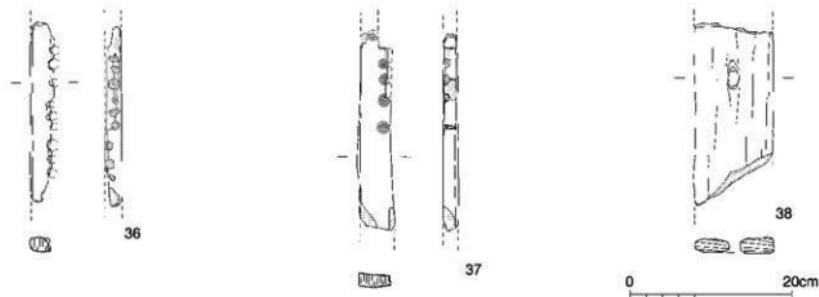
38は2.2×1.1cmを測る方形の枘孔をもつ板材である。針葉樹の板目材が使用されているものであり、残存長22.7cm、幅9.6cm、厚さ2.0cmを測る。



第108図 黒褐色土層出土土師質土器実測図



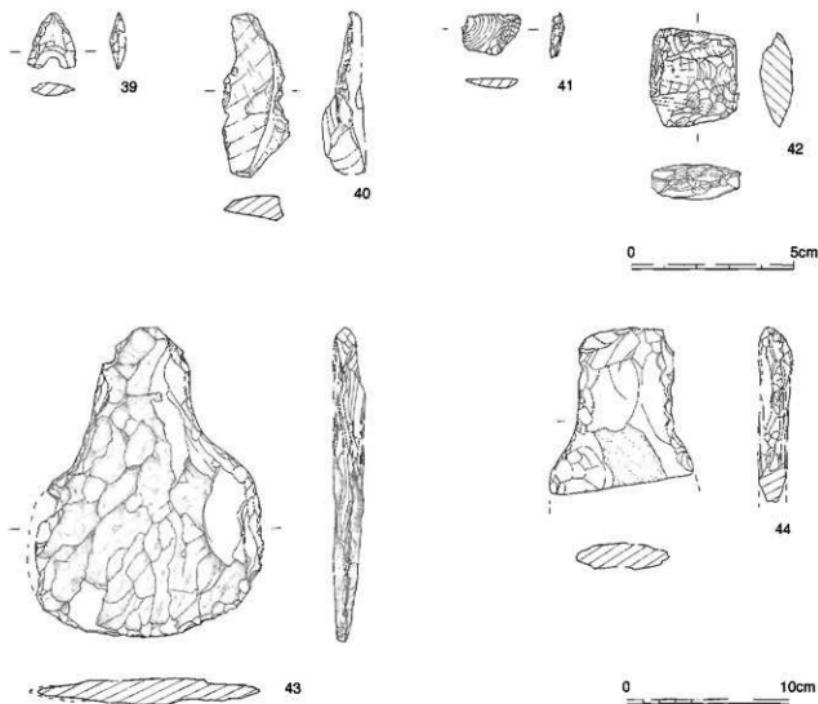
第109図 黒褐色土層出土中国製磁器実測図



第110図 黒褐色土層出土木製品実測図

### 8. 石器 (第111図39~44)

39は安山岩製の石鏃である。基部に抉入りのある凹基無茎式のものであり、縁辺に比較的丁寧な二次加工が施される。法量は長さ1.7cm、幅1.43cm、厚さ0.41cmを測る。40は黒曜石製のスクレイパーである。不定形で縦軸の片面縁辺部に比較的細かな二次加工が施される。法量は長さ5.0cm、幅1.85cm、厚さ1.25cmを測る。41は黒曜石製の二次加工のある剝片石器である。縁部に細かな二次加工が施され、法量は長さ1.8cm、幅1.3cm、厚さ0.3cmを測る。42は黒曜石製の楔形石器であり、形の整った台形状を呈する。上下端部に細かな剝離痕をもち、両端は裁断される。法量は長さ3.05cm、幅2.7cm、厚さ1.05cmを測る。43、44は流紋岩製の打製石斧である。43はほぼ完形のものである。幅広の刃部をもつバチ形であり、刃部幅は基部幅の約2倍にあたる。表裏に主要剝離面を大きく残し、側縁部から刃部にかけ比較的細かな二次加工が施される。法量は長さ19.2cm、幅13.9cm、厚さ1.9cmを測る。44は基部部分の破片であり、表裏に主要剝離面を大きく残し、縁辺に粗い二次加工が施される。法量は残存長9.6cm、残存幅8.8cm、厚さ2.0cmを測る。



第111図 黒褐色土層出土石器実測図

第21表 黒褐色土層出土土器観察表

単位(cm)

層番号	品目	器種	出土地点	剖面	土色	法量	測定・手法の指標	時期	備考
106-1	陶文土器	深鉢	B-6区 4.黒褐色土層	2mm以下の砂質多 く含む	(外)にない黒褐色 (内)にない黒褐色	口徑のやや下がった位置に刃込み有り	縄文時代後期、良美文土器		
106-2	陶文土器	深鉢	B-8区 4.黒褐色土層	2mm以下の砂質多 く含む	(外)浅黄褐色 (内)浅黄褐色	口縁に丸く刃込み 位置を残さない実容	縄文時代後期、安倍文土器		
106-3	陶土器	圓筒形	B-6区 4.黒褐色土層	角閃石が多く含む、 青褐色の胎土	(外)にない黒褐色 (内)にない黒褐色	口径: 16.9	口縁外周に4条の 平行直線文	後期後半、立 型式直行	
106-4	陶土器	圓筒形	B-6区 4.黒褐色土層	角閃石が多く含む、 青褐色の胎土	(外)にない黒褐色 (内)にない黒褐色	口径: 17.0	口縁外周に3条の 横線文	後期後半、立 型式直行	
106-5	土器	甕	C-6区 4.黒褐色土層	1~2mmの大粒砂質含 く、苦	(外)褐灰色 (内)褐灰色	口径: 17.2	白練外周にコナ ヂ、本体内面にヘラ クスリ	埴輪口樽 分類用のらう いものである。	
106-6	土器	甕	C-6区 4.黒褐色土層	1mm以下の砂質少 く含む	(外)オーブ黒色 (内)オーブ黒色	口径: 3.5 底径: 3.1	外周指痕直痕、内 面ナメ	手掘の直相	
107-7	須恵器	瓶	D-6区 4.黒褐色土層	青 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 22.7 底径: 22.9 高さ: 3.0	天井内面ナマ・外邊 和田ヘタツイ。その 在田中ナマ	山城6期 B1型	
107-8	須恵器	高台付 平身	D-7区 4.黒褐色土層	青	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 15.8	口	B1-B2期 B2号	
107-9	須恵器	甕	C-7区 4.黒褐色土層	青 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 11.8 底径: 6.8 高さ: 3.3	天井外周横筋切 り、その他の軸 筋ナマ	廣庭IV期	
107-10	須恵器	盆	C-6区 4.黒褐色土層	青 良好	(外)紺褐色 (内)紺褐色	底径: 9.8	内外側調節ナマ	造かなし	
107-11	須恵器	甕	D-7区 4.黒褐色土層	青 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 8.8	体部下部直筋ヘラ ケズリ、その他の 軸筋ナマ	長颈蓋か	
107-12	須恵器	甕	D-7区 4.黒褐色土層	青 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	底径: 7.5	体部下部直筋ヘラ ケズリ、その他の 軸筋ナマ	長颈蓋か	
107-13	須恵器	垂壺形	C-6区 4.黒褐色土層	青 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 23.4	内外側曲筋ナマ		
107-14	須恵器	垂壺形	C-7区 4.黒褐色土層	青 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 14.6	口縁内面直筋ナマ 体部斜筋ヘタキナ マ、内邊当て直筋		
107-15	須恵器	垂壺形	C-6区 4.黒褐色土層	1mm前後の砂質含 く含み、青 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 22.2	デ、体部斜筋タキナ マ、内邊當て直筋		
107-16	須恵器	横板	D-7区 4.黒褐色土層	青 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 10.7 底径: 19.5	1.5cmの斜筋ナマ 1.5cmの斜筋ナマ 2.2cmの斜筋ナマ 斜筋ヘタキナマ		
107-17	須恵器	甕	D-7区 4.黒褐色土層	青 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	底径: 11.3	体部下部直筋ヘラ ケズリ、その他の 軸筋ナマ		
107-18	須恵器	把手	D-7区 4.黒褐色土層	青 良好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	ナマ			
108-19	土器質土器	円形	D-7区 4.黒褐色土層	1mm前後の砂質含 く含み、青 やや不良	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 8.8 底径: 3.9 高さ: 2.5	内外側直筋ナマ、 底部斜筋ナマ	高台のない頭部 上部ヨーヨー	
108-20	土器質土器	円形	D-7区 4.黒褐色土層	1mm以下の砂質含 く含み、青 やや不良	(外)にない黒褐色 (内)にない黒褐色	口径: 4.0	内外側直筋ナマ、 底部斜筋ナマ		
108-21	土器質土器	圓形	C-7区 4.黒褐色土層	1mm前後の砂質含 く含み、青 やや不良	(外)にない白色 (内)にない白色	底径: 4.1	内外側直筋ナマ、 底部斜筋ナマ		
108-22	土器質土器	圓形	B-7区 4.黒褐色土層	微細粒を含む、青 良	(外)にない黒褐色 (内)にない黒褐色	底径: 3.8	内外側直筋ナマ、 底部斜筋ナマ		
108-23	土器質土器	圓形	C-6区 4.黒褐色土層	2mm以上の砂質含 く含み、青 良	(外)青褐色 (内)青褐色	底径: 5.2	内外側直筋ナマ、 底部斜筋ナマ		
108-24	土器質土器	圓形	C-6区 4.黒褐色土層	1mm前後の砂質含 く含み、青 良	(外)にない褐色 (内)にない褐色	底径: 6.6	内外側直筋ナマ、 底部斜筋ナマ		
108-25	土器質土器	圓形	D-7区 4.黒褐色土層	微細粒を含む、青 良	(外)切妻褐色 (内)切妻褐色	底径: 5.8	内外側直筋ナマ、 底部斜筋ナマ		
108-26	土器質土器	圓形	C-7区 4.黒褐色土層	青 やや不良	(外)にない黒褐色 (内)にない黒褐色	底径: 6.0	内外側直筋ナマ、 底部斜筋ナマ		
108-27	土器質土器	圓形	C-7区 4.黒褐色土層	微細粒を含む、青 良	(外)にない黒褐色 (内)にない黒褐色	底径: 4.1 高さ: 2.4	底盤の切り落し、 斜筋ナマ	鶴竹の环球土器 頭	
108-28	土器質土器	圓形	C-6区 4.黒褐色土層	0.5mm以下の砂質 含む、青 良	(外)にない黒褐色 (内)にない黒褐色	底径: 4.0 高さ: 2.5	底盤の切り落し、 斜筋ナマ	鶴竹の环球土器 頭	

黒褐色土層出土土器観察表

単位(cm)

種類 番号	品目	器種	出土地點 層	治 使 式	色 調	法 量	商 標 手 法の特 性	考 察	備 考
108-39	七脚瓦器	筒瓦	C-7区 D-7区	1. 黑褐色土層 瓦	微砂粒を含む、密 度	(外) 線色 (内) 棕色 高さ: 1.6 底面幅: 1.6	底径: 4.2 底面幅: 1.6 底面切口	底部の切り落しは無 い	-
108-30	土師質土器	筒瓦	東台付 西台付	C-7区 D-7区	微砂粒を含む、密 度	(外) 浅黃褐色 (内) 深黃褐色	高合性: 3.2	内外面削輪ナゲ	高台のある球形 土器C瓶
108-31	土質質土器	筒瓦	東台付 西台付	C-6区 D-6区	密 度	(外) 深黃褐色 (内) に似る褐色	高台径: 3.0	内外面削輪ナゲ	高台のある球形 土器C瓶
108-32	土質質土器	筒瓦	高台付 西台付	C-6区 D-6区	1mm 以下の微砂粒 を含む、密 度やや柔	(外) に似る褐色 (内) に似る褐色	口 径: 12.1 底面幅: 6.4 底面深: 3.6	内外面削輪ナゲ	-
108-33	土質質土器	不明品	高台付	C-5区 D-5区	密	(外) に似る黃褐色 (内) に似る黃褐色	口径: 15.0	内外面削輪ナゲ	口縁部破片
109-34	中国製器	白磁塊	白磁塊	C-8区	黒色の微砂粒を含む、 微密 良好	(外) 灰白色 (内) 灰白色	口径: 16.5 底面幅: 7.0 底面深: 5.6	丸窓の見込み部分に 沈痕の段をもつ	12世紀末 白磁排水瓶
109-35	中國製器	白磁塊	白磁塊	C-7区 D-7区	黒色の微砂粒を含む、 微密 良好	(外) 灰白色 (内) 灰白色	口径: 16.2 底面幅: 6.5	内外面に灰白色の 縁	12世紀末 白磁排水瓶

第22表 黒褐色土層出土木製品観察表

単位(cm)

種類 番号	品目	種類	出土地點 層	木取り	判 別	法 量	考 察
110-36	梵具	梵火具(火燭臼)	D-7区 4. 黑褐色土層	程尺	スギ材スギ	長さ: 22.3 幅: 2.9 厚さ: 2.1	9個の火燭穴
110-37	梵具	梵火具(火燭臼)	D-7区 4. 黑褐色土層	程尺	スギ材スギ	長さ: 24.4 幅: 4.2 厚さ: 2.8	3個の火燭穴
110-38	梵具	羅手(仕扣をもつ村)	D-7区 4. 黑褐色土層	板尺	杉葉樹	長さ: 22.7 幅: 9.6 厚さ: 2.0	2.2×1.1cm をまる方形 の孔をもつ

第23表 黒褐色土層出土石器観察表

単位(cm)

種類 番号	品目	出 土 地 點 層	法 量	材 質	色 調	考 察
111-39	石器	C-7区 4. 黑褐色土層	長さ: 1.7 厚さ: 0.41	幅: 1.43 重量: 0.78	安山岩	灰色 凹凸無し
111-40	スクレイパー	C-5区	長さ: 3.0 厚さ: 0.25	幅: 1.85 重量: 0.90	黑曜石	黑色
111-41	二次加工のある 刮削石器	4. 黑褐色土層	長さ: 1.8 厚さ: 0.3	幅: 1.13 重量: 0.78	黑曜石	黑色
111-42	刮削石器	B-6区 4. 黑褐色土層	長さ: 3.05 厚さ: 0.2	幅: 2.27 重量: 0.50	黑曜石	黑色
111-43	打制石斧(石鉈)	C-5区 4. 黑褐色土層	厚さ: 1.05 厚さ: 1.0	重量: 10.5g 幅: 13.9	流紋岩	黄灰色(表面赤褐色)
111-44	打制石斧(石鉈)	C-6区 4. 黑褐色土層	厚さ: 1.9 厚さ: 2.0	重量: 522.7g 幅: 8.8	流紋岩	黄灰色(表面赤褐色)

第24表 黒褐色土層土坑一覧表

単位(cm)

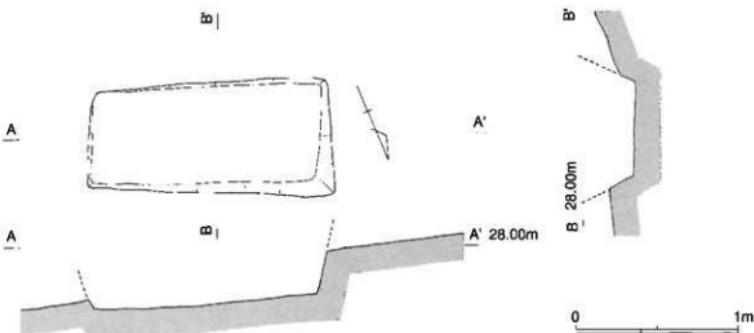
名 称	出 土 地 點	平 面 形	横 幅 (L) 深 度 (W) × 延 長 (D) × 短 軸 (S) × 漢 さ (A)	性 格	備 考
SK-31	D-7	圓 形	181.0×96.0×58.5	不明	SK-31(古) - SK-32(新)
SK-32	C-7	圓 形	107.0×85.0×55.0	不明	SK-31(古) - SK-32(新)
SK-33	C-7	圓 形	95.0× - ×34.2	不明	-
SK-34	C-7	圓 形	104.0×90.0×38.5	不明	-
SK-35	C-6 - C-7	圓 形	81.0× - ×28.0	不明	-
SK-36	C-6 - C-7	圓 形	97.0×71.0×32.2	不明	-
SK-37	C-6	圓 形	100.0× - ×65.8	不明	-
SK-38	C-6	椭 圓形	166.0×79.5×54.1	不明	-

## 5. 黄灰色粘土層

調査区の広範な範囲に川を覆うように第3層が水平に堆積した12頁第4表の⑨を取り扱う。この層は水田の耕作或いは昭和62年度に実施された圃場整備により一部擾乱を受けている。

### 土坑 SK-30 (第112図)

河川右岸の標高27.50~28.00mを測る位置から検出された平面長方形を呈する土坑である。河道Bの第13層と切り合っており、新旧関係は第13層(古)→SK-30(新)である。埋土が第3層黄灰色粘土層であったためここで取り扱った。長辺149.0cm、短辺69.0cm、深さ最大28.5cmを測る。



第112図 黄灰色粘土層 SK-30実測図

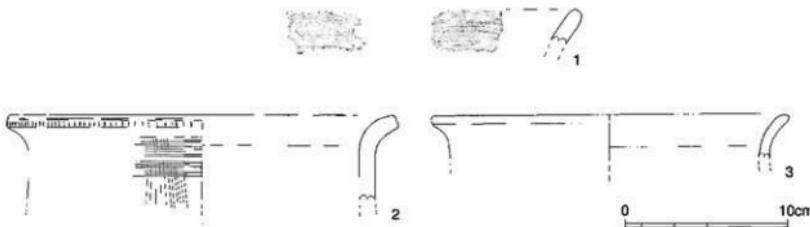
### 黄灰色粘土層出土遺物 (第113図1~第119図91)

#### 1. 繩文土器 (第113図1)

1は頸部が短く括れる浅鉢か深鉢の口縁端部の破片である。調整は内面に二枚貝条痕をもち、その他にはナデが施される。時期は縄文時代晩期と考えられる。

#### 2. 弥生土器 (第113図2、3)

2、3は前期の甕口縁部の破片であり、口縁は緩やかに外反して端部に至るものである。2は口縁部がやや厚手であり、端部に1条の沈線と刻み目をもつものである。体部外面にはハケメが施されている。3は刻み目をもたず、端部は丸くおさめられている。調整は風化のため不明である。



第113図 黄灰色粘土層出土遺物実測図 (縄文土器・弥生土器)

### 3. 土師器（第114図4～17）

4は複合口縁を呈する壺であり、口縁端部が外反する。5は退化した複合口縁をもつ壺である。6は立ち上がりが高い複合口縁をもつ壺I類であり、端部に平坦な面をもつ。7は退化が進んだ壺II類である。口縁端部は内側に突起状に肥厚しており、布留系の壺の影響を受けたものかもしれない。8は単純口縁の破片であり、胴部の張り出しが弱い壺X類かXI類である。9は鉢とした。器高に比べて口径の大きなものである。10～12は低脚壺の破片である。10は壺部が深く脚底部内面に手持ちヘラケズリが施される。11は脚底部を軽くナデる程度で、充実した脚部をもつ。12は脚端部を摘み出し、無調整のままである。13は端部が丸くおさめられる高壺IIIb類のものである。14、15は壺把手である。図面に掲載したものも含め把手は3個（2個体分以上）を数える。16はやや上げ底気味に仕上げられた土製支脚底部の破片である。調整は内外面に強いナデが施される。17は支脚状を呈する不明品である。外面は縱方向の非常に丁寧なナデが施される。

### 4. 須恵器（第115図18～116図57）

(1) 壺壺（第115図18～41） 18～26は壺蓋である。18は第13表で分類したA2型の中でも新しい様相を呈するIII類である。19、20は天井部に粗雑なヘラケズリが施され、やや小ぶりのA4型である。19は口縁内面のやや上方に一条の沈線が巡り、20は端部が丸くおさめられ厚みが均一なものである。21、22は口縁部が内湾し、口径が12cm前後となるA7型である。23はA7型が10cm前後まで小型化したA8型である。24～26は輪状摘みをもち、口縁が下垂するB2・B3型である。25、26は、はっきりとしないが静止糸切りが行われたようにも見える。

27～38は壺身である。27、28は立ち上がりが高く、口縁端部に段をもつA2a型と考えられる。底部を欠損しているためA1型の壺身、有蓋高壺E1型の口縁の可能性も考えられる。29はやや大型のA3型、30～33はA4～A7型に伴うものと考えられる。32、33は底部がないものであり、有蓋高壺の可能性も考えられる。34、35は口径が10cm前後まで小型化したものであり、A8型と考えられる。35は剥離痕がないものの、器高が低くC1、C2型の壺蓋の可能性もある。36～38は高台をもつB型の壺身である。36は高台内にヘラ記号をもつ。37、38は糸切り痕をもつB3型である。39～41は無高台の壺であり、底部の切り離しには糸切りが行われている。40は体部が内湾し口縁部が括るものであり、39、41は体部が内湾し口縁部がそのまま終わるものである。

(2) 高壺（第115図42～第116図45） 42は上段の3方に三角形透かしの痕跡が残る。大谷編年の有蓋高壺B型かC型であろう。43は壺部内面底部と外面の接合部に同心円文スタンプ痕をもつ。口縁端部を欠損しているが、有蓋高壺F型と考えられる。44、45は無蓋高壺と考えられる。44は壺部の破片である。壺底部より緩やかに立ち上がり、端部は外方に折れ曲がり段をもつ。調整は外面に振幅の狭い波状文が施される。A1型に含まれるものである。45は脚部分の破片である。透かし孔が退化して2方向に細長い切れ目を入れるものでA6型と考えられる。

(3) 長頸壺（第116図46、47） 46、47は長頸壺底部の破片と思われる。「ハ」の字に開くしつかりとした高台が取り付けられている。底部の切り離しは糸切りによる。

(4) 壺・甕類（第116図48～53） 48～52は壺甕類口縁の破片である。48は端部が薄手の二重口縁を呈し、外面に波状文が施される。49は外反する口縁をもち端部が半坦なもの、50は口縁端部が肥厚するもの、51は口縁端部付近の内外面に沈線をもち、端部が外方に折り曲げられるものである。52は立ち上がりの短い口縁をもつ短頸壺である。53は平底を有する底部の破片である。

(5) その他の器種（第116図54～57） 54、55は、第85図384と同様の形態をもち、子持ち壺と思われる。56は低い高台のついた壺であり、内面の底部にも輪状に突帯が巡る。用途としてはこの上に器を乗せた器台のようなものと考えられる。57は鉢口縁の破片と考えられる。

## 5. 土師質土器（第117図58～78）

第3層黄灰色粘土層からは土師質土器の破片が87点出土している。整理にあたっては黒褐色土層から出土した土師質土器同様、石台遺跡の分類に従った。

(1) 高台のないもの（第117図58～67） 高台のない土師質土器底部の破片は27点が出土し、この内比較的残りの良い10点を掲載した。口クロ整形で、底部の切り離しはすべて糸切りによる。58～61は底径3.8～4.6cmを測り、皿形土器底部の破片と思われる。62～67は底径5.6～6.9cmを測るやや大きなものであり、壺形土器あるいは碗形土器底部の破片と思われる。

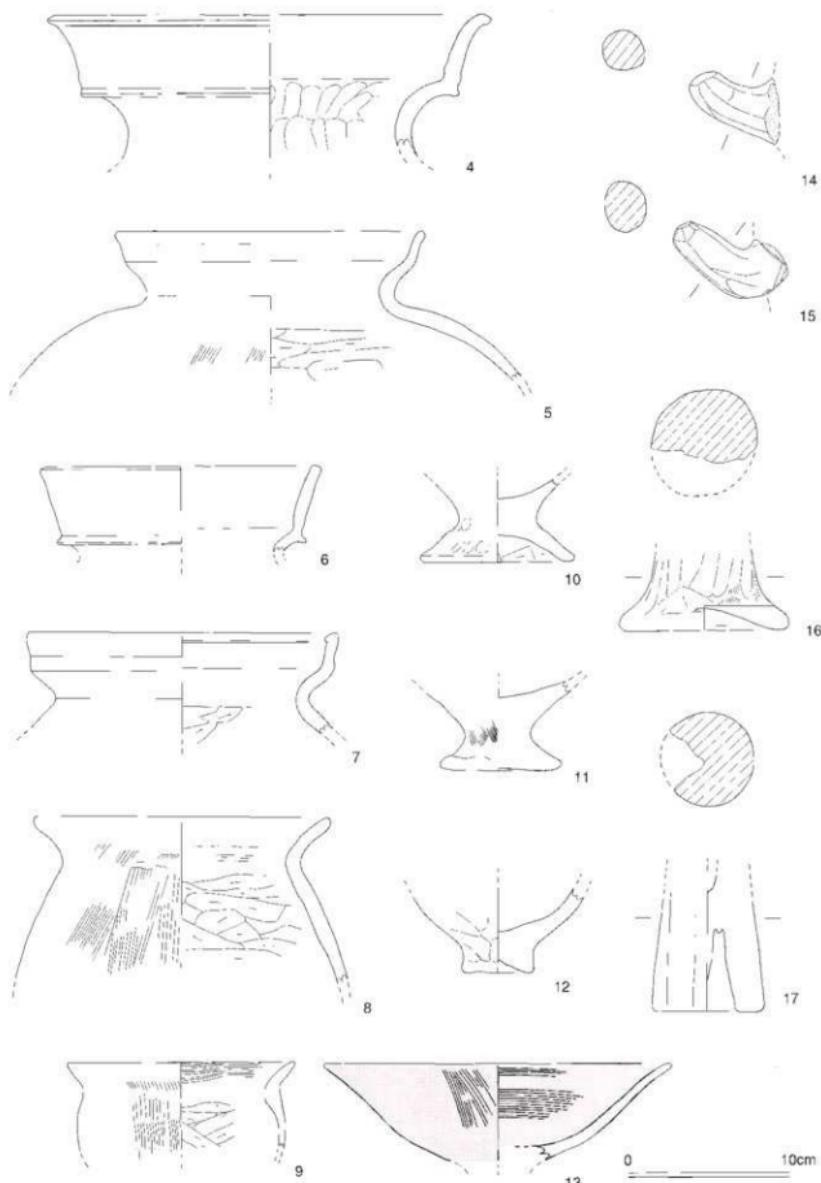
(2) 脚付きのもの（第117図68～71） 脚付きの土師質土器は4点が出土し、総てを掲載した。68は脚部が太くて短いものである。法量は脚部高3.5cm、底径5.9cmを測る。脚部の形状からすると脚付きの壺形土器Ⅱ類に含まれる。69、70は脚部が鼓形に近い形状をなす小形品である。69は脚部高2.5cm、底径4.7cmを測り、脚付きの壺形土器Ⅲ-b類に含まれるものである。70は脚部高2.1cm、底径4.1cmを測り、底径がやや小さいが、同様にⅢ-b類と考えられる。71は非常に短い脚がつくものであり、脚部高1.6cm、底径4.7cmを測る。

(3) 高台のあるもの（第117図72～75） 高台のある土師質土器は9点が出土し、この内比較的残りの良い4点を掲載した。72は低めの「ハ」の字状の高台がつき、形状から壺形土器b類と考えられる。高台径6.7cmを測る。73は高台高が大きい割には高台径が小さく細長い高台が外向きにつく壺形土器c類と考えられる。高台径は5.6cmを測る。74は「ハ」の字状に聞く高台をつける壺形土器d類と考えられる。高台径9.3cmを測る。75は断面が半円形を呈する低い高台が取り付けられたものであり、高台径5.0cmを測る。石台遺跡の分類にないタイプのものである。

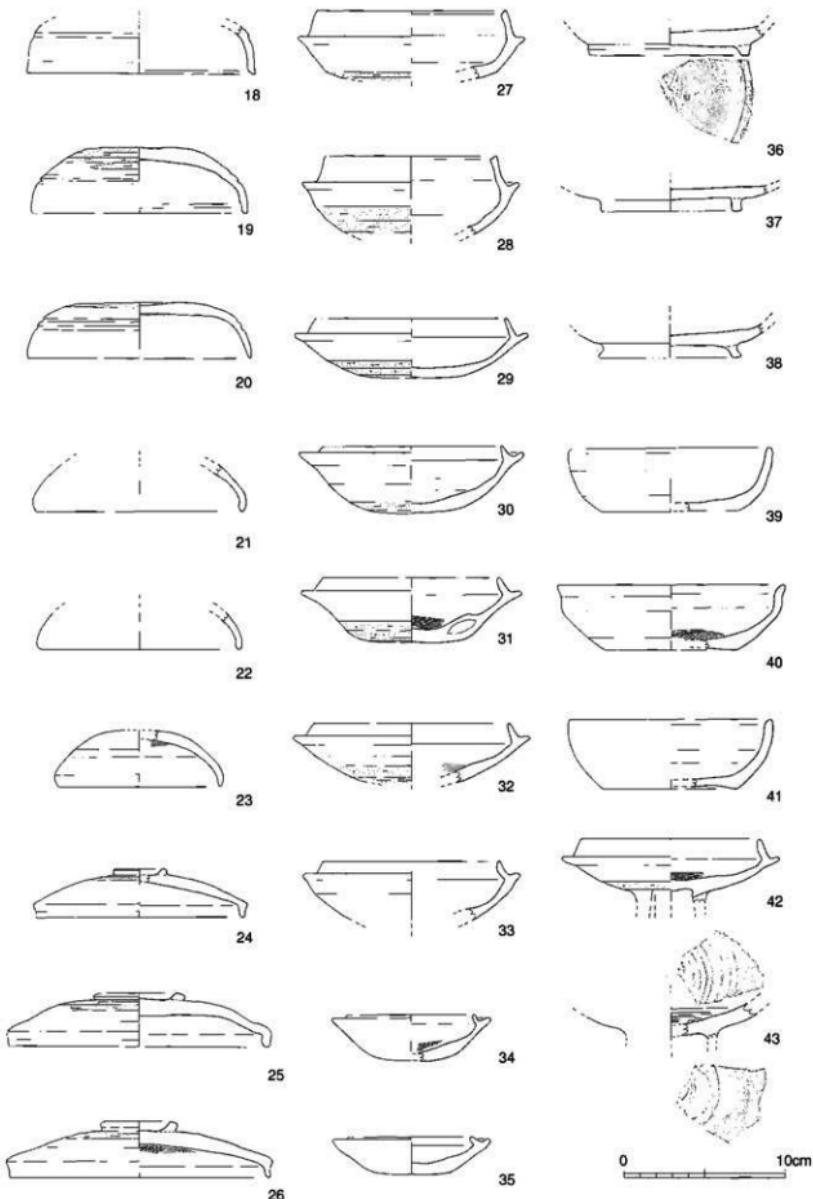
(4) 器種不明（第117図76～78） 口縁部の破片は量が少なく、5点が出土し、このうち3点を掲載した。76は逆「ハ」の字状に直線的に伸び端部も真っ直ぐなもの、77は逆「ハ」の字状に直線的に伸び端部が外方向にやや屈曲するもの、78はやや内湾気味に立ち上がるるものである。

## 6. 中国製磁器（第118図79～82）

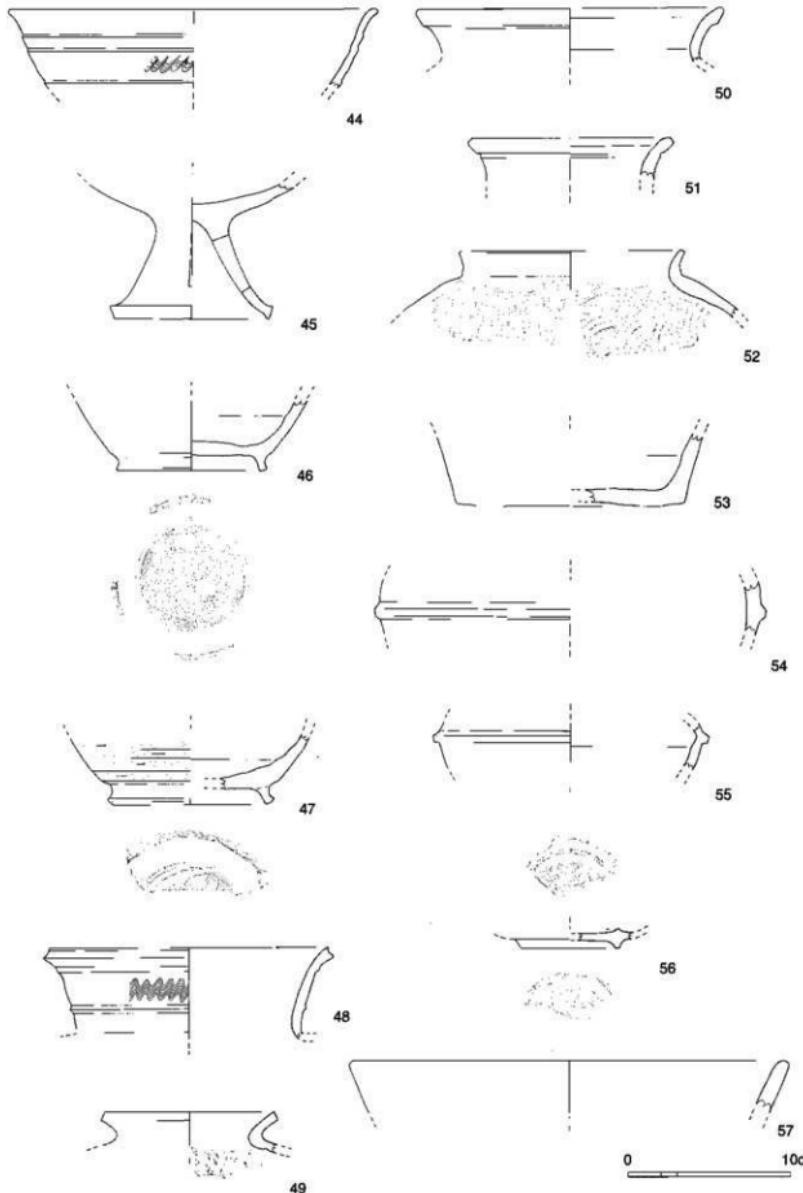
黄灰色粘土層からは白磁碗が4点出土している。79～81は分厚い玉縁をもった碗口縁の破片であり、白磁碗IV類に含まれるものである。82は高台部分の破片である。やや高く高台が削り出され、内面の見込み部分は窪む。化粧土を施した後に施釉されているものであり、産地や時期は不明である。白磁碗IV類に近い時期かもしれない。



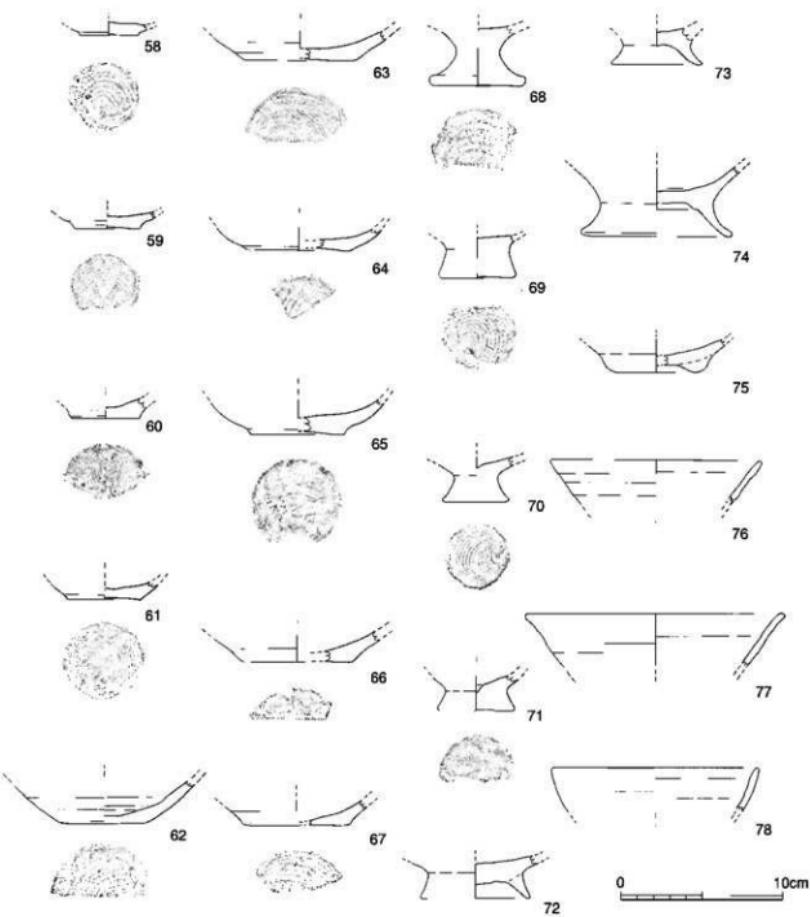
第114図 黄灰色粘土層出土土器実測図



第115図 黄灰色粘土層出土須恵器実測図



第116図 黄灰色粘土層出土須恵器実測図



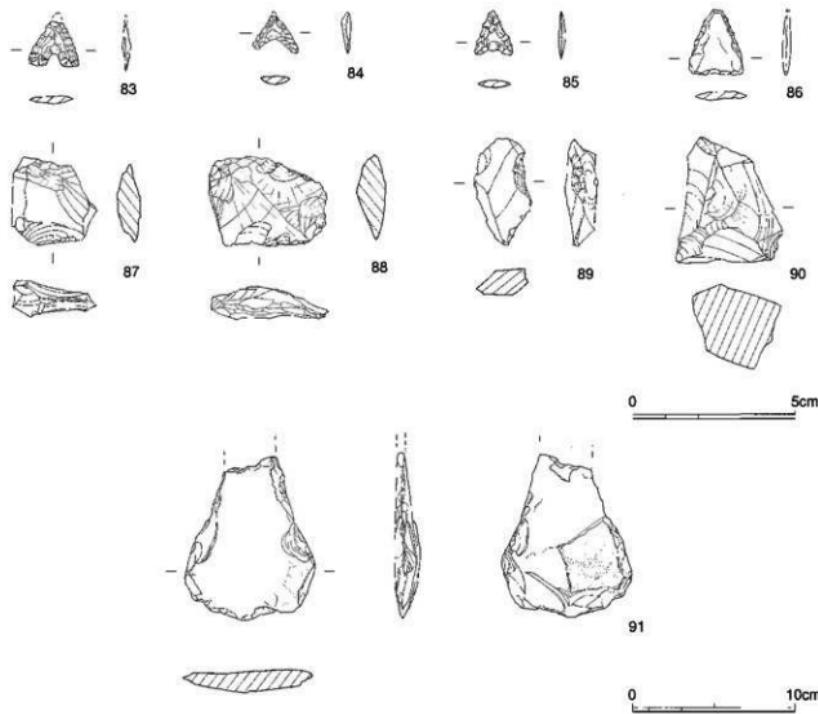
第117図 黄灰色粘土層出土土師質土器実測図



第118図 黄灰色粘土層出土中国製磁器実測図

## 7. 石器 (第119図83~91)

83~85は黒曜石製の石鏃である。基部に抉入りのある円基無茎式のものであり、縁辺に比較的丁寧な二次加工が施される。83は残存長1.35cm・幅1.4cm・厚さ0.2cm、84は残存長1.2cm・幅1.12cm・厚さ0.25cm、85は長さ1.35cm・幅1.13cm・厚さ0.25cmを測る。86は安山岩製の石鏃である。基部に抉入りをもたない平基無茎式のものであり、二等辺三角形を呈する。残存長2.02cm、幅1.65cm、厚さ0.25cmを測る。87、88は黒曜石製の楔形石器である。上下端部に細かな剥離痕をもち、両端が裁断される。87は縦2.7cm・横2.5cm・厚さ0.7cm、88は縦2.6cm・横3.55cm・厚さ0.95cmを測る。89は黒曜石製の二次加工のある剥片石器である。縁部に細かな二次加工が施されるもので法量は長さ3.2cm、幅1.6cm、厚さ0.7cmを測る。90は黒曜石の石核である。不規則な剥離面が残り、長さ3.85cm、幅3.1cm、厚さ2.8cmを測る。91は流紋岩製の打製石斧である。表裏に主要剥離面を大きく残し、側縁部から刃部にかけ粗い加工が施される。刃部部分の破片であり、バチ形に近いものと思われる。残存長9.5cm、幅8.0cm、厚さ1.3cmを測る。



第119図 黄灰色粘土層出土石器実測図

第25表 黄灰色粘土層出土土器観察表

単位：(cm)

種類 番号	品目	器種	出土地点 土 帯	施 工 法	色 調	法 群	開口・手法の特徴他	時 期	備 考
113-1	陶土器	鉢	C-10区・D-10区 3.黄灰色粘土層上 部	0.5mm以下の砂粒を 多く含む 灰	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	外側ナダ、内面二 枚貝余痕	純文化期		
113-2	先生土器	壺	B-5区 3.黄灰色粘土層上 部	2mm前後の砂粒を 多く含む 灰	(外) 黑褐色 (内) に赤い褐色	口径: 24.0 内面外風化	内面ナダ、外側ハ ケメ、口縁端部に 割込み	先生時代家附 外側に輪帶有	
113-3	先生土器	壺	A-6区 3.黄灰色粘土層上 部	2mm前後の砂粒を 多く含む 灰	(外) に赤い褐色 (内) に赤い褐色	口径: 24.0 内面外風化	先生時代家附 外側に輪帶有		
114-4	土器群	壺	C-15区・D-15区 3.黄灰色粘土層上 部	1mm以下の砂粒を 含む、密 度	(外) に赤い褐色 (内) に赤い褐色	口径: 27.4 内面外風化	頭部内面端部ヨコ ナダ、その他のコナ ダ	古墳時代前期 復合口縁	
114-5	土器群	壺	C-14区・D-14区 3.黄灰色粘土層上 部	1mm以下の砂粒を 多く含む 灰	(外) に赤い褐色 (内) に赤い褐色	口径: 19.1 内面外風化	口縁部外側ヨコナ ダ、底部外側ハケメ 、内面ハラケズリ	古墳時代中期 復合口縁	
114-6	土器群	壺	C-15区・D-15区 3.黄灰色粘土層上 部	0.5mm以下の砂粒 含む 灰	(外) に赤い褐色 (内) に赤い褐色	口径: 17.3 内面外風化	口縁部外側ヨコナ ダ	古墳時代前期 復合口縁 壺 I 種	
114-7	土器群	壺	C-11区・D-11区 3.黄灰色粘土層上 部	1mm以下の砂粒を 含む 灰	(外) に赤い褐色 (内) に赤い褐色	口径: 19.2 内面外風化	口縁部内面ヨコナ ダ、体部内面ハ ラケズリ	古墳時代中期 復合口縁 壺 II 種	
114-8	土器群	壺	C-17区 3.黄灰色粘土層上 部	1mm以下の砂粒を 含む 灰	(外) に赤い褐色 (内) に赤い褐色	口径: 18.4 内面外風化	口縁部内面ヨコナ ダ、体部外側ハケメ 、内面ハラケズリ	単純口縁 壺 X から XI 種	
114-9	土器群	鉢	D-9区 3.黄灰色粘土層上 部	1mm以下の砂粒を 含む、密 度	(外) に赤い褐色 (内) に赤い褐色	口径: 14.1 内面外風化	口縁部内面ハケメ 、体部外側ハケメ 、内面ハラケズリ		
114-10	土器群	低脚壺	D-8区 3.黄灰色粘土層上 部	0.5mm以下の砂粒 含む 灰	(外) 灰色 (内) 灰色	底径: 9.5 内面外風化	脚部外側ナダ、内 面手持ちハラケズ リ		
114-11	土器群	低脚壺	C-15区 3.黄灰色粘土層上 部	3mmの大砂粒含む 灰	(外) に赤い褐色 (内) に赤い褐色	底径: 7.5 内面外風化、米部 ナダ		充実した脚部	
114-12	土器群	低脚壺	A-6区 3.黄灰色粘土層上 部	3mm以下の砂粒含 む	(外) に赤い褐色 (内) に赤い褐色	底径: 4.5 内面外風化、外唇 ナダと指痕痕跡		手握ね	
114-13	土器群	高杯	D-9区 3.黄灰色粘土層上 部	密 度	(外) に赤い褐色 (内) に赤い褐色	口径: 21.4 内面外風化		高杯 II b 種 赤色顔料塗布	
114-14	土器群	瓶	C-12区・D-12区 3.黄灰色粘土層上 部	0.5mm以下の砂粒 含む、密 度	(外) に赤い褐色 (内) に赤い褐色		ナダの痕跡が残る	把手部分の破片	
114-15	土器群	瓶	B-8区 3.黄灰色粘土層上 部	2mm前後の砂粒を 含む、密 度	(外) に赤い褐色 (内) に赤い褐色		ナダの痕跡が残る	把手部分の破片	
114-16	土器群	土支拂	C-11区・D-11区 3.黄灰色粘土層上 部	1mm以下の砂粒を 多く含む 灰	(外) に赤い褐色 (内) に赤い褐色	底径: 10.4 外壁無い裏方向の ナダ、脚底部ナダ			
114-17	土器群	不明品	C-11区・D-11区 3.黄灰色粘土層上 部	1mmの大砂粒含む 灰	(外) に赤い褐色 (内) に赤い褐色	底径: 6.3 ミガキか丁寧なナ ダ		丸印状を呈する	
115-18	須恵器	环盞	C-11区・D-11区 3.黄灰色粘土層上 部	密 度	(外) 灰色 (内) 灰色	口径: 14.0 内径: 13.4 内外面凹凸ナダ		出雲之型 A2型-Ⅲ型 (新しいもの)	
115-19	須恵器	环盞	C-15区 3.黄灰色粘土層上 部	1mm前後の砂粒を 僅かに含む、密 度	(外) 灰色 (内) 灰色	口径: 13.3 天井部外側凹凸へ ナダ、内径: 12.6 ラケズリ。その他 器具: 4.1 四脚ナダ		出雲4期 A1型	
115-20	須恵器	环盞	C-15区・D-15区 3.黄灰色粘土層上 部	密 度	(外) 灰色 (内) 灰色	口径: 13.7 天井部外側凹凸へ ナダ、内径: 13.1 ラケズリ。その他 器具: 3.5 四脚ナダ		出雲4期 A4型	
115-21	須恵器	环盞	C-15区・D-15区 3.黄灰色粘土層上 部	密 度	(外) 灰色 (内) 灰色	口径: 12.8 口縁部内外面凹凸 ナダ		出雲5期 A7型	
115-22	須恵器	环盞	C-15区・D-15区 3.黄灰色粘土層上 部	密 度	(外) 灰色 (内) 灰色	口径: 12.4 口縁部内外面凹凸 ナダ		出雲5期 A7型	
115-23	須恵器	环盞	C-15区・D-15区 3.黄灰色粘土層上 部	密 度	(外) 灰色 (内) 灰色	口径: 10.0 大井部外側ナダ、 その他の凹凸ナダ			
115-24	須恵器	环盞	D-8区 3.黄灰色粘土層上 部	1mm 大の砂粒を僅 かに含む、密 度	(外) 灰色 (内) 灰色	口径: 12.5 天井部外側凹凸へ ナダ、ラケズリ。その 他の凹凸ナダ		出雲7-8期 B2・B3型	
115-25	須恵器	环盞	A-5区 3.黄灰色粘土層上 部	1mm 大の砂粒を僅 かに含む、密 度	(外) 灰色 (内) 灰色	口径: 16.0 天井部外側凹凸へ ナダ、内径: 15.6 ラケズリ。その他 器具: 3.3 四脚ナダ		出雲7-8期 B2・B3型	
115-26	須恵器	环盞	C-7区 3.黄灰色粘土層上 部	1mm 大の砂粒を僅 かに含む、密 度	(外) 灰色 (内) 灰色	口径: 16.0 天井部外側凹凸へ ナダ、内径: 14.2 ラケズリ。その他 器具: 3.5 四脚ナダ		出雲7-8期 B2・B3型	

## 黄灰色粘土層出土土器観察表

単位(cm)

博 号	品 目	器 形	出 土 点	胎 土	色 調	法 量	調 整・手 法	目 標	時 期	備 考
115-27	須恵器	环身	C-15区・D-15区 3. 黄灰色粘土層上 部	良 好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 11.8 最大径: 14.0 厚さ: 13.0	底部外側圓弧へラ クナリ、その他の 凹凸なし	口徑: 11.8 底部外側圓弧へラ クナリ、その他の 凹凸なし	出雲2期	A1型あるいはA2B 上环身か下环身か不 可
115-28	須恵器	环身	B-7区 3. 黄灰色粘土層上 部	良 好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 10.5 最大径: 13.4 厚さ: 12.2	底部外側圓弧へラ クナリ、その他の 凹凸なし	口径: 10.5 底部外側圓弧へラ クナリ、その他の 凹凸なし	出雲2期	A1型あるいはA2B 上环身か下环身か不 可
115-29	須恵器	环身	C-15区・D-15区 3. 黄灰色粘土層上 部	良 好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 11.9 最大径: 13.2 厚さ: 12.5	底部外側圓弧へラ クナリ、その他の 凹凸なし	口径: 11.9 底部外側圓弧へラ クナリ、その他の 凹凸なし	出雲4-5期	A3型に伴う环 身か
115-30	須恵器	环身	C-16区 3. 黄灰色粘土層上 部	良 好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 11.2 最大径: 12.6 厚さ: 12.0	底部外側圓弧へラ クナリ、その他の 凹凸なし	口径: 11.2 底部外側圓弧へラ クナリ、その他の 凹凸なし	出雲4-5期	A4-A5型に伴 う环身
115-31	須恵器	环身	C-13区・D-13区 3. 黄灰色粘土層上 部	良 好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 10.9 最大径: 12.6 厚さ: 12.0	底部外側圓弧へラ クナリ、内面ナヂ、山型 凹凸なし	口径: 10.9 底部外側圓弧へラ クナリ、内面ナヂ、山型 凹凸なし	出雲4-5期	A4-A7型に伴 う环身
115-32	須恵器	环身	C-16区 3. 黄灰色粘土層上 部	良 好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 12.0 最大径: 14.6 厚さ: 13.1	底部外側圓弧へラ クナリ、内面ナヂ、 その他の凹凸ナヂ	口径: 12.0 底部外側圓弧へラ クナリ、内面ナヂ、 その他の凹凸ナヂ	出雲3-5期	A4-A7型に伴 う环身が高 环
115-33	須恵器	环身	C-16区 3. 黄灰色粘土層上 部	良 好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 10.9 最大径: 13.4 厚さ: 12.3	底部外側圓弧へラ クナリ、内面ナヂ、 その他の凹凸ナヂ	口径: 10.9 底部外側圓弧へラ クナリ、内面ナヂ、 その他の凹凸ナヂ	出雲4-5期	A4-A7型に伴 う环身が高 环
115-34	須恵器	环身	C-15区・D-15区 3. 黄灰色粘土層上 部	良 好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 7.6 最大径: 9.8 厚さ: 7.8	底部外側圓弧へラ クナリ、内面ナヂ、 その他の凹凸ナヂ	口径: 7.6 底部外側圓弧へラ クナリ、内面ナヂ、 その他の凹凸ナヂ	出雲6期	A8型に伴う环 身
115-35	須恵器	环身	D-9区 3. 黄灰色粘土層上 部	良 好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 7.7 最大径: 9.8 厚さ: 7.9	底部外側圓弧へラ クナリ、内面ナヂ、 その他の凹凸ナヂ	口径: 7.7 底部外側圓弧へラ クナリ、内面ナヂ、 その他の凹凸ナヂ	出雲6期	A8型に伴う 环身が型の抜 みがされたもの
115-36	須恵器	高台行 环身	C-11区 3. 黄灰色粘土層上 部	良 好	(外)暗灰褐色 (内)灰褐色	高台行: 9.8	底部高台行へラ クナリ(ハラ書き文 字)	底部高台行へラ クナリ(ハラ書き文 字)	B型	
115-37	須恵器	高台行 环身	C-14区・D-14区 3. 黄灰色粘土層上 部	良 好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	高台行: 9.7 0.5mm 大の砂粒付 り	底部の切り離しは 系切りによる	底部の切り離しは 系切りによる	出雲8期	B3型
115-38	須恵器	高台行 环身	C-14区・D-14区 3. 黄灰色粘土層上 部	良 好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	高台行: 8.8	底部の切り離しは 系切りによる	底部の切り離しは 系切りによる	出雲8期	B3型
115-39	須恵器	环	D-9区 3. 黄灰色粘土層上 部	良 好	1mm 以下の砂粒を 僅かに含む、青 良 好	口径: 8.4 最大径: 9.8 厚さ: 3.9	底部の切り離しは 系切りによる	底部の切り離しは 系切りによる	高台行IVa期~	
115-40	須恵器	环	C-7区 3. 黄灰色粘土層上 部	良 好	2mm 以下の砂粒を 僅かに含む、青 良 好	口径: 14.0 最大径: 8.0 厚さ: 1.0	底部の切り離しは 系切りによる	底部の切り離しは 系切りによる	高台行IVa期~	
115-41	須恵器	环	B-7区 3. 黄灰色粘土層上 部	良 好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 12.5 最大径: 8.2 厚さ: 4.3	底部の切り離しは 系切りによる	底部の切り離しは 系切りによる	高台行IVa期~	
115-42	須恵器	有蓋 高环	C-15区 3. 黄灰色粘土層上 部	良 好	1mm 大の砂粒を僅 かに含む、青 良 好	口径: 11.0 最大径: 13.4 厚さ: 12.5	底部内面に同心 円スタンプ	底部内面に同心 円スタンプ	出雲3期	二角3方透かし B型かC型
115-43	須恵器	有蓋 环	B-7区 3. 黄灰色粘土層上 部	良 好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 12.6 最大径: 8.2 厚さ: 4.3	底部内面に同心 円スタンプ	底部内面に同心 円スタンプ	出雲2期	P型か
116-44	須恵器	無蓋 环	D-9区 3. 黄灰色粘土層上 部	良 好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 22.6	底部外側に波状 文	底部外側に波状 文	出雲1期	A1型
116-45	須恵器	無蓋 高环	C-13区・D-13区 3. 黄灰色粘土層上 部	良 好	1mm 大の砂粒を僅 かに含む、青 良 好	高台行: 9.6	内面外側圓弧ナヂ	内面外側圓弧ナヂ	出雲6期	切れ目状の2方 透かし、A8型
116-46	須恵器	長脚 环?	C-7区 3. 黄灰色粘土層上 部	良 好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	高台行: 9.2	底部の切り離しは 系切りによる	底部の切り離しは 系切りによる		
116-47	須恵器	長脚 環?	C-11区・D-11区 3. 黄灰色粘土層上 部	良 好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	高台行: 10.2	底部外側に波状 文	底部外側に波状 文		
116-48	須恵器	蒙塵 口縁	C-13区 3. 黄灰色粘土層上 部	良 好	(外)青灰色 (内)青灰色	口径: 17.1	底部外側に波状 文	底部外側に波状 文		
116-49	須恵器	蒙塵 口縁	D-8区 3. 黄灰色粘土層上 部	良 好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 10.4	底部外側圓弧 ナヂ	底部外側圓弧 ナヂ		
116-50	須恵器	有蓋 口縁	C-11区 3. 黄灰色粘土層上 部	良 好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 19.0	底部外側圓弧 ナヂ	底部外側圓弧 ナヂ		
116-51	須恵器	蒙塵 口縁	D-8区 3. 黄灰色粘土層上 部	良 好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 12.6	底部外側圓弧 ナヂ	底部外側圓弧 ナヂ		
116-52	須恵器	蒙塵 口縁	C-7区 3. 黄灰色粘土層上 部	良 好	(外)灰褐色 (内)灰褐色	口径: 13.9	底部外側圓弧 ナヂ、底部外側タタ キ、内面凹凸	底部外側圓弧 ナヂ、底部外側タタ キ、内面凹凸		

## 黄灰色粘土層出土土器観察表

単位(cm)

件号	品目	器種	出土場所	胎 土 成	色 調	法 量	実 測 半 径 の 前 後 比	特 徴 考
116-53	須恵器	盃形	3. 黄灰色粘土層	1mm大の砂粒を僅かに含む、密 不均	(外) 淡灰色 (内) 淡白色	底径: 14.1	底面圓輪ナダ、 底部ナダ	平底
116-54	須恵器	不明品	C-10区・D-10区 3. 黄灰色粘土層	密 良好	(外) 淡灰色 (内) 淡灰色		内外面圓輪ナダ	丁持ち蓋か
116-55	須恵器	不明品	B-7区	密 良好	(外) 淡灰色 (内) 淡灰色		内外面圓輪ナダ	丁持ち蓋か
116-56	須恵器	不明品	C-16区 3. 黄灰色粘土層上 部	良好	(外) 淡灰色 (内) 淡灰色	底径: 6.1	底部内外面ナダ	器台か
116-57	須恵器	鉢	D-8区 3. 黄灰色粘土層上 部	密 良好	(外) 淡灰色 (内) 淡灰色	口径: 27.0	外腹タタキ、内面 等で具削	
117-58	土質質土器	直形	C-8区 3. 黄灰色粘土層	微砂粒含む、密 やや不良	(外) に淡い黃褐色 (内) に淡い黃褐色	底径: 3.8	底部の切り離しは 圓輪各切りによる	
117-59	土質質土器	直形	D-8区 3. 黄灰色粘土層	微砂粒含む、密 やや不良	(外) に淡い黃褐色 (内) に淡い黃褐色	底径: 4.1	底部の切り離しは 圓輪各切りによる	
117-60	土質質土器	直形 土器	C-14区・D-14区 3. 黄灰色粘土層	2mm 前後の砂粒を 僅かに含む、密	(外) に淡い黃褐色 (内) に淡い黃褐色	底径: 4.2	底部の切り離しは 圓輪各切りによる	
117-61	土質質土器	直形 土器	D-7区 3. 黄灰色粘土層	1mm 前後の砂粒を 僅かに含む、密 良	(外) に淡い黃褐色 (内) に淡い黃褐色	底径: 4.6	底部の切り離しは 圓輪各切りによる	
117-62	土質質土器	耳付・直 筒形土器	C-7区 3. 黄灰色粘土層	1mm 以下の砂粒を 僅かに含む、密 良	(外) に淡い黃褐色 (内) に淡い黃褐色	底径: 5.6	内外面圓輪ナダ、 底部の切り離しは 圓輪各切りによる	
117-63	土質質土器	耳付・直 筒形土器	D-9区 3. 黄灰色粘土層	微砂粒含む、密 良	(外) に淡い黃褐色 (内) に淡い黃褐色	底径: 6.6	内外面圓輪ナダ、 底部の切り離しは 圓輪各切りによる	
117-64	土質質土器	直形 筒形土器	A-5区 3. 黄灰色粘土層	密 良	(外) に淡い黃褐色 (内) に淡い黃褐色	底径: 6.2	内外面圓輪ナダ、 底部の切り離しは 圓輪各切りによる	
117-65	土質質土器	耳付・直 筒形土器	C-12区・D-12区 3. 黄灰色粘土層	2mm 前後の砂粒を 僅かに含む、密 良	(外) 淡灰色 (内) 淡灰色	底径: 5.6	内外面圓輪ナダ、 底部の切り離しは 圓輪各切りによる	
117-66	土質質土器	耳付・直 筒形土器	C-12区・D-12区 3. 黄灰色粘土層	密 やや不良	(外) に淡い黃褐色 (内) に淡い黃褐色	底径: 6.9	底部の切り離しは 圓輪各切りによる	
117-67	土質質土器	耳付・直 筒形土器	C-6区 3. 黄灰色粘土層	微砂粒含む、密 良	(外) 淡褐色 (内) に淡い黃褐色	底径: 6.5	底部の切り離しは 圓輪各切りによる	
117-68	土質質土器	脚付 耳付・直 筒形土器	C-6区 3. 黄灰色粘土層	微砂粒含む、密 良	(外) に淡い黃褐色 (内) に淡い黃褐色	底径: 5.9 肩幅: 3.3	内外面圓輪ナダ、 底部の切り離しは 圓輪各切りによる	脚付・直筒形 土器
117-69	土質質土器	脚付 耳付・直 筒形土器	D-7区 3. 黄灰色粘土層	0.5mm 以下の砂粒 含む、密 良	(外) に淡い黃褐色 (内) に淡い黃褐色	底径: 4.7 肩幅: 2.5	内外面圓輪ナダ、 底部の切り離しは 圓輪各切りによる	脚付の环形土器 直筒形
117-70	土質質土器	耳付・直 筒形土器	C-8区 3. 黄灰色粘土層	微砂粒含む、密 良	(外) に淡い黃褐色 (内) に淡い黃褐色	底径: 4.1 肩幅: 2.1	内外面圓輪ナダ、 底部の切り離しは 圓輪各切りによる	脚付の环形土器 直筒形
117-71	土質質土器	脚付 耳付・直 筒形土器	C-15区 3. 黄灰色粘土層上 部	微砂粒含む、密 良	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色	底径: 4.7 肩幅: 1.6	内外面圓輪ナダ、 底部の切り離しは 圓輪各切りによる	
117-72	土質質土器	高台付 耳付・直 筒形土器	C-15区 3. 黄灰色粘土層上 部	微砂粒含む、密 やや不良	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色	高台径: 6.7	内外面風化	高台のある环形 土器
117-73	土質質土器	高台付 耳付・直 筒形土器	C-9区 3. 黄灰色粘土層	微砂粒含む、密 良	(外) に淡い黃褐色 (内) に淡い黃褐色	高台径: 5.6	内外面圓輪ナダ	高台のある环形 土器
117-74	土質質土器	高台付 耳付・直 筒形土器	C-11区・D-11区 3. 黄灰色粘土層	微砂粒含む、密 良	(外) に淡い黃褐色 (内) に淡い黃褐色	高台径: 9.3	内外面圓輪ナダ	高台のある环形 土器
117-75	土質質土器	高台付 耳付・直 筒形土器	C-13区・D-13区 3. 黄灰色粘土層	密 やや不良	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色	高台径: 5.6	内外面風化	
117-76	土質質土器	不明品	C-9区 3. 黄灰色粘土層	密 良	(外) に淡い黃褐色 (内) に淡い黃褐色	口径: 13.0	内外面圓輪ナダ	口縁破片

黄灰色粘土層出土土器観察表

単位(cm)

拂田 番号	品目	器種	出土地點 土層	胎 地	色 調	法 量	測定・手法の特徴	時 期	備 考
117-77	土器	不明	D-8区 3. 黄灰色粘土層	密 度	(外) ふい黄色 (内) ふい黄色	口径: 16.0	内外面輪ナダ		山形部破片
117-78	土器	不明	C-11区・D-11区 3. 黄灰色粘土層	微沙粒含む、密 度	(外) ふい黄色 (内) ふい黄色	口径: 12.7	内外面輪ナダ		山形部破片
118-79	中腹側面	白粗陶	C-14区・D-14区 3. 黄灰色粘土層	褐色の微粒粒含む、 適好	(外) 灰白色 (内) 灰白色	口径: 16.5	分厚い玉縁をもつ	12世紀前半	白粗陶Ⅳ類
118-80	中腹側面	白粗陶	C-9区 3. 黄灰色粘土層	褐色の微粒粒含む、 適好	(外) 黄白色 (内) 黄白色	口径: 16.7	分厚い玉縁をもつ	12世紀前半	白粗陶Ⅳ類
118-81	中腹側面	白粗陶	D-9区 3. 黄灰色粘土層	黒色の微粒粒含む、 適好	(外) 黄白色 (内) 黄白色	口径: 18.5	分厚い玉縁をもつ	12世紀前半	白粗陶Ⅳ類
118-82	中腹側面	白粗陶	D-8区 3. 黄灰色粘土層	黒色の微粒粒含む、 適好	(外) 黄白色 (内) 黄白色	高台径: 6.2	化粧土を施した後 焼成される		

第26表 黄灰色粘土層出土石器観察表

単位(cm)

拂田 番号	品目	出土地點 土層	法 量	材質	色 調	備 考	
119-83	石器	C-14区・D-14区 3. 黄灰色粘土層上部	長さ: 1.35 厚さ: 0.2	幅: 1.4 重量: 0.4g	黒曜石	黒色	立基無形式
119-84	石器	D-15区 3. 黄灰色粘土層上部	長さ: 1.2 厚さ: 0.25	幅: 1.12 重量: 0.3g	黒曜石	黒色	立基無形式
119-85	石器	B-6区 3. 黄灰色粘土層上部	長さ: 1.35 厚さ: 0.25	幅: 1.13 重量: 0.3g	黒曜石	黒色	立基無形式
119-86	石器	C-16区 3. 黄灰色粘土層上部	長さ: 2.02 厚さ: 0.25	幅: 1.65 重量: 0.9g	安山岩	灰色	立基無形式
119-87	楔形石器	D-9区 3. 黄灰色粘土層上部	幅: 2.7 厚さ: 0.7	幅: 2.5 重量: 5.0g	黒曜石	黒色	
119-88	楔形石器	C-9区 3. 黄灰色粘土層上部	幅: 2.6 厚さ: 0.95	幅: 3.55 重量: 9.1g	黒曜石	黒色	
119-89	二次加工のある 刮削石器	B-7区 3. 黄灰色粘土層上部	長さ: 3.2 厚さ: 0.7	幅: 1.6 重量: 4.0g	黒曜石	黒色	
119-90	石核	C-10区・D-10区 3. 黄灰色粘土層上部	長さ: 3.65 厚さ: 2.8	幅: 3.1 重量: 29.1g	黒曜石	黒色	
119-91	打制石斧 (石器)	D-8区 3. 黄灰色粘土層上部	長さ: 9.5 厚さ: 1.3	幅: 8.0 重量: 101.1g	流紋岩	黄灰色 (表面赤褐色)	

第27表 黄灰色粘土層土坑観察表

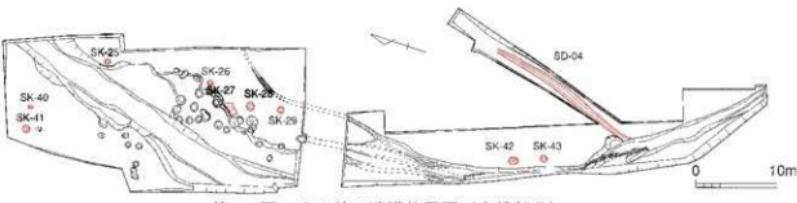
単位(cm)

名 称	出土地点	平面形	規模(上縁長軸×深さ×深さ最大)	性 格	備 考
SK-30	B-7・B-8	長方形	149.0×69.0×28.5	不明	第13番(内) - SK-30(外)

## 6. その他の遺構

ここでは遺物が出土していないため時期が不明のものや、切り合い関係が無く、どの土層に対応するかわからない溝（SD-04）と土坑（SK-25～29、40～43）を取り扱う。

溝と土坑のうちSK-25～29、40、42、43は第3層黄灰色粘土層を除去した後に平面プランを確認している。



第120図 その他の遺構位置図（赤線部分）

### 溝 SD-04（第121図）

河川右岸の標高29.00～29.25m を測る位置で検出されたものであり、貼石遺構を検出したD-15区から北へ向かって伸びている。溝の一部は近年のゴミ捨て穴により擾乱を受け、上端の一部は耕作により削られていた。規模は残存長26.80m、幅0.72～1.16m、深さ最大25.8cm を測る。遺物は出土しておらず、河道との切り合い関係もつかむことができなかった。

### 土坑 SK-25～29、40～43（第120・121図）

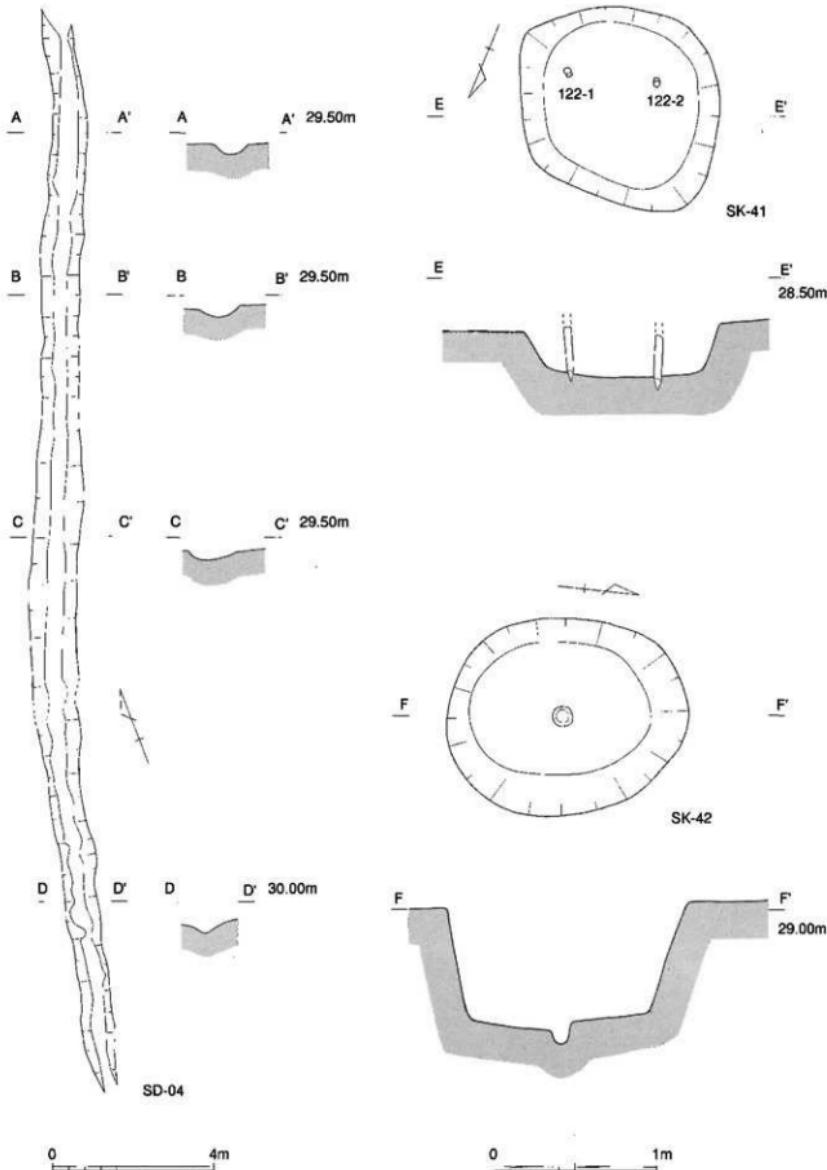
SK-25～29は河川右岸の標高27.50～28.50m を測る位置で検出されたものであり、規模は上緯径80～247cm、深さ最大38.0～55.6cm を測る。立地などから貯蔵穴の可能性がある。

SK-40は調査区左岸の標高27.75～28.00m を測る位置で検出された平面楕円形を呈するものである。規模は長軸87.0cm、短軸58.0cm、深さ最大20.4cm を測る。

SK-41は調査区左岸の標高28.00～28.25m を測る位置で検出されたものである。平面は円形を呈し、直径123.0cm、深さ最大32.5cm を測る。土坑底部からは2本の杭が地面に突き刺さった状態で出土した。埋土は礫を多く含み、他の土坑に比べると柔らかいものであった。

SK-42は河川右岸の標高29.00～29.25m を測る位置で検出された平面楕円形を呈する土坑である。周囲は長年の耕作により削られ平坦となっているが、現状での規模は長軸150.0cm、短軸123.0cm、深さ最大75.4cm を測る。壁は急角度に掘り込まれ、底部には直径13.0cm、深さ最大10.7cm を測る小さな穴が掘られている。形態などから落とし穴と考えられる。

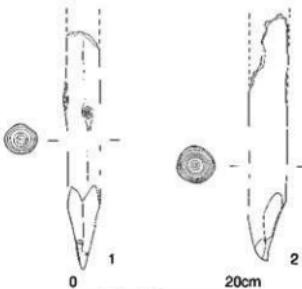
SK-43は調査区右岸の標高29.00～29.25m を測る位置で検出された凹形を呈する土坑である。規模は直径104.0cm、深さ最大84.6cm を測る。



第121図 SD-04, SK-41・42実測図

### SK-41出土遺物 (第122図 1, 2)

1・2は芯持材が用いられた杭であり、面取りは施されていない。地面に突き刺さっていた端部は四方から削られ鋭く尖るが、もう一方の端部は欠損している。非常にしっかりしたものであり、他の木製品と比べるとやや新しさを感じさせるものであった。法量は1が残存長29.5cm・直径4.0cm、2は残存長30.7cm・直径4.6cmを測る。



第122図 SK-41出土遺物実測図

第28表 その他の土坑観察表

単位(cm)

名 称	山土地点	平面形	規模(上緑長軸×短軸×深さ最大)	性 格	備 考
SK-25	B-6	円 形	92.0× ×38.0	貯藏穴?	
SK-26	B-8	円 形	80.0× ×55.6	貯藏穴?	
SK-27	B-8・C-8	隅丸長方形	247.0×138.0×53.4	貯藏穴?	
SK-28	B-9・C-9	楕円形	131.0×108.5×39.5	貯藏穴?	
SK-29	B-9・C-9	円 形	104.0× ×48.6	貯藏穴?	
SK-40	B-5	格円形	87.0×58.0×20.4	不明	
SK-41	C-5	円 形	123.0× ×32.5	落とし穴状	木杭2本出土
SK-42	C-13・D-13	楕円形	150.0×123.0×75.4	落とし穴	底部中央に小穴
SK-43	C-13・D-13	円 形	104.0× ×84.6	不明	

第29表 その他の遺構出土木製品観察表

単位(cm)

捕獲番号	品 目	種 類	出土地点	木取り	樹 種	法 量	備 考
122-1	その他	杭	C-5区 SK-41内出土	芯材		長さ: 29.5 直径: 4.0	
122-2	その他	杭	C-5区 SK-41内出土	芯材		長さ: 30.7 直径: 4.6	

## [註]

- 註1 島根大学汽水域研究センター客員研究员中村唯史氏の調査指導による。また、土層堆積図面についても観察と分層をして頂き、調査員が記録を作成した。(P12-7)
- 註2 • 繩文土器の観察については、足立克己氏から多大なご協力、御指導を頂いた。
- 須恵器の分類にあたっては、大谷晃二氏から多大なご協力、御指導を頂いた。
- 陶器、磁器の観察にあたっては、西尾克己氏、村上勇氏に御指導頂いた。
- 黒曜石の分類にあたっては、竹広文明氏に御指導頂き、石材の観察については中村唯史氏に御指導頂いた。但し、第101図546の白玉については島根大学総合理工学部赤坂正秀教授に分析頂いた。(P15-3)
- 註3 「タテチヨウ遺跡発掘調査報告書IV」 島根県教育委員会 1992年3月 (P18-3)
- 註4 大谷晃二 「出雲地域の須恵器の編年と地域色」 「島根考古学会誌第11集」 1994年3月 (P21-2)
- 註5 「国道9号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書IV(大畠遺跡)」 島根県教育委員会 1989年3月 (P21-10)
- 註6 松山智宏 「出雲における古墳時代前半期の土器の様相」 「島根考古学会誌第8集」 1991年 (P23-12)
- 註7 ドングリの分類は島根人学生物資源科学科講師萩村喜則氏のご教示による。(P26-19)
- 註8 註4と同じ (P50-2)
- 註9 琴の観察については放送大学笠原潔助教授から多大なご協力、御指導を頂いた。また、本文中の琴の説明にあたっては、向氏の調査指導レポートを一部改変して使用した。(P58-2)
- 註10 「前田遺跡第II調査区出土遺物保存処理終了報告」 財团法人元興寺文化財研究所 1997年3月 (P58-34)
- 註11 岡山市教育委員会宇垣洋氏のご教示による。(P77-12)
- 註12 前島己基、松本岩雄「島根県神原神社古墳出土の土器」『考古学雑誌62-3』昭和51年12月 (P78-7)
- 註13 「増福寺古墳群発掘調査報告書」 八雲村教育委員会 1982年3月 (P117-19)
- 註14 註11と同じ (P165-3)
- 註15 「高台遺跡発掘調査報告書」 和田団地造成工事に伴う発掘調査 島根県教育委員会 1984年3月
- 註16 「石台遺跡」-馬橋川河川改修に伴う発掘調査報告- 島根県教育委員会 1986年3月 (P167-3)
- 註17 横田賢次郎・森田勉「太宰府出土の輸入陶磁器について-型式分類と編年を中心にして-」  
「九州歴史資料館研究論集」4集 九州歴史資料館 昭和53年 (P167-27)

## [参考文献]

- 松江市文化財調査報告書第81集 「夫手遺跡発掘調査報告書」  
松江市教育委員会・財团法人松江市教育文化振興事業団 2000年
- 三重県埋蔵文化財調査報告99-3 「城之越遺跡-三重県上野市北土-」  
三重県埋蔵文化財センター 1992年
- 「布留遺跡三島(里中)地区発掘調査報告書」 埋蔵文化財天理教調査団 1995年

## V まとめ

前田遺跡第Ⅱ調査区は、東岩坂川下流の水田中に位置する低湿地遺跡である。調査により埋没河川が検出され、その周辺からドングリの貯蔵穴4個、落とし穴1個、落とし穴状の土坑1個、溝状遺構5本、川岸に自然石を貼り付けた貼石遺構1カ所と多数の土坑が見つかり、川と川辺で営まれた人々の暮らしの一端を僅かながら解明することができた。以降、今回の調査で最も注目される古墳時代の河道C（第4表）の調査成果を考察することをまとめにかえたい。

埋没河川がいつ頃に形成されたのか定かではない。しかし、縄文時代晩期には既に調査地内を流れていたと考えられる。当初の河道は、川幅などの規模から川の本流であったと考えられるが、徐々に河床は高くなり、時代が下ると本流ではなく、やや規模の小さな河道Cの流れとなった。今回出土した遺物の大半がこの河道からのものであり、時期的には縄文時代中期から古墳時代後期に至る幅広い時期のものが認められたが、出土点数（第30表）は、縄文時代から弥生時代のものはごく少量で、古墳時代の比較的の残存状態が良い遺物が主体となっている。その後、この河道Cも7世紀代にはほぼ全体が埋まり、しばらくは湿地のようになっていたと考えられる。

遺構としては、河道Cの水際から検出された貼石遺構がある。古墳時代において、古墳の葺石や周溝などの古墳関連施設を除き、貼石を持つ遺構は稀である。このような中で、三重県城之越遺跡<sup>42</sup>の大溝遺構は大変興味深いものである。自然河道と溝との違いはあるが、貼石が施された古墳時代前期の大溝が検出されている。大溝の上流部には、3カ所の井泉（湧水点）<sup>43</sup>が存在し、そこから湧き出た水が、それぞれ貼石の施された溝を流れて1カ所に合流する構造であり、さらに下流部は貼石の施されない素掘りの溝となっている。祭祀に使用されたらしい遺物は下流の溝部分を中心として出土している。大溝遺構が造成された当初には、周間に明確な遺構は存在せず、湧水点を含む大溝上流部が独立した祭祀場として機能していたと考えられるものであり、有力首長層に関わった祭祀が行われていたことが報告されている。

この他、大田市の大八反田遺跡からも類似した古墳時代の遺構が見つかっている。埋没河川のほか、川から水を導いた溝や湧き水が流れ込む溝が検出され、その岸辺には石が配置されていた。あたりからはおびただしい数の土器をはじめ、ミニチュア土器、桃核、スプーン形の土製品、鏡や勾玉の土製品、滑石製の勾玉が出土している。このことから石は祭祀の場として集められ、ここで祭祀が行われた可能性が指摘されている。

祭祀以外の例には、松江市の原の前遺跡<sup>44</sup>の集積遺構がある。水辺に造られているという点では共通するが、人頭大の大きさの石が無造作に配置され、この石群に接して水際に大型の杭が打ち込まれていることなどから、船着き場の石組み護岸遺構として報告されている。

前田遺跡の場合は、川原石が曲線を描く河道Cの流れに沿って細長く並べられていた。石の大きさ自体も原の前遺跡のものとの比べると小さく、護岸としては脆弱である。おそらく、石を施

すことで川と陸地を区画する意図が働いていたと考えられる。

貼石遺構付近から出土した遺物には、勾玉、切子玉、土鈴、手捏ね土器、琴、臼玉が入った須恵器の壺、赤色顔料が塗布された土師器の高坏、瓢箪、多量の桃核や火を受けた木製品などがあり、これらは祭祀の存在を十分想定させるものである。また、多数の製塙土器、火鑽臼、連齒下駄、鋸歯状木製品、削木状の燃えさしなどは祭祀で使用された可能性がある。これらに混じって竈、瓶、煤が付着した壺、木製農具などの生活用具も多数出土している。祭祀に伴いこれらが使用されたものならば、これらも祭祀遺物と呼べなくもないが、決め手が無く線引きは難しい。これら大量の遺物は、前田遺跡から離れた場所で祭祀が行われ、その後にまとめてここに投棄されたものなのか、それとも祭祀目的で貼石遺構付近に置かれたり投げ込まれたものか判らない。いずれにせよ、貼石周辺部は河道Cの中でも特異な空間であったと推定される。

貼石遺構が築造された時期は、貼石下の灰色粘土層から古墳時代前期の小谷式に含まれる壺が出土していることから古墳時代前期以降と考えられる。貼石遺構に接する河川内から出土した遺物をみると、古墳時代前期から古墳時代後期後半（出雲6期）に及ぶやや時期幅のある遺物が出土している。中でも、6世紀末から7世紀初頭に比定される出雲4期に属する須恵器蓋坏の割合が高く、貼石の隙間や隙地部分からは出雲4期の蓋坏だけが出土している。こうした状況だけでは貼石遺構の築造と祭祀が出雲4期に行われたと断言できないが、貼石遺構における祭祀の最終段階はこの時期であったといえる。

貼石遺構下流の遺構外出土遺物にも勾玉、木製刀形、臼玉と鉢が納められた須恵器の壺、赤色顔料により優美な文様が描かれた木片、子持ち龜の子壺など祭祀の要素の強い遺物が存在する。土砂の流出と堆積を繰り返す自然河川内であることから、貼石遺構から流れてきたものか、この場所に投棄されたもののかの判断は難しい。しかし、子持ち龜は古墳時代中期後半（出雲1期）と考えられるものであり、出雲4期以前にも河道Cで祭祀が行われていたことを示すものである。特筆すべきは、この子持ち龜の子壺が増福寺古墳群の20号墳から出土した親壺と接合できたことである。増福寺20号墳は前田遺跡の東500mの低丘陵上に位置する方墳であり、規模は墳裾で10.0×11.0m、高さは平均2.3mを測る。周囲には幅平均2.3m、深さ平均0.5mを測る周溝が巡る。主体部は小口に石を積み、枕石を置いた木棺1基が検出されている。親壺はこの古墳の西裾平坦面からつぶれた状態で出土している。地理的に見ても20号墳から自然に川へ流れ込んだ可能性は考えられず、人為的に持ち込まれたものである。接合状況は、本来は親壺の肩部に4個の子壺が取り付けられていたものであり、このうちの1個が前田遺跡から、もう1個が親壺と一緒に20号墳から見つかっているが、残る2個の子壺は発見されていない。前田遺跡で破壊したものを20号墳に運んだのか、20号墳で破壊したものを持ち込んだものか、或いは他の場所で破壊されたものは判らない。他の遺跡間で発見された遺物が接合できた事例は非常に珍しく、島根県下では例がない（川の上流と下流に位置し、自然現象で運ばれたと考えられるものは除く）。しかし、葬送儀礼に関連した祭祀が行われていたことは疑いようがない。

このように考え改めて付近の古墳の分布状況を眺めてみると、遺跡の半径100m以内に2つの古墳が存在する。1つは南東の低丘陵上に位置する中山古墳群である。調査された2号墳からは古墳時代後期前半頃に比定されている出雲2期の蓋坏が出土しており、4号墳・5号墳からも耕作の際に同時期の蓋坏が見つかっている。また、もう1つの古墳は北の水田中に位置する池ノ尻古墳である。調査は実施されていないが、石棺式石室の石材を動かした際に出雲4期の蓋坏が発見されている。これらの古墳から発見された遺物の時期が、前田遺跡から出土した須恵器蓋坏の量的な変化と一致するのが興味深い。

以上、河道Cでの祭祀内容について触れた。出土した遺物には、全国的に見てもあまり例のない木製琴、頭椎式の木製刀把装具や赤色顔料により優美な文様が描かれた木片などが含まれている。このことは、前田遺跡第II調査区における祭祀の主体がかなりの有力豪族であったことが伺えるものであり、首長層による祭祀が行われてきたことを示す資料である。

今回の調査では遺跡の一部を調査したにすぎず、特に、貼石遺構についてはその大部分が調査範囲外であった。周辺部の様子は、なお不明な点が多く、祭祀という遺跡の性格からもその一端を僅かに解明したにすぎない。

### [註]

- 註1 中村唯史氏の調査指導による。周囲の谷の大きさや河道の規模などから、現在、遺跡の東340mの位置を北流する東岩坂川の本流が調査地内を流れていると考えられる。
- 註2 「城之越遺跡—三重県上野市比土一」 三重県埋蔵文化財調査報告99-3 三重県埋蔵文化財センター 1992年
- 註3 大田市教育委員会1995年度調査、遠藤浩巳氏のご教示による。
- 註4 「朝酌川小河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 原の前遺跡」 島根県教育委員会 1995年
- 註5 「中山2号墳・中山五輪塔群」 八雲村教育委員会 1982年3月

### [参考文献]

- ・日本考古学協会1996年度三重大会 シンポジウム1「水辺の祭祀」 日本考古学協会三重県実行委員会 1996年
- ・第2回東日本埋蔵文化財研究会「古墳時代の祭祀—祭祀関係の遺跡と遺物—」
- 第3冊分内日本編 東日本埋蔵文化財研究会 1993年
- ・「布留遺跡三島(里中)地区発掘調査報告書」 埋蔵文化財天理教調査班 1995年
- ・「蛭原西遺跡」「一般国道出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書1」 島根県教育委員会 1999年3月
- ・「兵庫遺跡」 第2集 島根県西ノ島町教育委員会 1996年3月
- ・木下晴、「井堰と瀬の祭祀」『同志社大学考古学シリーズVI考古学と信仰』 1994年10月
- ・穂積裕昌 「古墳時代における湧水点祭祀について」 『同志社大学考古学シリーズVI考古学と信仰』 1994年10月
- ・出原恵二 「祭祀発展の諸段階—古墳時代における水辺の祭祀—」 『考古学研究第36卷第4号』 1990年3月
- ・置田雅昭「布留川のまつり」『天理大学学報別冊1』 1985年3月
- ・金子祐之「まじないの世界I (縄文~古代)」「日本の美術5」 1996年5月
- ・大谷亮二 「出雲地域の須恵器の編年と地域色」 『島根考古学会誌第11集』 1994年

第30表 土層別遺物数量表

單位 (點)

品目	種類	計数	河原A B1	河原B B2	河原C 石臼	河原C 直削外	黒褐色 土器	青灰色 粘土器	操作手	高さ等 (断片)	個体数・残存率(残存率 は1断片が完形のものを 100%として計算)	
											小計	個体数・残存率(残存率 は1断片が完形のものを 100%として計算)
縄文土器	破片数	86	20	7	81	8	39	4	3	248		
弥生土器	破片数			8	17	2	2	2	1	32		
合計					3	4				7	すべて別個体と考えられ る。	
縄文土器	縄内・素	破片数										
	復合U縁の破片				4		1			5		
	退化した複合U 縁の破片				7		1			8		
	単純U縁の破片				1					1		
縄文土器	複合円縁の破片		6	4	41		2	3	3	59	残存率で6個体以上	
	退化した複合U 縁の破片		1	12	62		1	1	2	79	残存率で9個体以上	
	單純円縁の破片		13	193	331	24	44	34	30	869	残存率で96個体以上	
	U縁添の破片			3	3		2			8		
縄文土器	环	口縁部の破片		1	11	52	1			3	68	残存率で20個体以上
	外縁部	接合部の破片		2	6	19		3	1		31	接合部と溝部をそれぞれ0.5 個体として20個体以上
	高环	長合部の破片		7	37	136	1	4	3	5	193	底部と溝部をそれぞれ0.5 個体として193個体以上
	底に蓋	口縫部の破片		6	29						35	
土器	小丸足盤	底部の破片		1							1	
	鉢形器台	脚部の破片				8					8	
	盛盤土器					1	3				3	
	蓋	把手の破片		11	28		3	1	2	45	29個体以上	
土器	蓋子変えの破片		1	5			1	1		8	4個体以上	
	直	口縁部の破片		2	23	1		3		29	残存率で5個体以上	
	上製支那				1		1	2		4		
	製塙土器	口縫部の破片		41	16		1		2		60	口径10.4cmとすると8個 体以上
上製品	底部の破片				2						2	
	不明品		1	2			1			4		
	その他	体部等の破片	210	2995	7682	213	826	1118	445	13689		
	土錐・土錐			1	1						2	
須恵器	A1型				4						4	
	夢坏・蓋				7	61	4	4	6	5	87	残存率にして12個体以上
	A2型				2	23		2			27	残存率にして9個体以上
	A2型に伴う环 身か			5	13		3	2			23	残存率にして2個体以上
須恵器	A3型		3	2							5	残存率にして2個体以上
	夢坏・身 か			1	3		1				5	残存率にして2個体以上
	A4型			21	12		2				35	残存率にして12個体以上
	夢坏・蓋				25	25	1		4	3	58	残存率にして6個体以上
須恵器	A4-A5型				18	10		2			30	残存率にして11個体以上
	A4-A5型に伴 う环身か				24	18	2	5		1	50	残存率にして5個体以上
	A5-A7・蓋				7		2	3			12	残存率にして3個体以上
	A8型				1		1				2	2個体

品目	器種	詳細	河岸A	河岸B B-1	河岸B B-2	河岸C	河岸D 遠隔外	黒褐色 土層	灰灰色 粘土層	耕作上 操作上	底土層 (細片)	小計	個体数・残存率(残存率 は口経部が完形のものを 100%として計算)
蓋环・身	A8型に付する 身か					1		1				2	2個体
	环型C型かAB型 の环身				3	6	1	1	1			12	残存率にして2個体以上
蓋环・蓋	B1型					1						1	1個体
	B2型かB3型					1	4	3	1			9	残存率にして2個体以上
蓋环・身	高内付环身					5	17	6	1	29			
	底部にあつり直 にある环身					10	11	7	2	30			
窓环	直筒窓环(ひきま 直筒窓环の合組合		3	4			6	1				14	
	有蓋窓环接合部		5	5			2					12	12個体
窓环	無蓋窓环接合部		3	5								8	8個体
	接合部の破片		1	7	18	11	3	6	1	36	26個体以上		
蓋			2	5								7	
	中腰類	人夢の姿腰型 腰の破片		1	6	3	5					15	
蓋	腰部に同様にウ ケズリをもつ腰		8	4			1	4	1	18			
	平底の腰腰の 破片					1	4	4	1	9			
瓶底	長腰片	長腰窓口部の破 片			1							1	
	高脚をもつ底部 の破片					2	1					3	
広口瓶	広口瓶	小型の広口瓶 底の破片			1							1	
	短腰瓶	短腰窓口部の破 片			1							1	
瓶	直口瓶	直口瓶窓口部の 破片			1	1						2	
	蓋	ボタン状の横み をもつ蓋			1							1	
瓶瓶				11								1	
	横瓶					1						1	
把手					1		1					1	
	鉢	口縁部の破片			2							2	
口縁部の破片	口縁部の破片	口縁部の破片	59	62	13	16	24	28	202	14kgのものとし て10個体以下			
	蓋等の破片												
瓶底の破片	瓶底の接合部	瓶底の接合部	474	255	250	179	640	335	2633				
	小瓶底	小瓶底	4			3						7	
瓶底?	單式系土器か 膠膜の破片	單式系土器か 膠膜の破片			9							9	
	蓋付のもの	蓋付のもの				24	27	20				71	
土師質土器	蓋付のもの 底部の破片	蓋付のもの 底部の破片				4	4	2				10	棒状高台
	蓋付のもの 接合部の破片	蓋付のもの 接合部の破片				13	9	10	6			38	
不明品	不明品	不明品				3	5					8	
	口縁部の破片	口縁部の破片				1	16	42	30	19	107		
陶器	体部の破片	体部の破片					1	163	47	211			
磁器						1	(3)	(5)	58	2	60~88		
石器			1	12	24	23	16	1	1		15 +24 +124		
			4	1	359	901	38	61	4	18	1385		
木製品						1						1	
鉄器						1						1	
合計			99	20	257	4385	11071	732	1294	2212	978	2139	
						124?					-13?		

( ) 内は平家末の中國  
製白磁器

( ) 内は焼成直後数  
日(124?)は白磁

# 図 版





現在の前田遺跡第II調査区周辺（南より）



発掘調査前の前田遺跡第II調査区全景（南東より）

図版2



第II調査区北側の調査後全景（南より）



第II調査区北側の旧河道検出状況（南東より）



第II調査区南側の調査後全景（南東より）



第II調査区南側の旧河道検出状況（南東より）

図版 4



A-A' セクション (河道 C 部分)



B-B' セクション (南より)



貯蔵穴検出状況（南西より）



SK-01 全景（西より）

図版 6



SK-02 全景（南西より）



SK-03 全景（西より）



SK-04 全景 (南西より)



SK-03 ドングリ出土状況 (西より)

図版 8



SD-01～03 全景（南より）



河道 B2 遺物出土状況（16-15・16、17-19・20-21-24-25）



貼石造構全景（南西より）



貼石造構付近の河川内埋土除去後全景（北西より）

図版10



貼石造構付近遺物出土状況（南東より）



貼石造構付近遺物出土状況（東より）



貼石遺構付近琴出土状況（東より）



貼石遺構付近勾玉出土状況（40-226）

図版12



貼石遺構付近桃核出土状況（竹串の部分）



D-12区の貼石遺構全景（南東より）



河道 C 砂礫層遺物出土状況



河道 C 砂礫層遺物出土状況